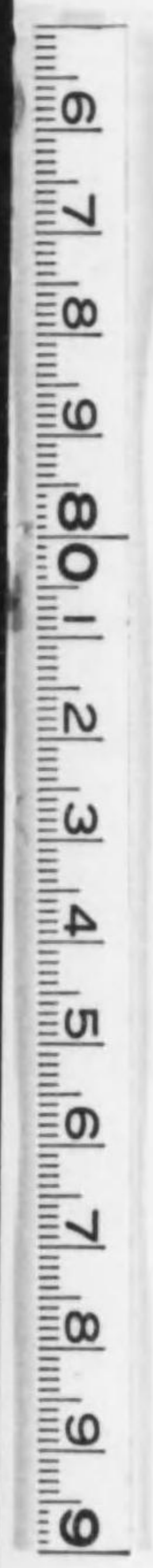


R291.033-N77
1200500266582

R291.033
N77
(5)



始



298

R 291.633
N 77
15

名地本日 典辭大

卷五第

ツ一ヒ

發 行 發 賣

社 凡 平 房 書 本 日



日本地名大辭典

第五卷

裝幀 恩地孝四郎画伯

ツ 津



【津市】三重縣五市の一にて縣廳の所在地。伊勢平野の中部東端に位し、上古日本三津の一たりし安濃津の地に於て、今の市域は南北に膨張し、南は相川によりて一志郡に、西は安濃郡に、北は河内郡に、東は伊勢海に面す。その海濱の中間は即ち阿波津なり。東西五・七軒、南北八・三軒、面積約一八・七方軒を有す。西北部の一志田町(河内郡)・安東村(安濃郡)に接する部分、及び西南部の神戸村(安濃郡)に近き部分には、いづれも高さ三〇―四〇米程度の丘陵もある。その地は多る處平なり。市街は南北に貫く伊勢街道を中心にして發達し、中部を東に貫流する岩田川、そのや、北方を東北に貫流する安濃川によりて市は橋内・橋北・橋南の三部に分たれ、中央の橋内は最も繁華の地とす。道路は伊勢街道を輻軸とし、これより分岐するものに伊勢別街道、伊賀街道あり。前者は市の北部より西北に通じ、關町(鈴鹿郡)に出て、舊東海道に連り、バスの便あり、後者は中部より西して伊賀の上野に達す。鐵道には省線參宮線西部を南北に走り、津・阿河の二驛(前者は明治二十四年、後者は同二十

ツ ツ

六年設置)を設け、社線參宮急行電鐵伊勢線は東部を南北に貫き江戶橋・參宮電津・津新地・津海岸・阿波浦・結城神社前の六驛を、また同電鐵の津線は參宮電津驛より岐れて省線參宮線に滑りて南下し參宮新町驛を設け、此外、社線中勢鐵道は市の中央部の岩田驛より起りその阿波浦を経て久居町(一志郡)方面に向ひ、社線安濃鐵道は市の西部新町驛より河内郡明村に達し、何れも市の内外陸上交通の便を助く。海上は岩田川口に津港ありて内務省指定港なるも、海岸水淺くして大船の出入に適せず、古への安濃津の良泊も今はその價値大ならざるを憾とす。市は慶長十三年藤堂高虎が今の橋内の中央部に津城を改修して以來、三十二萬石の城下町として榮え、伊勢は津でもつ津は伊勢でもつとの俗諺にもその繁華を歌はれしも、今は三重縣廳・安濃津地方裁判所・河内裁判所・津稅務署・津警隊區司令部・津憲兵分隊等の官衙及び三重高等農林學校・第二拓殖訓練所等をはじめ男女中等諸學校等ありて寧ろ縣の政治・司法・軍事・教育等の中心として居きをなすの觀あり。市の産業中第一位を占むるものは工業にして、特に紡織工業に屬する綿糸(一四二二萬圓)・金巾(九三二萬圓)・綿織(一七五萬圓)・タオル(一五二萬圓)等を最とし、外に小麥粉・木製品・醬油・清酒・菓子類等の工業品ありてその總價額三六七〇萬圓に近し(昭和

十一年)。農業は工業に次ぎ、米(約一五〇〇石)・麥(約二七〇〇石)を主に、蔬菜・果實等を産し、この外家畜・卵を出し水産もた少からず。市は米の集散地として著はれ、また地方商業の中心たり。(沿革) 仁徳天皇の三年安濃津を日本三津の一と定めらる。天延・貞元の頃出羽守平正虎の子貞衡此處に住し、城府を東海の瀨に築き子孫數代知行せり。明應三年及び七年の二回に大地震あり、邑に市街地十有九町歩海中に陥落し、地形頓に一變せり。有名なる安濃松原も亦遂にその跡を失ふ。永祿年間、細野重時守藤教此地に城壘を築く。同十二年織田信長その弟上野介信包に命じ此處に在りて守護の任に膺らしむ。天正年中信包は津の町を現在の位置に移せりといふ。舊地は始め阿波と稱し所謂阿波平治の舊蹟一帯の地なり。豊臣秀吉朝鮮征伐の際、九鬼長門守軍船を監合し、此の津にて船裝を整へ、威風堂々渡海の途に上りし事一書に見ゆ。越えて文祿元年富田信濃守知信ここに對せらる。慶長五年關ヶ原の役起るや知信の子信高は徳川氏に屬し、此處に據り西軍と戦ひて屈せず、木食上人の調停により開城す。亂平きて後、信高は増對せられて歸城す。當時籠城苦戰の慘狀たる跡は今なほ古刹四天王寺建造物の一部に存す。其後、慶長十三年戊申藤堂和泉守高虎伊豫より移對せらる。當時津は東海道及び京都より伊勢神宮に參拜する

の官道に當り、海陸の交通至便にして、旅客の往來股賑を極む。高虎城郭を改造し、市域を擴張して大に住民を招來し城下市街の規模を整ふ。爾來二百有餘年徳川氏太平の治績に遺ひ藤堂氏歴代の所領たり。當時は南北三十餘町、民屋二千五百餘戸と稱す。王政維新に舊藩主藤堂高虎は版籍を奉還し津縣と稱し、之に如事たり。明治四年十一月安濃津縣と改め、同五年三月更に三重縣と稱し縣合を四日市に移し、同六年再び津に復す。同二十二年安濃郡より分離し橋北・橋南とを合せ津市として市制を施行す。同四十二年安濃郡の塔世・建部二村を合併し、昭和九年に安濃郡新町を、同十一年安濃郡藤水村を合併して今日に至る。(津城址) 九ノ内本丸にあり。永祿年中に細野重時守藤教の創建にかゝり、慶長以後は藤堂氏の居城なりき。いま本丸・東丸・西丸址および城濠を存し、舊本丸の境域を存す。(津公園) 舊藩主藤堂氏が安政年間に関前せし別荘を、明治十年に信樂園と稱せしもの。地形に據まる丘陵に花木屋石を配置し、中央の四地に加工せる八ツ橋を構ふ。園内に櫻・紫陽花・藤・紅葉の名勝あり、傘の臺と稱する最高地點には象觀亭ありて、伊勢海を一望に收む。(阿波浦) 阿波浦(明治天皇八幡御小休所)指定史蹟。大津津字八幡御小休所。明治十三年山梨・三重兩縣及び京都府幸の際、七月九日御小休所となりたる處に

して舊規模よく存す。〔結城神社〕八幡町に鎮座。別格官幣社。祭神、結城宗賢。文政十一年藤堂氏によりて建てられしもの。此地は宗賢の病歿せられたる所と傳へ、始め墓所に小祠を建て、里人崇敬せしむ。文政七年藩主高松公純が改築、墳墓を修葺し、祭典等の費を藩より支出せしむ。明治十三年明治天皇御巡幸あらせられし時、勅使御差遣ありて奉祀料を下賜の外、社殿修葺の費あるを賜召され御下賜あり。例祭、五月一日。〔高山神社〕丸之内に鎮座。祭神、高松高虎。もと津城内にありしが、明治維新後神祠建立の議起り、藤堂家及び舊藩主各々資財を獻じ、明治十年市内下部田に祠を創建、同十四年現地に遷座す。例祭、十月五日。〔八幡神社〕八幡町に鎮座。祭神、應神天皇・神功皇后外二神。別稱、聖社。安永津八幡宮、藤方八幡宮。建武年中足利將軍家の君親により山城男山八幡より勧請せられたるもの。のち藤堂氏の所領となりてよりその崇敬を受け、神領三百石を寄せられ同家の鎮守神と定めらる。例祭、十月十五日。〔大市神社〕大字岩田字宮前に鎮座。祭神、大市比賣命・天照大神・大國主神等十四柱。もと石川邊松樹下にあり、よつて川松明神と稱せられ、石田村の産土神として崇敬せらる。然るに此地は洪水を被るごと多かりしため、のち現社地に移すといふ。例祭、十月二十一日。〔寒松院〕寺

町にあり。天台宗。慶長十三年藤堂高虎の創建に係り、累世、津・久居藩主兩藩の家菩提所にして、維新に至るまで輪王寺宮直轄院家寺なりき。明治十三年明治天皇御巡幸の際には行在所に充てられ、同二十年英皇皇太后行啓の際また御泊所に充てらる。寺寶の絹本着色高松高虎像一幅は國寶。〔觀音寺〕大門町にあり。眞言宗東寺派。惠日山。本尊聖觀世音は和銅二年阿彌ヶ浦にて漁夫の網に入りて出現せるものと傳ふ。藤堂氏累代の祈願所。堂宇中本堂は國寶。〔西來寺〕乙部にあり。天台宗眞盛派。龍寶山。阿山郡長田村西蓮寺と共に本山西教寺三末願の一。延徳二年派祖成伊勢三輪の祖、遺俗の請によりて念佛堂を建立せるに始原す。文政・天保の頃阿本寺の住持たり。國寶、應神・阿彌陀四尊像一幅〔絹本着色〕、聖德太子尊經菩薩像一幅〔絹本着色〕、法苑珠林卷第二・第十二の二巻及び大般若經卷第九卷一帖。〔四天王寺〕栗町にあり。曹洞宗。塔世山。推古天皇の勅願所にて、聖德太子王城鎮座のため東西南北に各一寺を建立し給ひし其一と傳ふ。往昔は法州宗、中世は天台宗たりき。累代領主の崇敬を蒙り、寺領も多かりき。寺寶中、大日如來坐像一幅〔木造〕、藥師如來坐像一幅〔木造〕、阿彌陀如來坐像一幅〔木造〕、阿彌陀如來坐像一幅〔木造〕を始め外九點の國寶を蔵す。〔上宮寺〕寺町にあり。親宗高田派。大樂山と號す。

聖德太子行宮址にして、和銅年中の草創に係る。もと律宗なりしを、中興信西法師高田派に歸依して現宗に轉す。のち本山三世願智上人暫く此處に在りて宗祖親聖の像を造立す。本尊は太子十六歳の像なりと。〔淨明院〕乙部にあり。臨濟宗相國寺派。松林山長樂寺。俗稱蓮勝寺。經實八年藩主藤堂高次の開基、岡山を祖支祖堂とす。藤堂家菩提所として永く一門の崇敬を蒙り、蓮勝堂には加賀の小島作左衛門の作に係る蓮勝坐像を安置す。高さ七尺五寸、日本第一と稱せらる。〔大寶院〕大門町にあり。眞言宗醍醐派。南都四大夫の聖業の開創に係る。堂宇中、本堂〔阿彌陀堂〕は國寶。〔地藏院〕中河原にあり。眞言宗醍醐派、子安山。天文年中の建立。本尊の地藏菩薩は安永守護の聖像として庶衆の信仰厚し。本尊地藏菩薩像〔絹本着色〕は鎌倉末期の作と推せられ國寶たり。〔天竺寺〕乙部町にあり。淨土宗。慶長中の創立にして、露牛和尚を開基とす。往昔は同宗の鎌河を繼承せり。〔蓮光院〔初生寺〕〕下部田にあり。古蹟眞言宗。本宗御室末。寺寶の大日如來坐像一幅〔木造〕、藤原末期作は國寶たり。〔書院〕應仁紀四十一年に津國の名稱初めて見ゆ。蓋し津津のある國の意にて、古の浪速國を含み、後の攝津國に同じ。天武天皇の六年、中央政府直隸の攝津津を置き、國司所管の政務を掌管せ

む。大寶令また之に従ふ。延暦十二年これを廢して津國とし國守を復せしが、依然攝津の字を襲ひ阿もツノタクと謂せしものならん。後世はセツツと音讀す。ツコー 通口面 朝鮮江原道金化郡の東北隅、北漢江中流左岸にあり。大白山脈中に位置し、東境に舊高靈嶺(一四一四米)及び玉田峰(一四四一米)聳立して東部、龍陽郡長楊面との境を劃し、西北境には嶺新山(一〇八七米)・九鶴山(九三〇米)等聳え餘勢域内に及び山岳重疊し、之等の山地に發源せる北漢江の支流通口川は横谷をなして西南流し南境に近き地點に於て北漢江に合流し、該溪谷に僅かに低地を見る。産物、米は西南部の地域に限られ、大麥最も多く其他大豆・粟・粟類、大麻等あり。畜産多くして重要物産を成す。社線金剛山電氣鐵道西方より來り、龍里(昭和四年開業)・桃枝(昭和九年開業)・花溪(昭和四年開業)・五兩(昭和五年開業)の各驛を経て、東境の斷崖嶺(八二四米)を跨りて龍陽郡に入る外は、道路の改修未だ充分ならず、他地域への連絡は多く峠を控へ、其主なるものに前記斷崖嶺の外、德嶺谷嶺(六二二米)・千奇吉嶺(七二八米)・德時嶺(六三七米)等ありて交通不便なり。西南部の龍里に面事務所・金融組合・小學校・市場等あり。ツシー 通寄庄 臺灣新竹州苗栗郡の西部海岸。竹南郡後龍庄の南

に接し、西は臺灣海峡に面す。海岸沿線の一部を除く外は殆んど丘陵性の山地をなし、地面積の割合に平地狭小にして且つ水利の便に恵まれず、農耕地は僅少ななり。米・甘藷・西瓜・甘藷・落花生・茶を主要農産物とし、また桐葉の原料たる大甲蘭を産す。畜産は畜牛(黄牛・水牛)・山羊・豚・家禽類(鶏・鶩その他)にして畜牛は専ら農耕及び運搬に使役せられ、豚及び家禽類は一般農家に於て副業的に蓄く飼養せられ、管外に搬出するもの多し。林業は近來造林事業奨励の結果、漸次有用樹木の造林面積を擴大し、木炭の産出漸からず。家内工業としては該方面の特産たる帽子編織盛を極め、帽織の生産高多し。沿岸地方にては漁業行はれ生魚を供給す。大宇通寄は海水浴場を以て知らる。鐵道及び鐵道道路は共に海岸を南北に貫通し、前者は白砂屯・新埔・通寄の三驛(大正十一年設置)を置き、後者は兼合自動車を通じ、交通の主動脈を爲す。他に通寄を起點とし、鐵道道路より主要部落に至る保甲道路を分岐す。管内はもと總て苗栗二堡に包含せられ、清領當初平埔番族の一なるトンシアウ(吞霄・通霄)社の地に屬し、乾隆初年粵人によりて南勢・北勢・梅樹脚等の開拓せらるゝに伴ひ、通寄の街肆成り、同八年に通霄驛、二十年には新埔の埔地開かれ、かくして濱海地方略々拓殖に就きしも、山地方は尙ほ未だ土著の出没

加害を免れず、依然荒地に屬せしが、二十二年の頃、土城方面に防番施設をなし開拓に従事せし者ありしも、蕃害甚だかりしため中道にて廢棄し、其後、嘉慶十一年に至り始めて成功せり。明治二十八年帝國領事以來數次行政上の變遷を経て大正九年十月に至り、清領時代より存続せし堡は廢せられ、新たに通寄庄を建つ。ツシー 通津 4月申面(朝鮮京城道) 〔通川郡〕 朝鮮江原道二十一部の一。道の東北邊にありて、東及び北は日本海に面し、西は咸鏡南道安邊郡、西南は淮陽郡、東南は咸鏡道に接す。面積八二三方軒餘。西方の一角は咸鏡道より來れる大白山脈連亘して、西境に寶龍山(二二六八米)・南境には南嶺山(二〇九六米)・慶山(二二二一米)・鶴峰(一一一三米)等聳え、南方金剛山に迫る。河川の主なるものは北より通川・漢川・十二峴川・廣橋川等にして、その下流にはやや廣き耕地横はる。海岸は蓮臺山(八六米)・叢石山(七二米)・興雲臺(九八米)等の丘を核心とする弓状の特色ある砂濱長く連なり、中央に庫底の良浦あり。その東角には玄武岩より成る叢石亭の奇勝あり。北部海岸には小洞窟・天鵝浦・江浦浦等多數の小洞窟横はる。産物は米・大豆・蠶絲類等の農産と、蠶・蠶・蠶・蠶・蠶

等の水産を主とし、特に蠶は近海に好漁場を有する爲めに漁獲高も多し。車産、我弓里・金剛里等はこれ等漁獲の根據地たり。その他、牛の飼養盛に行はれ、工業に麻布・蠶製製品等あり。櫻井金礦より金は、銀(約八萬兩)を出し、その他石炭・タンゲステン等を産す。總督府鐵道東海北部線と元山・江陵間二等道路は東部海岸に沿つて設けられ、後者は通川より南方嶺地帯を跨りて淮陽郡に入る自動車道路を分つ。郡内は行政上、七箇面に分ち郡廳を通川面に置く。〔通川面〕 朝鮮江原道通川郡の中央に位置し、東は日本海に面す。大白山脈の東斜面に當り、西境近く南嶺山(二〇九六米)聳え、餘勢域内に及び西半部は山地を成せども、東南部は廣橋川の沖積地を成し土地低平にして耕地やや廣く連る。海岸は軍用にして概ね砂濱海岸を成し良泊に乏しきも、中央に九神嶺の顯著なる崖岸を見、ここに金剛窟の奇蹟あり。住民は主として農業に従事し、沿海の金剛里・坪里・東亭里の部落は、漁撈及び製鹽に従事す。産物は米・大豆・蠶絲・麻布・蠶・蠶・食鹽等あり。總督府鐵道東海北部線は南北に通川驛(昭和六年開業)あり、道路は通川を中心として北方元山・西南淮陽、南方襄陽に二等道路走り自動車を通じ交通便なり。通川は面の略中央に位置し、北方近く庫底港を控へ物資集散の中心を成し、郡廳・警察署・地

方法院支廳、道森林保護區、穀物検査所、郵便局金、融組合、小學校等あり。ツシー 通仙面 朝鮮平安南道咸川郡の西端に位置し、郡邑咸川とは大同江の支流清津江を隔てて相對す。嶺林山脈に屬する芝峰山(五一一三米)・支明山(五二八米)等聳立して、南境及び西境を劃し、北方に向つて漸次低夷す。北境には清津江流入蛇曲流を成して西流し、沿岸に河成段丘の發達を見る。耕地は緩傾斜面及び段丘上にその發達をみられ、少くは、産物は蠶製草最も著はれ其他大豆・玉蜀黍・棉花・胡布・紙等あり。明嶺も亦市場に價高し。また東北部は東都金銀嶺山の嶺區の一部に當る。道路は元山への一等街道域内東部を南北に縱斷せる他は改修未だ充分ならず險坂・崎嶇途中に横たはり交通便ならず。聚落は散村型にて面事務所を徳岩里に置く。ツードー 通洞 尾尾嶺の一驛(大正元年設置)。湖木縣上都賀郡尾尾町松原にあり。ツアリ 津有村 新潟縣越後國中頸城郡の中部。高田市の東に隣り荒川によりて接せらる。面積一八方軒餘。頸城平野の略中央部を占め、土地平坦肥沃、良質の上越米の産地なり。東西に縣道走り高田市(バス)の便あり。古くは高土村と共に和名抄、頸城郡高津郷の地とす。居多社應永文書に津有郷の名見ゆ。蓋し當

べし。何れにせよ秋田氏は安藤氏の分家とす。安藤氏時代、津輕の地は平賀、鼻和(花輪)・田舎(夷中)・江後末(八間)・馬(尻野)・興法(奥徳)の六郡あり。前三者は内三郡と云はれ鎌倉役にして、後三者は外三郡と云はれ京役なりき(この六郡が統一されて津輕郡となりしは文祿年間)に於ける豊臣秀吉の檢地の際とす。始め前者を上ノ國、後者を下ノ國と稱せしが、東隣の南部氏の壓迫等の事情によるか、のち上ノ國は秋田方面へ移動したるもの如し。右の郡は當時王化の及ぶる地の莊に西敵すべきもの、郡名は何れも私稱なるべし。一説によれば源頼朝の奥州征伐後、葛西清重を留守として陸奥・出羽の二州を兼領せしめ、その將南部光行は鎌倉・岩手・閉伊・鹿角・津輕の五郡に分封せらるるといふ。此説に従へば此時津輕は出羽より陸奥に編入せしものならん。建武の中興成るや、北畠顯成二州の守となり備守府大將軍を兼ね。この緣故にや、のちに顯成の高、津輕波岡に據り波岡氏を稱す、共に波岡(波岡)御所といふ。此頃より暫くして津輕氏現はるゝが津輕氏に於ては二説あり。一説によれば、吉野時代より鎌倉を本據となせし南部氏は漸次勢力を得、室町時代に至りては鼻和郡に大部あり(南部氏の被官)、平賀郡に大光寺の南部氏あり、田舎郡及び興法郡は波岡御所これを領し獨立の狀態なりしが、大浦氏、漸次勢力を得

て天正六年爲僧の時に波岡御所を滅ぼし遂に津輕を實力的に一統す。其後天正十八年豊臣秀吉東征の際、南部・津輕の封を定む。これまで爲僧は津輕氏の被官たりしが此時より始めて守牧に列し、これを津輕氏の祖とす。而して下ノ國安藤氏の族の北海道に逃れしは此頃なり。此説は藤原氏信を以て、南部氏の被官として津輕の地に住すとす。藤原氏と同一の系統を引くもの、津輕家々譜は之に反す。即ち其祖は藤原秀郷六世の孫、陸奥守鎮守府將軍藤原基衡の第二子下野秀宗にして、康和年中、津輕の江流末郡十三(今の十三湯の邊)の地を領するに始まる。南部氏が陸奥の一部を領するに至りしは源頼朝の奥州征伐後にして、それ以前より津輕に住せるもの、從つて津輕氏の祖は南部氏の被官にあらずとなす。前二説の何れが正しきや、今後の研究に俟たんとす。見もあれ文祿三年爲僧に至りて大浦より振起に移り、姓も大浦氏を津輕氏と改む。慶長十六年、其子信收は城を弘前の地に督みて移り、明暦二年には黒石三千石、上野勢多二千石を以て弟信英を分封す。本藩は、享保の時、即ち文化五年蝦夷地警備の功により十萬石を賜はり爾來子孫相承けて明治維新に至る。明治十三年津輕郡を東津輕・西津輕・南津輕・北津輕・中津輕の五郡に分ち、青森縣の管下として今日に至る。齊明紀四年(夏四月、阿倍臣率領船一艘百八十艘)代

蝦夷・館田母代二郡蝦夷使惣兵衛、於是勅ノ軍陣給於館田河、館田蝦夷恩有過而誓曰、不_レ爲_レ官軍、故持_レ弓矢、但奴等性貪_レ肉故持_レ、若爲_レ官軍、以_レ爲_レ弓矢、一_レ田田神知矣、持_レ清白心仕_レ官朝、矣、仍授_レ恩符一_レ以_レ小乙上、定_レ母代津輕二郡々領、遂於_レ有馬濱_レ召_レ衆渡嶋蝦夷等、大饗而歸。同四年(秋七月辛巳)朝甲申、蝦夷二百餘、詣_レ阿闍梨、豐賜贈給有_レ加_レ於常、仍授_レ新裝蝦夷二人位一階、母代郡大領沙尼具那小乙下、少領宇婆左建武、勇健者二人位一階、別賜_レ沙尼具那等餉旗廿頭、鼓二面、弓矢二具、鎧二領、授_レ津輕郡大領馬武大乙上、少領骨蘇小乙下、勇健者二人位一階、別賜_レ馬武等餉旗廿頭、鼓二面、弓矢二具、鎧二領、授_レ津輕郡傳位二階、列官位一階、授_レ津輕郡傳位大伴君賴小乙下。同五年三月、是月、遣_レ阿闍梨、率領船一艘百八十艘、討_レ蝦夷、阿闍梨區區集館田母代二郡蝦夷二百四十一人、其虜廿一人、津輕郡蝦夷一百一十二人、其虜四人、膽振郡蝦夷廿人於一所、而大饗賜_レ、即以_レ給_レ一隻、與_レ五色綵帛、祭_レ彼地神、至_レ肉入籠、時間完蝦夷、賜_レ鹿島、免_レ姓名二人過日、可_レ以後方羊蹄_レ爲_レ政所、賜_レ鹿島等語、遂置_レ郡領二階、授_レ道與_レ越國司位各二階、郡領與_レ主政_レ各一階と

【津輕平野】 青森縣西部の平野。岩木川の本支流の沿岸の平野にてまた岩木平野とも稱す。東と北は奥羽山脈及びその支脈たる津輕山脈によりて限られ、南西部は出羽丘陵の北端部とそれ上に噴出せる岩木山によりて境せられ廣大なる陷没盆地状をなし、西北部は日本海に面し、そこに不毛の七里長濱の砂丘地帯あり。土地平坦。北西に次第に低下し、北部は十三湖の南岸の卑濕地に於る。廣大なる水田拓け岩木川とその多くの支流の灌溉により潤ゆる津輕米の産地極めて多し。また山麓地帯及び岩木川沿岸の砂地帯は本州に於ける第一の華果生産地にして、他地方へ多量に移出せられ、その他、馬鈴薯の産も多し。この平野は縣の東部の南部地方に比し人口密度甚だ大にして縣の主要部をなし、弘前市及び五所川原等がその中心部也たり。

となりて津輕海峽に没し、その間に三腕灣を擁す。山地の大部分は針葉樹林を以て被はる。

【津輕海峽】 本州島の北端と北海道との間にある海峽。ほぼ東西の方向に互り長さ約一〇二軒、幅は平均約三〇軒なるも、本州島の下北半島の北端大間崎と北海道渡島の南角沙首岬、津輕半島の北端龍飛崎と渡島半島の南端白神崎との間は最も狭く共にほぼ二〇軒を隔つるに過ぎず。深度は相當大にて、海流は常に暖流對馬海流が日本海より東流して太平洋に出づるも春夏の交には往々寒流親潮(千島海流)が西流することありて激變發生し航海に危險を感ずることあり。交通は明治維新前は僅かに近き三軒と白神崎に近き松前との間に行はれしも、維新後は全く青森・函館間の間はゆる青函連絡線によることとなり、なほ数條の海底電線通ず。この海峽は日本海と太平洋を繋ぎ軍事上の重要地帯なれば、沿岸に沙首岬・大間崎及び函館の三要地帯設定せらる。またこの海峽の南北に於ては文化的にも動物の分布上にも、著しき相違あり、動物地理學上この海峽をブライヤクストン線と稱す。

【津輕山脈】 西目屋村(青森縣)より岩木山(青森縣)の別稱。【津輕鐵道】 社線。津輕半島の中部を南北に通ず。青森縣北津輕郡五所川原町の省線五能線五所川原驛より同郡中里村の津輕中里驛に至る二〇・七軒。所要時間約五十分にて、一日五往復す。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸す。【津輕新線】 奥羽本線の一驛、明治廿七年設置。青森縣東津輕郡新成村にあり。【津輕港】 五能線の一驛、昭和十年設置。青森縣北津輕郡榮村大字港にあり。【津輕六郡】 陸奥國津輕にありし六郡。津輕石川、岩手縣陸奥國下閉伊郡の東南部。宮古町の南方約八軒。これと磯崎村を隔て、東北部は宮古灣に臨む、面積三三方軒餘。東境に浮橋(五九三米)、西境に大笹山(六一二米)あり。津輕石川中部を北に貫流して宮古灣に注ぎ、其流域に平坦地ありて耕地拓く。農産に米、麥、大豆、馬鈴薯等あり、その他水産・林産あり。宮古・山田間の道路は中部を南北に通じ、省線山田線また略これに並走し津輕石川、昭和十年設置ありて交通不便ならず。本村の大字赤前は佐々木光秀の後、忠光より起ると稱せらる、赤前氏發祥の地なり。慶長十六年十月二十八日この地に大地震あり、津波押し寄せ男女百五十人死せりといふ。

【津輕石川】 岩手縣下閉伊郡東南部の川。上源に二あり。一は島古ノ森(八五〇米)の東麓に發源して東流する豊間根川にして、一は高瀬森(一一六〇米)の東麓より發する大川及び水呑場山(九四四米)の東麓に發する小川を合せて東流する荒川なり。これ等の二流は豊間根川の東部に合流し、津輕石川となりて北流し宮古灣に注ぐ。合流點及び下流沿岸に稍低地を見るも、他は概ね峽谷をなす。

ツカル——ツカワ

ツカワ

ツカワ

ツカワ

ツカワ

ツカワ

【津輕石川】 岩手縣陸奥國下閉伊郡の東南部。宮古町の南方約八軒。これと磯崎村を隔て、東北部は宮古灣に臨む、面積三三方軒餘。東境に浮橋(五九三米)、西境に大笹山(六一二米)あり。津輕石川中部を北に貫流して宮古灣に注ぎ、其流域に平坦地ありて耕地拓く。農産に米、麥、大豆、馬鈴薯等あり、その他水産・林産あり。宮古・山田間の道路は中部を南北に通じ、省線山田線また略これに並走し津輕石川、昭和十年設置ありて交通不便ならず。本村の大字赤前は佐々木光秀の後、忠光より起ると稱せらる、赤前氏發祥の地なり。慶長十六年十月二十八日この地に大地震あり、津波押し寄せ男女百五十人死せりといふ。

【津輕山脈】 西目屋村(青森縣)より岩木山(青森縣)の別稱。【津輕鐵道】 社線。津輕半島の中部を南北に通ず。青森縣北津輕郡五所川原町の省線五能線五所川原驛より同郡中里村の津輕中里驛に至る二〇・七軒。所要時間約五十分にて、一日五往復す。軌間一・〇六七米、省線と連帶運輸す。【津輕新線】 奥羽本線の一驛、明治廿七年設置。青森縣東津輕郡新成村にあり。【津輕港】 五能線の一驛、昭和十年設置。青森縣北津輕郡榮村大字港にあり。【津輕六郡】 陸奥國津輕にありし六郡。津輕石川、岩手縣陸奥國下閉伊郡の東南部。宮古町の南方約八軒。これと磯崎村を隔て、東北部は宮古灣に臨む、面積三三方軒餘。東境に浮橋(五九三米)、西境に大笹山(六一二米)あり。津輕石川中部を北に貫流して宮古灣に注ぎ、其流域に平坦地ありて耕地拓く。農産に米、麥、大豆、馬鈴薯等あり、その他水産・林産あり。宮古・山田間の道路は中部を南北に通じ、省線山田線また略これに並走し津輕石川、昭和十年設置ありて交通不便ならず。本村の大字赤前は佐々木光秀の後、忠光より起ると稱せらる、赤前氏發祥の地なり。慶長十六年十月二十八日この地に大地震あり、津波押し寄せ男女百五十人死せりといふ。

【津輕海峽】 本州島の北端と北海道との間にある海峽。ほぼ東西の方向に互り長さ約一〇二軒、幅は平均約三〇軒なるも、本州島の下北半島の北端大間崎と北海道渡島の南角沙首岬、津輕半島の北端龍飛崎と渡島半島の南端白神崎との間は最も狭く共にほぼ二〇軒を隔つるに過ぎず。深度は相當大にて、海流は常に暖流對馬海流が日本海より東流して太平洋に出づるも春夏の交には往々寒流親潮(千島海流)が西流することありて激變發生し航海に危險を感ずることあり。交通は明治維新前は僅かに近き三軒と白神崎に近き松前との間に行はれしも、維新後は全く青森・函館間の間はゆる青函連絡線によることとなり、なほ数條の海底電線通ず。この海峽は日本海と太平洋を繋ぎ軍事上の重要地帯なれば、沿岸に沙首岬・大間崎及び函館の三要地帯設定せらる。またこの海峽の南北に於ては文化的にも動物の分布上にも、著しき相違あり、動物地理學上この海峽をブライヤクストン線と稱す。

【津輕平野】 青森縣西部の平野。岩木川の本支流の沿岸の平野にてまた岩木平野とも稱す。東と北は奥羽山脈及びその支脈たる津輕山脈によりて限られ、南西部は出羽丘陵の北端部とそれ上に噴出せる岩木山によりて境せられ廣大なる陷没盆地状をなし、西北部は日本海に面し、そこに不毛の七里長濱の砂丘地帯あり。土地平坦。北西に次第に低下し、北部は十三湖の南岸の卑濕地に於る。廣大なる水田拓け岩木川とその多くの支流の灌溉により潤ゆる津輕米の産地極めて多し。また山麓地帯及び岩木川沿岸の砂地帯は本州に於ける第一の華果生産地にして、他地方へ多量に移出せられ、その他、馬鈴薯の産も多し。この平野は縣の東部の南部地方に比し人口密度甚だ大にして縣の主要部をなし、弘前市及び五所川原等がその中心部也たり。

【津輕海峽】 本州島の北端と北海道との間にある海峽。ほぼ東西の方向に互り長さ約一〇二軒、幅は平均約三〇軒なるも、本州島の下北半島の北端大間崎と北海道渡島の南角沙首岬、津輕半島の北端龍飛崎と渡島半島の南端白神崎との間は最も狭く共にほぼ二〇軒を隔つるに過ぎず。深度は相當大にて、海流は常に暖流對馬海流が日本海より東流して太平洋に出づるも春夏の交には往々寒流親潮(千島海流)が西流することありて激變發生し航海に危險を感ずることあり。交通は明治維新前は僅かに近き三軒と白神崎に近き松前との間に行はれしも、維新後は全く青森・函館間の間はゆる青函連絡線によることとなり、なほ数條の海底電線通ず。この海峽は日本海と太平洋を繋ぎ軍事上の重要地帯なれば、沿岸に沙首岬・大間崎及び函館の三要地帯設定せらる。またこの海峽の南北に於ては文化的にも動物の分布上にも、著しき相違あり、動物地理學上この海峽をブライヤクストン線と稱す。

ツカワ—ツカワ

の本流と本郷の北部より来る支流常浪と
は町の北端にて相會し西に流れ走る。
た常浪川の支流徳富川は南端の上條村よ
り北流し来て、阿賀本支まの合流點近
くに常浪川に注ぐ。北方兩河原村との
境に麒麟山屹立し、南西部乃至西部は南
方より来る山脈の末端部にて二三百米の
山地をなす。北浦原方面より阿賀川の右
岸に沿うて来る縣道は、町の北境に懸る
麒麟橋を渡り常町を横断して東方遠くは
會津方面に至る。本町は新潟市と會津若
松市のほぼ中間にあり。もとは越後と會
津との交通の一要地にして旅宿賑ひ、ま
た阿賀川舟運の河港として榮えしが、大
正二・三年に磐越西線開通せしより舟運
絶え、旅宿も全くさびる。従来、新潟市
の商團にありし本町は鐵道開通後は東京
市の商團に屬するに至り、今は商業は京
盛にして附近諸村は多く當町の商賈より
不足品を仰ぐ。省線磐越西線は當町の地
帯は通過せざるも、阿賀川を隔てたる對
岸(揚川村)に津川驛(大正二年設置)を置
く。されば當町は全戸數八十七戸の小さ
き町なるも商家は一五四戸あり。また日
雇を業とするもの二四二戸あるは、隣村
兩河原村に昭和肥料工場あるに因れど、
もとゞ商家に附隨する運搬其他の日雇
仕事多き爲とす。外に農業二八七戸、工
業七八戸、庶業五六戸あるが、當町には
僅に徳富川の沖積地其他に發達せる約七
十町歩の田と、常浪川の沖積地其他に發

達する約七十町歩の畑とがあるのみなれ
ば、農家の過半は日雇を業とす。元よ
り商業を主とする町として生産物に乏し
く、主なるものとしては米の約二萬七千
圓、杉・桐を主とする木材約二萬三千圓
を筆頭に、野菜・木製品・清酒等を舉
ぐべし(以上數字は何れも昭和十一年現
在)。なほ阿賀・常浪の兩川より獲る鮭・
鱒・鮎などの魚類も相當の額なるが如し。
次に氣象に就て述べんに、此邊は大體阿
賀川を挟みて兩側は山岳連なり、而し
て川に沿うて西北方より東方に吹く風を
下風と稱し冬期は殊の外多し、之は日本
海方面より来るものにて水氣を多く含み
之が山岳に遮られ、當町の如きは一米乃
至二米、時にはそれ以上の積雪を見る。
また川に沿うて東より西北に吹く風、こ
れを山風(阿賀山ともいふ)と稱し、春よ
り夏にかけてよく吹き、屢々非常に強し。
特に此風は水分を含ませるを以て非常に
物を乾燥せしむ、古來當町に大火多きは
殆ど此風の吹く時とす。例へば永祿四年、
慶長十年、延享二年、寛政四年、寶曆十
一年、明和元年、寛政六年、明治十三年、同二
十三年、昭和三年など全町大部、二分の
一、三分の一といふ如き大火は、何れも
出風の時とす。當町人口は別表(第一卷
初編)の如きも、大正九一四十四年の間
は年平均千人に付九・三人の増加、大正
十四・昭和五年の間は二三・七人、昭和
五十年の間は一四人の増加にて何れも

自然増加(出生と死亡の差)以上の増加率
なるが、特に大正十四・昭和五年の間の
増加率高きは、主として北浦兩河原村に
昭和肥料工場が設置せられたる爲なり。
昭和肥料工場が設置せられたる爲なり。
なほ東浦原郡全體の一方軒の平均戸數は
三〇人なるに當町は五十六人なり。之の
みを以てするも當町が山間の中心都會な
ることを他は足らぬ。(沿革)東浦原
郡の地はもと小川莊と稱し當町は治者或
は管理者の居りし處、また莊の成立する
以前より統治の中心をなしたる如し。古
(磐船・沼澤に據置かるゝ頃、阿賀川の
河口は今よりも津川の近くにあり、而し
て蝦夷の防備や海上交通のため津川に管
船置かれたりし傳ふるも確證なし。また
齊明紀四年に見ゆる都岐沙羅橋の都岐沙
羅は津川の古名なるべしとの説あれど未
だ信ずるに至らず。此地方の最初の領主
は舊記に見ゆる限り源清仲にして、其女
を源朝に娶ふと共に天慶六年此領を教に
與へ、教より其子綱に傳ふ。天德二年船
道政事布かれ綱津渡を當地に置して間もな
く其臣時崎五郎重永を當地に遣はして船
道の事を司らしむ。蓋し近海を廣く監視
したるもの如く、而してその據所はい
ま船番所跡を傳ふる大船場なるや否や定
め難し。長徳元年には源朝光の孫多田頼
綱、當地方を領し子孫頼國二柱神社を撰
土神とせしこと舊記に見ゆれば、或は多
田氏津川の地に住せし事もあらん。次で
寛治五年より城氏の領となりしが資長に

至り、伯父なる會津蓮日寺の僧綱勝塔に
此地を與へてより明治維新に至るまで此
地は會津領となれり。壽永元年院宣にて
船道役人を裁許されし頃當地方に上條仲
久・下條仲時なるもの勢力あり、船道の
事に付、時崎五郎某を誘役となせしこと
舊記に見ゆ。之に依つて見るに時崎氏は
天德頃より津川の地にありて代々五郎を
名乗り船道の事を司りしならん。建曆の
頃、渡邊仲遠は當地の本陣場なる地に疊
を築き、地城にありし小祠を改造して
厚く祀る。これ今の神明神社とす。之よ
り先、佐原義連(源名氏の祖)會津を領し
次で其後、金上氏に當地方を與へしが、
建長四年金上盛弘に至りて麒麟山に城を
築く、之を麒麟城といふ。貞治二年に至
り附近より今の津川の市街をなせる地域
に多數の移民ありし如く、それまで此地
は杉木谷地と稱せし如し。大永二年吉
見包廣平山に御小屋館を築き子忠親、
孫忠春これに居館す。いま住吉神社に合
祀せらるゝ琴平神社は此頃の創立か、然
らずとするも吉見氏によりて神威を新に
せられし如し。吉見氏は金上氏と對立す
るものと思はれず、此頃に至りて時崎五
郎の名見えざれば、金上氏に屬し時崎五
郎の專門家として時崎氏に代れるものか。蓋
し琴平の神は舟人の尊崇する神、吉見氏
が琴平山に館したる事に注意すべし。天
正十七年源名氏伊達政宗に亡びざるゝ際
金上盛弘十四世の孫盛備齋齋して死す。

同十八年五月政宗の臣大渡玄蕃本城に率
り治せしが、豊臣秀吉伊達氏の地を収め
て同年八月會津に蒲生氏郷を對す。而し
て翌十九年氏郷は其臣北川土佐を一萬石
を以て麒麟城に分封す。之より渡邊氏本
陣場に疊せしが、蒲生氏會津を領するに
及びその壓迫に堪えず天正十八年風潮の
時寶川に退く。上杉景勝會津を領するや
鮎川帶刀を置きしが慶長五年九月景勝治
の兵來り攻め麒麟城陷る。同六年蒲生秀
行會津を領するや其臣岡重政を麒麟城に
分封し三萬三千石を食ましむ。同十八年
重政罪ありて駿府にて誅せらるゝや蒲生
郷春これに代り、其臣本山豊前をして代
治せしむ。同十九年秀行の子忠郷は弟忠
知を麒麟城に封じ陸奥にある三郡と合し
五萬石を食ましむ。蓋し忠郷・忠知とも
に徳川家康の外孫にて二代將軍秀忠は忠
知に松平の姓を賜はしむ。忠知は幼少
なりしかば、蒲生郷春をして代り治せし
む。此時に至り始めて津川を町と稱す。
寛永三年忠知出羽上ノ山に移封、同四年
正月忠郷卒し、嗣なくして國除となり。
同年五月松山城主加藤嘉明會津に封ぜら
る。此年嘉明は麒麟城を毀ち其府邸を以
て後の郡役所今在地に代官所を建つ。金
上盛弘築城してより三十七年とす。同八
年保科(松平)正之會津を領するやまた津
川に代官所を置き、寛文初年まで代官を
當置せしも、後時々出張するのみとなり
明治維新に至る。同十二年福島縣東浦原

郡役所を當町に置き同十九年東浦原郡は
新潟縣に編入。(麒麟山)津川の東北
端に位し、阿賀川東より來り常浪川南よ
り來り相會する所に屹立す。高さ三十四
百米なるも火山岩斷崖をなす。山の厚さ
底部と雖も百米内外にして頂上は嶺すら
も越え得ざる處あり、依りて金上遠江守
盛弘の築く城を麒麟城と名附く。風光明
顯なるを以て近隣に聞ゆ。山名はその姿
麒麟に似る故といふ。北麓に麒麟山温泉
あり。(住吉神社)町の西北方下町に
鎮座の三社。祭神、表神、中神、底
筒男の神也。相殿に天照命等六柱を祀
る。敏達天皇の九年攝津住吉より勧請と
傳ふ。例祭、陰曆七月十九日。(古志王
神社)町の南端、古志王平の丘陵上に鎮
座。祭神、大皇古命外二神。大湊
命、會津に向はるゝ際當地にて休息せら
れしが、後人その徳を慕ひ之を祀ると傳
ふ。當社は當地方にて最古の創建なるが
如く、古(玉泉寺別當たりしと云ふ。例
祭、陰曆六月十二日。(神明神社)宇伊
勢宮に鎮座。村社。祭神、天照皇大神・
豐受大神。相殿に少彦名命。正史は以仁
王を以て平等院にて遷去し給ふと云ふも
實は逃れて當地方中山(東山村の内)に潜
居せらるゝ。王の薨去後、恩榮し來れる渡
邊仲遠が本陣場に疊を築き、その南の隣
接地にありし小祠を改造して崇敬すとい
ふ。(新善光寺)町の中央にあり。佛光
山と號し淨土宗知恩院末。定信信州佛光

寺に參詣し靈告によつて等身阿彌陀佛を
鑄造して本尊とし、建久元年草創すとい
ふ。寺名これに因む。本寺は四箇村を所
領し殷盛なりしも、享保二年御小屋館主
吉見氏に寺領を奪はれしより衰退すとい
ふ。戊辰の役に桑名藩主松平定敬越後方
面の戦に敗れて津川に退くや、當寺を以
て本尊とし約二ヶ月滞在のち若松に退去
す。(密藏院)町の西部下町にあり。
高麗山と號し、新義眞言宗高野山明王院
末。大日大觀不動明王を本尊とし、大同
二年高麗山自費寺密藏院不動房が本寺の
前身にて、當地の最古の寺なるべしとい
ふ。源義家が安倍貞任等を討伐の歸途、
安倍頼時の孫忠任、津川に據りて之を遮
撃せんとす、義家の軍これを攻め逃ぐる
を追ふ。此間、義家等は本寺に五日間滯
在すと傳ふ。(正法寺)町の西方下町
にあり、明海山と號し曹洞宗。本尊勝軍
地藏菩薩。元久三年の草創。善金存朴の
開山。鶴川丹波(金山氏の家臣)の開基と
す。(玉泉寺)町の西部下町にあり。
寶珠山と號し新義眞言宗靈山派。延暦二
年西村の村主皆川權頭正次の開基にて、
もと西村(いま揚川村の内)にありしとい
ふ。住職良輝は學徳高く金上氏は當寺を
新開所となせしといふ。

【津川】磐越西線の二驛(大正二年設置)。
新潟縣東浦原郡揚川村にあり。阿賀川を
隔て、津川町に對す。
【津川村】岡山縣備中國上房郡の西部。
南は高梁町に隣接す。西南は高梁川の中
流を隔て、川上郡高倉村に對し、北は川
面・互瀬の二村に界す。面積約一五・五
方軒。大部分高さ二百米凌の高原性山地
にて東・南・西の三境の最高處には五百米
に上る部分もあり。高梁川の支流有漢川
は北方有漢村に出で互瀬村を経て村の中
部を南流し、西南境にて本流に合す。兩
河川に沿ひて耕地拓け米・麥・蕎麥・木
等の産あり、省線磐越西線高梁川に沿うて
北上し、木野山驛(大正十五年設置)を置
く。道路また高梁・有漢兩川の低地に通
じパスの便あり。町村制施行の際、今津、
八川の二村を合し津川村を建つ。(木野
山神社)大宇今津に鎮座。無格社。祭神、
大山祇命二神。天曆元年の創建。疫病に
對する靈驗あらたかにて參拜者多く、崇
敬者二十餘萬人と稱せらる。
ツギ 月の浦 一 萩原村(宮城縣)
の西南部。海邊町の東南に接し東と南は
日高郡西北部に界す。面積約四三方軒。
白馬山脈は東境より南境を圍み東境に長
者ヶ峯(六五一米)、南境に小山(四五八
米)あり。北境にも一山肢西方に延びて
三本松峰(五三三米)・地藏峯(四一一米)
等聳え概ね山地をなし、東境に發する廣
川中部を西北流し、その谷に巾狭き低地
ありて田畑拓け、米・蕎麥を産し山地は木
材・薪炭を出し、外に柑橘の特産あり。
西部に縣道走りて海邊町(パス)を通ずる

ツカワ—ツキ

ツキ

ツキオ—ツキカ

ツキオカ 月岡

も交通なほ便ならず。
【月岡村】富山縣越中郡上新川郡の中部。富山市の南方約八軒、上瀧町・大久保町の略中間に在り。面積八・六方軒。富山平野の南端部、常願寺川扇状地の西部を占め、土地概ね平坦にて田畑よく開け、南境を神通川の支流野川西流す。米の産多く、其他、大豆等の農産物あり、また酒の醸造盛なり。富山縣管鐵道(電車)は東北部を横断し、開發・月岡・大庄の三驛(共に大正十年開業)を置く。縣道四通し、上瀧・大久保兩町へバスの便あり。和名抄に新川郡車持郷あり。大字西黒牧の黒牧は蓋し車持の遺構にや。中世は大田庄に屬したり。

ツキオレ

櫻折山 播磨國(兵庫縣)の古地名。風土記・撰保元源里の條に見え、往昔、應神天皇此の山に上り給へり。いま同郡揖西村の大字に桑原北山あり、或は櫻折山は此邊の一丘を稱せしならんも詳かならず。
ツキカゲ 月影ヶ谷 神奈川縣鎌倉町の西部にある極楽寺の境内西方にあり。そこに阿彌陀像といふあり。阿彌陀は冷泉爲家の室にて、夫の夜後には出家し阿彌陀と稱し、紀行文十六夜日記を以て著はる。その中に「東にて住む所は月影ヶ谷とぞいふなる、諸近き山もにて風いと荒し、山寺の餘なればのどかにすこ

くて浪の音松風たえず云云」とあり。阿彌陀は彫像のため鎌倉に下りて久しく此處に住めり。

ツキガセ 月瀬村

奈良縣大和國添上郡の東北隅。奈良市の東方約二〇軒、笠置町(京都府相樂郡)の東南約一三軒。東南は山邊郡に、西は柳生村に、北は京都府相樂郡高山村に、東は三重縣阿山郡の西に挟まれし山地に在り、西境にては四百米、東境にては約三百米内外の高度を呈す。名張川(五月川)中部を割み、峽谷をなして西北流す。川の兩岸に沿ふ傾斜地には聚落ありて農業を營み米・麥・蕎麥を産し、梅實・茶の特産あり。山地は木炭を供給す。北部には縣道延徳屈折して東西に走り、東北は上野町へ西北方笠置町へ何れもバスの便あり。この地は和名抄、添上郡柳生郷の内なり。(月瀬梅林)指定名勝。本村内を横流する名張川の南岸の桃野・月瀬・鶴、北岸の長引・尾山等の聚落間の峽谷にある梅林の總稱。文政の頃よりその名著はる。附近一帶は古來梅實を收穫せんため多く梅樹を植う。梅實は醬園製造に必要な烏梅の原料なりしためなり。然るに化學染料の輸入と共に醬園の製造衰へしため、梅樹を植うこと漸次少くなり、昔日の觀なきも、なほ梅の名所の一としてその名あり。梅林は名張川の兩岸にあるを以て、先づ高きところより白雪の如き花を

ツキガタ 月形

【月形村】北海道空知支廳石狩郡樺戸郡の南端。石狩川中流右岸に沿ひ、東南は川を隔て、空知郡美瑛町・北村なり。西は石狩郡常呂村と界す。面積一五二方軒。大部は隈根尻山(九七一米)・三角山(七〇八米)の南斜面の山地にして、東南部と西部は石狩平野の一部に當る。須部郡川は北部山中より西南流し、後東折し東南境にて石狩川に注ぐ。この合流地點に月形の聚落ひらけ附近に耕地多し。米・馬鈴薯・亞麻・燕麥・木材・牛・馬等を産す。省線札沼線西南より東北に通じ、石狩月形・札比内の二驛(昭和十年設置)を置き、札幌・釧路間の道路またこれに沿ひ、月形よりは西北は厚田方面へ、東南は美瑛・岩見澤にも道路ありてバスの便あり。

【月形村】

福島縣岩代國安積郡の西部。筑前代湖の東南岸に在り、北は郡麻郡月輪村に接す。面積四〇方軒餘。東北境に飯坂山(一〇〇九米)・東南界に高嶺山(九六八米)ありて西方湖岸に傾斜す。中西部は舟津川北流し湖に注ぎ中部沿岸には平坦地ありて米・蕎麥を産す。道路は湖岸に近く南北に通じ、北方の省線磐梯西線上戸輪村と、西南赤津村へはバスの便あり。此地は和名抄會津郡菱方郷の内。藩政時代には二本松領にて會津郡

四六

内なりき。のち安積郡の管轄となる。
【月形村】群馬縣上野國北甘樂郡の西南部。下仁田町の西方約八軒にあり。南は多野郡の西岡上野村と隣す。面積二九方軒餘。鑛川の上支南牧川上流の地にて、北部は荒船山の東嶺なる大屋山(一〇八一米)・富士千間山(八九九米)、南境附近に烏帽子岳(一一八二米)ありて全村殆ど山地をなす。たゞ裾合谷を流る、南牧川に沿ひ狭小の低地あり、麥・蕎麥を産し、特産物には蕎麥芋あり。縣道も川に沿ひ下仁田町に通ず。

ツキカタ

新潟縣越後國西蒲原郡の東部。三條市の北方約一二軒、中ノ口川左岸に沿ひ、河を境に東は中蒲原郡に對し、東北はその白根町なり。面積約九・四方軒。越後平野の中央部に在りて全村土地平坦にして水田よく發達し、越後米・新潟米の名産地なり。對岸には國道通じ、新潟市・三條市間のバス往來す。中ノ口川には舟楫の便あり。明治三十九年に曲通・林津・中合の舊三村を合併して建てし村。附近は越後獅子(角兵衛獅子)浦原獅子ともいふ)の發祥地としてよく著聞し、方俗には其伎を單に月湯とのみ呼ぶ。應永年間この地に角兵衛なる者あり、中ノ口川に犯置して田畑の被害甚えざるを憂ひ、その救済に子弟に獅子舞を教へ(應永の時、講方を勧進せしに始まりしものなり。今や越後には本邦第一の米産地として著名なるに在りしも、其處には農

民の斯くの如き節儉たる長年苦悶の歴史あるは見ゆがすべからざるところなり。(満徳寺) 大字大別當にあり。眞宗大谷派。柏原山と號す。城主諏訪宮内、親鸞上人に歸依し、善性房と號して建立する所にして、本尊に大日如來を安ず。

ツキカネト

江戶開場所の一。本所入江町にて最下級の遊女屋のありし所。日本橋本石町の鐘道堂と區別するため顯明して呼ぶ。傾城買指南所、入江町のおすみに、撞かねのおしか(淫女皮肉論)あたけ直助つな打てば、よしだ町に入江町、撞鐘どふに六けんばり。

ツキカミ

築上部

ツキガミネ

月ヶ峰・月峰山

【ツキカワ 槻川村】埼玉縣武蔵國秩父郡の東北部。秩父町の東北約一〇軒、北は大里郡折原村、東南は比企郡大河村に接す。地南北に狭長にして面積二四方軒に近し。西境は大鶴山(七六七米)、東境は堂平山(八七六米)・笠山の脈各南北につぎつぎと山地をなす。村内の水は槻川の上源をなし、東北境より東岡大河原村を経て大河村に出づ。森林多く林産あり。各地には多少の耕地ありて米・麥を産し、養蠶と紙漉業行はる。秩父町より比企郡方面へ通ずる縣道に當る。

ツキキ

槻木

ツキカ

ツキタ

【ツキサカ 築坂】大和國(奈良縣)の古地名。書紀・神武天皇紀に功部道臣命に宅地を賜ひて築坂邑に居らしむとあり。延喜式には桃花島坂に作る、この地は皇居白樺原宮と相連する遠からざるを以て人これを異とせりといふ。その地いま高市郡飯坂町大字鳥居の地に當り、身狭桃花島坂上段・身狭桃花島坂墓あり。

ツキジ

【ツキシマ 月島】東京市京橋區の一町名。隅田川の河口佃島の南方に新たに築成せる島地。元來は一の洲渚に過ぎざりしものを、明治十八年、東京府技術會田吉副の設計によりて日本土木會社に請負はしめて埋築し同二十五年竣工す。現時の地勢は東南一新川を距てて埋立地第四號に接し、西北隅田川を距てて京橋區築地・小田原町・明石町に對し、南は新高川を距てて埋立地第三號に隣り、北は佃川を距てて新島島町に接す。島地の中

ツキス

【ツキス 月津村】石川縣加賀國江沼郡の北部。柴山湯に隣り、北は能美郡御幸村に隣り、大聖寺町の東北約一〇軒、小松町の西南約八軒に在り。東部に低き丘陵地あり、柴山湯の東岸に沿ひて平地ありて田畑よく拓く。他は農業・養蠶を主産業とし、工業・水産業等も行はる。東部を北陸道及び省線北陸本線貫通し、後者の粟津驛(能美郡粟津村地内)に近し。中世以降は北國街道の一驛たり。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御村内興宗寺に御小休遊ばされ、今その址は指定史蹟たり。(氣多御子神社)大字・額見に鎮座。祭神、天照皇大神・菊理媛神。式内の氣多御子神社と云ふ。もと神明宮・額見社と稱せしも、明治十

ツキタ

ツキカ

ツキタ

ツキカ

ツキタ

ツキカ

ツキタ

ツキカ

ツキタ

ツキカ

ツキタ

ツキカ

ツキタ

二年現稱に改む。例祭、九月一日。「興宗寺」大字月津にあり。眞宗大谷派、福井市興宗寺の分派。但馬行如の開創、中古に至りて分派して兩寺となる。
ツキセ 月瀬村 熊本縣肥後國五木郡の中部。菊池川の西岸に沿ひ高瀬町の東北約六軒。これと五木村を隔つ。面積約八方軒。北隣坂下村よりついで丘陵性山地中部を南方に下り、東南部の菊池川右岸に低地、西部に傾斜地あり、田畑拓けて米・麥を出し新炭も産す。川沿に道路ありて五木村、東北隣川沿村に通ずるも交通なほ便ならず。
ツキタ 月田 岡山縣鹿野郡藤山町の大字。古くは地名に呼ばれ、和名抄美作國眞島郡に月田郷あり、近世は村名に呼ばれしが明治四十年藤山町に合併さる。蓋し大字月田は地名の遺稱にて郷城は藤山町一帯の地を云ふか。いま省線新線(月田驛)昭和五年設置あり。
ツキタ 槻田 播磨國(兵庫縣)の古地名。和名抄、神崎郡に槻田郷あり、風土記の多麻里にして、今の神崎郡田原村・八千種村・船津村・山田村の邊なるべし。
ツキタ 衛岡 大和國(奈良縣)の古地名。嵯峨天皇の御陵この地にあり。古事記には衛岡に作り、延喜式には桃花島田に作る。其の地いま高市郡飯坂町大字四條の地に當る。
ツキタ 次高山 臺灣次高山脈の靈峯。島の北部、新竹・臺中の州境に隣

ち、高さ三九三米にして新高に次ぐ本島第二の高山のみならず、全日本に於てもまた第二位なり。舊名をシロビヤ山と稱せしが、大正十二年大正天皇御褒賞の際、次高山と御命名せらる。西部平野より遠望すれば大雪山・小雪山等三〇〇〇米を越ゆる雄姿を背景となし雄大な姿を示す。山形優美にして小池水等あり。積雪は新高より多く、且つその雪積期間も長きを以て、俗に「雪窟」の名あり。南方の斜面は大甲溪の源となり、北方よりは大安溪が流出し深き峡谷を穿つ。登山路としては南方に沿ひて明治温泉に達しついでシロヤウ春社を経て大甲溪の支流シロヤウ溪を流ひつゝ、徒渉すること九回、シロヤウ駐在所を未明に發せば、夕刻その九合目の營地に達す。翌朝、頂上を結み再びシロヤウ社に下るを願ふとす。外にビヤナン社を經由する羅東よりの道と、モギリ社を經由する大南よりの登路あり。

ツキタテ 月窟町

福島縣岩代國伊達郡の東部。川俣町と掛田町の中間に位置し、東南は相馬郡石橋村に接す。面積二九方軒餘。阿武隈山地の西縁部に當り、東境に三郷森・無垢路岐山、南境に太郎坊山、西境に御幸山等あり。大部分は高度三百米内外の高原状をなし、廣瀬川の上流小手川は西部を北流し、西岸に幅狭き平坦地をなし平地あり。東西南山地には水炭を産し、平坦地よりは米・麥・大豆、

馬鈴薯を産し、養蠶行はれて繭を出す。川俣・掛田を連絡する道路は川に沿ひて通じバスの便あり。月窟の聚落は此の道路に沿ひてほぼ中央部にありて街村形をなす。もと小手川村と稱せしが昭和三年町制を布き月窟町と改稱す。

ツキタテ 築館町

宮城縣陸前國原郡の東南部。西は一迫町に隣り、高清水町の北方約八軒。面積二二方軒餘。陸前平野の西北部に位置し、南部は丘陵性臺地、北部は東流する一迫川流域の平地にて田畑拓け、米・藁・麥等あり。また工業・畜産・林産も少からず。築館の聚落は東部に位置し、陸羽・登米兩街道の交點をなし、街道はいづれもバスの便あり。郡木炭同業組合・郡農會・郡出資組合聯合會あり。社線仙北鐵道ここに起りて、築館驛(大正十二年設置)を置く。明治二十九年町制施行。明治天皇、明治九年皇羽御巡幸の際及び同十四年山形・秋田及び北海道行幸、同三十四年仙臺行幸の際にこの地に御小休あらせらる。この地は和名抄、東原郡清水郷の内なり。古くは月立驛にて、明治に入り郡役所の置かれし處。(伊治城)神護景雲元年に築き、坂東八國の民を移して陸前町の鎮所とす。桓武天皇延暦十五年、關東・越後・出羽諸國の民九千人を此處に移す。爾後この地は「雙林寺」曹洞宗。誓王山と號す。俗に杉葉と稱す。孝謙天皇の勅命により天平寶字四年の開創と傳へ、のち養賢せしを、承應三年に伊達忠宗、僧茂林を請じて再興す。藥師堂本尊藥師如来坐像(木造)一軀・二天王立像(木造)二軀は共に鎌倉時代の作にて國寶。

ツキナダ 月灘村

高知縣土佐國幡豆郡の西南海岸。高知縣の西南半島郡南岸の西部に位置し太平洋に面す。足摺岬半島の頭部なる清水町の西方約二〇軒、東は下川口村、西は奥内村に接す。面積約三九方軒。高度二百米内外の山地西北より東南に延び、其間の谷と海岸所々に小低地ある外は概ね山林をなす。海岸は小出入に富み所々に險阻あれど、其間に經ノ浦・赤泊等の漁港を抱く。古來珊瑚採取を以て名高く、また鱈・鱒・鮭・鰯の漁獲あり。米・麥・藁・木村等をも産す。赤泊・小才角は沿岸汽船の碼頭にして、道路海岸と谷地に沿ひて通ずるも、地僻にして交通便ならず。村内に珍奇なる植物やつこさう自生す。明治四十年始めて發見せられたるものにして、観草科と稱さる。(住吉神社)大字水角に鎮座。郷社。祭神、三熊雄大神。創立年代詳ならずも、住吉より雲村尾浦の産土神にして、以前は住吉大明神と稱したり。例祭、十月五日。

ツキノ 楓野之清泉

常陸國(茨城縣)の古地名。常陸風土記、行方郡の條に「俊武天皇皇孫野天下、征平海北、當是經楓野清泉、即楓野清泉、楓野清泉、水洗手、以玉蓋井、今存三方里之中、

ツキノカワ 調川村

肥前國北松浦郡の東北部。北松浦半島の北岸に位置し今福町の西、志佐町の東に隣り、北は伊萬里灣口に臨む。東西兩境に小丘陵連なり村内は概ね平坦にして耕地多く、海岸風曲少く一般に岩石海岸をなす。米・麥・甘藷等の農産多く沿岸は漁業行はれ、また北松浦炭田の一部に當り大平・中島江口・田中の三炭礦ありて石炭の産出少からず。省線伊萬里線北郡を東西に走り調川驛(昭和八年設置)あり、北岸に縣道通じ、東は伊萬里、西は平戸方面へバスの便あり。明治十五年志佐村と聯合戸長制を布きしも、同二十二年町村制施行の際分離獨立す。(大平炭礦)村内約二八萬坪に互る鐵礦を有し本邦重要鐵礦に屬す。昭和十年の産額は塊炭一〇・六九九萬噸、粉炭一・七七七萬噸、切込炭五・一二九萬噸、この總産額九萬四千餘噸にして同年六月末現在の鐵夫數一三三人とす。(田中炭礦)村内約二八萬坪に互る鐵礦を有し本邦重要鐵礦に屬す。昭和十年の産額は切込炭一三・五一〇萬噸(七萬餘噸)にして同年六月末現在の鐵夫數二三六人とす。

ツキノキ 槻木

宮城縣陸前國栗田郡の東南部。北と東は名取郡千貫村に接し、東南の一部は阿武隈川を隔て、互理郡邊隈村、伊具郡東根村に對す。地は四角形にて面積四一方軒餘。四周は高さ五十米より二

ツキノ 月野

調(玉蓋井)と見ゆ。その地は今の新治郡玉川村の地なるもの如く、大字に井上あり。

ツキノオレ 月居山

阿武隈山地の東部。茨城縣久慈郡の北部、霞田村・生瀬村の境上に跨る。山體は第三紀層より成るが如し。南方鞍部は月居峠最高點をなす。この峠道は常陸國より下野國へ越す一要路にて險阻なりしが、今は陸道通じ交通便となる。山の北麓を龍川西流して久慈川に落ち、龍川に四度ノ瀧(一名、月居瀧)懸る。山中に月居城址あり。※袋田村

ツキノモト 槻本

攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に西生郡槻本郷見ゆ。都支乃毛止と訓す。其地いま詳かならざるも、大阪市西成區の元木津・元今宮の邊に當るか。

ツキノワ 月輪

福島縣岩代國耶麻郡の東南部。舊苗代湖の東岸に沿ひ、東は安達郡高川村、東及び南は安達郡月形村に隣接す。面積三七方軒餘。東北境には水無山(九九七米)・鞍手山等の巖ありて西方湖畔に傾斜し、西北部には長瀬川湖に注ぎて三角洲をなして平坦地を作る湖水は五百川となりて南部を東流し、安達盆地に下りて阿武隈川に入る。西北部の平坦地と五百川出口附近には耕地拓け米・藁を産す。越後街道と省線磐越西線五百川に沿ひて湖岸に出で更に北上して千早村・雲島村を経て會津盆地に向ひ、省線には上戸・關郡の二驛(明治三十二年設置)あり。寛文風土記によれば、此地は古く月輪庄と稱せられし地なりと。また室町時

ツキノモト 槻本

代に名高き連歌師苗代被禰の出身地なりと稱せらる。大字山出は住吉は民戸ありしが、その後荒廢せしを、永正年中、下野國の浪人國加賀某なるもの安達郡玉井村より郎等を引具し來り槻本を起し、より再び民居となれりと云ふ。大字邊嶺字置きは二本松街道に當り藩政の頃に番所を置きし所と云ふ。また戊辰の際には戰艦のありし地なり。大字關郡は往昔會津關のありし所ならんといふも詳ならず。

ツキノワ 月輪

陸奥國(岩代、福島縣)の古地名。芭蕉の奥の細道に「月の輪のわたしを越えて瀨の上と云嶺に出づ」と見ゆ。芭蕉は信夫里、即ち今の福島邊に泊して文字摺石を見物しやがて瀨上驛に出でしものなれば、月輪は阿武隈川または其の一支松川にありし波ならんも、今何れなるか密かならず。

ツキハ——ツクオ

明天皇に至る帝統は悉く此地にありて泉山と通稱す。九代後醍醐天皇を月輪山と稱するも、後醍醐天皇の月輪山莊が此地にありし故の稱なり。

ツギハシ

織橋 伊勢國(三重縣)の古地名。古風土記に見ゆる土橋郷は織橋の舊稱ならんといふ。神宮職事記天平勝寶六年に度曾郡織橋郷と見え、和名抄にも同じく織橋郷ありて都岐波止と註す。其地は今の内城田・中川・七保村に互る地を稱せしものならん。

ツキモシ

附馬牛村 岩手縣陸奥國上閉伊郡の西北部。遠野町の北方約八軒。東北は下閉伊郡の西部に、西北は再賀郡の東北に接す。面積二〇三方軒餘の大村。北上山地の中部に位し、北境の巖加岳(一六四五米)を最高に東境及び西境にも高度一千米内外の山頂あり内部は五十六米深の高原状をなし、北部の水は集りて猿ヶ石川となり中央より南流し、南部の沿岸に耕地拓く。大部分は森林・牧地をなし薪炭・馬をだし、農産に米・麥・粟等あり。村道四隣に通ずるも交通なほ便ならず。東南隅松崎村を經、土間村に出づれば遠野町へバスの便あり。(東澤寺誌)大字東澤寺にあり。建武年中僧無盡の開創に係り、當時は七堂伽藍を列ね、無盡の高徳を慕ひて駐留せる僧徒二百餘人に及びたりといふ。また當寺は南部守行以來、盛岡南部家の菩提所として二百石を賜はりしが、

ツキヤマ

築山村 熊本縣肥後國玉名郡の中部。東南方高瀬町との間に彌富村を挟み西南隅は約五軒餘にて鳥原海岸に達す。北境にある小代山の一時觀音山(約五〇〇米)の南麓にて北半は山地、南半は菊池川下流流域沖積地の一部を占めて低地廣し。灌溉の便よく米・麥を産し林産もあり。縣道三池街道南部を通じバスの便あり。省線鹿児島本線高瀬驛に近し。中世、附近諸村と共に大野庄と稱せらる。

ツキヨシ

月吉里 下閉伊村(岐阜縣) 月讀森 三重縣度會郡四ツ木郡

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクシ

津久志村 廣島縣備後國世羅郡の略中央部。東北は大見村に、西南は小園村に隣り、面積二六・三方軒。全村高度三十四百米を有する高原狀の山地にて山林多きも、東部と西北部には南北に延びし巾狭き低地ありて耕地拓け耕作行はる。物産は米を主とし特産に松茸・茶を出す。豊田郡乃美村、豊三郡吉合町の縣道西部を南北に通じ、吉合町へはバスの便あり。この地は和名抄、世羅郡津口郷の内。東寺文書の平治元年實証院院御注國注進に「備後國津口庄世羅郡後家米三百石油四石三斗」とあれば、當時その領庄なりしものなるべし。往時は大田庄山中郷とも稱せりと。

ツクシ

筑紫 九州島全土の地名にして、また筑前・筑後兩國の古名。古事記・上に「大生・筑紫島、此島亦身一而有二面四」と見え、更に四面の國名(筑紫國・豐國・肥國・熊襲國)を挙げたれば、筑紫島は九州島全土の地名なりしは明かなり。筑紫の起源に於ては數説ありて詳かならざるも、萬葉集に「馬の爪都久志乃崎」とあるより、九州は我國の西端の故を以て「行き盡し」の意より出づとの説と、或は貝原益軒の如く異國來寇を防がんがために、上古に筑前北方の海邊に築石をなしたるによる等の説あり。のち筑紫の地は今筑前・筑後二國の地、即ち大宰府を中心とする地に局限されしも、猶ほ且つ

ツクシ

筑紫の名は九州島全土の地名として呼ばれたり。筑前縣十九郡の一。筑前國の南部にて、縣の中部の西側に位し、北境の西半は福岡市に、東半は糟屋郡に、東北は嘉穂郡に、東南は朝倉・三井の二郡に、西は早良郡に、南は佐賀縣三養基・神埼二郡に隣接す。面積二四六方軒餘。西南部一帯は背振山塊の東北部を占めて南境上には石谷山・九千部山・横現山・基山等、高度四一八百米の山峯東西に連り、其等の山麓北に派生出西南部の山地をなし、東北は三井山塊南部の山地にして三井山を始め高嶺山・大根地山・砥上岳・大城山等の四一九百米の諸山あり。これら剛山地の間に御笠川西北流し、西南部山地より北流する那賀川と共に博多灣東南岸の平野を形成す。筑後川の支流寶満川は東南部の平地を南流し、其流域は筑紫平野の北端と連り、北流する御笠川との間に低き分水界を作る。これ等諸川の流域は土地平坦・地味肥沃にて農産物多く米・麥・粟種等を産し養蠶も行はる。鹿児島街道は中央低地を西北福岡市より東南に向ひ二日市の陸路を過ぎて三井郡に出で、小倉より飯塚市を過ぎて來る舊鹿児島街道は東南境の冷水峠によりて又これに合す。省線鹿児島本線と社線九州鐵道電車は前者に、省線筑豊本線は後者に並行す。また鹿児島本線の二日市驛に起る社線會合軌道は東南方に走り朝

ツクシ

倉部に至る。道路の多くはバスの逐時行はれて郡内交通甚だ便利なり。いま二日市・大宰府二町の外十二ヶ村を含む。本市は明治二十九年四月に福岡・御笠・那珂の三郡を合して立つ。

ツクシ

【築紫村】福岡縣筑前國築紫郡の東南部。西北は二日市町に近し、其間に山口村の東北部を隔て、東は朝倉郡夜須村に、南は三井郡三國村及び佐賀縣三養基郡基山村に接す。面積一五方軒餘。背振山塊東端の基山(城山、時佐山、四〇五米)西南境に聳ゆるも、東北半は沖積なる低地開けて筑後川の支流寶満川南流し、田畑よく拓け米・麥・粟種等を産し養蠶も行はる。國道・縣道中央に交叉してバスの便あり。省線鹿児島本線、同筑豊本線及び社線九州鐵道(電車)、西部を南北に走り朝倉鐵道等を通じ、省線に原田驛(明治二十二年設置)あり。古くは和名抄、御笠郡長岡郷の地なるべし。既喜兵衛省式に長丘驛とあるは此地なるべく、大字永岡には蓋しその轉訛ならん。大字原田の西南に基山あり。蓋坂の高峰にして大宰府の藩を置ける所なり。天慶中、大宰大監大觀奉實政を擧ちて功あり、子孫土着して州豪となる。その一族中、原田・秋月二氏最も著はる。原田氏は蓋し在名を負ひしもの。幕末の勤王家にして從五位を贈られし吉田重藏は此地の人とす。(筑紫神社) 大字原田に鎮座。縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

ツクシ

縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

ツクシ

縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

ツクシ

縣社。祭神、白日別神・五十猛命外二神。式内大

ツクオ

尾山・陣馬峯・曾根山等高度八一九百米の山地北境に連る。桂川は北部を、道志川は南部を共に峡谷をなして東に流れ、中部にて相會して相模川となり東流して高座・愛甲二郡の境をなす。郡内山地多く平地は河谷の段丘地に狭少のものあるに過ぎず。蠶業を主とし農産・林産これに次ぐ。また津久井絹の産あり。甲州街道は桂川の谷に沿ひ、省線中央本線また之に並行して西走す。郡内に中野・小原・與瀬・吉野・四町の外十五ヶ村を含む。初めは甲斐國都留郡に屬せしが、延暦以後相模に入り愛甲郡に屬し、奥三保と號せり。江戸時代の初め津久井郡を置けしが後に之を廢し愛甲・高座に分屬せしむ。併しこれも未續せず、元禄年中津久井縣と稱せり。明治三年津久井郡を再興し初めは足柄縣に屬せしが、同九年神奈川縣に入る。桓武平氏、三浦氏の族、此地に津久井氏を稱せり。

ツクイ

津久井 津久井郡 津久井郡 津久井郡

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクオ

尾尾村 大阪府和泉國泉北郡の北境。堺市の南に近し西は濱寺町に接す。面積僅に二・二方軒餘の小村。土地極めて平坦にして石津川西部の小村。大阪市の南に工業地帯に屬し綿織その他の工業發達し工業地帯も多し米・麥等の農産及び畜産はこれに次ぐ。西部には父交街道走りてバスを通じ、社殿阪和線中部を貫き上野芝驛(昭和四年開業)あり。堺・大阪方面と交通至便なり。

ツクシ—ツクテ

生層・古期火成岩より成る。(四)南部一帯を占め、香春の東には御荷鉢層より成る東北東の飯岳の地層あり。筑波山は主として古第三紀層の區域にて、花崗岩、御荷鉢層の地塊も絶て北西—南東の方向を示し、それ等の丘陵乃至地塊は多くは遠賀川の西に發達せり。この地域の西界は福岡町—三坂峠—福丸(若宮村)—遠賀川支流の線によりて限られ、舊地塊は金山(四二二米)地塊にて北半は花崗岩、南半は御荷鉢層より成る。西部地塊は前者の西に位し御荷鉢層・花崗岩の地域にて、福岡市南東の古第三紀層の志地丘陵は南西に延ぶるも、古き層は皆北東の方向を示す。鉢立山(六六六米)、砥石山(八二六米)はその舊地塊なり。馬見山地塊は御荷鉢層より成り馬見山(九七八米)その南の長岳(六九四米)の地塊は東西性を示し、大いに開折を受く。香波山地塊は筑前・肥前の境に互り大部分花崗岩なり。香波山地塊・天山開折地帯及び福岡西部地塊の三部に分れる。香波山地塊の南半は東西に走りて雷山(九五五米)を最高點とし、東半はや、北西—南東に走り香波山(一〇五五米)を最高とす。幅は東端附近にて三軒以上、西端にては七軒、御荷鉢層・花崗岩の塊裂區域をなし、この上に可也山(筑紫富士、三六五米)の玄武岩あり。西端の大門峠は玄武岩の柱状節理を呈す。北肥前山地塊は平均二—四百米の塊裂と節理を受けし丘陵地にて、古

第三紀層廣く發達しこの上に玄武岩を發達す。また東部山地・北松浦半島の二に分る。東部山地は北部に東松浦半島の開折地あり。其盤の花崗岩上に玄武岩廣く分布す。然るに唐津市より南西に走る一線より南は殆ど古第三紀層にて、八幡山(七六四米)を最高點とし主に東西に延ぶる地塊多し。主なるものに鬼ノ鼻火山岩地塊・杵島山地塊及び遠賀山附近の火山性岩あり。西條有田川の構造谷に沿うては、南北方向の青嶺山及び兩子山の火山岩地塊ありて、頂上にメサ式の峰を頂く。標高二百米内外の壹岐島の玄武岩開折地帯も之に屬す。北松浦半島は古第三紀層の上を廣く玄武岩の被ひたる開折地帯なり。地塊は東西及び南北のものを主とし何れも玄武岩より成る。東西の地塊に陸揚山地塊・小笠原地塊・白島地塊等あり。南北の地塊は國見岳地塊・大野岳地塊なり。

經五〇〇米以上の曲率にて蛇行して緩流し、下流の三角洲には川中島を挟む。耳納山地の南と西の縁邊には低き洪積臺地あり。米を主とし黍・粟等の産多し。糧の實の收穫も少からず。平野の中心都市は久留米・佐賀兩市なり。

福岡

ツクシキ 都久斯岐城 ↓筑足流城

ツクソククル 筑足流城 書紀、埴原の八年に見ゆ新羅の地名。一に都久斯岐城ともいひ高麗國の境に近し。高麗王、兵を此城に集めて新羅を犯す。新羅は救を我任日本府に乞ひ、我兵高麗兵を撃退せる旨書紀に見ゆ。其の地詳かならざるも、いま鹿角北道體原高麗宮面龍宮の邊ならんか。

ツクタジマ 佃島

地名。岡田川の河口にある小島(佃島)を占め、新佃島町・佃町に分る。名稱は徳川幕府が正保年間攝津國の佃村の漁民を移してここに居らしめたるより起るといふ。佃島の産あり。佃島は寛永國に三國島とあり、文龜年間の江戸編には向島と呼べり。江戸時代の岡場所なる佃島は今佃町にありて、佃・向土橋・あひる・海ともいへり。辰巳之園、此ちよびりとし所は、なんじやへ。是は八右衛門島と云、此向が佃島。ここにも有か。イヤ安は環斗居る、女郎の有は八幡の向のさ。毎美車紫鹿子、深川佃。此浮土は三橋にならぶかみの結ぶ、衣裳の着こなしおよばず、其うへ座鋪にて時花歌をうたふ人がらはよくなし。

ツクテ 作手村

愛知縣三河國南設樂郡の西部。新城町の北隣にて、北は北設樂郡設樂村、西は東加茂郡下山村及び額田郡宮崎村に接す。面積一—二方軒餘。三河山地の中部に位し、四圍山嶺を

繞らし、中部には香坊山の山嶺ありて、東南部は豊原川の支流、西北部は足助川の支流の谷に分る。谷には幅狭き低地ありて米作・養蠶行はれ、山地には林産あり。其他に三州五等の産物も行はる。伊奈街道と足助街道を繋ぐ野街道西南部の谷に沿ひて通じ新城町へバスの便あり。此地は和名抄、設樂郡墨瀬郷の内か。明治三十九年、作手・田原・巴・保永・杉平・田代・荒瀬・高松・大和田の舊藩村を廢して新に本村を建つ。戰國時代、奥平氏・菅沼氏等の土著あり。菅沼氏は清和源氏土岐明智氏の族にして、子孫は徳川氏に仕へ甲斐五郎の切石にて一萬石を給せらる。奥平氏は平氏又は村上源氏、或は赤松氏の族と稱す。信昌の時、徳川家康に仕へ遂に諸侯に列し、昌成の時は豊前中津城に十萬石を領す。(白鳥神社)大字白鳥に鎮座。郷社。祭神、日本武尊・忍穂耳尊・熊野久須思命外十柱。領主奥平氏の崇敬あり。例祭、九月一日。(甘水寺)大字鴨ヶ谷にあり。臨濟宗永源寺派。開山と號し、應安二年彌天永源禪師の開基、貞享五年奉山智融禪師の中興に係る。天正三年炎上。のち再建成る。

ツクバ 筑波

【筑波(國)】 國史本紀に見ゆる國名。成務天皇の朝、忍海見命の孫阿閉色命を國造に定め給ふ。其地は今之茨城縣常陸國筑波郡の内にして和名抄の筑波郷の地、即ち今の筑波郡筑波町・田井村等の地な

ツクハ—ツクハ

るべし。【筑波郡】 茨城縣十四郡の一。常陸國の西南部を占め、東は新治・稻敷二郡に、南は下總國北相馬郡に、西は阿國給郡に、北は筑波郡と隣す。面積約三一一方軒。東北境に筑波山地帯よりその主峯筑波山(八七六米)は東北隅に聳ゆ。櫻川はこの山塊の西を東南に流れ、小貝川は西境と南境を劃して流る。これら二川の流域は低地にして水田多きも、其中間の大部分は低き臺地は南北に延びて畑地の間に林を交へ、また臺地間には樹状狀に低地ありて水田をなす。米・黍・大豆・野菜等の農産を主とし蠶業行はれ、また林産を出す。縣道よく發達し、社線筑波鐵道は東北部を掠め、東北部の北條町、中部の谷田部町は交通上の中心をなす。郡内に谷田部・筑波・北條の三町外二十四箇村を含む。本郡は成務天皇朝に國造を置き給ひし筑波國が、國郡制定の時郡となりしもの。和名抄は豆久波と註し大貫・筑波・水守・三村・栗原・清浦・清水・佐野・方穂の九郷を置く。文祿年中、東方の四郷を新治郡に分ち、南の信太・河内二郷の地を併せ郡域大いに移動す。明治二十九年に至り更に河内郡より一村を収め、新治郡より三村を収めて別に一村を興へ、北相馬郡より一村を入れて郡界を整理して今日に至る。

【筑波町】 茨城縣常陸國筑波郡の東北隅。筑波山(八七六米)の南西斜面を占め、東は新治郡小幡村に界し、北は筑波町との間に筑波郡尾村を隔つ。面積約一四方軒。大部分は筑波山西南側の急斜面をなす山地にして、西南部の山麓は櫻川流域の平地にして水田多し。物産は米を主とし、黍・粟・醸造物・庭石等あり。筑波産物を特産とす。縣道は南北に通じ北條町・筑波町方面にバスの便あり。また社線筑波鐵道の筑波・上大島の二驛(大正七年開業)あり。筑波町の集落は筑波山南面の中腹にあり、筑波山銅索鐵道の起點にて筑波登山者のために築え、土産物販賣を主業とす。和名抄、筑波郡筑波郷とあるは筑波町及び田井村の地なるべし。中世に小田城主八田知家の八男島氏ここに城き、のち明文と號し筑波山中禪寺別當となり、子孫筑波氏を稱す。當時頗る繁榮を極めしもの。如く「筑波千軒小田千軒北條三百六十軒」の偲言を生むに至りし程なり。江戸時代、筑波・沼田の二部落(何れも大字)は、御神領と稱して筑波社領に屬し、國松・上大島(何れも大字)は井上越中守の所領たり。「筑波山神社」大字筑波に鎮座。祭神、筑波男神(筑波男神山上)・筑波女神(筑波女神山上)。神代の創建なりと傳へ、神鏡を以て神體となす。成務天皇御宇、阿閉色命を筑波の國造に封じ祭政一致の政策により當社に奉仕し、大化年間まで子孫相繼いで奉仕す。皇統・天武兩帝は皇田を賜はる。延暦元年、僧徳一當山に中禪寺を開

き、同時に筑波神を勧請し筑波兩大規模と稱せしより神佛混淆し知足院を別當とす。弘仁十四年、當社祭神の靈驗著しきを以て官幣に預り、神位また兩次累進して寛平九年に男神を正三位、女神を正四位上に進めらる。延喜の制に男神を神大社に女神を小社に定めらる。弘安年間には社領五十六町餘を有せり。慶長七年徳川家康百五十石を寄進、降りて元祿三、七年の兩度互り徳川綱吉千石を加増し、寶曆八年護國寺々領の内、千二百石を堂宇修理料とす。明治維新に至りて佛寺を廢す。此實中、太刀一口(路吉宗)は國寶。例祭、四月一日。(大御堂)新護國寺宗廟山。一に知足院中禪寺と稱す。本尊は千手觀音にして、坂東三十三所第二十五番札所なり。詠歌、大御堂かねをつくばの峯にたちかた夕ぐれににぞこひしき。(性山寺)曹洞宗。國松山と號し筑波郡棟樑村天目山傳正寺末たり。開山を地翁全及和尙とす。【筑波山脈】 茨城縣の略中央部にある山塊。北は笠間・岩瀬間の筑波郡により八溝山脈南端と斷たれ、東に水戸平野、西に鬼怒川中流平野を分ち南北に六軒。主として花崗岩に成はれ其盤の古生層は僅に東南部に露ざる。主峯筑波山の標高も八七六米に過ぎざるも平野の裡に屹立するを以てその名著はる。その南は十三塚峠・不動峠を経て東に曲り櫻見山(一〇〇米)となりて櫻川谷に終り、北

福岡

ツクハ—ツクホ

には足尾山、及び明治十七年の加波山事...

【筑波山】筑波山(山塊)の主峯。茨城...

ツクハ—ツクホ

を示す。山中には食糧植物のまうせんご...

【筑波山】筑波山(山塊)の主峯。茨城...

ツクハ—ツクホ

を過ぎて女體山頂に至る。山頂よりは關...

【筑波山】筑波山(山塊)の主峯。茨城...

ツクハ—ツクホ

面にあり。茨城郡筑波郡筑波町の社殿...

【筑波山】筑波山(山塊)の主峯。茨城...

【津久見町】大分縣豊後國北部郡の南...

津久見町主要工業物

津久見町主要工業物

津久見町主要工業物

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ

ツクマ

ツクモ—ツケ

して、即ち國術の名を負へるならん。い
ま大字に國術あり。
【九十九島】 下木町(石川縣津島郡)
【九十九島】 下木町(石川縣津島郡)
【九十九島】 長崎縣北松浦郡津島町の西
岸に近き島嶼群。北より數へて九頭島・
島頭島・瀬尻島・出瀬代島・丑ヶ島・大
島・上中六島・成島・夢島・赤島等を主
なるものとし、その間無數の小島嶼甚布
散在す。海岸の沈降によりて成れるもの
にして何れも斷崖をなし松樹を頂き風光
美をなす。佐世保・平戸間航路に當るも
觀賞には地廻り船を利用するを便宜なり
とす。

ツクモ 津久毛村

宮城縣陸奥國栗
原郡の略北東部。岩ヶ崎町の東方約四軒
面積九・四方軒。陸奥平野の西北部に位
し、東北半部は高度五〇米内外の丘陵な
るも、西南半部は平坦にして道川の支流
三迫川はその南部を、夏川は中部東南に
流る。丘陵地には森林、牧地あり。低地
には田地・桑園あり、米・麥・蕎麥を産し、
畜産も少からず。岩ヶ崎町よりの道路は
東南に通じ南隣津島村に出でて陸奥街道
に連りバスの便あり。此地は文治年間、
源頼朝奥州征伐の際の古戦場にして村内
の信樂寺址は藤原泰衡の陣せし所。三迫
川に架せる江浦橋は關原高野の、陸奥
の勢は御方に津久毛橋渡して懸ん泰衡が
頭しによりて有名なり。「勝大寺」新義
真言宗豊山派。樂峯山と號し、一に菩提

ツクモ—ツケ

院ともいふ。大同年中、坂上田村麿の創
建、清和法印の開山にして、奥州七處の
一なりしといふ。永承年間には寺内に二
十六坊を有せしも、明治二十六年頃は十
四坊のみとなれり。

ツクラ 津倉村

愛媛縣伊豫國越智
郡の中部。東島海峽の東北方に横はる大
島の中央部に位置す。東は鹽瀨、西は安
藤海に面し、北は大山・宮窪二村に、南
は龜山村に界す。面積八・六四方軒。東
北部一帯と西南部は隣村と高さ二百米内
外の山地なれども中央部と西北岸には平
地あり。東岸は山地迫りて出入乏しけれ
ど、西北岸には小灣を抱き津倉の良港あ
り。耕作盛んにして米・麥・果實等を産
し、近海には鯛・鱈の漁獲あり。各地へ
汽船・自動車船の便あり。「大龜八幡大
神社」大字八幡に鎮座。祭神、多
岐部比賣命・市寸島比賣命・外四神。創
建は後光厳天皇延元元年久留鳥信濃守の
家臣矢野主計光成の末孫加茂有以、字佐
八幡宮を勧請し自ら社職となりしに始ま
る。例祭、十月二日。

ツクリオカ 作岡村

茨城縣
常陸國茨城郡の北部。北條町の西方にて
之と河山水村を隔て、西は小貝川を隔て
て結城郡豊加美村と相隣す。面積約一五
方軒。大部分は低き濠地をなし畑地多く
所々林を交へ、小貝川沿ひと東部の明石
池南北の低地には田地多し。米・大麥・小
麥を産し特産物に南瓜あり。北條・下妻

ツクリミチ 造道

青森縣東津輕郡
にありし村。昭和二年津軽村と改稱。
【ツグロ 津黒山】 中國山脈の一峯。
岡山縣吉田郡羽田村・祝庭郡中和村と鳥
取縣東伯耆郡竹田村に跨る。標高一八一
八米。中國山脈より東西に連り、南西方に
支脈出でて山乘山・入道山(一〇四〇米)
を起す。

ツクリミチ 作道村

富山縣越中
郡水部の北部。放生津湯の南。小松町の
北に接し、北は新津町との間に牧野村を
挟む。富山平野の一部にて全村土地平坦
肥沃、水田よく発達し越中米の産多し。
其他、附近町村と共に賣薬盛なり。小
松・新津(縣道バスを過す。中世は大袋
庄に屬す。江戸時代の算敷家にして且つ
測量家たりし石黒藤右衛門(蘭語五位)は
此地の人とす。「作道神社」大字作道に
鎮座。祭神、夜屋主田心命・大彦
命。創建は社傳に據るに、崇神天皇御宇
大彦命北陸遷徙のとき此地に勧請せられ
しものにして、古へは社殿壯麗美觀を呈
し朝廷の崇敬も厚かりし社なりといふ。
例祭、九月六日。「無量寺」大字鏡宮に
あり。真宗大谷派。弘法大師の直弟佐伯
某の開基たり。某は草鳥住家の開墾者と
して功勞ありし人。承元元年親鸞上人感
後に渡世せられしとき、住持道三法師船
を同らし、遂に之に師し現宗に改む。因
つて道三を今宗の開山とす。

ツクリミチ 造道

青森縣東津輕郡
にありし村。昭和二年津軽村と改稱。
【ツグロ 津黒山】 中國山脈の一峯。
岡山縣吉田郡羽田村・祝庭郡中和村と鳥
取縣東伯耆郡竹田村に跨る。標高一八一
八米。中國山脈より東西に連り、南西方に
支脈出でて山乘山・入道山(一〇四〇米)
を起す。

ツゲ 柘植

三重縣阿山郡の東北部の
地名。油日岳の東南、加大峠の西麓に當
り大和街道この地を通る。和名抄の柘植
郷の内。主として上・中・下の三柘植の
部落に分る。省線關西本線の柘植驛(明
治二十三年設置)は東柘植村上柘植にあ
りて草津線此處より分岐し、新設驛は西
柘植村新堂にあり。

ツゲ 都家

武藏國(埼玉縣)の古地名。
和名抄、比企郡に都家郷ありて、都介と
註す。其の地いまの平・明登・玉川・若
谷諸村の邊なるべし。槻川これ等諸村を
流る。槻は都家の轉訛なるべし。

ツゲ 關鷲(國)

上古大和國(奈良縣)
の東北部にありし國名。何れの頃よりか
國境を置きしが、允恭天皇の朝貶して新
置とす。東は伊賀國に接し南は宇陀郡に
接し、往昔、水室を置かれし地として著
はる。織紀・元明天皇の條に大倭國都都

ツケチ—ツシ

の山道を開くと見ゆる都都も亦これに同
じ。後世、大郡は山邊郡に入り一部は添
上郡に入る。和名抄山邊郡の都介郷は其
遺稱にしていま都介野村にその名遺り。
夫木・九・古のつげ野のみ持せよと
水室のおもたて初めけん。中務親王、
三界岳等海拔一八〇〇米の山岳聳え、
西境にも新基山・高時山等一〇〇〇米前
後の山峯ありて殆ど山地をなすも、西部
に南流する付知川の谷ありて東西一軒餘
南北約一〇軒の狭長の低地を作り、村民
の過半は農業・林業に従ひ米・麥・
木材・木炭等を産し、約四分の一は工業
に勤め絹織物を主とし、味噌・醤油等を
出す。中山道と飛騨街道を結ぶ南北街道
通じてバスの便あり、また社線北惠那電
鐵は省線中央本線の中津川驛に起り、付
知川に沿ひて大字野尻に達し、稻荷橋驛
(昭和三年設置)・下付知驛(大正十三年
設置)の二驛を置き交通の便よし。この
地は和名抄、惠那郡下郷の地にして古
奈良村を出し、麗々將軍家の御用木を奉
りしことあり。明治三十年町制を布く。
元龜元年、付知領主遠山支春は本家たる
苗木城主遠山氏と戦ひしが矢柄坂に敗戦

す。これを矢柄坂の戦といふ。また此地
の庄屋田口忠左衛門は文政十三年三月、
船運水(二里十五町五十間三尺)を開墾
し次いで西段・宮津・北・花蔭の四水路
(その總延長八里三十二町四十七間)を開
けり。「渡山神社」縣社。祭神、大山祇
命。天保年中江戸城修築に當り、當郷付
知山奥出小路より其用材を採擇するに就
き、同十一年山林の保守として、尾張領
主徳川齊昭の發願により鎮座せらる。現
に御料林内にある奥社即ち是なり。同十
四年に至り本殿・拜殿及び橋末社等を建
立。彌生主の崇敬厚く、殿宇の修費、
祭費等すべて藩庫より支出さる。例祭五
月四日。「垂洞の杖垂架」指定天然記念
物。宇通洞に所在。越前峠の森林中にあ
り、根元周囲約一・五米、杖は下方に屈
曲し完全に杖垂たり。野生の樹木に現れ
たる著しき暗室として學術上有益なるも
のとす。「彌生花の水」指定天然記念
物。自生花の水中の代表的巨樹なり。

ツゲノ 都介野村

奈良縣大和國山
邊郡の中部。西は丹波市町との間に西住
村を隔て、西南は磯城郡上之郷村に、南
は宇陀郡檜原町に界す。笠置山脈の中部
都介野高原に位し、南境の東部に頼井岳
(八一六米)、西部に貝ヶ平山(八二二米)
聳え、貝ヶ平山の東北嶺中部に延びて都
介野嶽(六三二米)となるも、その東南と
北方には低平の地ありて田畑拓け、米・
麥・麥の産あり、東南部には笠置街道通

ツケン 津堅島

神戶縣中城灘東口
の島。膠連半島の南端より約四哩十町に
存ぶ。島周約八軒、島内殆んど低平にし
て南部に葉落發達す。人口一千、島民概
して體弱頭禿大、男は殆んど漁業に従
事す。南端に津堅島燈臺あり。燈臺は不
動白光にて先達距離は一四・五哩。
【ツサカ 津崎驛】 兵部省省式に見
ゆる關中國(岡山縣)の驛名。和名抄に津
屋原驛(或郷あり。本郷が即ち津崎驛なる
べし。其の地詳かならざれども、いま都
賀郡山手村の大字に在り、これ驛亭の
故址ならん。

ツサワ 津澤町

富山縣越中
郡水部の東部。小矢部川に沿ひ、東北
の出町、東南の磯野町と隣し、いづれ
へも約六軒。東の一部は東隣波野尻村
に接し、面積五・五方軒。西南境に丘陵
の末岡部ある外は土地概ね平坦にして小
矢部川西北に貫流し、水田拓けて米の産
あり。その他藥品・繭も産し、地方的商
業の中心をなす。社線加越鐵道に沿ひ
その津澤驛(大正十一年開業)あり。縣道
四方に通じ、出町・瀬光町(いづれもバ
ス)の便あり。この地は中世の野尻郷に屬
す。

ツシ 都志町

兵庫縣淡路國伊名郡の
西南海岸。播磨灘に西面す。東南河本町
とは約一二軒を隔つ。面積九方軒餘。東
部・南部は百米臺の低き丘陵性山地なる
も、都志川は東隣船原村より中記の低地
を下りて海に入りその兩岸と丘陵地の傾
斜面には耕地よく拓く。灌溉用の池塔多
く、米・麥・果實等を産し、また兼業行は
れ、鯛・鱈等の漁獲あり。都志の葉落
は西海岸に沿ひて小鎮地をなし、夏期は
明石との間の小汽船の發着所となり、道
路また四方に通じ船原・江井方面へはバ
スの便あり。町名は和名抄、淡名郡都志
郷の遺稱にて、郷城は本町の外、船原・
廣石・鳥飼の諸村に互るが如し。北海道
千島海道の功勞者、高田屋嘉兵衛(贈正
五位)の生地として知られ、町内にその
記念碑あり。「八幡神社」大字宮元に鎮

座。郷社。祭神、應神天皇。創立年代詳
かならず。例祭、九月十五日。

ツシ

【辻山】 日本南アルプス鳳凰山境の南方
郡に起る一峯。山梨縣中野郡吉野村と
北野郡清野村との境上に位置す。標高
二五八五米。北西段には鳳凰山觀音ヶ岳
(二七六〇米)冠き、南方に大蓮山(二
一八六米)連る。南西方野呂川溪谷の彼
方に雄峰白根三山を仰望す。

【辻町】

【辻町】 静岡縣麻里郡にありし町。大
正十三年安倍郡入江町(今は清水市の町)
に編入す。

ツジド

【津島村】 福島縣警備隊國警本部の西北隅。
北は相馬郡西南郡、西は安達郡東部に隣
接す。面積九四方軒餘の大村。阿武隈山
地の中部に位し、西境には北より高太石
山・白馬石山・旭嶺等の高麗八百一十
米級の諸峯ありて安達郡との分水嶺をな
し、地は東方に傾き概ね高さ四百五十米
の高原状をなし、四境の水集りて泉田川
となり東南に流る。沿岸は津島盆地の名
あり。物産に米・麥・大豆・蕎麥あり。
富岡街道は泉田川に沿ひて東西に通じ、
西北は伊達郡川俣町、西南は浪江町にて
陸前濱街道に連る。

津島

【津島町】 愛知縣尾張國海部郡の西北部。
名古屋西北を距る西方約一〇軒、尾
張平野の西南部を占めて地形極めて低平
にして田よく拓け米産多し。毛織物工業
甚だ盛にして大小の工場多くヤージ類・
セム類の産物多きを以て開ゆ。名古屋よ
りの津島街道をはじめ東北は一宮市、東
南は蟹江町、南方は彌富町等へ道路放射
状に走りて多くはバスの往來あり、社線
名古屋鐵道(尾西線)は南北に貫き南津島
驛(大正十三年開業)・津島驛(明治三十
一年開業)・兼平驛(大正十三年開業)を
置き、その津島線は東方名古屋より來り
て津島口驛(大正四年開業)を経て津島驛

津島

露出多し。町の生産は牛馬牛馬の形態を
示し、農産は大豆阿井川及び大字辻の字
中村(野呂川)・才谷等に行はれ主に米麥
を産し、中村には茄子を特産し、中村・
野津後附近は蕎麥 盛なり。また大字西
井川字里川の山の斜面には蕎麥草の栽培
行はる。本町附近は阿波畑草栽培の核心
地域にて才谷谷にその標草収納所あり。
附近町村より菓糖菓を收納する時は、こ
の門前に臨時に飲食店其他の商店にて活
況を呈す。商業は井内谷の渡口栗落とし
て發達し、大字辻最も盛にて主として井
内谷村をその商圏とし密接なる商取引關
係あり。嘗ては池田町をも凌駕せしこと
ありしも、自動車交通の發達、池田町の
發展等に伴ひ商業は次第に衰微し、いま
は老年期の稼働を呈し、その回春に努力
しつつあり。省線津島本線は吉野川岸力
沿うて東西に走り津島(大正三年)置を
置き、本線と津島線の分岐點に信濃
池(明治四年設置)あり。信濃池また之に沿
うて走り池田・川島間のバス通じ特に池
田町との交通盛にて、井内谷村にもバス
通す。此地は中世湯河原の一部、もと
井内谷と稱せしはこの轉訛なるべし。明
治十八年三福村字松尾村より里川を西井
川村に合併、同年東井川・西井川・井内
谷三ヶ村合併、同二十二年井内谷と稱し
井内谷村を分離、同四十年町制を布き現
在に至る。町名は阿波畑によれば井内い
ま分れて東・西二村となる。東村に坊あ

ツシマ

り都縣と云ふ。慶長・元禄年間にもこ
の名見え、津路・辻・西郷等用ひられし
も辻と記せるもの最も多く、いまは辻を
用ふ。街道の十字に交叉するよりこの名
出づ。寛文年間、井内谷川に沿ひ現在
の商業街を中心に兩河に茅葺の商店發達
し、毎月市が立ち辻の字にて呼ばれ、
いま露口の名あるはその遺稱なるべし。
享保九年十二月十七日、徳島の上河より
「辻口で商賣御差止めだ、自今物の賣
り買ひは池田か藤町の外一切相ならぬ」
の御觸れあり。當時相當盛なりしを窺ふ
に足る。此地が嘗て榮えしは井内谷・祖
谷・豊岡等の後背地を控へ、且つ吉野川
による河川交通の一大河港をなせしに
よる。即ち祖谷方面の各郡港よりの出口た
る要路に當り、延寶・元和年代よりこの
方面の葉煙草は本町に出され、この外に
井内谷・豊岡・美濃・足代、三野、加茂、
山崎等・牛田等各町村の葉煙草此地に
毎日搬入せられ、別煙草に製せられ「津
岐・紀州・九州・阪神・北陸より遠く北海道
まで吉野川を利用して盛に出さる。こ
の煙草の民營時代は本町の最も繁榮せし
時にて、明治三十一年葉煙草專賣法が實
施され、これが官營となりその工場が池
田町に移り、また吉野川交通の河港栗落
として發達せし所も鐵道・自動車の發達
に伴ひ、その中心は殆ど池田町に遷り昔
日の面影を留まらぬに衰微し、現は老
年の渡口栗落たり。春は金龍山・石光山

の櫻花、春・秋は美濃田の湖・高岡のつ
つじ、夏は吉野川の點など遊樂に當り。
【津島】 古義武官宗。寺寶中、鳩龜
香像一軀(根本彩色)は元初初期の作と推
せられ、現に國寶たり。

【辻村】

【辻村】 香川縣讚岐國三豐郡の中南部。
財田川中流左岸に沿ひ、豊海岸の觀音寺
町を距る東南約八軒。北は財田大野村、
西は豊田村に接す。面積僅に五方軒餘。
讃岐山脈北斜面の末にて、南境に善徳山
(三二二米)ありて南部半は山地、北半は
三豐平野の東部に屬し平地よく拓く。琴
平・豊前及び觀音寺町の縣道通じバス
の便あり。物産に米・麥・蕎麥・果
實・蔬菜・林産あり、特産物に銅像燗物
を出す。古くは和名抄、刈田郡山本郷の
地ならん。村名は近江國(辻村)の歸土、
この地にて歸物を産せし故に起るとい
ひ、また此地は往時道沿四八連せし故
に起るといふ。(管生神社)郷社。祭
神、天孫・命・天孫子令外神。古來當
村の産土神として村民の崇敬厚かりき。
例祭、十月五日。(大興寺(小松尾寺))
古義武官宗。小松尾山不動光院。同宗大
覺寺末に屬し四國八十八所第六十七番札
所たり。寺傳に弘仁十三年空海の草創に
係り饒命天皇の勅願所にして、もと東大
寺に屬して台密二教を講じ、三十六僧坊
を擁せし巨刹なりと傳ふ。詠歌、楳丘
おきしこまつを寺を眺むれば法の教の風
ぞ吹きぬる。

津島

に連す。大藏省預金部安全局名古屋支局
津島出張所あり。この地は和名抄、海部
郡三宅郷の内か。舊郡役所のありし所。
明治天皇、明治元年東京行幸の際及び同
年京都還幸の際、此地に御小休あらせら
る。此處に伊勢參宮との水路を津島渡と
いひ、のち参宮より熱田に渡るをも津島
渡とも稱せられたり。(奴野城)大橋氏
の居城。正慶元年、大橋三河守定高始め
て此地に築き、定高の孫定省の時この城
に良王君を遷す。良王君は後醍醐天皇の
皇子尹良親王の子なり。(津島神社)大
字向島に鎮座。國幣小社。祭神、素戔鳴
尊。欽明天皇元年の創建といひ、初め居
守の地にありしを、天曆二年勅によりて
柏森の地に遷移。建徳元年正一位に叙せ
られ、弘和元年後醍醐天皇の勅を奉じて大
權定省社殿を造營す。のち織田・豊臣・
徳川氏等厚くこれを尊信し、江戸時代社
領千二百九十三石を領せりといふ。中世
牛王神宮寺を別當寺となし、講坊整備し
て盛大を極めしが明治維新の際神宮寺は
廢せらる。殿宇中、本殿は規模雄大にて
裝飾華麗、我邦神社建築中有数の作とい
ふべく、能く桃山時代初期の遺傳を傳へ
現に國寶たり。他に太刀一口、鎧冑守、
創一國(銘光)また片に國寶たり。例祭
は六月十四・十五の兩日に於て津島
祭といひ、山車を奉せたる祭船五艘を天
王川に浮べ、華麗燗燗を極む。(成信坊)
大字津島にあり。眞宗大谷派。久遠山と

津島

【津島】 備前國(岡山縣)の古地名。和名
抄に御津郡津島郷見ゆ。いま岡山市に入
れる舊御津郡伊島村に津島の大字あり、
郷名の遺稱とす。さすれば郷城は凡そ岡
山市の一部と津島に互る地を云ふか。
【津島】 愛媛縣北宇和郡にありし村。明
治二十八年本村の大字は各々獨立して高
近村・岩松村(今は町)となる。

ツシマ

【對馬】 備前國(岡山縣)の古地名。和名
抄に御津郡津島郷見ゆ。いま岡山市に入
れる舊御津郡伊島村に津島の大字あり、
郷名の遺稱とす。さすれば郷城は凡そ岡
山市の一部と津島に互る地を云ふか。
【津島】 愛媛縣北宇和郡にありし村。明
治二十八年本村の大字は各々獨立して高
近村・岩松村(今は町)となる。

ツシマ ツスキ

十一年蒙古の侵入の際も此國はまづその... 倭將を蒙り、重尙の弟助國は奮戦して國に殉じ、國內甚しくその投擲を蒙り、建武中興の後、足利氏氏の振するや宗氏はこれに屬し、のち正平年間助國の復なる経茂に至り始めて守護に補せられ、應永年中その孫貞茂の時北方に移り、上郡の佐賀に居る。この國が朝鮮國と貿易を始めしは嘉吉三年にして、貞茂の子貞盛の時なり。文明年中その孫の貞國の時南方に移りて府中に居る。爾後數代更に南方の奥良金岩に移り、數代の後、義智に至る。義智は豊臣秀吉に從ひ朝鮮の役に功ありて國守に補せられ、なほ肥前國の地をも併領す。關ヶ原役には義智は西軍に屬せしが、役後、徳川家康は朝鮮との交渉の必要の爲にその舊領を安堵せしめし外、なほ肥前の一部をも領せしむ。義智の孫義直に至り、寛文五年、府中棧原に移り明治維新に至る。明治二年豊原(府中)藩は豊原縣となりしが間もなく伊萬里縣に併合せらる。明治五年八月對馬全國は伊萬里縣を離れて長崎縣に屬し、以て今日に至る。

津波村

津波村 茨城縣常陸國行方郡の東部。北浦沿岸の中部に沿ひ、五造町の東方約一〇軒。村の大部分は低き葦地にて畑地をなし林を交へ、中部より北浦沿岸にかけては低き葦地ありて水田をなす。米・麥を産し他に胡蘿蔔・甘藷等の栽培行はる。鐵道南北に通じ、又これと分れ西走して霞ヶ浦沿岸に出づるものあり。また北浦の水運の便もあり。中世は大崎郡といふ。鹿島文書に大崎郡成井村と見ゆれば、大字繁昌は古く成井と稱せしものならんといふ。

津波村

津波村 山口縣周防國玖珂郡の東部。安藝灘に東面し、岩國町の南方約一〇軒にあり。由宇町に北接す。面積約一六方軒。河岸に小平野存し耕地拓けたるも、大部分は山地にして西境にては六百米を越ゆる處あり、概ね松林をなす。岩國より細井に至る無道及び省線御井線海岸を貫通し、役者の通津驛(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、玖珂郡由宇郷の内。

都々城村

都々城村 京都府山城國藤原郡の北西部。京都盆地の南に位し木津川の左岸に沿ひ、西北は八幡町に接し、東は川を隔てて久世郡佐山・久津川・寺田の三村に對す。面積約一八方軒餘の小村なるも土地低平にして全耕耕地をなし、乾田特に多く米を主産し、外に麥・野菜類を出し、また畜産・工業あり。縣道八幡町より東南方面に走りバスを通じ、木津川には舟運の便ありて交通比較的便利なり。この地は和名抄、久世郡藤原郡の内にして、大字野尻は東區に「天元三年山城國野尻庄」とある野尻庄なるべし。大字岩田に式内社石田神社あり、御霊社ともいふ。

都筑郡

都筑郡 神奈川県十郡の一。武藏國の一部にて横浜市の西隣をなし、北は川崎市・橋本郡に、南は鎌倉郡に、西は高座郡及び東京府南多摩郡と隣りす。面積一四九方軒餘。洪積層より成る多摩丘陵の東部を占め、最高處も海拔百米内外に過ぎず。鶴見川・帷子川の本支流の谷はいづれも東南に向ひ、これに沿ひて細長き低地ありて田畑拓け、その他は多く林野をなす。農業・養蠶行はる。横浜市より西北方に向ふ縣道よく發達していづれもバスを通じ、社線小田原急行鐵道は西北部を沿め、省線横濱線は中部の鶴見川上流の谷を西走し、社線神中鐵道は南部を横切り東西の交通は甚だ便利なり。いま郡内に川和町外十ヶ村を含む。都筑はまた都築にも作る。萬葉集に都名見ゆ。源平盛衰記の武藏國の都筑云々とする調は即ち都筑に同じ。和名抄は豆ヶ崎と調は即ち店屋・立野・針折・高橋・幡屋の五郷餘戸一を等す。經喜式に都筑、傳馬五疋とあるも此地なり。のち多摩郡に三郷を割き橋本郡より二郷を併せ、近時また横浜市の膨脹により郡域大いに變化あり。

津波村

津波村 茨城縣常陸國行方郡の東部。北浦沿岸の中部に沿ひ、五造町の東方約一〇軒。村の大部分は低き葦地にて畑地をなし林を交へ、中部より北浦沿岸にかけては低き葦地ありて水田をなす。米・麥を産し他に胡蘿蔔・甘藷等の栽培行はる。鐵道南北に通じ、又これと分れ西走して霞ヶ浦沿岸に出づるものあり。また北浦の水運の便もあり。中世は大崎郡といふ。鹿島文書に大崎郡成井村と見ゆれば、大字繁昌は古く成井と稱せしものならんといふ。

津波村

津波村 山口縣周防國玖珂郡の東部。安藝灘に東面し、岩國町の南方約一〇軒にあり。由宇町に北接す。面積約一六方軒。河岸に小平野存し耕地拓けたるも、大部分は山地にして西境にては六百米を越ゆる處あり、概ね松林をなす。岩國より細井に至る無道及び省線御井線海岸を貫通し、役者の通津驛(昭和九年設置)あり。この地は和名抄、玖珂郡由宇郷の内。

都々城村

都々城村 京都府山城國藤原郡の北西部。京都盆地の南に位し木津川の左岸に沿ひ、西北は八幡町に接し、東は川を隔てて久世郡佐山・久津川・寺田の三村に對す。面積約一八方軒餘の小村なるも土地低平にして全耕耕地をなし、乾田特に多く米を主産し、外に麥・野菜類を出し、また畜産・工業あり。縣道八幡町より東南方面に走りバスを通じ、木津川には舟運の便ありて交通比較的便利なり。この地は和名抄、久世郡藤原郡の内にして、大字野尻は東區に「天元三年山城國野尻庄」とある野尻庄なるべし。大字岩田に式内社石田神社あり、御霊社ともいふ。

都筑郡

都筑郡 神奈川県十郡の一。武藏國の一部にて横浜市の西隣をなし、北は川崎市・橋本郡に、南は鎌倉郡に、西は高座郡及び東京府南多摩郡と隣りす。面積一四九方軒餘。洪積層より成る多摩丘陵の東部を占め、最高處も海拔百米内外に過ぎず。鶴見川・帷子川の本支流の谷はいづれも東南に向ひ、これに沿ひて細長き低地ありて田畑拓け、その他は多く林野をなす。農業・養蠶行はる。横浜市より西北方に向ふ縣道よく發達していづれもバスを通じ、社線小田原急行鐵道は西北部を沿め、省線横濱線は中部の鶴見川上流の谷を西走し、社線神中鐵道は南部を横切り東西の交通は甚だ便利なり。いま郡内に川和町外十ヶ村を含む。都筑はまた都築にも作る。萬葉集に都名見ゆ。源平盛衰記の武藏國の都筑云々とする調は即ち都筑に同じ。和名抄は豆ヶ崎と調は即ち店屋・立野・針折・高橋・幡屋の五郷餘戸一を等す。經喜式に都筑、傳馬五疋とあるも此地なり。のち多摩郡に三郷を割き橋本郡より二郷を併せ、近時また横浜市の膨脹により郡域大いに變化あり。

ツスキ ツタ

津波村

津波村

都筑郡

南境より西北部にかけ二〇〇米程度の丘...

【津田村】 大阪府河内国北河内郡の東北...

【津田町】 廣島縣安藝國佐伯郡の西部...

九年松江市に編入す。【津田村】 岡山縣上道郡の南部海岸...

【津田町】 香川縣讚岐國大川郡の東北...

【津田町】 千葉縣下總國千葉郡の西部...

これを開拓して田となし漁産相半ばする...

【津田村】 熊本縣肥後國菊池郡の南部...

【津田村】 大分縣豊前國下毛郡の西部...

ツタイ

津大村 高知縣土佐國幡多郡の西北部...

ツタカ 津高 備前國(岡山縣)の古郡名...

ツタイ ツタミ

ツタサワ

萬澤村 兵庫縣播磨郡岡本郡の西部...

ツタニ 都谷村 廣島縣安藝國山縣郡の中部...

ツタマ 津田沼町 千葉縣下總國千葉郡の西部...

ツタミ

津民村 大分縣豊前國下毛郡の西部...

津高 備前國(岡山縣)の古地名...

津高 備前國(岡山縣)の古地名...

ツチー ツチウ

津民に鎮座。郷社。祭神、應神天皇、仲哀天皇外二神。社記に應永元年長岩城主野仲弘遺、鎌倉鶴岡八幡宮を勧請創祀せるものと傳ふ。例祭、四月十五日。(正平寺)天合宗。輪原山と號し、人皇三十二代崇峻天皇元年の創建。百濟國の正覺上人の開創といふ。孝謙天皇より歴代の勸願所と定められ、また山上十二箇所の精舎は世々國府に保管せられ國家保護の遺蹟として靈威莊嚴なりき。現に末寺十三を有す。

ツチ

津知村 茨城縣常陸國行方郡の南部。潮來町の東北に隣る面積僅に四・四六方軒の小村。行方臺地の南端部に高さ二・三十米の臺地多く、中部より南部に低地あり、米・麥・大豆・野菜等の農産あり。縣道南部に通じ潮來町につづきて街村發達し、牛馬・鹿角間のバス路線に當り交通便なり。(妙光寺)大字臺地にあり。日蓮宗。本國山と號し池上本門寺末たり。文永二年創建、開山を日門上人とす。

ツチ

都知 鹿野國(石川縣)の古地名。和名抄に羽野郡都知郷見抄。中世には土田莊と呼ばれ、源平盛衰記に見ゆる土田氏は莊名を負ひてこの地に居る。其の地は東土田村・西土田村・上備野村の邊なるべし。

ツチ

都治村 鳥根縣石見國那賀郡の北東部。西北部は日本海に面し東は瀨原郡被田村に界し、瀨原津町の西南約五軒

に位す。面積八・五方軒餘。村内低き丘陵に到る所に起伏するも中部と海岸には巾狭き低地ありて耕地拓け、中央部に都治本郷、海岸に後地の聚落發達す。米・蕎麥・清酒・木材・牛馬を産し、また製陶工業行はる。省線山陰本線黒松驛(北隣黒松村内)・津利驛(西隣津利村内)に近く、共にバスの便を有す。この地は津津村・津利村・黒松村と共に和名抄、瀨原郡津道郷の地にして、和氣氏の流裔、都治氏の居りし所。埋築に古城址あり。(都治神社)大字都治本郷に鎮座。郷社。祭神、譽田別命・足仲津彦命・息長足姫命等七柱。延文四年都治流裔の領主佐々木行運この地に譽田別命を勧請せるに創まるといふ。佐々木氏の崇敬篤きものあり。

ツチ

土村 千葉縣下總國東葛飾郡の中部。手賀沼の西南方に於て柏町の南隣にあり。面積一八方軒餘。中部より西南部にかけては低き臺地ありて畑地をなし所々林を交ふ。東部は低地にて畑地をなし東地は手賀沼に續く沼田の一部をなす。米・麥を主産し蕎麥も行はる。道路は村の中央を北走して柏町に通じ同町にて陸前濱街道に合しバスの便あり、また社線總武鐵道西北より東南に走り、皆尾驛(大正十二年設置)・造井驛(昭和八年設置)を置く。大字河井根は一に墳墓に作る。文明十年太田道灌國府臺に築き白井の城主千葉季胤を窺ふや、同年十二月季胤退みて道灌と境根原に戦ひしが敗れ

ツチアイ

土合村 埼玉縣武蔵國北足立郡の西南部。浦和市の西隣にて西は荒川によりて志木町及び入間郡宗岡村と相對す。面積一〇方軒餘。全村平地にて中部と北部には田地よく開け、其中間と西部には畑地多し。米を主とし蕎麥・蕎麥を産し、また酒の醸造も行はる。縣道浦和市に通じてバスの便あり。此地は和名抄、足立郡麻田郷の内。大字道場に島山重忠の城址と傳ふる所あり、また附近に經塚・富士見塚等あり。(土合の櫻草)指定天然記念物。荒川沿岸の田島原に發生す。春の中頃野一面にその紅色の花にて掩はれ、これに入り交りて数種の野花咲き出で一大花園の觀を呈す。本植物の先天的特徴は植物品種改良の研究材料として保存の要あり。

ツチウラ

土浦町 茨城縣常陸國新治郡の南部。霞ヶ浦の西岸にあり。町の大部分は中央を東流して霞ヶ浦に入る標川下流の平地を占め、低濕の位置にあるを以て一旦標川堤防決壊するか、霞ヶ浦溢せば全町水被る虞あるは近く昭和十三年の水害によりても知らる。されども南境には低き臺地あり。耕地多く、米を産す。市街は標川河口に近く陸前濱街道に沿ひて發達し生絲・醬油・具製品・木製品の産多く、繭の取引も盛なり。また霞ヶ浦よりは鐵等の水産あり。省線常磐線東部を南北に貫きて土浦驛(明治二

BOON

十三年設置)を置く。驛は社線筑波鐵道の起點をなし、また霞ヶ浦水運の中心點にて鹿島町との間に水陸汽船會社の汽船通す。水陸交通の要地にあると、附近の稻敷郡阿見村に海軍の霞ヶ浦航空隊の設置せられたるため、將來の大發展を豫想さる。此の地近世は土屋氏の城下町として榮えしが、維新の初には新治縣廳の置かれ明治八年廢して茨城縣に合併。爾後新治郡役所の所在地たりき。幕末、天文地理を研究し地球儀・渾天儀を製作して水戸の徳川齊昭に獻じたる沼尻完藏(贈五位)は此の地の人なり。町には郷社八坂神社をはじめ、等覺寺・神龍寺の名稱多く、裁判所・税務署・憲兵分隊・警官舎・學校等多く、標川堤の櫻花また名あり。(土浦城)字内西に址あり。平將門の築く所と傳へられ、その後菅谷氏に居る。天正年間結城秀康此處に對せられ、爾後慶長六年に松平氏、元和三年に西尾氏、慶安三年に朽木氏の居城となり、寛文九年土屋氏來り、延寶七年一時陸河田中に移りしが、貞享四年再び東へ。明治維新に至り城廢し、いま二ノ丸の遺門と角櫓とを存す。明治の初、新治縣を城内に置きしが幾もなく廢せられ、本丸址はいま龜城公園と稱す。(高翁寺)東崎町にあり。淨土宗。永祿三年の創建、開基は信大因幡守貞信入道淨喜、開山は結城郡野田町の弘經寺宣譽祖上人なり。本尊は阿彌陀如來。(七軒町大日堂)經

ツチカワ

土川村 秋田縣羽後國仙北郡の西南部。刈野町の東隣、神宮寺町に北接す。面積七八方軒餘。出羽丘陵部の東縁にて、東北境に霞田山(四五八米)・鬼壁山(三九二米)等あり。土地東北より西南に緩斜し概ね高嶺狀丘陵地をなす。今泉川は東北境に土賀川は東境に發源し、村の西南部に於て合し、なほ西流して刈野町に出でて地物川に注ぐ。沿岸には耕地拓けて米を産し、臺地よりは馬・木炭を出す。省線奥羽本線刈野驛に近きも村内の交通は未だ便ならず。此地は近世土川庄と稱せられし地にて戊辰の役には官軍と戦ふ。大字半道寺は戸澤能登守が角館を鬼九郎盛安に譲りし隠居せし地。大字杉澤に慶長十三年開闢せし鎮山あり。

ツチクラ

土倉鎮山 杉野村(舊賀屋) 奥羽本線の一驛(明治三十五年設置)。秋田縣南秋田郡土崎港町にあり。

ツチザキ

土崎 奥羽本線の一驛(明治三十五年設置)。秋田縣南秋田郡土崎港町にあり。

ツチザキミナト

土崎港町 秋田縣南秋田郡土崎港町の西西部。地物川河口の右岸。秋田市の西北約五軒、此間に寺内町を挟み、西南は地物川を隔て、河邊郡新屋町に對し、其間に河港土崎港を地物川が貫き、港は奥羽日本海岸に於ける重要な移出入港にして船舶の出入多し。また工業都市として名高く、日石の秋田製油所置かれ、秋田油田産出の原油を精製す。

ツチサワ

土澤 釜石縣の一驛(大正二年設置)。岩手縣和賀郡十二瀬村にあり。

ツチサワ

土澤 釜石縣一驛(大正二年設置)。岩手縣和賀郡十二瀬村にあり。泰野町の東南約四軒、南は國府村に接し面積一・五方軒。大部分は丘陵地をなし、森林多く、東北部は畑地をなす。麥・甘藷・大豆・小豆・蕎麥・粟等を産し、養蠶も行はる。北方伊勢原より東海道に連る縣道は東部を縱走するも交通はほ大いに便ならず。此地は和名抄、餘部郡金目郷の内なるべし。大字土屋・吉澤の二部藩の一字を取りて土澤村となす。大字土屋は頼武平氏、中村氏の居、此地に居りて土屋氏を稱せし處。(熊野神社)大字小無に鎮座。郷社。祭神、伊弉諾命、速玉命、泉津事解命。創建年代詳ならず。傳へ云ふ、古昔、村人某紀伊熊野に參詣し靈威に感じ、歸邑の後これを分祀せるに起ると。鎌倉時代領主土屋氏の崇敬あり、土屋宗光いまの地に奉遷す。

BOON

ツチカ ツチサ

喜二年に獲入治兵衛吉高の建立。延長六年常陸大掾大日堂領十貫文を寄す。(正安寺)田嶋町にあり。曹洞宗。創建年代不詳なり。住時は眞言宗を奉じ郡内風指の互割たりしが、小田氏没落の時に兵火に罹り、再興の時、禪林と改めしものとす。(淨觀寺)淨土宗。光原山清廣院と號し慶長六年創建。開基は松平安房守信士、開山を宗蓮社眞譽一誦上人とす。現堂は安政二年、行樂上人の再建なり。(神龍寺)外西町にあり。曹洞宗。寶珠山と號し、天文元年創建、開基は菅谷左衛門入道全久、開山は本覺禪師とす。慶長中、土浦城主松平伊豆守信一、二十石の墨印を附し、寛文九年土屋貞馬守本寺を菩提所となす。現に末寺三を有し、伽藍壯麗を極む。(松林寺)大可にあり。新義眞言宗豐山派。創建年代不詳。當地風指の古刹にて、伽藍宏壯なりといふ。本尊は大日如來。(等覺寺)田嶋町にあり。飯宗大谷派。蓮光山と號し、建仁元年、了信房(小田城主八田知家の男)の開基なり。本尊は阿彌陀佛。元和八年に徳川秀忠、土浦城遷移の途次當山に來りて徳川家歴代の法要には出動すべきを命じ、秀叔付茶碗・常陸帯・白銀等を賜ふ。銅鐘一口は國寶に指定せらる。(東光寺)曹洞宗。醫王山と號す。當町神龍寺末たり。慶長十二年正月の創建。開基は土浦城主松平伊豆守信一、開山は心庵春傳和尚なり。

ツチタ——ツチヤ

江戸時代末印領五石を有す。

【ツチタ】 土繪村 新潟縣越後國南魚沼郡の南部。東と南は三國山脈を境に

群馬縣利根郡水上村・新治村に接し、信濃川の一支流魚野川の上流地をなす。面積一六六方軒餘の大村。全村山勝にして

東・南境の各川岳・仙ノ倉山等いづれも高度二千米に近く峻々たる岩山にして西北に傾斜し、魚野川の水脈をなす。西北

部には狭き平地あり、米を産す。養蠶・製炭等も行はる。省線土越線は越後中里驛(昭和六年設置)を置き、それより謂はゆるループ線により清水トネルを経て水上村に出づ。

【ツチハタ】 土畑山 山田村(岩手縣)

【ツチアチ】 土淵村 岩手縣中田上閉伊郡の中部北側。遠野町の東北約六軒。これと松崎村を挟み、北は下閉伊郡小川村に隣る。面積一一方軒餘の大村。北

上山地の中部に位し、北の郡界には白見山・オゾ岳・一ツ石山等高さ千五百米内外の脈あり、東境・西境にも八百米臺の山地連なり、村内は五―六百米の高原状をなす。小島淵川は北境に出でて南流し、東北境より来る厚畑川を合し、西南隅松崎村に出でて鎌ヶ石川に合す。其下流沿岸に巾狭き平地ありて耕地拓く。山地には森林・牧地あり。米・麥・馬鈴薯・稗・粟・木炭等を産し、畜産も少からず。省線釜石線遠野驛と北方山田驛陸中川井

驛を繋ぐ縣道小島淵川に沿ひて南北に道がバスの便あり。(常盤寺)曹洞宗。蓮峰山と號す。延徳二年櫻外慶院禪師の開山、郡中の古刹なり。慈覺大師作と稱する白木仁王造の佛像を安置す。

【ツチマル】 土丸 大土村(大阪府泉南郡)

【ツチムツ】 土陸村 千葉縣上總國長生郡の南部。一宮町の西隣にあり。南は夷隅郡古澤村と隣す。面積約一一方軒。西北部及び南部は丘陵地にて森林あり。中部は丘陵間の低地に一宮川の支流東北に流れ田畑よく拓く。米・藁・麥を産し、養蠶行はる。一宮町・大宮喜間の縣道東北より西南に通じてバスの便あり。この地は知名抄、墳生郡山田郷の地、中世墳生庄とも稱せられたり。大字寺時は一に藤見とも稱せり。(大柳宿)大字大谷木字表裏にあり。鎌倉時代の初め上總常秀・秀風二世これに居る。秀風三浦泰村の亂に與し、實治元年武石秀風・素還等來り攻む。秀風館を焼く子弟と共に自盡し館廢す。(藤見城址)大字寺時字城ノ内にあり。里傳によれば天正年中、大泉伊賀守これに居ると。また一に足利氏の高野田左兵衛督これに居り藤見御所と號す。里見・武田・千葉氏等と相争ふ。天正十八年城陷る。のち藤田の姓を吉良と改め徳川家康に仕へ千石を賜ふ。藤田氏は新田氏の裔とも足利氏の流とも稱す。(三之宮神社)大字北山田に鎮座。

【土淵村】 福島縣南西方約二〇軒、福島縣郡南郷村と信夫郡土淵村との境上に(最高點二二七米)あり。郡須火山脈須尾火山群の一峯、鬼面山(一四八二米)の北西麓部を乗越し、福島市より若松市に至る若松街道に當る。北東降れば土湯温泉に、南西降すれば若妻村を経て猪苗代湖畔に至る。東麓には「土湯の湯」と見ゆ。附近には爆製火口跡の處にあり。峠の北方に開く爆製火口は今も餘勢を示す。峠より南西流する溪水は澗川の一水源をなす。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

ツチヤ——ツツイ

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

【土湯】 山陽本線の一驛(明治二十一年設置)にして別府輕便鐵道の接續點。兵車區加古郡阿用村にあり。

BOOK

の小さな節「ヤア叔ははえをるか、何七やこりや思々しと、相争を二つ三つ、い

ただきながら泣き、坂は照る、鈴鹿は曇る、土山、間の土山雨を降る、降る

雨よりも親子の涙、中にして、雨やどり」(明治天皇土山行在所)指定史蹟。明治二年三月九日東京御再幸の際、本陣

土山平十郎宅にて御書讀あらせられし書蹟にして舊規よく保存せらる。(田村神社)大字北土山に鎮座。祭神、坂上田村麿・嵯峨天皇・倭姫命。當社は祭神坂上田村麿が、より程遠からぬ鈴鹿山山脚を造りし縁故より奉祀せるものにして、田村草紙や謡曲の田村にて知ら

る。社地は田村川の清流に臨み鬱蒼たる森林に圍まれ境内廣く社殿宏壯、殊に老楓多く晩秋紅葉季は美觀を呈す。例祭、二月十八日。(寶茂神社)大字南土山に鎮座。祭神、天津彦火瓊瓊杵尊。本殿は一間社流造瓦葺檜皮葺、大永六年の造營に於り、國寶に指定さる。(永雲寺)大字北土山にあり。臨濟宗大徳寺派。高座山と號し、もと天台宗にして大同四年坂上田村麿將軍の開基、開山は明覺(源深禪師)なり。(菩提寺(半井村))大字青土にあり。曹洞宗。寶藏山。宗圓の開創に係る。古來瓦刹を以て開元七堂伽藍整備せしが、後世數度の兵火に罹りて舊觀を止めず。釋迦如来坐像(木造)一軀は國寶。(常明寺)大字南土山にあり。臨濟宗東禪寺派。元明天皇、先帝文武天

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の西端今は廢道となりし松尾坂を指せしもの。大正五年町制を布く。丹波興作夜

【土山町】 滋賀縣近江國甲賀郡の東部。鈴鹿山脈の西斜面に位し野洲川の上流横田川流域の一部を占む。東北境上は高さ七〇〇餘米を示すも西南方へ傾斜し、東北麓鈴鹿川より来る横田川はその山地の南を西南に彎流し、東南麓山内村より南部に入る支流と西部に於て合一し西隅大野村にて平地廣く農田の便よく田畑拓け流城にて平地廣く農田の便よく田畑拓け米・藁・麥を産し茶の特産あり。山地より木材、薪炭を出す。舊東海道は西方約一〇軒の水口町より東の中部を東南に貫き、山内の南麓鈴鹿峠を越えて三重縣鈴鹿郡坂下村に出づ。土山の稜脊は之に沿ひて標式街村をなし一遺分岐して西北方蒲生郡日野町に向ひバスの便あり。馬子唄に「坂は照る照る鈴鹿は曇る、間の土山雨を降る」と歌はれし坂は、町の

ツイー ツツミ

和様兩式を混じりて優秀なり。ツイー 北陸東線の一驛。大正元年設置。新潟縣西頸城郡郡村にあり。

ツツガ 筒賀村

奥島縣安藝國山縣郡の西南隅。太田川上流々城に屬し、加計町の西南方に位し、地西南より東北に長く、北は野賀・上野・戸内三村に接し、南は佐伯郡水内・上水内二村に隣り、面積五四方軒餘。南境には太田川と支流水内川の分水界を天上山(九七三米)の脈東西に連り、村の大部分はその北斜面の山地なり。西北界にも高さ九百米内外の山脈並び、其間に太田川の一支流東北流し北境にて本流に合し、その流域と東境太田川の岸に僅少な耕地あり。米・麥・蕎麥・木村・木炭・酒類・牛・馬を産す。正保の頃に上下筒賀に分れしが、明治二十二年町村制施行の際、下筒賀は筒賀村に入り、上筒賀・中筒賀を合して筒賀村をなす。村内に龍頭瀧あり、高さ三十米、巾四米。

ツツカワ 筒川村

京都府丹波國與謝郡の北部。與謝半島の東北部に位し日本海岸を去ること遠からず。北西は竹野郡上宇川・下宇川兩村に界す。低山の山地起伏し西部に高くして大鼓山あり、東部には東南流する小河ありてこれに沿ふ低地は田畑よく拓け米産を産し、山地は木村・薪炭を出しまた畜産・工業もあり。村内の交通はなほ便ならず。こ

四ノ入

の地は和名抄、與謝郡日置郷の内なり。釋紀所引丹後風土記に與謝郡日置里、此里有筒川村、此人夫日下部首等先祖、名云筒川子、爲人妻容秀美、風流無類、所謂水江浦船子者也云々と見ゆ。また日本書紀雄略天皇二十二年の條に秋七月、丹波國餘部郡筒川人、水江浦船子云々の記載あり。有名な浦嶋はこの地の人なりと。一説には竹野郡野野町の水江浦の人なりといふ。※網野町

ツツキ 津築

遠江國(静岡縣)の古地名。天平十二年遠江國租稅帳に濱名郡津築郷、戸三十八、口二百六十八とあり。和名抄に本郷を載せざるは恐らくは脱落なるべし。地は濱名湖の北岸にしていま引佐郡に入りたる三ヶ日町・東濱名村の邊に當る。東濱名村の大字津築は郷名の遺存なり。

ツツキ 筒城

山城國(京都府)綴喜郡名の起りし所。往昔體天天皇の皇居筒城宮は此處にありき。萬葉集には菅木に作る。其地いま綴喜郡菅野寺村大字多々羅に當る。【筒城】山城國(京都府)の古地名。書紀仁徳紀に見ゆ。皇后磐之媛命の筒城宮の北にありし丘。綴喜郡菅野寺村大字多々羅・水取の邊の丘を稱せしものなり。【ツツジガオカ 榴ヶ岡・鵜岡ヶ岡】陸奥國(宮城縣)の宮城野の地名。仙臺市の東部にあり、東岡又は東公園といふ。往昔この丘上に紅蓮岡多かりしよ

りかく名づくといふ。丘の中、北に釋迦堂、南に天神社(榴岡神社)あり。夫木・二一「みちのくのつゝしか岡のくまつゝらつらしと君を今日そ知りぬる」奥の細道「宮城野の萩茂りあひて秋の氣色思ひやらるゝ、玉田、よこ野、つゝじか岡はあせびさくころなりき」

ツツジガサキ 鵜岡崎

↓甲府市 石鏡山 一峰。主峯、石鏡山(一九八一米)の南東方約六軒に當る。高知縣土佐郡本川村・吾川郡富岡村・愛媛縣上浮穴郡河村の境上に峙つ。標高一八五九米。山姿端正にして、東方に竝ぶ長方形なる手箱山(一八〇七米)と面白き對照をなして鑿石鏡山に連る。

ツツミ 堤(村)

愛知縣碧海郡にありし村。明治三十九年外三村と共に廢し高岡村を置く。【津積】尾張國(愛知縣)の古地名。和名抄に海部郡津積郷あり。ツツミは即ち堤塘の意にして、鵜沼川の堤防より起りし地名。いま海部郡の富田村より鵜沼町の一部に互る地を稱せしものなり。【津積】河内國(大阪府)の古地名。和名抄に大縣郡津積郷あり。延喜長部省式に河内國津積郡馬七疋と見ゆるも此の地にして、郷にして驛傳を兼ねたるものなり。津積はツツミにして堤塘の義なり。

いま中河内郡下村は大和川南及び西の岸を流れ堤防を築きて水を防ぐ。而して同村の大字法藏寺の舊名を津積と稱せしといへば、津積郷は凡そ下村の邊を稱せしものなるべし。

ツツミ 管見

上總國(千葉縣)の古地名。和名抄に長柄郡管見郷あり。其地いま何處の邊なるか密かならず。管見は即ち堤塘の義にして堤にも通ず。いま長生郡に關村あり、關はその管堤に通ずるを以て或は此の地ならんか。

ツツミガオカ 堤ヶ岡村

群馬縣上野郡群馬郡の東南部。高崎市の北方に位し、其間に中川村を挟む。面積約六・五方軒の小村。榛名山東麓より利根川右岸の平地への漸移帯に當り、東南部には田地、其他は至る處桑畑をなし、米・麥・馬鈴薯等を産し、參茸産にて爾を多産す。三國街道南北に貫きてバスを通じ、また社線東武鐵道高崎線これに沿ひ交通便利なり。古くは和名抄、群馬郡

八木地に屬せしものも如し。大字菅谷は中世は庄名と呼ばれ、東鑑、正治二年の條に見ゆる菅野庄は菅谷の誤にして、即ち是とす。

ツト 津門

攝津國(兵庫縣)の古地名。和名抄に武庫郡津門郷あり、都止と註し津口の義なり。いま武庫川の右岸なる西宮市今津町に津門の地あり、郷名の遺存とす。されば津門郷の地は西宮市今津町及び瓦木村の邊なるべし。

ツナ 津名

【津名郷】兵庫縣二十五郡の一。淡路國(島)の東北の大部を占め、地南北に長く約四四軒あるも東西は廣き部分も一二軒餘に過ぎず。東は大坂灣に面し、東南岸の生石崎は友島の西端懸突ノ鼻と相對して紀淡海峡を挟み、その西岸は紀伊水道に濱す。北は明石海峡を隔て明石市と互に相望み、西は播磨灘に臨み、西南は三原郡と界す。浦本・由良・志筑・生穂・佐野・假屋・岩屋・富島・郡家・江井及び郡志の十一ヶ町と外に十九ヶ村を含み、面積三四五方軒餘を有す。南部は略東西に連る讃岐羽山脈の東端に當り、東の和泉山脈に同じき白雲紀層より成り、柏原山麓えて南北に傾斜し、中部以北は瀬戸内海陥落の爲に生ぜし地盤にて、主として花崗片麻岩より成り、南北に連りて東西の分水界をなし、南部の光山、北部の常陸寺山(五一六米)を主要山峯とす。海岸は東西共に斷層海岸をなして出入少く、斷

ツト ツナツ

岸直に海に迫る處あるも、また中央分水嶺より下る小流によりて形成せられし第四紀層の小低地所々に發達す。氣候溫和にして晴天多き瀬戸内海の氣候に恵まれ、また古來文化の中心たりし京阪地方に近く交通不便ならざりしが人文風氣に開け人口稠密にして至る處耕地よく拓け、低地は勿論、傾斜面も殆ど耕種式乾田もしくは畑地に開墾され灌漑用の池塘多く築造せられ農業盛にして米を主とし麥・野菜・粟・粟・粟等の産多し。沿海魚族に富み鯛・玉筋魚・鱈・章魚の漁獲少からず。近時瀬戸内海に工業勃興し、農村には乳牛の飼育、薬工品の副産業あり。國道四國街道東岸を南に走り瀬戸内海を廻りて三原郡に進み、西岸には縣道貫し、所々に東西を繋ぐ道路あり、路面の殆ど全部はバスの便あり、また社線淡路鐵道は浦本に起りて三原郡浦原に至る。海上にては東岸には大坂・神戸・明石等と、西岸にも神戸・明石・高松等との間に定期汽船の往來ありて交通甚だ便利なり。延喜式に郡名見え、和名抄は百奈と註し津名・志筑・賀茂・安手・物部・廣田・郡志・青波・米馬・郡家の十郷を管す。後世に廣田・賀茂二郷を三原郡に割き郡城縮少す。當國一の宮なる官幣大社伊弉諾神社鎮座す。

【津名】淡路國(兵庫縣)の古地名。和名抄に津名郷あり、郡家の所在地なり。然るに諸本津名郷の外に郡家郷を載

するも高山寺本はこれを載せず。蓋し群家郷を郡家郷と認むるものなり。其の地いま津家郷を以て多賀・大町・山田諸村及び江井町に互る地城なるべし。【津名村】廣島縣備後國世羅郡の西北隅。北及び西は雙三郡川・板木二村に接し、南は津久志・小國・吉川・上山の四村に隣る。面積三七・二方軒。全村三十四百米の高峻性の山地をなし、南境の明神山は標高五三五米を示す。山林廣きも、中央部と西部には巾狭き低地つづきて農耕行はれ、米・麥・酒・蕎麥・木炭等の産あり。交通なほ便ならず。(元河坊) 大字長田にあり。眞宗本願寺派。御塔山。もと眞言宗なりしを、天文四年林語現宗に改む。寛永四年本山より寺號を眞教寺と賜はりしも、國主故ありて改稱を許さず、仍りて住職の姓を眞教寺と改め今日に及ぶ。

【津名】淡路國(兵庫縣)の古地名。和名抄に津名郷あり、郡家の所在地なり。然るに諸本津名郷の外に郡家郷を載

に大門崎、其間に瀨瀬崎等の岬角をなす小灣入・島嶼多し。中央部に低地ありて田畑拓けて米・麥を産し兼養蠶も行はれ、また林産・水産あり。鹿兒島街道東北境の津奈木峠(三大郎峠の一)を越えて中央部を横ぎり、省線高尾島線また略これに並行し、大字岩城に津奈木峠(昭和二年設置)を置き、西南は水俣町に、北は海岸に沿ひて平國に、東北は佐敷町に、いづれもバスを通ず。村名は古くは綱木にも作る。村内に墓址あり。自然の巖を以て壁壘とし、道路はその阻を切割りて通ず。方俗岩城と呼ぶ。名和家の臣加賀基の創めしところにして、相良氏の兵を置きし處。また木村と水俣町との間に歌坂あり。豊臣秀吉征西の時、相良の老臣深水三河守宗方入道休甫は其居城水俣よりこの坂に來り討す。※網野

【津名】淡路國(兵庫縣)の古地名。和名抄に津名郷あり、郡家の所在地なり。然るに諸本津名郷の外に郡家郷を載

四ノ入

ツナト——ツネト

六米。北東麓に杖立峠最高點(一〇四八米)...

ツナトリ

綱取炭礦

ツナワキ

綱別

地名。和名抄に嘉麻郡綱別郷あり。また...

ツナワケ

綱分嶺山

ツヌ

角・都怒

【都怒(角)松原】 攝津國(兵庫縣)の古地名...

ツヌオレ

肉折濱・角折濱

常陸國(茨城縣)の古地名。常陸風土記...

BOOK

香島郡の條に「以南所有平原、謂之内折濱」...

ツヌガ

角鹿(國)

越前國(福井縣)の西部地方にありし國。今の敦賀港の地...

ツネ

津根村

愛媛縣伊豫國宇摩郡中部北岸。東は野田村、西は小富士村に接し...

ツネカネマル

常金丸村

廣島縣備後國高田郡の北部。新市町の北方約六...

ツネヨシ

恒吉村

廣島縣大隅國常陸郡の西部。岩川町の西に接し西は始...

ツネヨシ

常吉村

京都府丹波國中郡の南部。宮津町(與謝郡)の西方約一〇...

ツネ

津野

【津野】 讃岐國(香川縣)の古地名。紀伊...

ツネ

角野

近江國(滋賀縣)の古地名。和名抄に、高島郡角野郷見ゆ...

ツネミ——ツ

此地は和名抄、白河郡常世郷の内なり。大字境に羽黒館址あり...

BOOK

は廣谷村を隔て、北は神石郡父木野村に隣る...

【都怒(角)松原】 攝津國(兵庫縣)の古地名...

ツネトミ

恒富

宮崎縣東臼杵郡にありし村。昭和五年延岡町に編入し、同...

ツネトヨ

常豊村

福島縣磐城國東白川郡の中部。開成町の東南約六軒。面積...

ツノ

都農町

宮崎縣日向國児湯郡の東北部。日向灘に面し美々津町の南西に...

ツノ

都農町

宮崎縣日向國児湯郡の東北部。日向灘に面し美々津町の南西に...

ツノ

都農町

宮崎縣日向國児湯郡の東北部。日向灘に面し美々津町の南西に...

ツノ

都農町

宮崎縣日向國児湯郡の東北部。日向灘に面し美々津町の南西に...

ツノ

都農町

宮崎縣日向國児湯郡の東北部。日向灘に面し美々津町の南西に...

ツノツノカ

に、西南は都野津町に隣す。面積六・八方軒の山村。東部一帯は高さ百未の丘陵性山地に占められ、牧草地及び針葉樹林を存するも、西北半部には平地展開し耕地あり。海岸は極めて平滑なる砂灘なり。国道及び省線山陰本線は海岸近くを東北より西南に貫き、国道にはバス

て南流し次で東に、更に北に大曲流をなして玖珂郡に入る錦川の流域に属し、南半は瀬戸内海に沿う海岸平野に属す。海岸平野は都内産業文化の極部を爲し、福川・富田・下松等の都市相並びて發展す。海岸線は出入に富み、また笠戸・太

【角山】 備本縣天草郡の宮地岳、一町田、福連木の三村境上に位置す。標高五二六米。下島第一の高山にして天草の展望臺として知らる。登山は多く備本市より舟にて下島の北東岸本渡町に渡り、乗合自動車にて東麓宮地岳村に至り、それより約一時間にして頂上す。

調を缺くも河内國志紀郡并於焉を井乃倍と訓する例に従ひツノと訓むべきか。其地は都農郡の東に當り、江川河口の左岸の地を稱する。いま江津町・川平村の邊をいふ。

【都野津】 山口縣十一郡の一。周防國の一部にて縣の東南部に在り、東は玖珂、備前二郡、西は佐波郡、北は島根縣東足郡に隣り、南は中部に徳山市を圍みてその餘は瀬戸内海に面す。下松・富田・福川三町及び十八箇村より成り、面積五四三方軒餘。中山山脈主軸の南斜面に當り東部・西部にはその支脈各南方に延び、東端北部の馬雲ヶ岳は九八五米、南部の鳥帽子ヶ岳は四一三米、西界北部の飯ヶ

【角】 兵衛縣有馬郡有馬温泉の北方約七軒、三輪町・中野村の境上に位置す。標高三七三米。山形、富士形の美峯なるに因り、有馬富士とも稱せらる。

【津ノエ】 都於。石見國(鳥根縣)の古地名。和名抄に都野津郡都於郷あり、抄に桑村津宮郷あり、諸本調を缺くも高山寺本はツノミヤと註す。其地いま周都國安村・吉岡村の邊ならんか。

【ツノガワ】 角川村。山形縣羽前國最上郡の西南部。新庄町の西南約一五軒、これと八向・古口兩村を隔て西南は東田郡立谷津村に界す。面積一〇〇方軒餘。南境に高倉山(一〇五四米)、西境には築倉山(六一八米)等の出羽丘陵支脈の山地あり、諸水中部に下りて角川となり、北隣古口村に最上川にて合す。村の東北部の角川筋には耕地や、拓け、米・蕎麥を産す。省線羽前西線の古口驛(古口村内)に達せらるも、村内の交通未だ便ならず。本村はもと古口村の大字なりしが、明治二十五年に分縣獨立せるものなり。(今神温泉)高倉山山北なる今熊山麓にあり。泉質はアルカリ泉にして山小屋風の旅館數棟あるも、冬は雪のため閉鎖す。

ツノクチ 津口

あり。古地名。和名抄に世羅郡津口郷見ゆ。中世は津口莊と呼ばれしは、東寺文書平治元年寶莊院領備後國津口莊米三百石と見ゆるによつて明かなり。いま世羅郡津久志村の大字津口は古名の遺れるもの。其地域は津久志村・津名村等に互る邊なるべし。

【津ノゴ】 津之郷村。廣島縣備後國沼隈郡の東北。福山市の西に隣接し、北は東品郡宜山村に界す。南は瀬戸村、西は赤坂村なり。面積八・五方軒。北境に高増山(三九九米)ありて、村の北西半部は山地なるも、東南半部は置田川の沖積平野の西端部に屬し、土地平坦にして耕地よく拓け、米・麥・蕎麥・粟を産し、鹽表の製糖行はる。南部を省線山陽本線及び國道貫通し、別に福山市への縣道ありてバスの便あり、また西隣赤坂村内の山陽本線後赤坂驛に近く交通便なり。村名は和名抄、沼隈郡津字郷の遺稱なるべし。

【ツノミヤ】 津宮。千葉縣下總國香取郡の北部。佐原町の東隣、香取町の北隣にて利根川に跨る。面積六・三方軒の小村なるも、南境附近の丘陵地を除けば全部開墾の水郷の一郡にて、利根川北岸には奥田浦ありて殆ど水田をなす。米を主とし麥を産し兼發行はる。利根川南岸を省線成田線東走して香取驛(昭和六年設置)を設く。佐原・銚子間の縣道にはバス通じ、利根川は水運の便よく佐原・鹿島間のモーター特客航す。南隣香取町に通ずる道は、香取神宮への奥參道に當る。この地は和名抄、香取郡香取郷の内。古來香取宮の觀瀆、水路往來の埠頭として小驛市をなし津宮河岸とよばる。

【ツノヤ】 津屋。阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に板野郡津屋郷見元郷乃也と註す。また津家にも作る。其地いま徳美町及び大津村に當るか。

ツノシマ 角島村

山口縣長門國豊浦郡の西北海上の角島を占む。油谷灣西口の南に近く、東は海士ヶ瀬の水路を隔てて神田村に對す。東西に長く面積四方軒餘。中部は隆れ東西に張り、東部の南に瀨崎、北に牧崎、西部の南に瀨瀬、北に夢崎突出して恰も胡蝶の舞へる狀をなし、山地多く牛鹿半島の村にて細・鯛・

【ツノズ】 都野津町。鳥根縣石見國阿蘇郡の北部海岸。日本海に西北面し、江津町の西南約五軒、濱田町の東北約一五軒にあり。面積僅に二・八七方軒。海濱につゞきて西部一帯は平地展げ、東北の後背地大部は低き丘陵起伏す。鱈・鮑・魚等の漁獲物及び米・蕎麥・生糸・清酒・醬油の産出あり。省線山陰本線通じて都野津驛(大正九年設置)を設き、國道また鐵道に並行し、北は都津(江津町)、南西は濱田町へ、東は津市村へバスを通ず。この地は和名抄、那賀郡都農郷の地にして、萬葉集第二卷の「石見のや高角山の木の岡より我が振る袖を妹見つらむか柿木人爾」とある高角山は、村内の人丸神社の東北の山(海拔五六米)を指せしものなるべし。(西方寺)淨土宗。高木山と號し、慶長十五年勸修上人の開創に係る。もと津市村にありしを明治に至りて現地に轉す。

【津ノカワ】 角川村。山形縣羽前國最上郡の西南部。新庄町の西南約一五軒、これと八向・古口兩村を隔て西南は東田郡立谷津村に界す。面積一〇〇方軒餘。南境に高倉山(一〇五四米)、西境には築倉山(六一八米)等の出羽丘陵支脈の山地あり、諸水中部に下りて角川となり、北隣古口村に最上川にて合す。村の東北部の角川筋には耕地や、拓け、米・蕎麥を産す。省線羽前西線の古口驛(古口村内)に達せらるも、村内の交通未だ便ならず。本村はもと古口村の大字なりしが、明治二十五年に分縣獨立せるものなり。(今神温泉)高倉山山北なる今熊山麓にあり。泉質はアルカリ泉にして山小屋風の旅館數棟あるも、冬は雪のため閉鎖す。

【ツノヤ】 津屋。阿波國(徳島縣)の古地名。和名抄に板野郡津屋郷見元郷乃也と註す。また津家にも作る。其地いま徳美町及び大津村に當るか。

ツノク——ツハキ

熊倉氏の戦へるもこの地なり。今この南
方開拓に因道東西に通じ、西に降りて敦
賀に至る。

【樺村】 三重縣伊勢國鈴鹿郡の北端。鈴
鹿山脈の東斜面に位し四日市市の西方約
一四軒。北は三河郡水澤村、西は山地に
よりて滋賀縣甲賀郡野洲村に界す。西境
上は八一九九米の高度を有し東方に急斜
し、中部以東は緩傾斜をなす高地となる。
北境には内部川、南境には鈴鹿川の一支
流各東南に流れ、それらの沿岸は水田拓
けて米を産し耕作には専らをつくる。東半
部中央の高地は桑園・林野多く産を出し、
其他林産・畜産・工業あり。東部
には遠見街道南北に走り、南東端伊澤
村、北端水澤村に出づれば龜山、四日市
へ定期バスあるも村内の交通は尙便なら
ず。古くは和名抄、鈴鹿郡長瀬郷に属せ
るものなるべし。〔一宮樺大神社〕大字
山本に鎮座。稲社。祭神、設田比古神・
木其夜比賣神外五神。垂仁天皇二十七
年の創祀。式内小社。白河天皇の勅によ
り社田五十町を寄せられ、富國一ノ宮た
りしも近世は銀はず。例祭、十月一日。
【樺村】 山口縣大津郡にありし村。大
正十二年萩町・樺東村・山田村と共に廢
され萩町を置き、昭和七年市制を布く。
【樺村】 山口縣防府市の東方約八軒、佐
波郡富海村より都賀郡戸田村へ至る交通
路に當る。永祿十二年大内輝弘侵襲より

征の上りしが毛利氏の軍に破れ、富海村
に來りし時、敵は樺村に固めければ今は
これまでと、西方茶臼山に至りて切腹し
て果てたりと。

【樺村】 徳島縣阿波郡賀郡の東南端。
北は樺村との間に横溝を挟み、紀伊水道
に面す。西は福井村、南西は海部郡阿部
村に界す。面積三四方軒餘。龜山山脈の
東南端が紀伊水道に没する部分にて午鳥
狀をなして東方に突出し、東部は更に南
北二岐に分れ、南は浦生田崎、北は徳崎
となりその間に樺浦の小灣入を抱く。浦
生田崎の東方には前島・樺子島・神天島
等の小島嶼を浮ぶ。概ね山地にして中部
樺浦の西方に狭小の低地あるのみ。特産
梅漬あり。沿岸漁業は行はる。樺浦は良箇
地にて飯神及び沿岸汽船の寄泊地なり。
浦生田崎には明暗灯光、明二秒暗二
秒、光達距離一八・五哩の燈臺あり。
【樺村】 和名抄に阿武郡樺木郷あり、郡廢
と調す。その地今の萩市(もと)の樺・樺
東・山田三村及び萩町、及び阿武郡三見
村の邊に當る。

樺市の北。東は則防藩沿岸の行積町
との間に延永村を挟み、西北は金谷郡東
谷村に隣りす。面積約一〇方軒。四圍に
高度二一三百米の丘陵性山地を繞らし、
中央部と東南部に低地ありて耕地よく拓
け、米・麥を産し薪炭も出す。行積町へ

樺市の北。東は則防藩沿岸の行積町
との間に延永村を挟み、西北は金谷郡東
谷村に隣りす。面積約一〇方軒。四圍に
高度二一三百米の丘陵性山地を繞らし、
中央部と東南部に低地ありて耕地よく拓
け、米・麥を産し薪炭も出す。行積町へ
樺市の北。東は則防藩沿岸の行積町
との間に延永村を挟み、西北は金谷郡東
谷村に隣りす。面積約一〇方軒。四圍に
高度二一三百米の丘陵性山地を繞らし、
中央部と東南部に低地ありて耕地よく拓
け、米・麥を産し薪炭も出す。行積町へ

費して工事全く成れり。爾後數年を経て
千拓の業成り、耕地を得ること三三八〇
町歩、草高二萬四百餘石。併に千沼八萬
石と稱せり。いま三郡九箇村に分属す。
即ち樺海・共和(以上原野郡、鳴鳴・龜
郷(以上上海郡、古城・中和・萬歳・東
城・神代(以上香田郡)の九村に互る。純
武本線ここを横斷し、千沼驛を置きて千
沼地の意を高せり。

【樺村】 徳島縣阿波郡賀郡の東南端。
北は樺村との間に横溝を挟み、紀伊水道
に面す。西は福井村、南西は海部郡阿部
村に界す。面積三四方軒餘。龜山山脈の
東南端が紀伊水道に没する部分にて午鳥
狀をなして東方に突出し、東部は更に南
北二岐に分れ、南は浦生田崎、北は徳崎
となりその間に樺浦の小灣入を抱く。浦
生田崎の東方には前島・樺子島・神天島
等の小島嶼を浮ぶ。概ね山地にして中部
樺浦の西方に狭小の低地あるのみ。特産
梅漬あり。沿岸漁業は行はる。樺浦は良箇
地にて飯神及び沿岸汽船の寄泊地なり。
浦生田崎には明暗灯光、明二秒暗二
秒、光達距離一八・五哩の燈臺あり。
【樺村】 和名抄に阿武郡樺木郷あり、郡廢
と調す。その地今の萩市(もと)の樺・樺
東・山田三村及び萩町、及び阿武郡三見
村の邊に當る。

【津幡町】 石川縣加賀國河北郡の北端。

【津幡町】 石川縣加賀國河北郡の北端。

【津幡町】 石川縣加賀國河北郡の北端。

【津幡町】 石川縣加賀國河北郡の北端。

【津幡町】 石川縣加賀國河北郡の北端。

フホイ—ツマ

足寄二郡の北部と界す。面積七二一方新... 東部にはヤマカモムル岳(九七... 西本(阿波山(九七八米)等を経て...

ツボイ 坪井

【坪井】 新設の一郡(大正十二年設置)... 西本より東南に延長し、長さ約二、四軒、...

ツボイ 壺井

【壺井】 壺井郡の東部にありし村。明... 治三十四年郡制施行により...

ツボエ 坪江

【坪江】 新設北陸道郡にありし村。明... 治三十四年郡制施行により...

ツボイ 壺井

【壺井】 壺井郡の東部にありし村。明... 治三十四年郡制施行により...

ツボエ 坪江

【坪江】 新設北陸道郡にありし村。明... 治三十四年郡制施行により...

BOOK

ツボネ 局岳・局山

【局岳・局山】 局岳とも云ふ。伊賀山嶽の一峰。北陸道の南西方約二三... 新、三重県飯沼郡野町と宮田村との境...

ツボフ 坪生村

【坪生村】 伊賀飯沼郡飯沼安... 郡の東南部、飯沼山の東方約八軒を距りて...

ツボマ 津万

【津万】 兵部郡多可郡にありし村。大... 正六年西郷町と改称す。

ツボマ 津麻・津摩

【津麻・津摩】 紀伊國(今和歌山縣)... の古地名。地名抄に名取郡津麻郡あり、...

ツボマ 都万村

【都万村】 鳥取縣佐田郡佐田郡の... 南部、鳥取の西南海岸に位置し、海を隔...

ツマ 妻

【妻】 宮崎縣日向國兒湯郡の東南部。... 佐土原町(宮崎郡)の北に接し、西北部は...

ツマギ 妻木町

【妻木町】 岐阜縣美濃國土岐... 郡の南部。土岐津町の南方にてこれと下...

ツマゴイ 妻籠

【妻籠】 群馬縣上野國吾妻郡の西部。... 東北は草津町、東南は長野原町に隣り、...

ツマ—ツマコ

古野池。北端に横尾山(五七三米)聳え、... その西南斜面に属す。諸川放射谷を西流...

BOOK

ツマコ—ツモ

建久四年此地に神倉を行ふ。此時空かき曇りければ龍原太景季「きのふこそあさまはふらめけふは又みはらし玉へ夕立の神」と詠みしにやがて晴れたり。頼朝御感あり龍水の麓にて五百餘町厚太に給ふ由見ゆ。大字大徳は近世幕府關橋を置きて通路を監視したる所にて、一に神倉御香所と呼びしが其停帳の年次は詳ならず。(龍澤温泉)無色透明の炭酸泉。元鹿澤・新鹿澤に分る。高原的風情横溢し、近時遊歩地及びスキー地として喧傳せらる。(高座温泉)地は草津白根山と高座山の各合、海拔一五五五米の高處にして、樹と落葉松との密林に蔽はれたる盆地なり。我國最高の高山温泉。泉質は硫酸含有酸性明礬泉・酸性泉・硫酸泉にて純潔・にが湯・鹽温・鈉温などの源泉あり、胃腸病に特效ありて常外療養地にもよく、盛夏も二十一度を超えず暑さ知らずの別天地なり。(吾妻鐵山)非金屬山。西境に聳ゆる四阿山(吾妻山)より硫黄を採掘し、その産額は昭和十一年度五、九九〇匁、我國硫黄山中の第六位を占む。(小串鐵山)硫黄山。鐵山は長野縣上高井郡高井村に在る。

BOOK

左りに見わたせば、いつかゆ鳥の宮居なり。舊蹟・二・中・ゆうちまどひ坂をのぼり、此宮は何さまだアな。ハハア關東惣社妻籠稻荷大明神とあるは。これは日本いなりさまの二の宮也。

【妻籠】東京市本郷區の町名。湯島三軒町の南、新花町の東に隣接す。志摩稻荷より生ぜし地名にして、同名の坂もあり。源女皮肉論「まだ四ツまへに四ツ谷を過て、氣も市がひにせくまに、馬の蹄に小石川、ついつまづきしつまづきの、森を

【津守】越前國(福井縣)の古地名。和名抄に敦賀郡津守郷あり、その地今の敦賀市の邊に當る。

ツモリ

夫五十一人。本鐵山は中世より既に発見せられたること三代實錄に見ゆ。(八幡宮)大字郡夜に鎮座。總社。祭神、聖田別命・息長足姫命・比女大神。創建年代由緒等詳ならず。例祭、九月二十八日。

ツモリ—ツヤマ

東境を去る東方約五料、西は木山町に、東北は阿蘇郡山西村に接す。面積二〇方軒餘。北半は阿蘇外輪山西麓の裾野にて極めて緩傾斜をなして西に傾き、東南部に約五〇〇米の山地あり。中央には杉堂川西南流し、西南部の流域に低地開く。田畑拓け米・蕎麥・粟・大豆・粟・粟類等の農産物多く、北部阿蘇山麓は草原廣きため畜産もまた多し。西隣木山町に出づれば農本市(バス)の便あり。和名抄、託麻郡津守郷とあるは富村及び木山町・福田村・河原村の地なるべし。村内に津森城址あり。阿蘇大宮司の鹿流先水氏の居城とす。大字寺中宇友塚は明治十年の役

ツマテバシ

妻手橋。省線津浦線の(一)大正二年設置。宮崎縣南那賀郡吾田村にあり。

【津丸】筑前國(福岡縣)の古地名。和名抄に宗像郡津丸郷あり、諸本津丸に作るも津丸の譯なるべく、よりてよるしくツマルと訓ずべし。ツマは究極の意にして本郷は郡の南隅を占む。また延喜兵部省式に筑前國津日驛あり、日驛の略字因を誤りたるもの、因は丸と同意義なるを以て津日驛は津丸郷の譯を兼ねたるものならん。いま宗像郡津丸村の大字に津丸あり、郷名の遺稱とす。

【津村】大阪の地名。今の東區安土町四丁目、本町四丁目附近より以北淡路町五丁目御堂津附近一帯の名稱。此地に在る西本願寺別院を津村御堂または津村別院と云ふ。築拍子・五・大阪別院・江の社とあるは、今の龜井町御堂の社なり、今此邊を津村といへば、つづら江の舊名をあらまされるならん。西本願寺の懸所にも御堂を、津村ら御坊といひ、是より

ツメタガヤ

瓜田ヶ谷。埼玉縣南埼玉郡にありし村。明治二十八年本村は七村を合併し日野村を置く。

【津山】肥後國(熊本縣)の古地名。和名抄、山鹿郡に津村郷あり、その地今の熊本郡三橋村の邊なるべし。

【津山】山形縣利根郡東村山郡の東北部。天童町の東に隣り、東北は北村山郡山口村に隣接す。東境に奥羽山脈西白山の西支なる雨野山(九〇六米)、鶴澤山(七三一米)ありて山地廣きも、西部は山形

町、北は藤田村に隣接す。面積一六方軒餘。東部は高さ二百米程の丘陵性山地連互し、西部は海岸平野開く。西北部には飯山川の中流を江を擁する小半島突出し中部南北に平地ありて耕地拓け、入江の東岸には鹽田あり。米・麥・粟を産す。津原崎港の移住地六萬四千圓中、穀物は一萬圓、酒類六千餘圓を最とし、移入地額は十二萬四千圓に近く、其うち穀物を主とす。縣道四方へ通じバスの便あり。東南部に社線多湖鐵道の終點宮地嶺驛(大正十五年開業)あり。また省線鹿兒島本線開通に近く交通便利なり。古くは和名抄宗像郡津山郷の地なるべく、大字在自はその遺稱とす。また萬葉、一二に「在千淵在り懸めて行かめとも家なる妹い懸せむ」とあるは千淵も此地ならん。明治三十年町制を布き、同四十二年宮地村を編入す。沿岸は海水浴場として夏季は賑わす。(宮地嶺神社)縣社。祭神、多紀理毘賣命・多紀津比賣命外二神。社傳に神功皇后の創建にかゝるといふ。古來宗像七十五社の一にして、宗像神社の攝社とす。古より武運の神として上下の信仰篤し。例祭、四月五日。

【津山市】岡山縣三市の一。縣の北部、美作國の略中央津山盆地に位し、東は藤田郡に、南と西は久米郡に、北は吉田郡に接す。東西約九・九新、南北約一〇・一新、面積三九方軒餘にして都市としては比較的廣き方なるも、北部には北境中部の神樂山(三〇八米)を始として、山畑などの丘陵あり、南部にも荒神山(三六二米)を始として神倉山系の丘陵あり、平地は主として富田に於ける吉井川の上中流域及び吉井川の支流宮川の流域に存

BOOK

し、元和三年義大内記忠政の創建にて、開山を了向法師とす。忠政寺領を附し大檀越たりしといふ。「妙法寺」西寺町にあり。日蓮宗。久保山と號す。初め律宗を奉ぜしを日光上人現宗に改む。日誓上人義氏築城の時、警守し來り三轉して現地に移る。日貢上人の時、本州一宗の綱領となる。

【津山盆地】岡山縣東北部にある陷落盆地。縣の中部を東西に延び、西は備前、東は備中、北は時次山(六六〇米)・折形山(六四五米)・天狗山(八三二米)等の山地によりて限られ、南は加治子山(四九一米)・二上山(六八九米)・高比野山(三四七米)等の丘陵性山地により境せられ、東西約二〇軒、南北は廣き處にて一二軒、狭き部分には三軒内外に過ぎず。中國山脈に於ける吉井川南下して、盆地の西北部より中部を東流し、西より來る久米川、西南より來る風川等を合せ、盆地の東南部に東北より下る加茂川を容れ、盆地の東部を南流す。盆地の大部分は第三紀層より成る。吉井川以北には所々に残丘的に中生層・古生層あり、また吉井川以南には石英粗面岩・岩流礫層等の火成岩あり。凡そ第三紀層生成時代に於ては此盆地は今より約二五〇米低く、これら古生層・中生層の地は鳥取は半島をなせしものにて、その頂部は今に残丘として第三紀層中に露出せるものなるべし。今は盆地の中央に當る河川に沿ひて

第四紀層も廣く分布し農耕地となる。盆地の中心に津山市發達し、古く出雲街道の要衝たり。また省線新線・因美線、社線中國鐵道の集結點をなす。

【津山】津山町は昭和四年に市制を布く。旧入。津山町は昭和四年に市制を布く。【津山】津山町は昭和四年に市制を布く。【津山】津山町は昭和四年に市制を布く。

【津山】津山町は昭和四年に市制を布く。【津山】津山町は昭和四年に市制を布く。【津山】津山町は昭和四年に市制を布く。

によりて成りし平地にて、南部の龜島新田・鶴新田の埋立地に續き田畑よく拓け農産に米・麥・蕎麥・粟等あり、また製糖業行はる。省線山陽本線西阿知驛(北阿知町内)・玉島驛(西北の長尾町内)に近く共にバスの便あり。此地は和名抄津口郡阿智郡の内にて住吉郡戸の渡の船往來せし頃は、津島は海灣の水底に屬し、その航道の西口たりしが如く、後方の大平山は海中の一島嶼たりしといふ。明治三十六年西之浦村・鶴新田村・龜島及び津島村を合し本町を置く。

【津島】津島町は昭和四年に市制を布く。【津島】津島町は昭和四年に市制を布く。【津島】津島町は昭和四年に市制を布く。

郷を合む。明治十三年南都留・北都留の二郡に分つ。

【都留】甲斐國(山梨縣)の古地名。和名抄に、都留郡都留郷あり、その地今の北都留郡の大鶴村・巖村の邊に當る。【都留】大分縣北海部郡の地名。白井町の北、末廣川附近。いま上北都留・下北都留・南都留の三村に分る。【鶴】下島田村(山梨縣北都留郡)【鶴居】北海部鐵道支線阿寒郡の東部。鐵道川と阿寒川に挟まれたる山中に位し、東は川上郡、西は阿寒村に接す。南は鐵道平野の北部に跨るも他は概ね山地に占められ西北に漸高す。ボンタチ、ローレーツ、ナリ、モセツチ等の鐵道川支流の諸川何れも西北山中に發して南流し、各扇狀地を形成して平地に出で合流してクタク、ロ、幌呂、温根内川となる。流域には中・下幌呂、茂雪裡、温根内等の聚落あり米・馬鈴薯・大豆等を栽培し、また林業・牧畜に従ふ。宇中雪裡よりは西方阿寒村・上幌呂村に通ずる麻民鐵道敷設され、又近隣にバスの便あり。昭和十二年香平村を分割して新設せるもの。本村附近は鐵道丹頂鶴養種場として天然記念物指定區域。村名はこれに因むか。【鶴居村】兵庫縣播磨國神戶郡の中部西側。市川中流の西岸に位し南は福崎町に近くこれと甘地村を隔て、東は川を挟みて川邊村に對し、西は備前郡の北東部に

界す。西半は山地にして西地上にて約六百米程度の高さを有す。東半は市川流域の平地にて耕地よく拓け、米の産多く小麦・粟・蕎麥の産あり。他に鵜飼・蕨菜・食用蕨菜・高麗芋・果實等を出し、畜工品の産多し。縣道並に省線播磨但馬南北に走り省線は鶴居驛(昭和二十七年改置)を置き交通便なり。大字神前山にあり、伊和大神の子建石敷命の居住地たりしこと播磨風土記に見ゆ。【天満神社】大字小室に鎮座。郷社。祭神菅原道真。天曆元年創立と傳ふ。例祭十月十七日。【鶴居村】大分縣豊前國下毛郡の東北部。中津市の南に隣り山國川右岸に沿ふ。西は川を隔て福岡縣上郡用吉富・原野二村と相對す。面積七・三方軒餘の小村なるも中津平野の一部を占め土地平坦にして南部の臺地には林野・畑地あり、また灌漑用の池塘築かれ、北半部は田畑よく拓けて米・麥その他の農産多し。中津市より南方那珂郡方面への縣道走りて自動車を通じ北方省線日豊本線中津驛にも遠からず。此地古くは和名抄、下千部小楠郷に屬せしものか。【末廣城址】大字永治にあり。古城志に、末弘城在水添村末弘氏代々居城天正七年末弘對馬守正行野仲に降て開城す」と見ゆ。また末廣氏の祖に善吉の頃末廣氏少輔正泰ありしこと大家氏の舊記に見ゆ。【相原神社】大字永治に鎮座。郷社。祭神、譽田別天皇、秋津彦神・秋津姫神。社傳によれば欽明

天皇二十五年宮島主殿なる者靈夢を蒙りて秋津彦・秋津姫の二神を勧誘祀せしに始まる。例祭、九月十五日。【ツルウチ 笠打村】香川県讃岐國香川郡の北部。高松市の西、香西町の東に隣り、北は瀬戸内海に臨む。面積僅かに六・九九方軒。東境に最高點二九九米の丘陵性山地あれども、香東川その西側を北流し西半は土地平坦、耕地多し。北部にては製鹽行はれ、南は紙漉業盛なり。他に米・麥・蕎麥及び牛・馬・雞・鵜飼・牛乳等の産あり。高松市に隣りて交通便なり。古くは和名抄、香川郡鶴田郷の地ならん。大字飯田は其の遺稱なるべく、また大字に惣東あり。【岩田神社】大字飯田に鎮座。郷社。祭神、應神天皇・仲哀天皇・神功皇后。社記に伏見天皇正應中、石清水八幡宮を勧請すといひ、讃岐國名譽國會は、高倉天皇治承二年の勸請とす。例祭、十月二日。【ツルエ 鶴枝村】千葉縣上總國長生郡の南部。茂原町の南隣にあり。西南一帯は丘陵起伏して森林の鬱茂せるを見るも、中部より東北部は低地開けて田圃相連り地味肥沃にて、村内を東西に鶴枝川東流し一宮川に入る。米・麥を主とし、その他蕎麥・果實・蕎麥・菅笠・臥室の産多し。茂原驛を起點とせる縣道は五郷村を経て本村の西部を通ぎ東村に至り夷隅郡大多喜町方面に至る。茂原驛にはバスを通ず。この地は和名抄、埴生郡坂本郷

の内にて、嶺新前は標本の富水・石丸・土岐・戸部・水野・渡邊氏等の所領たり。大字上永吉・下永吉はも一村なりしが延寶四年分れて二村となり上永吉には有名なる永吉製煉院あり、創業は徳川末葉にして子孫世々其業を繼ぎ現主彌次馬氏に至るまで六代其名遠近に聞ゆ。大字野牛は傳によれば天保年中、加賀の人牛を牽き來り此の野に牧し住す。これ本大字の基なりと。大字飯田はもと長門郡の管下たりしが町村施行の際本村に入る。大字三谷は千葉縣原に新介胤正の四男四郎胤廣の子を三谷四郎胤村と稱し子孫三谷氏を稱すと。これ此處に在任したるに因るか。此地の北南間に鼓淵と稱する所あり、道路の安全クツヅミの如くにて有名なり。大字立木は村の南部に位し丘陵起伏し北部より望見すれば樹木の林立せるよりその名起りしと。同所の山靜日長園は高橋氏の庭園にして東上總の名園として世に知られ、領主水野野堂駿守・一宮藩主加納道江守・大多喜藩主松平重忠の諸侯より明治維新後に於て名士・學者・文人墨客の來觀多かりしが、時勢の變遷は徒に其名を留むのみとなれり。大字下水吉には生身地蔵と稱する有名なる地蔵堂あり、元禄年中林某なるもの晴天上人より拜領し等身大の石佛を背に負ひ江戸より同所に運送して祭祀せりといふ。【ツルオカ 鶴岡】山形縣四市の一。庄内平野の

南部に位し、東と南は東田川郡に、西と北は西田川郡に接し、北方の酒田市と距離ること約二〇軒。東西五・五軒に近く、南北六・六軒を超え、面積一五・八方軒に餘る。赤川は東境を劃して北に流れ、支流内川は中部を、青龍寺川は西部をいづれも北東流し、前者は東北境にて赤川に合し、後者は市の西北境をなし榮村を経て、東郷村に至りてまた赤川に入る。土地平坦廣潤にして高き部分も海拔一五米餘に過ぎず、東南には月山・海嶺・羽黒の田羽三山の雄姿を望み、南方には金峯・母狩兩山の巒容を眺め、西方は加茂町の小丘陵を隔てて日本海に近し。省線羽越本線、東西に走りて大字大寶寺に鶴岡驛(大正七年改置)を置き、西方加茂町の湯野温泉に至る社線庄内電線に連絡し、また東方羽黒山へ省骨バスの運轉あり。其他、羽越街道・加茂街道の外、西南の田川海、東北方陸羽西線幹線川への道路上には皆バスを通じ交通上の要點をなす。元和八年以來酒井氏の城下町として發達せし處、古く靈業の中心地たりしが日清・日露兩戦役後輸出向羽二重の機械に努力せしより工業的都市として繁榮し、その後一蹶ありしも羽前藩子の名譽は依然として中外に高く今も其類諸藩生産中の首位を占む。縮緬及び襪縮緬・羽二重其他の産物・小幡物等これに次ぎ、絹織物の合計は四百萬圓を突破し、各種工業物産額の七一%を超え、市全生産額の

ツルオ—ツルカ

Table with 3 columns: 昭和十年, 昭和九年, 昭和七年. Rows include 生産額一覽, 畜産, 農産, 林産, 水産, 工業, 合計, 一人當.

六三%に當る。其他の工業物にては酒・蠶糸類・漆器・木製品・菓子類・織製品等を擧ぐべし。中央部の市街地域以下は土地平坦にして田畑よく拓け、米(五二萬圓)を主とし蔬菜及び工業産物・畜及び食料産物の産出が盛なり。市の工業の隆盛と附近農村の物産特に庄内米の集散市場として商業また活潑なり。市内に區裁所・大蔵省預金部資金局仙臺支局出張所・警務署其他の官衙學校多し。明治十四年、明治天皇、山形・秋田及び北海道行幸の際此地に行幸あらせられ、いま明治天皇勅行在所として史蹟に指定せらる。また文藝評論家高山樗牛は此地の出身なり。(沿革)此地は和名抄、田川郡大泉郷の地にして、中世大泉庄の立つや其治所として郡司・庄司の居館ありし處なり。地頭大寶寺氏に居る故に地名を大寶寺または大光寺と稱せり。經

管の始詳ならず。後三年の役には源義家ここに陣營を構へ、亂平せし後、其臣藤原光廣に賜ひ子孫三世に傳ふ。鎌倉時代武藏氏大泉地頭となり、此處に居て庄務を處理し兼ねて羽黒山別當を勤めたり。其季世尾浦城に移るに及び前森氏城代たり。天正十六年羽越越後に於て前森氏陣討するや武藏氏また尋いで亡び庄内悉く上杉氏に屬し、木庄繁長の部將木戸支齋當城を守り。天正十八年檢地勘定あり、上杉景勝之を鎮定し大寶寺城を直江城に與ふ。慶長六年最上義光、莊内を略し、大寶寺城を修して自ら之に居り以て退隱の處となし、大に修理を加へ市街を開き町名を改め山形より民を移し、慶長八年城名を鶴岡と改む。元和八年最上氏斷絶するに及び酒井忠勝、信州松代より封を此地に移され、更に木城を増築し市街の整備を圖れり。爾來二百五十年、明治皇出、特に明和年間、忠徳封を興げに及び賢材を登用し學校を興して銳意文教の普及を計り處に武事を講じ、また殖産興業の道を開けるを以て人文の發展、産業の興隆觀るべきものあり、文久三年忠篤功を以て三萬石加増せられ七萬石を領す。明治二年酒井公服園を奉還し、同年九月大泉藩と改む。同四年大泉縣を設け、尋いで縣を酒田に移せしが同八年再び鶴岡縣となり、同九年山形縣に合併し、城郭を毀ちて公園とす。大正七年稻生村を、同

九年大寶寺村を編入す。同十年八月赤川の水氾濫し、未曾有の大洪水を起し、四千の住家漏滅に没され慘禍多き。之が復舊に多大の勞資を費せりと雖も、之が市勢發達を加へ、同十三年羽越越後の全通を見るや、從來東海岸線等に依れる旅客及び貨物の輸送は俄に此線に依ることとなり、其の中間都市として本市の恩恵を享くること尠からざるものあり。戸口も年々増加し、實業の發達と文化の進展また之に伴ひ大正十三年市制を施行す。(莊内神社)馬場町に鎮座。無社。祭神、酒井忠次・岡家次・岡忠勝。明治九年舊藩民等深く舊藩主の二百年に及ぶ徳澤を懐き、仰慕の情激し、舊本丸に一字を創設しこれを鎮座す。例祭、八月二十八日。當日假裝の大行列ありて市中を練行くを以て著名なり。(大宮神社)天神町に鎮座。無社。祭神、菅原道真。始め城内にありしが慶長年中最上義光城郭修理の際三日町に遷座、のち現地に移す。例祭、五月二十五日、天神祭と稱し莊内三郷の若男女雲集す。(日枝神社)荒町に鎮座。無社。祭神、大宮大己貴命・二宮山末之大主大神外七神。俗に下山王と稱して小沢山王と對稱す。古社なりといふも創建年月を詳せず。慶長十六年最上氏社殿を造營、次で元和年中酒井氏入國するや産土神と定めて厚く信仰し、社殿を再建、社地を定めて、厚く修繕費・祭費等悉く岡氏より寄進せらる。

例祭、五月十四日。(日枝神社)無社。祭神、大己貴命・山末之大主神・市井鳥命。創建年次詳ならずも、社傳に據るに住古藤氏威を振ひし時東北鎮護の爲め時の國造これを勧請創祀せしものといふ。その後慶長・元祿等に再建、文化年中正一位の神位勅許を蒙り、社領六十八石餘を有したりと。(春日神社)大字天神に鎮座。無社。祭神、建甍神社・經津主神、外二神。創建年次詳ならずも、舊記に據れば元來當社は和國より初め越前國に勧請せるを、のちに奉遷せしものにして、歴代領主の崇敬厚かりし社なりといふ。例祭、五月八日。(本住寺)七日町にあり。日蓮宗。境内に加藤清正の子忠廣及び其母正應院の墓あるを以て著る。忠廣、事を以て肥後熊本五十餘萬石を没收の上東田川郡丸岡に讓せられ承應二年病歿す。家臣遺志を奉じて正應院の墳墓と共に丸岡より此地に移す。寺内に清正堂あり、寺寶として遺物數種を藏す。(大寶寺)新町にあり。淨土宗。長新山と號し、天正十八年創建、城主酒井忠次の開基、開山は慶國上人なり。酒井家と共に各地を轉ぜしが元和八年忠勝と共に當地に來り寺領百五十石を受く。境内に酒井家代々の墓あり。(常念寺)南町にあり。淨土宗。鶴岡山。大水三年寂樂上人の開創に係る。最上義光これを菩提所とし寺領百三十八石餘を寄進、酒井忠勝また之を再興す。伽藍宏壯にて地

方有数の名刹。(大昌寺)興力町にあり。曹洞宗。證玉山と號す。慶長九年證岳徹大和尚の開山に係る。越後荒川伊豆守詮治最上家の臣となり一萬石を食み當地に在りしが、酒井家の入部するや返讓して永世水運と稱し當寺に居ると傳ふ。(總持寺)鶴岡町にあり。曹洞宗。興林山と號す。元和年間酒井忠勝信州松代より移封と共に轉ぜるものにして、爾來同宗の名刹となり、安政年間酒井家配下寺院四百八箇寺の録司として堂宇壯麗なりしが天保中炎上し、再建さる。(般若寺)日和町にあり。曹洞宗。大寶山と號す。草創年次不詳。藤原秀衡、先考の冥福を修せん爲に建立。鎌倉越後長寺通寶運建和尚の開山に係る。のち酒井家の入るや、其菩提所となり五十三石の寺領を受く。(龍藏院)吉住町にあり。曹洞宗。寶雲山と號す。永正年中兼山善思和尚の開創に係る。寺領七十三石餘を有せりと。(鶴岡村)岐阜縣美濃國惠那郡の西南部。土岐川の支流小里川に沿ふ。岩村町の西方約六軒にしてこれと遠山村を挟み、西は土岐郡瑞浪町との間に稻津村を隔つ。高さ六百米内外の高原性山地をなし、中部を略東西に流る小里川の谷に狭長の低地ありて多少の耕地拓け、米・麥を産する外樹木林業に従ふ。縣道小里川に沿ひ、東は稻野郡岩村、西は瑞浪町に通じバスあり。この地は和名抄、惠那郡淡氣郷の内なり。

ツルオ—ツルカ

【鶴岡】大分縣南海部郡にありし村。昭和十二年佐伯町に入る。
【ツルオチダ】鶴岡田。青森縣上北郡にありし村。明治廿二年六月村と改稱。
【ツルガ】敦賀

【敦賀市】福井縣中部の港市。越前國の西南部。敦賀灣の南岸に位し、東と南は敦賀郡東浦・東郷・中郷・栗野の四村に接し、西は若狭國三方郡山東村に隣る。東西廣き處八軒を超え、南北一四軒に近く、面積五二・二五方軒を有す。西方三方郡との境には三内山(五二二米)、西方ヶ岳(七六四米)、螺ヶ岳(六八六米)等の山岳南北に連り此山は立石岬となりて日本海に没し敦賀灣の西北口を限る。これら山嶺の山腹は東方に急斜して敦賀灣西岸に迫り排天崎・小崎・鷺崎・明神崎等の小岬角となり、それらの間に小支溝を擁す。市の東南部に當る敦賀灣の南岸は謂はゆる敦賀平野の一部にて土地平坦、田畑よく拓け、敦賀の市街はその東半部に建ち、東隣東郷村との境に天鏡山(一七〇米)、越坂峠(約一四〇米)等の丘陵性山地を挟む。河川に笹ノ川・井ノ川あり。笹ノ川は東郷村の東部河ノ河内の山間に發し豐登・中郷兩村を同流しその間奥麻生川・五位川・黒河川等を合し、更に市域に入りて東郷村より來る木ノ芽川を容れ、北流して市街の略中部を貫き敦賀灣に注ぐ。井ノ川は栗野村の西北部野坂岳に發し平野の西部を北流

してまた敦賀灣に注ぎ、共に浚渫大ならざるも浚渫の便あり。此地は古代より大陸との交通上の要處たりしが、今も亞細洋路の上の一大大門戸、日本海沿岸の重要開港の一として榮え、近時滿洲國建設以來更に交通・貿易上の重要性を加へ來れり。省線北陸本線は敦賀縣境の柳ヶ瀬驛道を経て、笹野川谷に沿ひ、市の東南部を抜め、ここに敦賀驛(明治十五年設置)を設け、更に臨港線を敷き敦賀港驛(明治十五年設置)・新敦賀港驛(昭和七年設置)を設けて敦賀灣に集積する貨物の吞吐に便し、特に毎月亞細洋路船隻に日滿連絡船の發着日には東京との間に謂はゆる國際列車の運轉行はる。また省線小濱線は敦賀驛より敷れて西走し若狭の小濱を経て丹後の新舞鶴に至り舞鶴線によりて山陰本線に連り京阪に連絡す。柳ヶ瀬道は北陸本線に沿ひて東南に向ひ敦賀縣伊香郡に出でて北國街道に合し、その間琵琶湖西岸に出でて大津に達する西近江路、琵琶湖北岸の鹽津灣に至る鹽津街道を岐つ。更に敦賀道は東北に走り敦賀灣を北上し武生に於て北國街道に繋がり、丹後道は小濱線と同方向に進みて舞鶴方面に至り、以上多くはバスを通ず。以上陸上交通路の外海上は敦賀港を起點若くは寄航地とする樺太北海道大連線・樺太北海道敦賀線・樺太敦賀線・雄基惠須取線・九州敦賀線・清津敦賀線・敦賀清津線・敦賀北鮮浦鹽線・朝鮮北海道大

運線・大連敦賀線等の定例又は臨時の航路ありて汽船の發着繁し。昭和十一年に於ける敦賀港の貿易に就きて見るに、内國貿易額は一千七十四萬圓に近く、畜工品・雜石・和傘・セメント等を移出し、海産物・魚肥料・石炭・セメント・木材等を移入す。對朝鮮貿易額は七百五十四萬圓にして、陶磁器・ビール・蔬菜果實・漁網・綿糸布・雜貨類を主要移出品とし、大豆・魚肥・生豆・米糠等を主要移入品とす。また外國貿易額は一千九百五十萬圓に近く、主要輸出品には黃銅・銅・ルタール染料・人絹糸・綿布・鐵・銅・電線・電氣機械・その他の機械類、主要輸入品には大豆・飼料・豆粕・鯨魚・白金・石炭等を數へ、貿易總額は實に三千七百七十餘萬圓に上る。市の工業も近時著しく發展し、人絹糸・セメント・漁網・製氷・製材・製油・肥料・飼料等の工場工業をはじめ、石灰・和傘・竹・桐・籐の製品・加工昆布等の家内工業あり。漁業に鯛・鱈・鮎等の漁獲ありて主として京都市方面に送らる。立石岬に立石岬燈臺あり。燈質は明暗白光(明三秒、暗二秒)

昭和十一年貿易額(単位千円)

地方別	移(輸)出	移(輸)入	計
内國	1,740,000	1,010,000	2,750,000
朝鮮	1,180,000	1,180,000	2,360,000
外國	1,180,000	1,180,000	2,360,000
計	4,100,000	3,370,000	7,470,000

ツルカ

にして光遠聖廟は二四湊に及ぶ。教賀は住吉(住吉)と稱へ、太古より開けし港津なりしが、崇神天皇の御代朝鮮任那の皇子都賀阿羅多等來朝せしとき此地に上陸し、のち水住して河となりしより地名を「角鹿」と改め、更に和銅年間に教賀と改字し、奈良朝時代に之を「つるが」と轉訛して今日に及ぶといふ。降つて仲哀天皇は神功皇后と共に此地に行幸あり、神國征討の御準備として皇后暫く止まり給へり。聖武天皇の朝より渤海國の使節常に来賀せるを以て館を設けてこれが接遇に當れりといふ。南北朝以來、教賀は京都より北國に至る咽喉部に在るの故を以て屢々戦亂の巷となり、新田義貞は尊良・恆良兩親王を奉じて教賀に入り、足利氏の軍に包圍せられて尊良親王は御自害あり、義貞の子、義顯は殉死す。其後別倉氏代々の居城あり。織田信長これを亡ぼし、更に江戸時代の初、結城秀康の所領となり、のち京極氏を配して酒井忠勝に及び、爾來小濱藩として若狭一國と共に酒井氏の所領なりしが明治三年藩制改革に伴ひ藩藩山藩を小濱藩に合し、同四年七月藩を廢して縣を置き、同年十一月小濱縣を廢して教賀縣を置く。同六年一月足利縣を教賀縣に合併し、同九年八月教賀縣を廢して鶴ヶ島縣に合す。同十四年二月鶴ヶ島縣及石川縣の一部を分合して現今の福井縣を置かるに及び、教賀は福井縣の管轄に入りて今日に及ぶ。教

賀市はもと泉・津内・三島・教賀の四大字より成り、教賀は更に二十四區に分劃せられたる市街地にして、他の三字は農業地域なりしが、明治十八年この二十七箇町村を聯合して一戸長役場を置き、同二十二年町村制の實施に際して之を一團として教賀町とし、のち町勢の發展に伴ひ行政區劃を三十區に分つ。昭和十二年教賀町及び松原村を廢し、其地域を以て教賀市を建つ。(金ヶ崎城址)指定史蹟。市の東方に在る牛島郡にあり。延元元年十月新田義貞、尊良親王・恆良親王を奉じて立籠りたる處にして、賊軍の攻撃加はるに及び城兵隊に採り奮戦力闘せしも衆寡敵せず、翌年三月城遂に陥り尊良親王は自刃し給ひ、義貞の子義顯は部下數百人と共にこれに殉じたり。城池の主、栗部は今官幣中社金崎宮の境内に屬し、其背の高處には城戸、地未出土。月見御殿址等あり。ほゞ舊蹟を存す。(手筒山)金崎宮の東南に聳ゆる手筒山の頂にある城址。また手筒山にも作る。永祿の頃朝倉義景、織田信長の侵入に備ふる爲築きしものといはる。元龜元年信長の爲に攻め落さる。(松原寄館)王朝時代の、教賀に設けし外客接待の官舎。奈良期の初め日本海の對岸に渤海國新に起り、元正天皇養老四年始めて我國に朝賀し、これより屢々來朝せり。よつて朝廷にてはこれ等蕃客のために教賀に松原寄館を、能登に能登寄館を設けて接待の便

に供せしめたり。松原寄館の設置は明かならざるも、能登寄館は桓武天皇延暦二十三年に成りしより推せば、大體此頃置かれしものならん。而して教賀は日本海方面に於ける要津にて、北海に來著せし蕃客の上京の途に當れるために、特にこの地に寄館を設けしことは、恰も彼の藤波の津に鴻臚館を置き、蕃客を接待せしと同様なり。この寄館は松原に當れるため松原寄館とも稱せり。但し松原に及ぶ館址に今は詳かならず。延喜の朝によれば、この館は氣比神宮司の檢校に關するところは國司の掌るところなり。蓋し當時の國府は今の丹生郡武生に當り、教賀との距離遠かりしかば、氣比神宮司の支配せしものならん。而して村上天皇の頃は鴻臚館も類設せしかば、松原寄館もまたこの頃に類設せしものなるべし。(武田辨雲寄館)指定史蹟。松島にあり。元治元年十月水戸藩士武田辨雲齋の黨魁の大義を唱へ、西上の途次越前に入り十二月新保宿にて大雪に遇ひ遂に幕府の軍門に降る。翌年二月幕府は辨雲齋當時の刑場にて遺骸を斬首したる所なり。土盛は方十二間、高さ八尺、西面して十五基の墓石を立て周圍に石柵を繞せり。(西福寺曹院庭園)指定史蹟。養老年代不詳なるも、或は徳川中期ならん。山庭にして中央山腹の窪には花崗岩の瓦巖巖

立し、西北には松樹、東北は欒木茂生し間々松樹を交へ、處々藤桐等の刈込物及び椎・楊梅等を植う。山麓に池を設く。池中に三綱を置き橋を架く、池畔より山麓に涉りて石を配し北岸に小瀧を懸く。峻嶺の壯觀、泉石の雅英、山庭として特殊の佳観あり。(氣比神宮)晴町に鎮座。官幣大社。祭神、伊弉沙別命・日本武甕外玉神。北陸の名社。式内名神大社。神封、天平三年二百戸、後更に四十四戸増加。神位、寛平五年正一位勳一等。その他遣使奉幣・神寶の奉納・遷宮日時の宣下等の事あり。武門武將の崇敬社。多數の攝末社あり。慶字中本殿(慶長七年藩主松平秀康の建造)及び鳥居(正保二年の建立)は國寶。例祭、九月四日。(金崎宮)泉に鎮座。官幣中社。祭神、尊良親王・恆良親王。尊良親王は後醍醐天皇の第一皇子、恆良親王は第六皇子。延元元年新田義顯等と金崎城に據られしが、北條氏のため尊良親王は遂にこの地に薨せらる。本社は明治二十三年の創立。同二十五年恆良親王を合祀す。例祭、五月六日。(永殿寺)泉にあり。曹洞宗。勝藏山と號す。應永二十年東義宗陽和尙開基す。慶應元年水戸浪士武田金次郎(辨雲齋の嫡孫)等百三十七人遺鳥に處せられ、翌年赦免に遭ひて一統を當寺に移さる。時に北野天満宮に納めんとして斷髮せしを今齋宮に號す。(永實寺)境町にあり。曹洞宗。開通山と號し丹波開通

寺本たり。開通山和尙は開通寺十四世住持にして天正十九年本寺を開創す。境内に領主大谷吉繼の墓あり。(幸臨寺)晴町にあり。曹洞宗。上古此寺氣比神宮内にありしが、のち泰澄法師今の地に移すといふ。三朝の臨幸ありしに依り現寺號を稱するに至る。寺實として創設教賀の守護佛たりきといふ赤銅觀音像あり。(金藏寺)泉にあり。眞言宗高野派。誓法山と號す。創建年大詳ならず。本尊は十一面觀音にして、宇治拾遺物語に持懸觀音堂とあるは之なり。住時は寺内十一坊を有せし互割たりき。延元の亂に新田一族本寺に據りきといふ。(西方寺)神樂町にあり。時宗。もと天台宗にて開基は常照阿闍梨なりといふ。のち遊行二代眞教上人當地巡化の時より現宗に改む。舊廟の奥の細道にこのこと見ゆ。(本勝寺)神樂町にあり。本門法華宗。日照山と號す。大同元年空海の弟子故園の開創に係り、昔は東北世三寺の末頭として、本能寺十六世日蓮より北國本山の許狀を下附せらるといふ。堂宇の中にて祖師堂は長享二年の建立に係り郡内最古の建築なり。(本妙寺)大島町にあり。本門法華宗。瑞應山と號し京都妙蓮寺末たり。永和二年日教上人の草創に係り、住時は塔頭十一箇寺を有せしが今は悉く廢替せり。(妙顯寺)大島町にあり。日蓮宗。具足山と號し京都妙顯寺末。もと眞言宗にして氣比神宮寺中の一院なりしが、永

仁二年日教上人此地に來りし時遂に之に歸して現宗に轉す。【教賀郡】福井縣十一郡の一。越前國の西南部に在り、中部を占め、北の一部は教賀灣に臨み、一部は教賀市に接し、東は南條郡及び敦賀縣伊香郡に、南は高島郡に、西は若狭國三方郡と界す。面積二四九方軒。東・南・西の三境は何れも山地によりて圍まれ自ら一境を成す。即ち東境北部には鉢伏山(七六二米)・木ノ草峠(六二八米)ありて圍はゆる嶺北の南條郡と嶺南の本郡とを分ち、南部にはカク山・行市山(六六〇米)ありて余呉川の谷と界し、南境には三方ヶ岳・垂懸岳ありて琵琶湖の北斜面を限り、西境には三國山(八七六米)の嶺、北方に長く延びて野坂岳・三内山・堂嶺ヶ岳(六八六米)等を起し、北部は半島をなして日本海に突出し、東に教賀灣を擁す。灣の南岸には狭ノ川の沖積による平野ありて教賀市ここに發達す。平野は灌漑に富み水田開け、米の産多し。省線北陸本線は東南境柳ヶ瀬トンネルを経て教賀市に入り、東北界の山中峠を沿りて南條郡に出で、教賀市より西方に省線小濱線を分岐し關峠を越えて三方郡に向ふ。また柳ヶ瀬道は北陸本線に沿ひて進み、途中西近江路に合して教賀市に入り、教賀灣東岸を北上する教賀道となり武生町に向ひ、更に丹波道は教賀市より西してまた三方郡に進む。教賀市内の教賀港は裏日本主要の

開港として亞歐連絡の最捷路として世界交通の要點に當り、清野斯徳・滿鮮及び日本海諸港への定期航路船の起點また寄港地として榮ゆ。成務天皇の朝國邊を定められたる角鹿國の大化改新の時郡となりしもの。奈良時代の史上に教賀郡名見ゆ。和名抄は都留我と註し神戶・興津・津守・伊部・從省・鹿森の六郷を置く。明治二十二年町村制施行以來一町六箇村たりしも、昭和十二年教賀町と松原村を合して新たに教賀市を建つるや、郡内は五村となる。【教賀灣】福井縣教賀郡の北部の侵入。灣門北西に向ひ、南方に灣入し、西側及び灣頭は教賀市にして、東側は東浦村なり。而して其兩側は一般に石崖なれども立石崎より灣首に至る西側は岩崖・礫崖相交り、其間に浦底・常宮の二澳あり。灣頭は絶えて低砂濱にして、二川ここに注ぐ。灣内は水深く教賀港は良港たり。【教賀港】北陸本線の貨物驛(昭和七年設置)。福井縣教賀市にあり。【鶴ヶ島村】福井縣教賀市にあり。【鶴ヶ島】神奈川縣鎌倉郡鎌倉町雪の下地名。丘上に八幡宮ありて有名。鎌倉二代記・四「寄せては返る白波の、ふじが谷とはあれやらん、一はけさつと横雲は、誰が築染めて限りて、四季の詠めも永久に、代々を重ねし鶴が岡、こはやれ

何處ぞと道人に問へば、此處は坂川津町ぢやと云、心ばかりは山井が濱。【鶴ヶ島村】京都府丹波國北桑田郡の西北。關郡町(船井郡)の東北約二五軒。西北は船井郡上和知村・何鹿郡奥上林村に接し、北は福井縣新野郡奥上林村に接す。面積七八方軒を占むるも、丹波高地の北縁にて高原性山地をなし、東境にては七百米、西界にては八百米を標示す。大野川の支流鶴野川北部に發し中部を南流し、これに沿ひて幅狭き低地あり、粟落は皆この川筋に發達す、米・麥を産すれど産額多からず、材木・薪炭を主産物とす。河谷に沿ひて編道走るも交通未だ不便なり。(諏訪神社)大字鶴ヶ島に鎮座。郷社。祭神、武御名方命・大石持命。一に安永二年の建立といひ、また正徳二年の再建とも傳ふ。【ツルガサカ】鶴ヶ坂 青森縣東津輕郡新城村の大字。奥羽本線の鶴ヶ坂驛(昭和八年設置)あり。【ツルガシマ】鶴ヶ島村 埼玉縣武藏國入間郡の西北部。川越市の西北約六軒。北は坂戸町に隣接す。面積一八方軒餘。全村概して平坦にして畑地・林野をなし、養蠶行はれ、麥・甘藷・野菜等の農産あり。八王子より寄居方面への編道は南北に、社線東武鐵道東上線は東北に走り、前者にはバスの便あり、後者は鶴ヶ島驛(昭和七年開業)の設ありて交通不便ならず。

ツルカタ

鶴形村 秋田縣羽後國山本郡の中部。能代港町の東方約七軒。西南隅扇田村と組合村をなす。東南境に茂谷山(二四八米)、南境に横山(二二一米)の丘陵性山地ありて西北方に傾斜す。未代川は北西部を蛇行西流し沿岸に平野拓く。生業は農を主とし、土工・出稼も多く。米・大豆・蕎麥を産す。羽州街道と省線奥羽本線村の中央部を略東西に通じ後者の機軸(西方鶴形内)、富根驛(東隣富根村内)へは自動車便あり。鶴形は一に釣方作り、古城址数箇所あり。前記の如くいま扇田村と組合町村をなし役場を本村に置く。江戸時代に宿場ありし所にして、未代川による運船(人及び荷物)を取扱べし香所ありき。

ツルカワ

鶴川村 東京府武蔵國南多摩郡の東南部。町田町の北隣なるが、その東南の一部は神奈川縣都筑郡西北部の柿生・中里・田奈諸村の間に突出し西に岡上村の小村を挟む。面積二二方軒餘。多摩丘陵の中部に位し林野・畑地多きも、鶴見川の上流、西隣志生村より中部を東に貫流し、之に沿ひて幅狭き低地あり田地拓く。物産は米・蕎麥を主とし、八王子・横濱間、府中・厚木間等の道路線横に通じ、また社線小田原急行線道(電車)東部を斜に走りて鶴川驛(昭和二年開業)を置く。大字小野路は古く鎌倉より武蔵府中に至る官道に當る。蓋し府中附近は往古の小野路なればこれに至る路

ツルギ

に當るより出でし名なるべし。【創始】 南下浦村(神奈川縣)【創設】 日本北アルプス立山連峰最北端の一峯。創山・創ヶ岳とも云ふ。富山縣中新川郡立山村・白萩村の境上に踞り、標高二九八米。穂高岳と共に北アルプス中絶壁を以て知られ、近代登山者の足跡を印してより既に約三十年、年と共に登山者數を増し、ロクタクライミングの地としても知らる。花崗岩質片麻岩より成る山岳中日本第一の高峯なり。雪渓の發達著しく、東斜面の長大谷・平蔵谷・三ノ窓・小窓の雪渓は急傾斜、且つ盛夏尙延長三軒餘に及ぶものあり、針ノ木岳・白馬岳・槍ヶ岳(三一八〇米)南斜面槍澤等に於ける雪渓と共に北アルプス中最も著名なるものなり。山頂部にはハツホ・源治郎屋根等の尖峰群立し、男性的なる山骨を示す。山頂よりは東方に白馬岳・鹿島槍ヶ岳・針ノ木岳等の後立山の連山、指野の間に踞り、脚下に黒部の大谷谷南北に走る。北方は富山平野、日本海の眺め良く、南方は立山別山・立山本峯・北アルプスの雄峯悉く一眸に收る。西側斜面は早月川の上支流川・立山川源流す。登山路は黒部川方面よりするものと立山方面よりするものとあれど後者が便利なり。立山方面よりは至堂より立山本峯・別山(二八八五米)・別山系を経て別山平の創小屋に至り、ここを根據として登

ツルギオ

【創設】 大分市の北約三六軒、丹波高原に隆起する一峯。大阪府豊能郡西能勢村と京都府南桑田郡畑野村との境上にあり。標高七八五米。山體石英斑岩より成る。北西方に深山(七九一米)、南東方に小和田山(六一二米)續く。山頂は古への月峰寺の舊城なりと傳ふ。因りて一月ヶ峰・月峰山とも云ふ。山頂より眺望頗る廣く、北東に比叡・愛宕等の京都北部の山々を望み、南方は大坂灣を眺む。この山古くは下樹山と云へり。

山する者最も多し。即ち創小屋より剣澤の雪渓を凡そ一軒半下れば左に平蔵谷の雪渓あり、之を登りて山頂に達し、踏踏長次郎谷を下る。又は小屋より鶴ヶ御前と創ヶ岳との鞍部に出で、尾根傳ひに山頂に達し、踏踏いづれかの雪渓を下りて小屋に降るもよし。いづれも約六時間を要す。山頂より東へ尾根を縦走し三ノ窓・小窓を経て東に下り、池ノ平なる池ノ平小屋にも至るを得。ここより北方黒部川支流小黒部川上流に沿ひて下り、黒部本流の奇跡險峻に至り、ついで鶴ヶ温泉に出づること可能なり。これ黒部口登山路の道コースなり。【創山】 四國の主軸をなす石鏡山脈の南に及び、四國の中央を少しく彎曲してはば東西に奔る山脈。主として御前峰層及び上部古生層の岩石より成る。石鏡山脈との境は大體祖谷川・吉野川・欽川のの上流を結び且つ本山・久萬・内子・大洲等の盆地を連ぬる線とす。※四國山脈【創山】 四國山脈の主峯。ケンザンと音讀しまた創ヶ岳ともよばる。徳島縣美馬・麻植・那賀三郡界に跨り標高一九五五米、四國にては石鏡山に亞ぐ第二の高峯。上部は寒帯林ありて森林學上好の研究地なりとす。山頂部には岩石を見るのみ。頂上には東西に長き平坦面ありて俗に平家の馬場とよばれ、安徳天皇の御劍を収め奉りきと傳ふる方形十六米の寶藏石あり。頂上より眺望は雄大にして全

ツルギサキ

鶴崎町 大分縣豊後國大分郡の東北部。大野川吐口近くの左岸に位し、北方は三佐村を隔てて別府灣に近く、大分市の東方約八軒にあり。東方は川を隔てて北海郡郡西北部と對す。大野川三角洲の一部を占め、東境に大野川、西境には其分流乙津川北流し、水利の便よく、田畑よく拓け米を産す。大分・佐賀間の國道と、南方戸次町方面への縣道との交叉點に當りて發達し、省線日豊本線の鶴崎驛(大正三年設置)ありて地方的商業の中心をなし、大分市へはバスの往來繁く交通便利なり。今は大分市郊外の東縁となせるも、舊藩時代は熊本藩に屬し、港町として繁榮せし都邑なりき。然るに大野川の神積作用進行して町は次第に海より遠ざかり、且つ藩政廢止せらるると共に交通上の必要は減じ、その後は大分・佐賀間の中間都市として、また大野川下流域城農村の中心都邑として

ツルギ

手は樹木の美觀に接するを得べし。登山路は省線徳島本線の穴吹驛・貞光驛よりする二途あり。前者は穴吹川に沿ふもの便あり、こより頂上まで三八軒間は自動車の間御前橋までは緩傾斜、それより急峻なる尾根傳ひに原生林の間を進むこと約一軒半にして富士池に着く、此處に創山神社と龍堂あり、更に進分一ノ森を経て山頂に至る。後者は貞光川谷に沿ふものにして一字・美徳等の聚落を経て達す。この外土讃線三國驛祖谷川溪谷を越行して至る登山路あり。【創村】 福岡縣筑前國鞍手郡の東北部。市は直方市、東南は植木町に接す。西南と東南には丘陵地あるも、其他は遠賀川流域の平地に屬し、土地平低にて田畑拓け耕作よく行はれて米・麥を産す。新人瀨山の嶺に屬す。直方・芦屋間の縣道東北西部を通じバスの便あり、省線筑豊本線の筑前植木驛に近く交通不便ならず。關門海峡要港地帯の西部を占む。(開港寺) 大字中山にあり。淨土宗。慶長年間禪覺の開創に係り、明治二十一年聖觀堂字を再興す。寺寶中不動明王及び二童子像の三軀は何れも應永時代の作に係り國寶たり。

ツルギ

鶴來町 石川縣加賀國石川郡の中部西偏。手取川右岸に沿ひ、白山谷の各口を占む。西南は手取川を境に能登郡山上村と對し、北は金澤市の南端に

接す。面積僅に四方軒餘。東境には後高山(六四七米)を築て西南に傾斜するも、手取川沿岸は平坦にして加賀平野の東南端に連る。町は南方山地と平野とを結ぶ代表的溪口聚落にして、手取川の水は此處より北方平野への用水に引かる。元來白山比咩神社の鳥居前町として發生せし處、今は、山地よりの木炭・繭・生絲・烟草等、平地よりの米・野菜・海産物・酒・乾貨等の集散地として商業盛に、絹織物・製糸の工業あり。社線金澤電氣軌道南北に貫きて鶴來驛(大正四年開業)・中鶴來驛(昭和二年開業)を置き、南隣河内村の神社前驛に達し、更に金名鐵道に達し、また寺井町より来る社線能登電線は鶴來驛に接し、金澤・松任へは縣道通じてバスの便あり、交通便利なり。古くは和名抄、石川郡未知郷の内なりしもの如く、近世は河内郡と稱せられたり。もと創と書きしをのち鶴來と改むといふ。幕末の勤王家薩井治郎左衛門(贈從五位)及び江戸末期の儒者にして且つ國學者たりし野村次左衛門(贈正五位)は共に此地の人なり。(金創神社) 縣社。祭神、白山第一御子彦神。白山七社の一。弘仁十四年の創建と傳へ、また神龜四年僧壽隆の再建といふ。神位、寛弘四年正一位。例祭、十月三十日。(鶴來別院) 眞宗大谷派。明治十三年此地の信徒相圖りて堂宇を創建、同十九年金澤別院の支院となり、同三十六年獨立して別院とな

ツルギ

【創始】 日本北アルプス立山連峰最北端の一峯。創山・創ヶ岳とも云ふ。富山縣中新川郡立山村・白萩村の境上に踞り、標高二九八米。穂高岳と共に北アルプス中絶壁を以て知られ、近代登山者の足跡を印してより既に約三十年、年と共に登山者數を増し、ロクタクライミングの地としても知らる。花崗岩質片麻岩より成る山岳中日本第一の高峯なり。雪渓の發達著しく、東斜面の長大谷・平蔵谷・三ノ窓・小窓の雪渓は急傾斜、且つ盛夏尙延長三軒餘に及ぶものあり、針ノ木岳・白馬岳・槍ヶ岳(三一八〇米)南斜面槍澤等に於ける雪渓と共に北アルプス中最も著名なるものなり。山頂部にはハツホ・源治郎屋根等の尖峰群立し、男性的なる山骨を示す。山頂よりは東方に白馬岳・鹿島槍ヶ岳・針ノ木岳等の後立山の連山、指野の間に踞り、脚下に黒部の大谷谷南北に走る。北方は富山平野、日本海の眺め良く、南方は立山別山・立山本峯・北アルプスの雄峯悉く一眸に收る。西側斜面は早月川の上支流川・立山川源流す。登山路は黒部川方面よりするものと立山方面よりするものとあれど後者が便利なり。立山方面よりは至堂より立山本峯・別山(二八八五米)・別山系を経て別山平の創小屋に至り、ここを根據として登

ツルギ

【創設】 大分市の北約三六軒、丹波高原に隆起する一峯。大阪府豊能郡西能勢村と京都府南桑田郡畑野村との境上にあり。標高七八五米。山體石英斑岩より成る。北西方に深山(七九一米)、南東方に小和田山(六一二米)續く。山頂は古への月峰寺の舊城なりと傳ふ。因りて一月ヶ峰・月峰山とも云ふ。山頂より眺望頗る廣く、北東に比叡・愛宕等の京都北部の山々を望み、南方は大坂灣を眺む。この山古くは下樹山と云へり。

ツルサ

更生し、この地方の嶺の集散地となり製絲工場あるも大分市に餘り近づきため、大工場の出現を見ざる限りは、大都市への發展は不可能なるべし。町はまた大野川の鮎池と鶴崎とによりてその名著はる。鶴崎は盆池にして、別府及び大分よりの見物人のために臨時列車を發するほどの盛況を極め、踊子が思ひ見ひの假裝をなす華かなるものなり。江戸時代の儒者秋山儀右衛門(贈正五位)は此地の人とす。(創八幡社) 大字鶴崎に鎮座。祭神、豊田別命・比賣大神・大御神。創建年代詳ならずも、領主細川氏歴代の崇敬厚かりし社なり。例祭、十月十五日。(法心寺) 宇國宗にあり。日蓮宗。靈龜山と號し京都本願寺末たり。慶長六年創建。開基は加藤清正の老臣加藤平左衛門、開山は常林院日榮上人なり。(龍興寺) 三軒町にあり。臨濟宗。瑞雲山と號す。開基は地頭大友豊後守親繁、高嶽和尚を開山とす。もと海潮寺末なりしが、元祿四年花園妙心寺末となる。本尊に釋迦如來を安す。

【創村】 岐阜縣美濃國土岐郡の南部。妻木・笠原兩町の南隣。南は愛知縣西加茂郡の北部に接し、西は瀬戸市との間に東春日井郡品野村を隔つ。西南隅に三國山(七〇一米)あり、全村高處三百米内外の高原性山地多く、良質の陶土を産し陶業を主とする外、林業・耕作も多少行はる。一條の道路村内を東西

他は平坦肥沃にして耕地大に拓け米・麥・蕎麥・梅等を産す。國道山陽道西北部を掠めて各方面にバスの便を有す。

【鶴山村】岡山縣備前國邑久郡の東北部。南は美和村に接し、北は和氣郡伊和町に隣り、東北部は片上津南口の支溝に臨む。面積一・一五方軒餘。南北兩部は高さ二百米程の丘陵性山地あるも、中部東西は低平にして耕地よく拓け

養蚕業。米・麥・蕎麥・酒類・梨・梅等を産す。上野郡西大寺町及び山陽本線萬富驛(赤野郡萬富村)へバス通じ、また海上は汽船の便あり。明治二十二年、町村制施行の際、鶴山村・佐山村を合し木村を置く。(西郷寺)大字鶴海にあり。既宗本願寺派。淨元山と號す。文龜元年播磨縣の住人小久七郎右衛門、蓮如上人假筆名號を奉じて當地に來り本宗を弘通するや、領主虫明小右衛門之に歸依して一字を創す。之れ當寺の靈柩たり。

【ツルヤ】 香川縣讚岐國大川郡の東北部。播磨灘に面し、津田町の東南に隣接す。南は松尾村、東は丹生村に接す。面積五・一四方軒の小村。南境一帶丘陵性山地起伏するも北方に傾き、海岸に平地あり。海岸中央部に岡ノ崎の小丘海中に突出し、津田灘の東を限る。近海は鰯・鰯・鯛の漁獲あり。また米・麥・蕎麥等を産し牛馬牛乳産村なり。海岸に縣道通じ、栗落街路に沿ひ發達す。省線高徳本線の讚岐津田驛、丹生驛に近

く交通不便ならず。往時は大内郡入野郷に屬せしもの如きも、のち獨立村を成し鶴山村とも呼ばれたり。村名の起原は詳ならずも、傳に往昔鶴島白鶴大和琴の原より飛び來り、村内の湖沼の岩上に暫時憩ひて飛び去れり。その際白羽を殘せしより鶴羽を稱すといふ。

【津和村】 長野縣信濃國上水内郡の西南隅。長野市の西南約二〇軒を隔て犀川中流の谷にて、南は更級郡の西北部に、西は北安曇郡美麻村に界す。面積二四方軒餘。高度七百米内外の高原地に於て、中部より東南部犀川左岸に幅狭き平地あり、勢を主とし米・麥・蕎麥等の農産あり。縣道東南部に通じ、東方篠ノ井・船荷山方面へはバスの便あるも村内の大部分は交通利便ならず。山上條・越道・山越の舊三箇村を合同して建てし村にて、荻野・黒岩・中山等の城址あり。弘化四年信濃地領の際多大の被害あり。

【都和村】 茨城縣常陸國新治郡の南部。南は土浦町、東は龍岡町に接す。概ね低き平地にて畑地・林野廣きも南部と北部には低地ありて田地拓く。米・麥・野菜等を産し牛馬も行はる。陸前濱街道は東南部に、縣道は南部に通じ、共に土浦町を起點とするバスの往來ありて東南部の交通は不便ならず。青山庄の屬村とす。大字に當名あり。貞享中の土浦城記に、

内には屬したり。

【郷家屯會】 關東州雙十高民政務管内の中央北部。雙子高の西北約一〇軒、南は楊梅院會に隣り北は滿洲國奉天省復縣と界す。東西兩部に於ては高度五〇一〇〇米程の丘陵ありは中部は低平にして清水河津流し農耕行はれて高粱・大豆・落花生等の産あり。道路東南隅に通じ交通不便ならず。

【鼎冠面】 朝鮮慶尙南道東萊郡の北隅。郡邑東萊の北方約一五軒にあり。大白山脈の南端部に屬する斷崖・丘文山・鐵馬山等相連りて南境を劃し、餘勢域内に及び山岳起伏し平地に乏し。産物に米・大豆・粟・黍・大麻・棉および生牛等あり。東萊・蔚山間の二等道路は面の西部を南北に縱走せるもその恩澤に浴すること少なく交通便ならず。粟落は南部に偏在す。

【堤郷村】 埼玉縣武藏國北葛飾郡の北部西隅。杉戸町の東南隅にて古利根川の東岸にあり。西は南埼玉郡百間村に對す。面積四・八平方軒の小村。全村平地にて東部・北部には水田多し、西部・南部は畑地多し。米を主とし他に麥・蕎麥を産す。陸羽街道は村の西部を北走して杉戸町に通じ社線東武鐵道杉戸驛(百間村所在)に近し。

【泥谷面】 朝鮮咸鏡南道北青郡の北部。東西三五軒、南北一五乃至二〇軒の大面なり。蘆馬臺地の東南

常名城主管各彈正云々とあるはここか。

【津和野町】 鳥根縣石見國鹿足郡の西南部。東と北は小川村に隣り、南は山口縣阿武郡徳佐村と界す。面積一一方軒餘。東に白山火山帯に屬する青野山(九〇八米)火山を仰ぎ、南境に野坂峠の山地あり、高津川の支流津和野川、南境より出でて北流し、南北に細長き小盆地をなす。耕地よく拓く。龜井氏四萬三千石の舊城下として築えし地にて、産業も新しき經濟機構に依る外に、古來よりの集散的位を繼續せる點に特徴あり。米・麥・蕎麥・生糸・清酒・醤油・絹織物の産あり、和紙・木炭・竹材を集散す。古く山陰街道の一要地にして、今は北は日原、東は六日市、西北は長瀬(バス)を通じ、また省線山口線南北に走り津和野驛(大正十一年設置)を置く。この地は和名鈔、鹿島郡津和野の内にして永仁二年吉見鈔、木曾野より此處に移住し津和野と改稱す。津和野城址あり。山霧水明、障人輩出の地にして、多胡主水・大國隆正・西周・瀧野源助・赤崎外等皆此地の出身たり。(津和野城)三本松城ともいふ。應仁の頃、吉見政親始めて之を築き、政

續に至る九代二百餘年間爰に居す。關原役後坂崎直盛爰に封ぜられしが元和二年除封。同三年龜井政矩因轉の鹿野より爰に移封、四萬三千石を領してより子孫相承け明治維新に至る。明治四年一般版籍に先立ち藩主技監上表し藩知事を辭す。よつて藩を廢して濱田縣に合す。(養老館)津和野藩の藩廳。天明六年龜井矩賢の創設。初め儒學を主とししが、後には國學・兵學・醫學・數學をも教授す。館内別に書々會を設けて中士の嫡子十五歳に達せるものに文武を修せしむ。(團茶神社)大字後田にあり。應社。祭神、須佐之男命・天之御日命、外八神。創建年次不詳。もと澤木紙屋社と稱して同村宇大鏡谷の山上に鎮座せしを、正長中領主吉見三河守弘信現地に遷座す。爾來代々領主の崇敬厚かりき。例祭七月二十日。(稻成神社)大字後田に鎮座。應社。祭神伊弉諾美神・宇迦御魂神。安永二年三本松藩主龜井能登守矩氏の勸請に依り、本松藩主龜井能登守矩氏の勸請に依り、力を致せり。(永明寺)大字後田にあり。曹洞宗。覺皇山。應永七年吉見頼弘の開基に依り、開山は日田初性、本社は無迦如來。吉見氏・龜井氏代々の菩提所たり。境内に阪崎羽守成正の墓あり、一峰支秀大居士墓と稱し、側面に「元和二年阪井羽守」と故意に刻せり。家臣堀平吉郎の墓也。

【定山面】 朝鮮忠清南道青陽郡の東部。郡邑青陽の東南約一〇軒にあり。西境には車嶺山脈に屬する七甲山(八六一米)聳立するも、其他は著しきものなく餘勢西北境に連り一帶に丘陵性山地を成し、東南部は比較的低平にて汝川其他の溪澗を灌溉す。住民は農業を主とし、副業として養蠶・絹織の業行はる。産物に米・大豆・棉花・煙草・莞草等にてまた薪炭・織物等の産あり。金頭金山より金は銀を出す。青陽・公州間三等道路は面の略中央を横斷し、これと定山邑よりは南方扶餘に分岐する道路とにバスを通じ、交通比較的便なり。粟落は中央より東南に向つて分布し、定山邑には公立農業實習學校設けられ、また陰曆五・十日に開く市場(定山市)あり。此地は大正三年まで定山郡廳の置かれしところ。東境に近き白谷里には杜陵山城ありて百濟時代の築造にかゝり今も其遺址あり。日本書紀に見ゆる柔洲城なり即ち是か。

【貞山場】 宮城縣宮城・名取兩郡の東部にあり。漢渠。内川または船川とも稱し、鹽釜の東方牛生より南方、蒲生・陸上の地を経て阿武隈川口の荒濱に達する略々一直線の溝にて海岸より數百米内側を通り、海岸線に併行す。伊達政宗が水運の便を圖るため開鑿せしめ、明治年間に大補修を加へ同二

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テ—テ—テ—

テシー—テヘ

十二年に完成せしもの。名稱は即ち政宗の法鏡山より出でしものなり。延長約三八軒、幅平均一六米、深さ約一六米。干潮の際には舟を運ぶことも、なほ相當に利用せらる。

テシー—定州

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

も、尙ほ水田約一萬八千ヘクタール、畑約二萬ヘクタールを有し、本道の最重要農業地帯を成す。米産を第一とし、麥・粟・大豆・棉・大麻・果實（蘋果・梨）等の農産あり、牧牛・養蠶も盛なり。水産物には鱈魚・石首魚・太刀魚等あり。工業は綿附・麻布・絹織物・朝鮮瓦等を主要なるものとす。工場生産行はる。斯の如く産業發達なるを以て道農事試験場・果樹組合その他の産業施設を見、人口密度は一方軒當り一五九・五人にして、道内各郡中、龍川郡に次いで稠密なり。行政上一邑八面に分ち、郡廳を宣川邑川北洞に置く。

【定州邑】朝鮮平安北道定州郡の時中央。西北境に丘陵起伏するも城内土地概して低平にして地味肥え、灌漑これを灌漑し農業に富む。住民は農を主としはた家内工業として扇の製作行はる。産物は米・大豆・大麻・木炭・扇・牛皮等の外、蘋果の特産あり。總督府鐵道京義本線中部を東西に横斷し邑の東端に定州驛（明治四十四年設置）あり。道路は驛を中心として京義一等街道及び北方龜城・奉川の諸邑に至る自動車道路を通じ交通極めて便なり。定州邑は平壤・義州間の要地として古來守備隊を極めし所に於ては、形勢の地を成す。日清の役に明治二十七年十月見島尙文少將の率ふる混成旅團、平壤を陥れ前進して此地を占領し、その際にも、尙ほ水田約一萬八千ヘクタール、畑約二萬ヘクタールを有し、本道の最重要農業地帯を成す。米産を第一とし、麥・粟・大豆・棉・大麻・果實（蘋果・梨）等の農産あり、牧牛・養蠶も盛なり。水産物には鱈魚・石首魚・太刀魚等あり。工業は綿附・麻布・絹織物・朝鮮瓦等を主要なるものとす。工場生産行はる。斯の如く産業發達なるを以て道農事試験場・果樹組合その他の産業施設を見、人口密度は一方軒當り一五九・五人にして、道内各郡中、龍川郡に次いで稠密なり。行政上一邑八面に分ち、郡廳を宣川邑川北洞に置く。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

テヘ

【定州郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西南海岸地帯に位置し、西北は宣川郡、北は龜城郡、東は博川郡に接し、西南及び南方は西朝鮮道に面す。面積八八〇方軒。北方龜城郡方面より漸次低夷して延び来る前カンブリヤ紀の片麻岩より成る二一三百米の老年期の山地にモナドノブクが所々に散在し、南方に向つて緩斜す。郡内の最高は北城の深淵山（五六七米）にして、その山腹南に延び、臨海部の半島郡となり、餘勢更に南に延びて内羅島・外羅島・艾島をはじめ多数の島嶼群を海上に基布せしむ。河川は北西境の東東江、東境を劃する大寧江等を主要なるものとす。東南部一帯及び海岸地方は低平にして、干潟地の發達著しく、水田地帯の中に陸化島が散在し、その周圍に人家畜集せる景観は一特色なり。海岸線は比較的長き干潟地多く船舶の碇繋に便ならず。陸には總督府鐵道京義本線並に京義一等街道、城内を東西に貫き、前者に雲田・古邑・定州・郭山の各停車場あり、定州を中心として道路網よく發達し、交通頗る便なり。郡地面積の約五割は林野、約四割（タタム）を以て占むる。

金井嶺山(前内面)の聯合社は製糖設備を有し規模や大に、其他、黒船・高嶺土、石炭等の埋蔵あり。徳富府鐵道成城線は郡の東部を南北に貫貫し、又道路には北方成興、南方永興・元山に通ずる國道あり。其他西方山嶺を越えて平安南道寧遠方面に至る自動車道路を通じ、郡邑定平を中心として郡内各地への道路網もよく發達す。行政上、九箇面に分ち、郡廳を定平邑(府内面東川里)に置く。本郡の地は高麗時代に宣成と稱し、のち中山・定州と改め、徳宗二年定州より義州に至る長城を築きて女眞と境せり。李朝太宗十三年に至り平安北道定州と名を同じくするを以て定平と改め、郡となす。

テラ 汀瀨

テラ 汀瀨 郡内面(朝鮮成徳道)の舊行政區劃の一。今の馬公支廳。湖西庄の港底・東石・港子尾・中寮・聯洞・潭邊・西寮・沙港・土地港前の地に該當す。大正九年十月廢止せらる。

テアイ 出合

テアイ 出合 山口縣厚狭郡にありし村。昭和四年厚狭町に編入す。

テイ 手井

テイ 手井 西海線の一驛(大正九年改置)にして豊原線の接駁點。樺太試問郡洞町にあり。

テイ 手結

テイ 手結 下夜須村(高知縣)郡の西半部。石狩支廳の管下。東南は琴似村を隔て札幌市に近く、西北は小樽市との間に後志支廳管下洞町村を挟み、東北の一部は石狩郡に界す。面積一〇九方軒。西南部は手稲山(二〇四米)百松澤山(一〇三三米)等の山岳地帯にて、東北部は石狩平野の西部に屬し土地平坦にて耕地拓く。宇津川に輕川温泉の湧出あり。牛・馬・牛乳・米・豆・蕎麥等を産す。また手稲嶺山・萬能澤嶺山よりは金・銀・銅を産す。省線南滿本線と札幌・小樽間の道路は相並行して中部を斜に走り、前者には輕川驛(明治十三年改置)あり、後者にはバス通じ交通便なり。木村は仙臺の白石城主片倉小十郎の舊邸を移せる地。大字山口は明治十四年山口縣周防の移民の開きし地。「手稲山」標高一〇二四米。夏山として殆ど異味を帯かざるもスキー登山としては北海道第一の山にして、多くのスキーヤー集ひ来る。この山の植物帯を見るに、山麓及び山腹は落葉松・白樺等の森にて掩はれ、山頂附近は岳樺・とどろきの混生林をなす。樹木は特に美し。此山は札幌市方面より望み得られ、北海道帝國大學生會「手稲の頂上」が「おそめね」の歌にて廣く知らる。登路は南嶺本線輕川驛より四〇六米の丘を経てパラダイス・ユートピアに至る。此處まで驛より約五軒半、二時間行程なり。それより山頂までの約二軒半、一時間にして達す。山頂よりは札幌市街・石狩平野の展望に優れ、西方に廣く奥平山(九四九米)も眼前に峙つ。奥平山には前記の

テコバヤシ 手子林村

テコバヤシ 手子林村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の時中央部。不動岡町の西隣にて、西北は羽生町に近し。面積五・八八方軒に過ぎざるも全村平坦にて田畑よく拓け、米・麥・野菜その他食用農産を産し、綿織物をも出す。不動岡・羽生への道路通じ、また社線東武鐵道伊勢崎の加須驛・羽生驛にも遠からず、交通や

テカマ 手鎌

テカマ 手鎌 福岡縣三池郡にありし村。明治四十年に倉水村・銀水村・上内村と共に合して銀水村を建つ。

テガラ 手柄

テガラ 手柄 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に編入す。

テカリ 光岳

テカリ 光岳 日本南アルプス赤石山脈の南方部に起る一峯。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡水澤村との境上に位す。標高二五九一米。樺山とも云ふ。

テカタ テシオ

テカタ テシオ

テコバヤシ 手子林村

テコバヤシ 手子林村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の時中央部。不動岡町の西隣にて、西北は羽生町に近し。面積五・八八方軒に過ぎざるも全村平坦にて田畑よく拓け、米・麥・野菜その他食用農産を産し、綿織物をも出す。不動岡・羽生への道路通じ、また社線東武鐵道伊勢崎の加須驛・羽生驛にも遠からず、交通や

テグチ 出口

テグチ 出口 廣島縣區品郡にありし町。明治三十年出口村を町と改め、大正十四年出口町・府中村を廢し、その地域を以て府中町を建つ。

テゴシ 手越

テゴシ 手越 タゴシともいふ。静岡市内の地名。建武二年十二月新田義貞・脇屋義助等は足利尊氏及び直義と戦ひ之を破りし地とす。中世以降、鎌倉街道の一驛にして、遊女ども居りて繁昌の地たり。いまは長者屋敷の址など存し、手越の名は東鑑・平家物語等に見ゆ。

テコバヤシ 手子林村

テコバヤシ 手子林村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の時中央部。不動岡町の西隣にて、西北は羽生町に近し。面積五・八八方軒に過ぎざるも全村平坦にて田畑よく拓け、米・麥・野菜その他食用農産を産し、綿織物をも出す。不動岡・羽生への道路通じ、また社線東武鐵道伊勢崎の加須驛・羽生驛にも遠からず、交通や

テカマ 手鎌

テカマ 手鎌 福岡縣三池郡にありし村。明治四十年に倉水村・銀水村・上内村と共に合して銀水村を建つ。

テガラ 手柄

テガラ 手柄 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に編入す。

テカリ 光岳

テカリ 光岳 日本南アルプス赤石山脈の南方部に起る一峯。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡水澤村との境上に位す。標高二五九一米。樺山とも云ふ。

テカタ テシオ

テカタ テシオ

テカマ 手鎌

テカマ 手鎌 福岡縣三池郡にありし村。明治四十年に倉水村・銀水村・上内村と共に合して銀水村を建つ。

テガラ 手柄

テガラ 手柄 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に編入す。

テカリ 光岳

テカリ 光岳 日本南アルプス赤石山脈の南方部に起る一峯。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡水澤村との境上に位す。標高二五九一米。樺山とも云ふ。

市との間に後志支廳管下洞町村を挟み、東北の一部は石狩郡に界す。面積一〇九方軒。西南部は手稲山(二〇四米)百松澤山(一〇三三米)等の山岳地帯にて、東北部は石狩平野の西部に屬し土地平坦にて耕地拓く。宇津川に輕川温泉の湧出あり。牛・馬・牛乳・米・豆・蕎麥等を産す。また手稲嶺山・萬能澤嶺山よりは金・銀・銅を産す。省線南滿本線と札幌・小樽間の道路は相並行して中部を斜に走り、前者には輕川驛(明治十三年改置)あり、後者にはバス通じ交通便なり。木村は仙臺の白石城主片倉小十郎の舊邸を移せる地。大字山口は明治十四年山口縣周防の移民の開きし地。「手稲山」標高一〇二四米。夏山として殆ど異味を帯かざるもスキー登山としては北海道第一の山にして、多くのスキーヤー集ひ来る。この山の植物帯を見るに、山麓及び山腹は落葉松・白樺等の森にて掩はれ、山頂附近は岳樺・とどろきの混生林をなす。樹木は特に美し。此山は札幌市方面より望み得られ、北海道帝國大學生會「手稲の頂上」が「おそめね」の歌にて廣く知らる。登路は南嶺本線輕川驛より四〇六米の丘を経てパラダイス・ユートピアに至る。此處まで驛より約五軒半、二時間行程なり。それより山頂までの約二軒半、一時間にして達す。山頂よりは札幌市街・石狩平野の展望に優れ、西方に廣く奥平山(九四九米)も眼前に峙つ。奥平山には前記の

テウレ 天賣村

テウレ 天賣村 北海道天鹽國古市郡の一村。留別支廳管下。羽幌町の西方約三〇軒、日本海上に横はる天賣島を占む。東は武蔵水道約四軒を隔て、旭風島あり。島は北東より西南に延びて長さ約四軒、巾約一・五軒、面積五・五平方軒。西南部は火山岩より成り最高點は一九五米を示すも、其餘は第三紀層よりなりて東方に傾斜し東岸に狭長の平坦地あり。粟落こゝに發達す。漁業を主とし、鯨・鰯・鮭の漁獲多し。旭風島を経て羽幌・古市・留別へ船便あり。「天賣島海鳥蕃殖地」指定天然記念物。天賣島の西岸、奇岩怪崖屹立する斷崖懸崖の地にあり。毎年三月頃より八月に至り、多数のウミガラス・ケイマフリ・ウトウ・ウミネコ等の海鳥渡來して偉觀を呈す。ウミガラスは岩角に、ケイマフリは岩の間隙に、ウトウは地中に穴を穿ち、またウミネコは地上に巢を營み蕃殖す。蓋し海鳥蕃殖地として我國有数のものとす。

テガ 手賀

テガ 手賀 茨城縣常陸國行方郡の西北部。霞ヶ浦の東岸にて玉造町の南隣にあり。面積約七・六方軒の小村。東半は行方郡を南北に連る低き臺地の西側に於て林地を

山頂附近には天狗樺・樺松生育し、稍下れば唐榊・白樺の森林に掩はる。山の南西面に灰白色の斷崖の露出あり、遠くまで光り見ゆるより各間の境にはテカリ石と呼び慣はれし、山名これに基くとす。南斜面より大井川の支流す又川源流して南流し、東麓は大井川溪谷たり。

テキユ 秋陰嶺

テキユ 秋陰嶺 朝鮮平安北道の東部。秋陰嶺山脈中の峰。白山(一八七五米)の東方、熙川・江界兩郡境上に當り、標高九六三米。清川江の上支なる白山川と、北流する秀魯江との分水界をなす。南流し、東麓は大井川溪谷たり。

テグチ 出口

テグチ 出口 廣島縣區品郡にありし町。明治三十年出口村を町と改め、大正十四年出口町・府中村を廢し、その地域を以て府中町を建つ。

テゴシ 手越

テゴシ 手越 タゴシともいふ。静岡市内の地名。建武二年十二月新田義貞・脇屋義助等は足利尊氏及び直義と戦ひ之を破りし地とす。中世以降、鎌倉街道の一驛にして、遊女ども居りて繁昌の地たり。いまは長者屋敷の址など存し、手越の名は東鑑・平家物語等に見ゆ。

テコバヤシ 手子林村

テコバヤシ 手子林村 埼玉縣武蔵國北埼玉郡の時中央部。不動岡町の西隣にて、西北は羽生町に近し。面積五・八八方軒に過ぎざるも全村平坦にて田畑よく拓け、米・麥・野菜その他食用農産を産し、綿織物をも出す。不動岡・羽生への道路通じ、また社線東武鐵道伊勢崎の加須驛・羽生驛にも遠からず、交通や

テカマ 手鎌

テカマ 手鎌 福岡縣三池郡にありし村。明治四十年に倉水村・銀水村・上内村と共に合して銀水村を建つ。

テガラ 手柄

テガラ 手柄 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に編入す。

テカリ 光岳

テカリ 光岳 日本南アルプス赤石山脈の南方部に起る一峯。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡水澤村との境上に位す。標高二五九一米。樺山とも云ふ。

テカタ テシオ

テカタ テシオ

テカマ 手鎌

テカマ 手鎌 福岡縣三池郡にありし村。明治四十年に倉水村・銀水村・上内村と共に合して銀水村を建つ。

テガラ 手柄

テガラ 手柄 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に編入す。

テカリ 光岳

テカリ 光岳 日本南アルプス赤石山脈の南方部に起る一峯。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡水澤村との境上に位す。標高二五九一米。樺山とも云ふ。

テカタ テシオ

テカタ テシオ

テカマ 手鎌

テカマ 手鎌 福岡縣三池郡にありし村。明治四十年に倉水村・銀水村・上内村と共に合して銀水村を建つ。

テガラ 手柄

テガラ 手柄 兵庫縣飾磨郡にありし村。昭和十一年姫路市に編入す。

テカリ 光岳

テカリ 光岳 日本南アルプス赤石山脈の南方部に起る一峯。静岡縣安倍郡井川村と長野縣下伊那郡水澤村との境上に位す。標高二五九一米。樺山とも云ふ。

なし、西半の霞ヶ浦沿岸は低平にして水田よく拓く。物産に米・蕎麥・生絲・麥・雜糧あり。霞ヶ浦よりは公魚・白魚等の水産あり。縣道は臺地と平地の境を南北に通じ、南は牛嶺を経て佐原方面へバスの便あり。また北は北國玉造町の社線鹿島参宮鐵道玉造町驛に近く交通不便ならず。和名抄に行方郡櫻葉郷とあるは蓋し此地なるべく、常陸風土記には手賀と見ゆ。弘安勘文、嘉元田文には手賀郷に作り、中世に玉造幹政の次子政家地頭となり、子孫手賀氏を稱せしが、天正の末年亡びたり。

【手賀沼】

【手賀沼】 千葉縣の北部にて利根川の南にある東西に長き湖。土地の沈降と利根川の沖積作用とにより谷の入口が堰止められて成生せしものにて、嘗て信ぜられし如き河原湖にはあらず。海拔二・五米に位し面積は一八八平方軒、湖岸三八・二五軒、深度は水位低き時に一・五二米位。東方より利根川に排水す。嘗て利根川の洪水期には、その溢流のため水位の上昇を來し沼岸の稻田に浸水せしが近年は水門を築造し排水は漸次減少す。冬は透明なるも夏は濁る。水温は夏季三〇度以上、冬季は二度位にて一夜水を生ず。沼岸にはヨシやマコモ繁茂し、中央部はエビを以て養はる。底棲動物の代表者は Chaoborus Tenaxus なるが、其他各種の昆蟲の幼蟲や介類多し。夏は蘆葦の水の華を生ずるも餘り著しからず。

が説かれ、蝦夷地が北海道と改稱せられ、國郡名新定されるや現名をとり、増毛・留別・古市・天鹽・中川・上川の六郡に分割され、明治五年各支廳に屬し翌年は留別支廳と改稱され、ついで同八年には廢されて札幌本廳に編入され、同十五年には開拓使が廢され札幌縣と改まり同十九年北海道設置かるや、その本廳の管轄に屬し、明治三十年には同十三年來存續せる郡役所が廢止されて支廳が置かれ、天鹽國全部を以て増毛支廳を形成せしが、同三十二年上川郡を、同三十四年中川郡を上川支廳に移管し、大正九年留別支廳と改稱され現在に及ぶ。

【天鹽郡】

【天鹽郡】 北海道天鹽國の北部。留別支廳管内の北端に當り、北は北見國宗谷郡東は同枝幸郡に界し、南は中川・古市二郡に接し西は日本海に面す。天鹽町及び幌別・遠別の二村を含み、面積約二〇五八方軒。東北部は北見山脈、南東部は天鹽山脈の山地に屬し、中部と西部は天鹽川の下流及び、この兩山地より下りてこれに合するトイカンベツ・オンネベツ・サロベツ及び増毛川等の諸支流々域に屬する間ゆる天鹽平野(大部分はサロベツ原野)に屬し、低平なる沖積地なり。省線宗谷本線は郡の北中を占むる幌延村の中部を南北に貫きて同察別・増信内・安牛・上幌延・幌延・下沼・豊富・廣川・兜沼の諸驛を置き、その幌延驛よりは天鹽線分岐して西南に向ひ、根老・北川口・天鹽・東岸、

丸松諸峰を経て遠別郡に終り近時交通の便向け、開墾促進せられ、物産に木材、馬鈴薯、大豆、蕎麥、鱈、鮭、昆布等あり。

【天鹽町】北海道天鹽郡天鹽部の中部。留萌支庁管下に屬し、南は遠別村に、北は天鹽川下流によりて幌延村に隣り、東は上川支庁管下の中川村に界す。面積三五六方軒。中部は天鹽山脈北端部に當る高さ百米級の丘陵地南北に連るも、東部と西部は蛇行曲流を續けつゝ町の北境を限り、西方海岸の砂丘に阻まれてまた南折し日本海に注ぐ天鹽川下流の低平地に屬す。天鹽線西部の平地を南北に走り天鹽・北川口・蝦老の三驛(昭和十年設置)及び更埦驛(昭和十一年設置)を置き、幌延驛に於て宗谷本線に連り、道路もこれに並行し、別に中部丘陵を横断するものもありていづれもバスの便あり。米・馬鈴薯・大豆・蕎麥・木材・鱈・鮭・鱈魚等を産す。此地は開拓使以來、河津に海上に水運の便あるを以て夙に發達すべき地なりしも、此附近が鮭・鮭・鱈等々のも大漁業なく、而して水産物取捨規則の地割距離の制限あり、また道廳拓殖の方針が石狩平野を先にせるより、その發達他より遅る。

【天鹽平野】北海道天鹽郡の北部、天鹽川下流の平野をいふ。天鹽川は上川支庁中川村平野附近に至りて東の北見山脈、西の天鹽山脈間の狹隘部を離るゝ急に蛇行流をはじめて西北に向ひ、北より東

るオンネベツ・サロベツ川と合し、更に南折し天鹽町に至りて日本海に注ぐ。この下流は低平なる沖積平野にして面積一・三萬ヘクタールに及び、大部分はサロベツ原野と稱せられ、未墾の農業地をなす。近時省線天鹽線開通して宗谷本線に連絡し、沿線は次第に開墾され馬鈴薯・大豆・蕎麥等の産を増加せり。

【天鹽川】北海道第二位の大河にして、我國屈指の長流。天鹽岳の西南腹に源を發し北見・天鹽兩山脈の間を西北流し天鹽町にて日本海に注ぐ。延長三〇三軒。支流は上流に於て創湖川・名寄川下流に於てアベシナイ川・阿寒別川・サラベツ川等あるも概して著しきものに乏しく、従つて流域は狭長を免れざるも河口附近に廣大なる天鹽平野を開す。豊平川・香成子府間の約一五軒は狹隘をなし兩岸山脚相迫るも、再び膨大の上流の約六・名寄・士別等の諸平野となる。上流の約六〇軒は極めて緩流にして、河口より約一八〇軒の上流にある名寄町附近の海拔も九九米に過ぎず。狹隘部を除けば岩石の露出箇所も稀にして舟楫の便頗る大なり。往古に於ては天鹽沿岸と内陸とを結ぶ唯一無二の交通路たりしも、現今は本流に當りて宗谷・天鹽の兩鐵道線が走り、僅に木材の流送に供せらるるに過ぎず。流域面積三五四方軒。

【天鹽山脈】北海道本島西北海岸の山脈。北は宗谷岬に起り南は石狩平野に没す。延長二五〇軒。山脈は主として中生層と之を不整合に被覆する古第三紀層より成る從形山の山地にて、南部には勢別火山群を呈し、勢別岳(一四二九米)・群別山(一三七六米)・濱登嶺(一二五八米)等並立し、中部にはピラミッド山(一〇三二米)等もあるも、概して八〇〇米以上の山岳を缺き、山頂には平夷面の保存が極めて良好にして、その點にては北見山脈とよく類似す。勿論、モナドノワタの小突起は各所に見らる。北部にては從形平夷面が海拔約三〇〇米、海蝕段丘面が二〇〇米に及びて識別困難なり。山地の東縁は斷層崖を以て中央階地帯に臨み、そこを北流する天鹽川は先行性と思はるる峽谷を以てこの山地を貫き、日本海に注ぐ。山地の西側には連続的に海成段丘が發達し、その最高は實に七五〇米に及ぶ。山地は根松等の森林帯をなして木材を供給すること多く、古第三紀層には有望なる石炭層を埋藏し、宗谷炭田・古南炭田・羽幌炭田・留萌炭田等著名にして合炭地層を穿鑿して海岸地方に分布する新第三紀層は石油を含み、最北端の層間には村井鐵業會社の採掘所あり。

【天鹽岳】北海道北見山脈の最高峯。親志支庁遠別郡上村と上川支庁上川郡上士別村との境上に聳え立つ。南方は上川支庁上川郡遠別村に延び、標高一五五八米。西麓より天鹽川、東麓より清川川

南斜面より石狩川の一支部内川源流す。西方は士別御料地をなす。

【天鹽線】省線宗谷線の一。天鹽郡天鹽町にあり。幌延村の宗谷本線幌延驛より遠別村の遠別驛に至る三七・八軒。この線は將來海岸に沿つて南下し羽幌線に接続すべきもの。

【テシカガ 弟子屈村】北海道釧路支庁釧路郡川上町の北部。阿寒国立公園の東部屈斜路・摩周湖沿岸とその南部を占め、南は標茶村に接し、北は北見國斜里・網走二郡に界す。面積七七八方軒餘。山岳地帯に屬し、西北部に屈斜路火口原あり、火口原屈斜路湖・跡佐登火山群を包含し四圍高嶺山サマツカリヌアリ岳・ニタムシケ山等の環壁に圍ま

る。また東部に海拔三五五米の火口湖摩周湖あり。湖畔湖邊をなし風光の美を以て知らる。屈斜路湖より發したる創湖川東南流し流域に河谷質地を開く。省線釧路線通じ南弟子屈・弟子屈・美瑛和川海の四驛(前二者は昭和四年、後二者は同五年設置)あり。温泉の湧出多く、硫黄を産し、木材も出す。夕染の湖(高さ一五米、巾三米)釣鐘の湖(高さ一五米、巾二米)北海道拓殖實業局・帯室林野局旭支局出張所等あり。弟子屈温泉・川海温泉附近は昭和十三年五月廿九日の大地震により道路崩壊し陸所に温泉湧出し、一時は交通杜絶せり。(弟子屈温泉)釧路川と釧路川との合流點にあり。泉質炭酸鹽

類。【七伏温泉】屈斜路湖の東北岸に位置す。(鶴別温泉)弟子屈温泉を距る西南約七百米。鶴別川邊にあり。明治三十一年より浴場を開く。泉質アルカリ泉。

【川海温泉】屈斜路湖の東北岸にある仁伏温泉の東方約三軒。硫黄山の北麓にあり。酸性泉。(和琴温泉)屈斜路湖南岸の湖中に突出せる和琴半島の頸部に湧出する露天風呂。浴槽は自然の岩盤を掘りしもの。

【テシカワラ 勅使河原】↓賀美村(増玉郡)

【テシマ 豊島】

【豊島(郡)】 豊津國(大阪府)の古郡名。戦日本紀稱徳天皇神護景雲三年紀に郡名初めて見ゆ。和名抄は手島と註し奉上・桑下・豊島・桑津・大明の五郷及び藤家・他戸各一を置く。後世、桑津郷を河邊郡に割く。明治二十九年能勢郡と合して豊能郡を統つ。

【豊島】 攝津國(大阪府)の古地名。和名抄に豊島郡豊島郷あり天と註す。延喜式左馬寮式に攝津國豊島郷とあるも亦この地ならん。中世には一部を豊島荘と稱す。地は豊能郡の北豊島・中豊島・南豊島三村の地に當り、郡家のありし處はいま池田町に入りたる北豊島村の大字西市場なりといふ。

【豊島河原】 大阪府豊能郡南豊島村の邊より兵庫縣河邊郡岡田村に亘る舊名川沿岸の古戰場。延元元年足利尊氏鎌倉にあ

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け二月六日官軍を豊島河原に迎へ、激戦數時に互りしが膠着せず、この時楠木正成は後れて來り會し、この狀勢を見て敵の背面を衝かんとして神崎方面へ廻りしかば、敵軍潰走し、尊氏も兵庫より船にて九州に走

りて坂を、兵を率て京都に攻上りしかば後醍醐天皇は、飯山に幸せられたまふ。既に於て備前守將軍源朝家は命を奉じて奥州の新守を率へ、尊氏の後を追ひて西上するに及びて、官軍はこれと力を協せ尊氏を討つ。尊氏は叶はずして兵庫に逃れ、朝家は新田義貞等と之を追撃せり。尊氏即ち弟直義に大兵を授け

テツオ——テツサ

テツオ 鐵鏡山 朝鮮平安南道五山郡智徳面・東面と成鏡南道水原郡横川面とに跨る山。北大峰山脈中の一峰にして標高一〇九五米に過ぎざるも、山勢秀拔、古來五山邑(西方六軒)の旗山として聞ゆ。平安南道・成鏡南道の分水界をなし、北麓を文倉江、南麓を東面江とせ、兩江は山の北西麓に合して馬蹄江となり次で大同江に注ぎ、また東斜面の水は龍興江となりて日本海に傾す。

テツカイ 鐵粉山 神戸市須磨區の西部、明石郡垂水町との境上にあり。標高約三〇〇米。鐵粉峯ともいふ。花崗岩より成る。この山の北方は鶴越にして南麓は一ノ谷なり。いづれも原平の古戰場として名高し。山腹に須磨より垂水に至る山道通じ、遺蹟に扇ヶ崎あり。ひらがな盛衰記・五ノ搦手の大將義經、平家の本陣、須磨の城を攻めんと有つて、鐵粉が嶺、鶴越、一ノ谷の遺跡し、手ばしかき謀知らせ申す。

テツゲン 鐵原 朝鮮江原道の鐵原及び平康の兩郡に跨る熔岩臺地。表裏兩朝鮮を連絡する唯一の通谷にして、鐵道京元線は此通谷に沿ひ敷設せるものにして此通谷は一大構造線をなし、世に謂はゆる竹駕嶺地帯と稱するものにして、鐵原黒原はこの構造線に沿ひ流動性に富む黒色玄武岩の噴出流動により覆はれ、高高三〇〇米内外の熔岩大平原を形成せるものなり。

のなり。鐵原の名は實に黒色玄武岩塊の累々たる平原の意より命名す。高原地帯は四面花崗岩山地に圍まれし中に展開せる一大熔岩平原にして、南は京畿・江原兩道の界より、北は平康郡高陽面洗浦に至る四〇軒、幅は平康邑中心地帯最も大にして約二〇軒、鐵原中心地帯これに次ぎ北の洗浦中心地帯最も小にして全面積實に約六五〇〇ヘクタールに達す。全面平にて僅かに西に傾き西麓には無數の湖沼横はり、濕原をなし蘆葦叢生す。平原面を流るる幾多の溪流は西南端に流路を求めて臨津江となり、一は東南隅に流路を求め熔岩臺地を深く切つて幼年期の侵蝕峡谷を造り漢津川をなし、のち臨津江に合す。高原は一帶に草原をなし久しく放棄されしが、最近土地改良及び水利事業盛となり内地農民の移住する者少なからず。耕地としてまた牧野として利用するに至る。

【鐵原郡】朝鮮江原道二十一郡の一。道の西北部に位置し、北は平康・伊川の兩郡に、東は金化郡に、西南及び南は京畿道に接す。面積八四一方軒餘。海拔二〇〇—五〇〇米の玄武岩より成る熔岩臺地にて、竹駕嶺地帯中にオーグアフローせるもの。高原上には曉風山(五九六米)を始め高峯山(八三二米)・金鶴山(九四七米)・高岩山・寶蓋山(八七七米)等々、高く聳ゆ。平原の最大なものは仙昌野・大也連野にて、耕地面積は道の首位にある。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮總督府鐵道局轄の一。成鏡南道の北部にあり。成鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て通湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礫石は通湖驛に送り通湖港より内地に船載す。

り。高原は水田化に努め、高岩山麓の蘆葉堤を始めとして甘塩堤・馬山堤等多くの灌漑貯水池を設け、臨津江の支流漢津川・羅谷川と相俟ち灌漑水利の便よく、寛涼たる原野も良米の産地と化せり。産物は米・大豆を第一とし、麻・絹布・陶器・生牛・蜂蜜等あり。鐵原に金・銀・硫化鐵・銅等あり。總督府鐵道京元線は郡のほぼ中央を西南—東北に縱貫し、大光里・鐵原・月井里等の停車場あり。鐵原よりは社線金剛山電氣鐵道を分岐して内金剛に達し金剛山探勝に便なり。行政上、一邑九面に分ち、郡廳を鐵原邑に置く。本郡は地形の關係上、古來軍事・交通上の要衝に當り、高句麗の鐵原、新羅の鐵城として知られ、のち新羅宣宗王の庶子弓裔、兵を起すや、高句麗の舊地を奪つてこゝに都し國を奉對と號し、宮室を修め奢侈を極む。その古都址は鐵原邑の北約一〇軒、今の北面洪元里にして城址及び殿礎の跡いまだ歴然たり。高麗太祖王建また此處に即位せしが幾許もなく都を開城に遷してより、初め東州、後に鐵原と改められ、地方的の中心となる。

【鐵原邑】朝鮮江原道鐵原郡の首邑。郡の中央よりや、東南に偏在し、地南北に長く、南端に於て京畿道龍川郡に接す。竹駕嶺地帯中に位置し、北半は二〇〇米深の平原をなすも、南半は高峯山(八三二米)・金鶴山の北斜面にて稍高く、漢津川の一支出流を南に流る。平原地帯は於

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮總督府鐵道局轄の一。成鏡南道の北部にあり。成鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て通湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礫石は通湖驛に送り通湖港より内地に船載す。

雲・中央の兩水利組合蒙利地域に屬し、米・大豆等の農産少からず。總督府鐵道京元線は北部を西南—東北に走り鐵原驛(大正元年設置)あり、京城へは南方一〇一軒餘、三時間にて達す。社線金剛山電氣鐵道は同驛より分岐して東南走し、四要・東鐵原の兩驛(共に大正十三年設置)あり。内金剛(鐵原驛より電車約二時間半にて達す。また邑内より伊川郡安峽・伊川方面に定期自動車の運轉あり。市街は鐵原驛の東南二軒餘にあり、バスを以て接続し、その東北部に東鐵原驛あり。人口一萬六千餘、道中春川邑につぐ都會地にして、この附近物資集散の中心をなし、鹽鐵大豆・米・鐵原牛等の取引盛にして牛市及び百貨店も立ち、特産に鐵原明納・率果(月井里産)あり、近時鐵粉製絲工場の設立を見、益々發展を加へんとす。鐵原郡廳・地方法院支廳・農事試験場分場・道立鐵原醫院・動物検査所支所・農業倉庫・農事學校等および金剛山電氣會社本社・中央水利組合、其他各種會社銀行等あり。邑内の南方花地里には裴忠詞字あり、李朝顯宗二年の創建にして忠臣金應河を祀る。なほ附近に弓裔城址・劉被岸寺等の名蹟舊蹟あり。

【鐵原郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西北部海邊にあり。西北は龍川郡、北は義州郡、東は宣川郡に境し、南方一帯は西朝鮮海に臨む。面積四五・五方

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮總督府鐵道局轄の一。成鏡南道の北部にあり。成鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て通湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礫石は通湖驛に送り通湖港より内地に船載す。

テツタ 哲多(郡) 備中國(岡山縣)

の中心車庫驛に過りしが、約二十年にして再び鐵山邑に復り、李太王十六年始めて鐵山郡と稱し今日に至る。三百餘年前仁祖五年に毛文龍の變あり、尙ほ元・明・金・清等との交戦の古跡を隨所に見、殊に日露戦争には我が陸軍の大部隊、梨花浦及び望東浦等より上陸進軍する等、古來重要な地なり。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮總督府鐵道局轄の一。成鏡南道の北部にあり。成鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て通湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礫石は通湖驛に送り通湖港より内地に船載す。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

BOKI

雲・中央の兩水利組合蒙利地域に屬し、米・大豆等の農産少からず。總督府鐵道京元線は北部を西南—東北に走り鐵原驛(大正元年設置)あり、京城へは南方一〇一軒餘、三時間にて達す。社線金剛山電氣鐵道は同驛より分岐して東南走し、四要・東鐵原の兩驛(共に大正十三年設置)あり。内金剛(鐵原驛より電車約二時間半にて達す。また邑内より伊川郡安峽・伊川方面に定期自動車の運轉あり。市街は鐵原驛の東南二軒餘にあり、バスを以て接続し、その東北部に東鐵原驛あり。人口一萬六千餘、道中春川邑につぐ都會地にして、この附近物資集散の中心をなし、鹽鐵大豆・米・鐵原牛等の取引盛にして牛市及び百貨店も立ち、特産に鐵原明納・率果(月井里産)あり、近時鐵粉製絲工場の設立を見、益々發展を加へんとす。鐵原郡廳・地方法院支廳・農事試験場分場・道立鐵原醫院・動物検査所支所・農業倉庫・農事學校等および金剛山電氣會社本社・中央水利組合、其他各種會社銀行等あり。邑内の南方花地里には裴忠詞字あり、李朝顯宗二年の創建にして忠臣金應河を祀る。なほ附近に弓裔城址・劉被岸寺等の名蹟舊蹟あり。

【鐵原郡】朝鮮平安北道一府十九郡の一。道の西北部海邊にあり。西北は龍川郡、北は義州郡、東は宣川郡に境し、南方一帯は西朝鮮海に臨む。面積四五・五方

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮總督府鐵道局轄の一。成鏡南道の北部にあり。成鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て通湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礫石は通湖驛に送り通湖港より内地に船載す。

テツボーズ 鐵砲洲 東京都

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮總督府鐵道局轄の一。成鏡南道の北部にあり。成鏡本線の羅興驛より分れて北西方の利原鐵山驛に通ず。延長三軒。此線は羅興驛より曾山驛を経て通湖線と連絡直通運轉をなし、鐵山より採掘せる礫石は通湖驛に送り通湖港より内地に船載す。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

BOKI

雲・中央の兩水利組合蒙利地域に屬し、米・大豆等の農産少からず。總督府鐵道京元線は北部を西南—東北に走り鐵原驛(大正元年設置)あり、京城へは南方一〇一軒餘、三時間にて達す。社線金剛山電氣鐵道は同驛より分岐して東南走し、四要・東鐵原の兩驛(共に大正十三年設置)あり。内金剛(鐵原驛より電車約二時間半にて達す。また邑内より伊川郡安峽・伊川方面に定期自動車の運轉あり。市街は鐵原驛の東南二軒餘にあり、バスを以て接続し、その東北部に東鐵原驛あり。人口一萬六千餘、道中春川邑につぐ都會地にして、この附近物資集散の中心をなし、鹽鐵大豆・米・鐵原牛等の取引盛にして牛市及び百貨店も立ち、特産に鐵原明納・率果(月井里産)あり、近時鐵粉製絲工場の設立を見、益々發展を加へんとす。鐵原郡廳・地方法院支廳・農事試験場分場・道立鐵原醫院・動物検査所支所・農業倉庫・農事學校等および金剛山電氣會社本社・中央水利組合、其他各種會社銀行等あり。邑内の南方花地里には裴忠詞字あり、李朝顯宗二年の創建にして忠臣金應河を祀る。なほ附近に弓裔城址・劉被岸寺等の名蹟舊蹟あり。

テツサ——テニア

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

【鐵原郡】朝鮮平安北道鐵原郡の東部。北麓に曉風山(三六六米)の聳ゆる他著しきものなく、南半部は土地極めて低平にして地味肥え清浦川の灌溉ありて農産豊かなり。産物は米・大豆・大麦・粟・麻・蠶草等あり。鐵原邑(中部洞)は面の西端に位置し、政治・交通の中心をなし、北方約一〇軒を東西に走る京義本線の車庫驛(站)・南市驛(龍川郡外上面)および西部臨海の登市洞(何れもバスを通じ、交通至便なり。郡廳・地方法院出張所等あり、市場は陰曆一・六の日に開き一箇年取引高十萬餘圓に達す。邑内を去る東北約四軒の雲岫山は奇岩を以て聞え、附近に石蜂藥水・雲岫山城・泉峰等あり、夏のハイキングに適す。

雲・中央の兩水利組合蒙利地域に屬し、米・大豆等の農産少からず。總督府鐵道京元線は北部を西南—東北に走り鐵原驛(大正元年設置)あり、京城へは南方一〇一軒餘、三時間にて達す。社線金剛山電氣鐵道は同驛より分岐して東南走し、四要・東鐵原の兩驛(共に大正十三年設置)あり。内金剛(鐵原驛より電車約二時間半にて達す。また邑内より伊川郡安峽・伊川方面に定期自動車の運轉あり。市街は鐵原驛の東南二軒餘にあり、バスを以て接続し、その東北部に東鐵原驛あり。人口一萬六千餘、道中春川邑につぐ都會地にして、この附近物資集散の中心をなし、鹽鐵大豆・米・鐵原牛等の取引盛にして牛市及び百貨店も立ち、特産に鐵原明納・率果(月井里産)あり、近時鐵粉製絲工場の設立を見、益々發展を加へんとす。鐵原郡廳・地方法院支廳・農事試験場分場・道立鐵原醫院・動物検査所支所・農業倉庫・農事學校等および金剛山電氣會社本社・中央水利組合、其他各種會社銀行等あり。邑内の南方花地里には裴忠詞字あり、李朝顯宗二年の創建にして忠臣金應河を祀る。なほ附近に弓裔城址・劉被岸寺等の名蹟舊蹟あり。

テノ——テミヤ

場ありてサイパン島の千二百英噸を遙に渡りし當に南洋第一位を占むるの盛況なり。これに次いで製粉工業・酒精製造・製氷業等を見るべきものあり。産業の發達は自ら目覺しき人口の増加を來し、大正十四年に於けるサイパン支廳全體の人口三五八七人なるに對し、昭和四年、即ち製糖工業の興りし翌年には本島のみにて一躍四〇七一人となり、同七年にはテニアン町設置せられ、同八年には八九九四人、同十二年には一五一二人、即ち四年毎に殆んど二倍或はそれ以上の人口増加を示せしことは、如何に新業の發展が目覺しきものなりしかを容易に知るを得。いま島内に小學校・郵便局在所・支廳出張所・郵便局等あり。

テノ 手野

【手野村】 熊本縣肥後國天草郡下島の北部。本波町の西北約四・五軒。北は二江川を距て、天草灘あり。西境に二百米、東境に百米内外の丘陵性山地連なり、中部を二江川北に流れ、沿岸にやゝ廣き低地ありて耕地開け土地肥沃、氣候溫和にして農耕に適し米・麥・甘藷を産し、特に松茸・鹿茸・藤蓐・木材あり。中部二江川に沿ひ縣道走り本波町にバス通す。明治維新前、手野村は井手・下内野の二村に分れ、附近四村と共に井手組と稱し井手村に大庄屋を置かる。明治二十三年町村制施行の際、井手・下内野の二村を合し各その一字を取りて手野村と稱す。

【手野】 古城村(熊本縣阿蘇郡) 山形縣西置賜郡豐川村の大字。米坂線の手ノ子驛(昭和六年設置)あり。

テノシヨ

【テノシヨ】 手莊村(岡山縣備中國川上郡の南部。高梁川支流成羽川の右岸に位置し、上房郡高梁町を距る西南約一二軒、面積三六方軒餘。高度二三百米内外の高酸性山地廣く、成羽川の支流中部を西南より東北流し北界にて成羽川に合す。流域の河谷低地に耕地拓く。山地よりは薪炭を出し、糞糞行はれまた米・麥・蕎麥芋・干柿・酒等の産あり。高梁町へ自動車のあるも交通は不便なり。村名は舊庄名にして、いま大字に地頭・領家の名あり、蓋し莊の首邑たりしものなるべし。(「野宮谷」指定名勝。本村及び富家村に亘る。成羽川の一支流が石炭層と角岩より成れる臺地を深く穿ち狭き峽谷を成せるものにて、高さ七〇〇米に達し右岸に連り、波状の凸凹をなして高く川の右岸に連り、白嶺・洞窟・打撃等の諸峯を呈す。洞窟嶺の中腹には一種乳洞あり、洞内より常に一定量の水流れ出で、神水川といふ。本流と相合して御合利の澤をなし、深き澗壑を成せる御合利洞と共に峽中景勝の中心たり。

テバ 出羽島

【テバ】 出羽島(徳島縣) 土佐縣大里郡にありし村。明治二十三年八井村と改稱す。

テラ 出湯

【テラ】 出湯(新潟縣北蒲原郡) 出湯に發着し手宮丸機間の鐵道の一部。主として石炭の掘出用に、手宮驛には海中に突出するコールピーヤ(石炭積積)設けらる。

テラ 且良・氏良

【テラ】 且良・氏良(信濃國(長野縣)の古地名。和名抄に諏訪郡且良郷と見ゆ。高山寺本は且良に作る。其地詳かなりざるも今隣接せる上伊那郡に手良村あり、これ地名の遺存なるか。さすれば郷域は同郡藤澤・長藤・手良・須藤・東其輪の諸村に亘る地方ならん。諏訪下社寶徳三年の文書に伊奈郡且良郷と見ゆれば、その伊奈郡に入りしは蓋し室町時代の頃なるべし。

テラ 手良村

【テラ】 手良村(長野縣信濃國上伊那郡の北部。高梁町の西北、美郷村の北に接す。面積二五方軒餘。伊那山脈の北部にて、東境には鉢伏山(一四五五米)、西界には不動ヶ峯(二二〇〇米)峙ちて西南に急斜し、大部分は山地なるも西南部は伊那谷の一部をなし土地平にして桑園多く養蠶を主とし、製糖行はれまた米の産あり。西部山麓に沿ひて道路通じ高梁町・伊那町へバスの便あり。この地は和名抄諏訪郡且良郷の内なるべし。町村制施行の際に中坪村・野口村・下手良村・八平村の舊四箇村を合して本村を置く。

テラ 寺島

【テラ】 寺島(長崎縣西彼杵郡の西北部にある島。本土とは呼子ノ瀬戸を以て隔

テユ——テラウ

【テハラ】 手原(滋賀縣栗太郡栗山村の大字。草津線の手原驛(大正十一年設置)を置く。

テマ 手間・手万・天萬

【手間村】 鳥取縣伯耆國西伯郡の西部。米子市の東南約六軒。東北は五千石村に隣接す。面積六・五方軒餘。西南境と東部に高度二百米程度の丘陵地ある外は日野川下流々城の平野にて概ね肥沃なる平地をなす。水田よく拓け農産に米・蕎麥・畜産に牛馬、工業に生絲及び足袋・紙綿等の産あり。社線伯耆電鐵中部と南西に通じ大字天萬に手間驛(大正十三年開業)を設け交通不便ならず。この地は和名抄命見郡天萬郷の内か。(「賀茂神社」大字宮前に鎮座。神社、阿運銀高彦根命、別當命。創建年代詳ならずも、貞觀十三年の棟札を藏するを以て其古社たるを知るべし。古來、舊風川の庄十一ヶ村の總社にして賀茂大明神と稱せり。例祭、十月九日。「大安寺」大字天萬にあり。曹洞宗。靈岳山と號す。永祿の頃尾高城主相原盛重の開基に傳り、本尊は觀世音。境内に大五輪塔あり。併に大菩薩と稱し一梵字を刻す。開基盛重の供養塔ならんといふ。

テマ 寺内

【寺内町】 秋田縣秋田郡秋田市の南部。秋田市と土崎港町との間に介在し、西は地物川を隔て河邊郡野屋町に對す。面積約八方軒。雄物川に沿ひ西部は高清水丘陵をなし、東部及び北部は平坦にして水田拓け米を産す。高清水丘陵には旭川油田あり。各油井よりは送油鐵管によりて土崎港町の製油所へ輸送さる。羽州街道は東南より西北に通じ、秋田市・土崎港町のバスの便あり。また町の東部に此兩郡市を繋ぐ電氣通じ交通便なり。此地は和名抄、秋田郡高泉郷の内にして名稱は天長年中の地にありし四天王寺の寺内といふより起るといふ。天平年中秋田城の設かれし所。また國幣小社古四王神社あり。(「秋田城」また「野田」に作る。大字寺内の高清水岡に址あり。天平五年出羽橋を移し天平寶字五年竣工、秋田城と稱し蝦夷に備ふ。延暦二十三年廢し後重ねて置ても平安末に廢す。いま土壘の一部を残存す。(古四王神社)大字寺内に鎮座。國幣小社。祭神、武甕槌神・大

【テマ】 呈妹(備中國(岡山縣)の古地名。和名抄に下道郡呈妹郷見ゆ。別本は吳妹に作りタレと訓ずるも、高山寺本には呈妹に作り氏末と註するによりこれに従ふ。後世また呈妹郷ともいふ。いま川上郡の玉川村の大字に玉あり、玉は即ち呈妹の轉訛ならんといふ。さすれば郷域は玉川村の外、成羽町・落合村の各一部に亘る地をいひしものならん。

テマ 出丸村

【テマ】 出丸村(埼玉縣武藏國比企郡の東南隅。川越市の東北方約四軒餘にあり。東は荒川によりて北足立郡川谷村・大石村・平方町に界す。面積約七・二方軒。東境の荒川、南境の入間川に挟まれたる地域に當り、全村平坦にして地多し、西部には水田あり。麥を主産し他に米・蕎麥を産す。この地は和名抄、比企郡消遣郷の内。

テマ 手宮

【手宮】 北海道小樽市の町。手宮線の一驛手宮(明治十三年設置)を置く。驛の北方約一軒に手宮公園あり。園内の手宮洞窟は異様の文字を以て著名なり。【手宮驛】 省線函館線の同一。小樽市永井町の函館本線南小樽驛より同市手宮町の手宮驛に至る二・八軒。明治十三年北海道。崇神天皇十代、大彦命をして北國を巡遊せしめし時、命の地に武甕槌神を祭りしを以てその起原とす。延暦二十年坂上田村麿東征してこゝに至り、武甕川別命外二神を合祀すといふ。江戸時代社領五十石を有す。例祭、五月七日・八日。(「日吉八幡神社」大字八幡に鎮座。祭神、大山作命。住古は秋田郡新城岡村に鎮座し、後醍醐天皇元亨二年社殿を修造せりと傳へ、のち三轉して現地に遷座。例祭、陰曆四月中の未申の日及び八月十四日・十五日。(西来院)曹洞宗。もと根枝山にありて松原補陀寺二世無等良雄律師の閉居地なりしを、後世現地に轉せりといふ。また一説に補陀寺の良殿和尚五百羅漢を作らんとす祈願を發し、龍神堂の傍に當寺を興して五百羅漢を安置すといふ。(「歸命寺」大字八橋にあり。天台宗。念來山と號す。住古八百屋久兵衛の蝦お七が情夫たりし吉三郎の出家して秋田に下り、當寺の住持となり生きたがら入定すといふも、入定の僧實は虎狼の賊にして、其の禪洞に處せられしかど深手を忍びて其場を遁過し、のち遂に頭陀となりて當寺に住し飯飯を隠さんが爲に入定せしものといふ。境内に伊人五明の墓あり。「寶塔寺」大字八幡にあり。日蓮宗。創建年次開山等不詳。もと眞言宗なりしといふ。寺地甚だ覺絶に富み男鹿半島を一併に收む。山上に五重塔あり。即ち寺名これに由来す。境内

徳丸

テラウー—テラシ

に芭蕉翁・五明の句碑あり。(「全良寺」) 大字八橋にあり。臨濟宗妙心寺派。大智山。承應三年、澁江宇衛門隆光の草創にして、新洲祖嶺を開山とす。舊寺領五十石。戊辰役に際し官軍墳墓の地となり、明治九年、東北巡幸の時に勅使御遊幸あり、爾來官修墳墓の地と稱せらる。

テラオ 寺尾

【寺尾村】 栃木縣下野國下都賀郡の西北隅。栃木市の西北方約七軒にあり。北は上都賀郡の船尾村、西は安藤郡葛生町、常盤村に隣る。面積三六方軒餘。足尾山塊東部の一支脈の東谷水野川中流の各地を占む。西境には三峰山(六〇五米)、東境には矢倉山(五九九米)の山地連りて共に東南に低下す。山地は森林多く川沿ひの狭き平地は耕地をなす。米・蕎麥・粟を産し、又石灰の産地として有名なり。縣道は川沿ひに走りて栃木市に通じバス(委文郷の誤ならん)の内に屬せしものゝ如し。大字出流に石灰洞あり、千手院の境内にして俗に出流山奥院靈宮といふ。洞窟は觀音堂の背後約三〇〇米の間に開口し、東にあるを大郎の窟または獅子ノ窟といひ、次を奥院ノ窟、西なるを大日ノ窟と稱す。(瀧頭寺) 大字出流にあり。新義真言宗智山派。出流山千手院。

テラギ

【テラギ 照來村】 兵庫縣但馬國美方の略中央部。日本海岸にある濱坂町の南方約一〇軒、東北は温泉町に、東南は射野村に隣接す。面積二四方軒餘。四境山地を繞らし、東南境にての最高處は八七〇米を示す。中央部に低地ありて聚落發達し、農を主として米・蕎麥を産し、また木炭・牛等を出す。國道山陰街道に近きも、村内の交通は未だ便ならず。

テラサコ 寺迫

【テラサコ 寺迫】 熊本縣熊託郡にありし村。明治三十一年本村外二村を廢し西里村を建つ。

テラザワ 寺澤

【テラザワ 寺澤】 國本村、只樹木縣河内郡。

テラジマ 寺島

【テラジマ 寺島】 東京市向島區の町名。以前は南葛飾郡の町なりしが昭和七年他の二箇町村と向島區をなす。隅田川の東岸にありて、向島區の中心にして自備橋により淺草區と通ず。有名なる自備神社及び百花園あり。以前は植木屋の多きところなりしが、今は漸次工業區となり三共製鐵會社工場・日本電報・隅田川製鐵所・小島ゴム製作所等の大工場出現し、その間に労働者の住宅地が介在す。東部に玉ノ井あり。東武鐵道は町を南北に縱貫し、京成電車は町の東部を横切る。

テラシヨ 寺庄村

【テラシヨ 寺庄村】 滋賀縣近江國甲賀郡の中部。野洲川上支樋川の右岸に位し、北は水口町、貴生川村に接す。東北半部は一五〇米—二〇〇米程度の高地性丘陵にして森林をなし、樋川に

沿ふ西南半部は低地にて田畑よく拓け、米・蕎麥を産し、桑葉・茶・穀類作物、菜種も産あり。林産物も豊富。川に沿ひ拓けに至る縣道より大字深川市場・寺庄等の街村聚落あり、またこれより分れて東方に走り舊東海道に連絡するものあり、各自動車を通ず。省線草津線また拓城街道に並行して深川驛(明治二十三年設置)ありて交通便なり。村名は蓋し飯道寺(北楢村)の寺領たりしに因るものならん。(矢川神社) 大字養尾に鎮座。鎮座。祭神、大己貴命・矢川枝麻命。人皇以前の鎮座と傳へらる。往古より世の崇敬篤く、經喜式内小社に列せらる。例祭、五月一日。(淨福寺) 大字深川にあり。天台宗。金光山。寺傳に經曆年間、最澄の叡山根本中堂創建の礎、當山に入りて十一面觀世音像を刻みて安置すといふ。本尊十一面千手觀世音像(木造)一軀は西原末期の作にて國寶たり。

テラタ 寺田

【寺田村】 岩手縣陸中國岩手郡の北部。沼宮内町の西方約一〇軒。北は二戸郡兼澤村に隣る。面積約七二方軒。北に火山七時雨山(一〇六〇米)、西に御月山(九五四米)あり。北部・西部はその斜面にて東南に向ひて緩く傾斜す。赤川の支流は七時雨山の東側に出で南流して南隣平館村に出でその下流沿岸に耕地拓く。米・大豆・蕎麥・蕎麥の産あり。南部は省線花輪線平館驛(平館村)へ近く交通不便

テラタ—テラツ

文武天皇朝、役小角遊化して當山の靈窟に觀法し、行基菩薩また來りて此處に修練す。天平年中藤原上人來り始めて本寺を開創す。弘仁十一年弘法大師此處に留錫し、本尊千手觀音を刻みて安置す。本寺は日光山との關係深きを以て徳川氏に優遇され、朱印五十石を附し、守護使不入の地として十萬石の格式を與へ、且つ司法行政の執行権を與へらる。寺地は出流山腹にありて、坂東三十三箇所第十七番の札所。登殿を以て名高し。境内の大御堂は坂東札所第七番たり。詠歌「ふるさとをばる／＼こゝに立出る我行末はいづこなるらむ」

寺尾村

【寺尾村】 長野縣信濃國埴科郡の北部。千曲川右岸に沿ひ、松代町に北隣す。東は上高井郡に、北及び西は川を隔て、更級郡に對す。面積一〇方軒餘。東南隅に奇妙山(一一〇〇米)ありて山嶺西北に傾斜し、麓は山地をなし平地は北部と西部の河岸に開く。養蠶を主とし、生絲を産し、米作また行はる。村の北部に温泉湧出す。社線長野電線は山麓に沿ひて村を貫通し、大字架に金井山驛(大正十一年開業)を設く。縣道また中部を斜に走りて南は松代町、東北は須坂町(上高井郡)

寺田村

【寺田村】 富山縣越中國中新川郡の西北部。五百石町の北に接し富山市の東方約八軒。面積四・六方軒に過ぎず。富山平野の東部に於て白岩川の支流これを潤し土地平坦、灌漑の便よく水田多し。米作を主とす。社線富山電線の寺田驛(昭和六年設置)ありて立山山麓岩崎寺方面へ支線分岐す。東は上市町、南は五百石町、西は富山市へ縣道ありてバスの便あり。此地は中世以降に高野郡と稱せられ、いま大字に高野の名遺る。(照名寺) 大字浦田新にあり。眞宗本願寺派。往昔行基菩薩北國巡錫の時、此地に留まり、山王二十一社の内獅子頭を作り以て本村の鎮護となす。のち佛性寺城主細川氏この地に七堂伽藍を創建し、十二坊を置く。明治二年現宗に轉す。

寺田町

【寺田町】 京都府山城國久世郡の南部。木津川の右岸に位し東北部は宇治町の東南に接し東西に細長く東境及び西境は經喜郡に接す。東境に高さ二百米の山地ありて西方に緩く傾斜し、山麓は中部にて臺地狀をなし、西半は京都盆地南部の低地にて田畑よく拓く。米を主とし蕎麥の産あり。山麓の傾斜地に茶、其他に梨等の果物、山地には木材・薪炭を出す。奈良街道・省線奈良線・社線奈良電線中部を縱貫し、奈良電線の寺田驛(昭和三年開業)あり、奈良線の長池驛(富野莊村)にも近く交通便なり。(水主神社) 大字水主に鎮座。祭神、天照御魂神外九尊。貞觀八年に神位從四位上に叙す。式内大社に列し月次・新嘗・新年・歳上及び祈雨の幣に預る。攝社に權井月神社あり、本社同形式内大社たり。例祭、十月三日。(水産神社) 大字寺田に鎮座。府社。祭神、天照大神外二神。水産は水産にして、此地淡水ありたれば海神豊玉彦の女豊玉姫を勧請せるに創まるならん。經喜の制三座並に式内社に列し祈年祭に預る。本殿は一間社流造、正面千鳥破風屋根檜皮葺、文安五年の建築にて現に國寶たり。例祭、九月三十日。

テラダチヨ 寺田町

【テラダチヨ 寺田町】 城東線の一驛(昭和七年設置)。大阪市東成區南生野町にあり。

テラツ 寺津

【寺津村】 山形縣羽前國東村山郡の北部。天童町の西方約五軒。西は西村山郡寒河江町に隣る。面積三・三三三方軒の小村。山形盆地の中央に位し、最上川は村の西部に近く北流し、支流須川は南部を西流

テラツ

してこれに會す。土地平坦にして西北の最上川に近き部分には桑園、東部には水田よく發達し、米・蕎麥を産す。道路は村の北西部より東南部に通じ、東南方奥羽本線津山驛(出羽村)へは約四・五軒。西北方左澤線寒河江驛へは約五軒なるも、交通は便ならず。

寺津町

【寺津町】 愛知縣三河國幡豆郡の西南部。西尾町の西南方約四軒。その間に平坂町を挟み、南は一色町に接し、南は瀧美郷に隣る。面積約四・六方軒。矢作川下流の三角洲上に位し、土地低平肥沃、水田多く米・蕎麥・西瓜・野菜等の農産あり、また養蠶・養蠶・養蠶等の副業の外、生絲・土管等の工業を出す。社線三河鐵道(電車)東部を貫通し、寺津驛(大正十五年開業)・北寺津驛(昭和二年開業)を置く。平坂・一色兩町へはバスの便あり。其他、前芝港及び大演港へ發動機船便ありて水陸共に交通便なり。明治三十九年寺津村及び西崎村を廢し、新たに寺津村を置き、昭和四年町制を布く。もと此地は大河内郡と稱せられ、三河吉田城主大河内氏の發祥地。多田氏の族と稱するも攝津凡河内氏の後にして郷名も此氏より出でしものか。子孫は徳川氏に仕へ、武藏忍・川越・古河に移り、信濃に至りて吉田の城主となり、又その族、上總大多喜城主となる。「八幡社」大字寺津に鎮座。鎮座。祭神、譽田別尊。創建年次不詳なるも、永正年間社殿造替の棟札を藏

テラト—テラハ

す。舊大川神社。例祭、十月十五日。
(美園寺) 大字寺津にあり。淳土宗西山
派。金藏山と號す。應永十五年奉玄上人
の開創。十一世顯上人は後陽成天皇の
勅命にて参内し阿彌陀經を授譯し、金藏
山養賢寺の勸願を賜ふ。のち徳川家康來
山し之を賞し寺領朱印二十一石を寄す。
(常福寺) 大字刈宿にあり。淳土宗西山
派。傳公上人(享徳元年九月寂)の開立。
上人は多田左近將監當福公の三男、滿國
寺傳長の弟。現に末院二ヶ寺を有す。

テラドマリ 寺泊町

新瀨縣越後國
三島郡の北部。西は日本海に面し、
東北は西蒲原郡の西南部に界し、南西方
約八軒に出雲崎町あり。面積約三七・五
方軒。南半は西山丘陵の北端部に高さ
約百米内外を示し西は海岸に向つて急斜
し、東面に緩く傾き島崎川北流し土地平
坦にして水田拓く。北半は北境に勢ゆる
彌彦山(五八六米)の山地にて西方に急斜
し、海岸に狭長の低地あるのみ。中野の
低所は東隣大津村大川津より分疏せら
れたる信濃川分水路に利用せらる。東部
の葉落は農業に従ひ米産多く、西岸には
漁業行はる。西岸の寺泊は古く舊北陸道
の一驛、また佐渡への渡頭として發達せ
る所にして典型的の街村聚落をなす。今
は社線長岡鐵道の終點寺泊驛(大正四年
開業)あり、東隣の大津津驛(大津津村
内)にて省線越後線に連絡す。北陸道に
はバス通じて南は出雲崎、北は彌彦への

交通便利なり。また海上は佐渡・新潟・
出雲崎・直江津諸港へ舟運の便あり。北
陸道の舊驛にして古來佐渡への航津とし
て名高く、古名を伊波之渡戸津といふ。
弘仁十三年國分寺の尼法光、布施屋を古
志郡渡戸津に建て往還の人を濟度したる
より寺泊の名起るといふ。古書多く寺泊
浦となす。鎌倉の初期より民家漸く開け
漸次繁盛に赴きしが如し。承久三年七月
順徳上皇佐渡遷幸の朝、此地の驛長菊屋
が館に御駐蹕あらせらる。また吉野朝の
時、宗良親王此地に來り附近の家族を招
き給ひし時亦菊屋が館は其御陣營とな
りしものならん。文永八年十月僧日蓮、
佐渡へ配流のとき此地の石川吉興の家
に寓す。法福寺(俗に法福堂といふ)は其事
蹟を傳ふ。幕末の勤王本間精一郎(贈
從五位)は此地の人とす。好色一代男・三
いかに北國のはてなればとて、あなど
りたまふな、寺泊といふ所に、傾城町あ
り、いざ見せ申さばやと、幕方よりそこ
に行て見るに、隔子局といふ事もなく、
軒まばらなる板屋に、或は五人三人居な
がれて、其さま笑し(寺泊鎮泉)大正
十一年日本石油会社が鑿井の際發見せし
もの。泉質アルカリ性食鹽泉。温度稍低
きため地中より噴出する天然瓦斯を利用
し加熱す。(明治天皇寺泊行在所跡及建
物)指定史蹟。明治十一年明治天皇北陸
東海巡幸の際、九月十五日御遊幸を召さ
れたる處にして、建物は同二十一年取除

き養泉寺境内に移して保存せらる。趾地
には同年建設に係る註釋之碑と題する碑
あり。(西生寺) 大字野積にあり。新義
真言宗智山派。海雲山。俗に弘智さまと
稱し、北越前指の靈場として衆庶の信仰
をあつむ。神龜年中行基の開創に係り、
往時は北條貞時、蒲原の豪族水阿彌氏等
の尊崇厚く、近世は寺領二百五十石を有
せり。(圓福寺) 曹洞宗。露王山と號し
文治年間佐藤忠信の宅跡を佛宇となせし
といふ。本尊釋迦牟尼佛。境内に忠信・
嗣信兄弟退屈の塔あり。(照明寺) 新義
真言宗智山派。如意山と號す。永承二年
高野山龍光院の榮秀法印、弘法大師作正
聖觀音の木像を遷持し來りて草創せし所
にして、もと寺内に六坊ありしが、今は
二坊を残すのみ。境内の觀音堂は當國三
十三番の札所たり。詠歌「麓の浦なみの
夜ひる世を照す佛のちかひたのまねはな
し」(法福寺) 日蓮宗。寺泊山と號す。
もと天台宗にして、善法法師の開創に係
り、傳教大師法華修業の舊蹟たり。のち
日傳和尚、日蓮上人に歸依して改宗す。
往時は五ヶ坊ありしも、今は一坊のみ僅
かに寺跡を存す。(生福寺) 淳土宗。八
木山と號し、嘉祿三年の開創に係る。本
尊は三尊の阿彌陀如來なり。

テラニシ 寺西村

廣島縣安藝國賀
茂郡の北部。西條町の西に隣接し、面積
約一二方軒。東北境に高さ五百米臺の山
地あるも、中部より南西部は西條盆地の

一部にて土地平坦、耕地よく拓く。山陽
道及び縣道と省線山陽本線とは共に南北
に走り交通便利なり。農業に米・麥・蕎、
特産に松茸あり。舊藩時代は寺家區。西
條東區の二區なりしが、町村制施行の際
兩區を合併して寺西村と改稱。寺家區に
は寺院頗る多かりしため此名ありと。今
なほ寺跡塔石等あり。西條東とは西條盆
地の東邊に位置するよりかく呼びしもの。
【寺野】 寺野町
【寺野村】 新瀨縣越後國中頸城郡の東部。
新井町の東南方約六軒、長野縣下水内郡
との境上に勢ゆる黒倉山(二二八九米)の
西北麓にあり。面積一七方軒。東南半部
は黒倉山西斜面の山地、西半部は緩く西
北方に傾くも水田よく拓け米産を主とし
山地よりは林産を出す。中部を西北に下
る荒川の支流に沿ひ道路通ずるも、交通
未だ便ならず。
【寺野】 愛知縣西春日井郡にありし村。
明治三十九年本村はか二町一村を廢し新
川町を置く。

テラノウチ 寺之内通

京都市上
京區の横の通りの一。天正年間の開通。
上立賣通の北に並び東は室町通より起り
西は衣笠に至る。豊臣秀吉、京都の復興
を行ふに當り、市内に散在せる寺院を此
の通と東京橋とに移轉せしむ。故に寺之
内の名あり。※寺町
テラバヤシ 寺林 岩手縣神宮郡の
地名。南・北・中の三寺林に分れ、何れも

今大字となる。右の内、北寺林は石鳥谷
町に入り中・南の寺林は八幡村に入る。
中寺林には中世河野通重の居りし館址あ
り。その地に通重の子通次が入道して建
立せる時宗の光林寺あり。

テラハラ 寺原村

茨城縣下總國北
相馬郡の中部。利根川・小貝川の間中地
帯の一部を占め、南は井野村及び取手町
に隣る。面積五・四方軒。西部は臺地な
るも他は低地にて水田多し。米を主産し
他に大麥・小麥等を産す。取手町・水街
並間の區道通じてバスの便あり。また社
線常磐鐵道は西部を西北に走りて寺原
驛(大正二年開業)あり。村名は明治二十
二年寺田・桑原二村を合して一村を建つ
の際、各その一字を取りて寺原村とす。
(東瀨寺) 大字寺田にあり。天台宗。天
正二年の開創に係る。本尊阿彌陀如來。
寺寶に傳中將經作蓮絲曼荼羅を藏す。

テラヘ 寺部

愛知縣西加茂郡にあり
し村。明治三十九年本村はか七村を廢し
高橋村を置く。

テラマエ 寺前村

兵庫縣播磨
國神崎郡の北部。姫路市の北約二五方軒。
東北の生野町(朝來郡)へは約一〇方軒を隔
て、西南は飾磨郡の北部に、西北は宍粟
郡の東邊に界す。面積五三方軒に近し。
西南の郡境には高度七百乃至一千里の山
嶺連り、北境にも同程度の山嶺あり概ね
山地をなす。市川東部を南流し北西部よ
り來る支流を入れて東隣栗賀村に出づ。

テラハ—テワ

これらの河谷に沿ひて巾狭き低地ありて
耕地ありて、農業に米・蕎、稗麥・小麥・蔬
菜・食用農産物・鶏卵・果實・海苔等もあ
り。また工業に紙・醬油の産額多く、蠶
製品・双物・蠶裘等をも出す。また三方
村・長谷村にも互る琢鑲山山よりは亞磁
鐵を産出す。經路・出石間の區道、省線
播但線は共に東部市川筋を南北に走りて
後者は大字殿治に寺前驛(明治二十七年
設置)を置き、前者にはバスの通じて交通
不便ならず。村内に太田池あり、高さ一
六四米、幅三米。

テラマチ 寺町

【寺町通】 京都市の縱の大通の一。凡そ
平安京の東端大路を通り、北は鞍馬口
通に起り、南は五條通に至り新寺町通に
接続す。天正年間に豊臣秀吉京都を復興
するに當り、市内に散在せる佛刹を此の
通の東側に移轉せしむ。故に寺町の稱あ
り。烏丸通・河原町通と共に京都の縱の
賑かなる大通の一。
【寺町】 大阪市東區の町名。谷町六丁目
の南に隣接し、東に南橋谷町、西に谷町
七丁目烏丸町と並行す。但し北區にも同
名の町あり。曾根崎心中「これ長藏、お
れは後から往のほどに、其方は寺町の久
本寺様、長久寺様、上町から尾敷方廻つ
て、さうして内へ往にや」

テラヤマ 寺山

河内國(大阪府)の古
地名。日本書紀經曆十八年三月の條に見
ゆ。即ち菅原眞道等の祖葛井・船・津三

氏の墓地は河内國丹波郡中寺の南にあり
名づけて寺山と云ふ云々とあり。野中寺
は名所國會に從へば野上村にあり、野上
はいま南河内縣城生村の北部にある大字
なり。さすれば寺山は城生村の地に求む
べけれど、また葛井氏の墓地の葛井寺は
野中寺の東北に當り、津氏の祖神大津社
も亦野中寺の西北にあり、船氏の祖廟も
遙に東方なる園分村にあれば、後紀記載
の方向は或は誤りならんか。從つて寺山
の位置詳かならず。後考を俟つ。

テリフリチヨ 照降町

東京市日本橋區の江戸橋の北詰より東に
折れて親父橋に至る大橋を稱す。もと此
處には傘・足駄・雪駄等、晴雨兩様の必
要品を賣る店軒を列ね居りしにより、か
く稱せりと云ふ。登美賣屋住「名にしあ
ふてりふり町と勞町の中にかけたる橋の
名も、六ツかしそなややじ橋、しあ
んざかりとむだ盛り、ふたりつれ立町と
町」船頭部屋「照降町じやアございや
せんが、顔をふんだりさしやつたり、下
駄傘の商賣づく、てりふりなしにしてお
くが、どららくものさ」

テルオカ 光岡村

大分縣豊後
國日田郡の西北部。日田町の西に隣り、
南は筑後川上流を隔てて五和村に對す。
面積一〇方軒餘。西半は日田盆地の西を
限る高度約三〇〇米の山地なるも、東半
は日田盆地に屬し土地平坦、筑後川その
南境に沿ひて西流し、田畑拓けて米・麥・

粟等を出す。縣道と省線久大本線は共に東
西に走り、前者は東隣日田町より南隣夜
明村へのバスの往來あり、後者は東部の
大字友田に光岡驛(昭和九年設置)を置き
交通便なり。古くは和名抄、日高郡日理
郷の内に屬せしか、大字渡里は其遺稱な
らん。大字友田に星隈公園あり。日田三
隈山の一にして四時鐘聲を落へ、山脚は
江に臨み風光明媚の小丘なり。山上に星
隈神社、山腹に數十の横穴古墳、山麓に
高塚式の三郎九古墳あり。(若八幡神社)
大字友田に鎮座。郷社。祭神は仲瀨彦・
大鷲鷲命・良長尊姫命。社傳に延喜十一
年日田の郷主大藏大夫の勳績創祀せしも
のといふも詳ならず。例祭十月十七日。

テルカク 照岳

熊本縣球磨郡人吉
町の北方約六軒。同郡山江村と中原村と
の境上に位置する一峯。標高五〇六米。人
吉街道の要衝なるを以て、西南の役の際
賊軍これを死守せしが、遂に山田少將の
率ある別働隊に陥落せらる。北西麓に白
岩山(一〇〇二米)嶺き、南方脚下に球磨
川の清流を賦下す。

テワ 出羽

【出羽(國)】 奥羽の西部日本海方面の地。
いま分れて羽前・羽後の兩國となる。も
とは今の北陸道諸國より出羽・津輕・北海
道までを籠めて漠然と越の國と汎稱し、
古志人即ち蝦夷の住所として知られしが
恐らく天武天皇の御代の頃に、越の國を
分ちて前中後の三國となすに當りて、今

テワ——テワ

の越後の西四郡は越中国に属し、信濃川以東、出羽・津輕・北海道までは、すべて越後國の管する所となる。出羽の國名、古くは之をイダハといふ。越の山嶺の義なりと解せらる。元明天皇和銅元年九月越後國に出羽郡を置く。今の山形縣庄内地方、最上川以南の地なるべし。是より先、天武天皇十一年四月、越の蝦夷伊高城郡等、俘人七十戸を以て一郡となさんと請ひて許さる。こゝに俘人とは熟化したる蝦夷にして後の俘囚に當る。皇化次第に僻陋の地に及び、こゝに出羽の地に於て、熟蕃の郡が編置せられたるものなるべく、蓋し後の出羽郡の基礎となせしものか。出羽郡こゝに置かれて、日本海方面夷地經營の據地となる。大化四年磐井を治して以て蝦夷に備へ、越と信濃との民を遷んで始めて瀬戸を置くとあるは、當時なほ越後の北部に於て、蝦夷の侵略を警むる要ありしことを示す。其後、五十餘年を経て文武天皇四年に至り、更に之に修理を加ふ。ついで大寶二年に至り、越中の東半四郡を割いて越後國に併す。蓋し夷地經營に對して國力の充實を圖れるものと解すべく、こゝに出羽郡の設置を見たるは、此の方面に於ける經營の業の大いに前進せるを示せるなり。かくて翌和銅二年三月、征越後蝦夷將軍の任命あり、同七月、諸國をして兵器を出羽郡に運送せしめ、ついで越前・越中・越後・佐渡の四國をして、船一百艘を征狄所に送らしむ。斯くの如くにして其の經營者々進歩し、和銅五年九月に至り、遂に出羽國の設置を見る。當時太政官の議奏に曰く、國を建て國を固くに武功の貴ぶ所なり。官を設け民を撫するは文教の崇ぶ所なり。其の北道の蝦夷遠く險阻を懸かす。官軍の常警より、山賊難治し、狄部憂鬱として皇民擾るゝ事なし。誠に見むらくは便りに時機に乗じ、遂に一國を置きて以て司宰を樹て、永く百姓を供めん」と。以て其の事情を觀るべし。此の頃最上川上流地方は既に磐井方面より皇化進展して、既に最上・置賜の二郡あり。中にも置賜郡の設置は持統天皇の御代以前にありしもの、如く、同天皇の三年陸奥の保摩郡の城夷の蝦夷出入道の事見ゆ。こゝに至りて此の二郡を陸奥より割いて出羽の國に屬す。されば當初の出羽國の管する所、主として今の山形縣地方にして、其の以北秋田縣より、津輕・北海道に至るまでは、漠然此の國の中に收められたりしものとす。養老二年出羽の渡島の蝦夷馬を貢するの事あり。渡島は今の北海道なり。其の所屬以て觀るべし。かくて越後地を西方に増し、東北に失ひて、今國境をなすに至れるなり。夷地の經營は内地人を夷地に移して地を拓き、民を教導するにあり。又一方には夷人を内地諸國に移し、二代間糧食を供給する程の優待條件を以

て之を日本民族化せん事に努力せり。和銅七年尾張・上野・信濃・越後の民二百戸を出羽郡に配り、翌靈龜元年、出羽の蝦夷來朝の事あり、二年更に上野・信濃・越前・越後四國の民各百戸を出羽國に移し、養老元年また信濃等四國の民各百戸を出羽郡に配し、同三年にも東海・東山・北陸三道の民二百戸を出羽郡に配すとあり。斯くの如くにして内地の農民種々夷地に進出し、日本海方面の拓殖大いに進歩す。出羽郡は曩きに置かれたる出羽郡の地にあり。大寶令に、夷地に近き諸郡の民府は城壁の中に安置し、農業時にのみ出でて田家に宿舎すべき事を規定す。蓋し夷人の襲撃より之を保護するもの。出羽郡は蓋し其の一なるべし。出羽郡後に置して田川郡に入る。今の東田川郡の域は是に當り、攝津は之を最上川の南、島島町附近に求むべきに似たり。然るに先年河内海部郡本鄉村に於て一大攝津を發見す。方柱に作成せる互村を密接して樹て建てて方形の地域を限る。其の四面各約六町、各面に大門あり。世間或は之を以て出羽郡址に擬す。而も位置到底相當せず。中に國分寺址あり。蓋し國分寺境内の外堀なるべし。天平五年に至りて出羽郡を秋田の高清水岡に遷す。是れ後の秋田城にして、海岸帯びに夷地の經營の大いに進出せるもの。蓋し我が國は海國にして海路による内地文化の進出は由來頗る古し。日本海方面にありては既

山形に置き、出羽の國事を管せしむ。子孫最上氏と稱す。當時出羽北部地方にありては、津輕の豪族安東氏南下して未代川流域地方を取り、其の族兩家に分れて土時海にありしものを渡氏と稱し、楡山にあるものを下國氏と稱す。後に下國貴季海家を併せ、秋田城と稱す。未代川流域より今の秋田地方すべて其の領する所となる。是れ秋田氏の祖なり。大江廣元の裔は置賜郡長井庄にありて長井氏を稱し、傳へて戰國時代に至りしが、後伊達氏の爲に滅ばされて其の地を奪はる。又山形の最上氏は最上・村山の二郡を、田川の武藏氏は最上川を越えて莊内地方の全部を、又平鹿の小野寺氏は始んど仙北三郡を、それ併合し、其外、仙北六郡に六郷氏、角館に戸澤氏あり。山形郡地方は所謂山形十二黨之分領す。中に最上義光最も勢あり。北に小野寺氏を逐し西に武藏氏の莊内を奪ひしが、やがて莊内は越後の上杉景勝の爲に奪はる。かくて天正十八年、豊臣秀吉小田原の北條氏を滅ぼして關東地方を平定するや、其の餘威を以て翌十九年奥羽に臨み、其の來る事速きものは多く之を國除して、大いに諸將の入れ替へを行ふ。先づ以て伊達政宗の所領が仙道米澤に涉りて奥羽地方の關門に當るが故に、之をさきに没收せる葛西大將の故地に移して、其の跡に腹心の蒲生氏郷を据ゑ、本國置賜郡その所領となる。のち秀郷死して子秀行、

に齊明天皇の御代に於て、越國河阿倍比羅夫、舟師を率ゐて船田(秋田)・船代(能代)・津輕等の蝦夷地を徇へ、遠く北海道に及ぶとあり。而して當時すでに倭代・津輕の住民には、蝦夷と倭との區別ありき。唐はトリコにして、前記の俘人、即ち後の俘囚に當り、蓋し既に相當日本文化に觸れて、熟蕃階級に進歩せしものなるべく、以て海軍傳ひの進展の案外に早かりし事を觀るに足らん。出羽郡の進出と相呼應し、陸路により夷地の經營も之に追隨して進歩す。天平五年雄勝村に郡を建て、民を説くとあり。蓋し比羅作山を越えて山北に出づるもの。同九年陸奥の多賀橋(後の陸奥國府多賀城にして當時陸奥鎮所あり、太平洋方面に於ける夷地經營の據地)より出羽國最上郡に出で、山を越えて、新に山北郡縣に通ずる道を開く。陸奥美郷より比羅作山まで百五十里(六町一里)、更に雄勝まで五十里とあり。天平寶字年間に至り、陸奥桃生城と共に盛んに出羽郡縣を築き、民を移し、兵器を貯ふ。東西相呼應して經營進展するなり。雄勝は御物川上流にあり。江北平鹿・山本二郡と共に山北三郡と稱す。是より後、出羽方面に於ては夷人の著しき活躍あるを見ず。然るに元慶二年に至り、秋田地方の蝦夷郡を起して秋田城及び郡縣・屋敷・城邊の民家等を焼く。其の勢猖獗、官軍容易に之を鎮定する能はず。未代川流域地方すべて賊地

四六

に歸し、陸奥・上野・下野等の役兵を發して尙功を奏し難く、遂に常陸・武藏の出兵をまで求むるに至る。當時賊の軍使來りて、秋田河(御物川)以北を以て己が地となさんと請へるに見ても、以て其の形勢を察すべし。然れども是れ他意あるにあらず、たゞ當時秋田城司の處政の餘りにも甚しきに堪へ兼ねたる所爲の、却つて賊を喰めるに外ならず。されば當時地方官として令名ある藤原保則と出羽權守に任じ、之を慰諭するに及びて、さしもの大亂起ちにして平げり。先年仙北郡高梨村攝津に一大攝津を發見す。前記本攝津よりも規模更に大にして、延長約三十六町、ほど楕圓形をなして丘陵を取り圍み、其の所用の木材亦大ききに於て前者に勝る。而して其の北面には楠木燒損の形迹あり。蓋し大寶令に所謂農民安堵の城堡なるものにして、此の際賊の燒打にかかりしものか。由來日本海方面の蝦夷は、太平洋方面なる陸奥の蝦夷に比して柔順なりしもの、如く、此の元慶の大亂と後の後三年役を除いては、史上殆ど著しき事柄なく、彼等は土着のまゝに日本民族に同化融合して、其の民族的存在を失ひしもの多かりしが如し。前九年役、山北の俘囚長清原武則、官軍に當りて安倍貞任を滅ぼす。武則功を以て鎮守府將軍に任ぜらる。之より陸奥・出羽の鎮守府に移りて其の勢力出羽を兼ね、前代の安倍氏に勝る。かくて子武貞を経て孫

貞衡の代に至り、偶々清原氏内訌あり。陸奥守源義家之に干渉して、遂に清原氏を滅ぼす。所謂後三年役なり。而も當時朝廷之を以て私闘となす。義家の此の役に勝つや、是れ亦武貞の養子にして、自ら東夷の遠征、俘囚の上頭を以て任ずる藤原清衡が、義家に當りて是を授けたるに由る。是より清衡奥州平泉に根據地を構へ、其の勢更に安倍・清原二代の當時に勝りて、陸奥・出羽兩國を風靡し、傳へて子基衡を嗣、孫秀衡に至る。されば前九・後三の兩役は、安倍・清原の二氏を滅ぼせしみにして、遂に夷人の手より其の地を奪ふこと加はざりしなり。されば當時心あるものは、清衡王地を揮領すと稱じ、基衡を「何奴」と罵るも、亦これを如何ともする能はず。嘉應元年秀衡の鎮守府將軍に任ぜらるゝや、當時の右大臣藤原兼實嘆じて曰く、奥州の夷狄秀衡鎮守府將軍に任ぜらる。亂世の基なり」と。ついで養和元年其の陸奥守に任ぜらるゝや、是は名實共に奥州を以て彼に委するものとして、兼實更に嘆じて曰く、「天下の恥何事か是に如かんや、悲しむべし、悲しむべし」と。以て當時の狀勢を見るべし。源賴朝平家を滅ぼして後、更に兵を奥羽にすゝめ、平泉の藤原氏を滅して、始めて奥羽二州を平定す。即ち陸奥・村山の二郡を大江廣元に、田川郡を武藏資頼に、平鹿郡を小野寺重道に與ふ。後足利尊氏その一族資頼を遣はして

山形に置き、出羽の國事を管せしむ。子孫最上氏と稱す。當時出羽北部地方にありては、津輕の豪族安東氏南下して未代川流域地方を取り、其の族兩家に分れて土時海にありしものを渡氏と稱し、楡山にあるものを下國氏と稱す。後に下國貴季海家を併せ、秋田城と稱す。未代川流域より今の秋田地方すべて其の領する所となる。是れ秋田氏の祖なり。大江廣元の裔は置賜郡長井庄にありて長井氏を稱し、傳へて戰國時代に至りしが、後伊達氏の爲に滅ばされて其の地を奪はる。又山形の最上氏は最上・村山の二郡を、田川の武藏氏は最上川を越えて莊内地方の全部を、又平鹿の小野寺氏は始んど仙北三郡を、それ併合し、其外、仙北六郡に六郷氏、角館に戸澤氏あり。山形郡地方は所謂山形十二黨之分領す。中に最上義光最も勢あり。北に小野寺氏を逐し西に武藏氏の莊内を奪ひしが、やがて莊内は越後の上杉景勝の爲に奪はる。かくて天正十八年、豊臣秀吉小田原の北條氏を滅ぼして關東地方を平定するや、其の餘威を以て翌十九年奥羽に臨み、其の來る事速きものは多く之を國除して、大いに諸將の入れ替へを行ふ。先づ以て伊達政宗の所領が仙道米澤に涉りて奥羽地方の關門に當るが故に、之をさきに没收せる葛西大將の故地に移して、其の跡に腹心の蒲生氏郷を据ゑ、本國置賜郡その所領となる。のち秀郷死して子秀行、

年少以て奥羽の押へとなすに邁せり。而も其之を下野野郡宮に移し、其の跡を其母登陸に與へて越後の地と交換す。こゝに於て上杉氏は奥州會津・仙道より、米澤・莊内に涉りて所領百三十萬石高と稱せらる。關ヶ原役後、徳川家康大に賞賜を行ひ、上杉景勝の所領を削りて僅に奥州伊達・信夫の二郡と、本國置賜郡のみを残し、所領三十萬石となる。後寛文四年に至り、上杉綱勝死して子なく、高家吉良義央の子綱重を嗣とするに及び伊達・信夫の二郡も削られて、僅に本國置賜一郡、米澤十五萬石となる。次に最上義光は、登陸の封を削らるゝや、其の舊領莊内と共に山形郡を興へられて、一躍五十萬石(或は五十二萬石といふ)の大大名となる。又仙北三郡を領せし小野寺義道は其所領を没收せられ、秋田實季亦封を削られて當陸奥戸五萬石に移され、後秋田氏奥州三春に移り五萬六千石となる。六郷の六郷政盛、角館の戸澤政盛、亦それ常陸に移されて、其舊地は常陸水戸の佐竹義宣に與へ、秋田二十萬六千石を領せしむ。かくて出羽に於ける諸侯の所領始めて定まりしが、其後、元和八年に至り最上義光の孫義俊に至りて、國政宜しからざるの故を以て國除せられ、其の舊領莊内十三萬八千石は酒井忠勝に、山形二十萬石は島居忠政に、上ノ山三萬石は他見松平重忠に、新庄六萬石は戸澤政盛に、山形郡龜田二萬石は岩城吉康に、

テワ——テワ

四六

同じく本庄を六郷政来に、それら分與せらる。後に山形の島居氏嗣なくして絶え、其跡には山形に保科正之二十萬石、天童(初め高島)に織田氏二萬石、丹波に米津氏一萬五千石等の諸藩立つ。其後、上ノ山と山形とは種々の變遷あり。上ノ山は元祿十年藤井松平氏に復歸してより、又山形は最後に老中として天保の改革に失敗せし水野忠邦の子忠精五萬石を以てこゝに移されてより、孰れも傳へて幕末に至る。外に佐竹・酒井・上移の諸氏それら支藩を立て、幕末に於ける出羽一國の大名すべて十三家。外に由利郡矢島には、生駒氏寛永十七年讃岐十七萬石より封してこゝに移され、一萬石を領せしが、後封を準に分與して故に大名の地位を捨て、更代寄合に列せらるるあり。維新後、上移・酒井・松平(上ノ山)・織田・岩城等の諸氏、官軍に抗してそれぞれ封を削られ、又長瀬の米津氏は上總大納(後常陸陸奥)に、山形の水野氏は近江の朝日山に移り、上移氏の分家米津新田は宗家に合併し、矢島の更代寄合生駒氏は所領の高五萬石以上なりしを以て新に藩を立つ。こゝに於て出羽には秋田(佐竹氏もと久保田)・鶴岡(酒井氏)・米津(上移氏)・新庄(戸澤氏)・天童(織田氏)・上ノ山(松平氏)・松嶺(酒井氏)・もと松山(本莊(六郷氏)・龜田(岩城氏)・岩崎(佐竹氏)・矢島(生駒氏)の十一藩あり。明治四年廢藩置縣後大いに廢合を行

ひ、置賜・山形・酒田・秋田の四縣となりしが、今の如く山形・秋田の二縣を山形縣に合せ、此國は舊式縣とする所、置賜・最上・村山・出羽・田川・海部・雄勝・平鹿・山本・河邊・秋田の十一郡あり。置賜・最上の二郡は出羽建國當初陸奥國より移管する所、最上川上流にあり。仁和二年最上郡を割き其の北部に村山郡を置く。最上氏この二郡を兼領するに及び村山郡の名廢す。然るに後之を復舊するに當り、誤つて其の位置を顛倒し、もとの最上郡と村山郡一部の地を以て村山郡となし、もとの村山郡の北部を最上郡となす。現代なほ之に従ひ、村山郡を東西南北の四郡に、置賜郡を東西南の三郡に分ち、合せて八郡となる。出羽・田川・海部の三郡は最上川の下流にあり、大泉庄内の諸を以て莊内三郡と稱す。後に出羽郡の名廢して其他は田川郡に入る。現代之を東西二郡に分ち、舊出羽郡の域は東田川郡に屬す。他海部の設置亦天平以前にあるべし。由理郡はもと他海郡の中。寶龜十一年由理稱の名見ゆ。之を郡とせし年代詳ならず。東國に其の名初見す。雄勝・平鹿・山本の三郡は御物川の川上流にあり。もと陸奥國府多賀城より秋田なる出羽に通ずるは鳥海山の西麓を迂回して海岸路による。天平九年雄勝を征して直路を開き、天平寶字三年雄勝・平鹿の二郡を置く。後更に其の北に山本郡を建て、併せて三郡

比羅保許山の北にあるを以て山北三郡と稱す。或は單に山北郡と稱す。寛文四年郡名を復舊して雄勝・平鹿の二郡は舊に於るも、山本郡の名を以て誤つて古への淨代地方に宛て、舊山本郡の域に當つるに山北郡の俗稱を以てす。現代なほ是による。河邊・秋田の二郡は御物川の下流地方にあり。秋田郡は延暦二十三年秋田城を廢して置くと、其の城は現今の南秋田郡の地に當る。秋田城また後に復興し、國司の介なるもの城守を兼ね。之を秋田城介といふ。秋田郡以北の諸郡は延喜式に載せず。蓋し淨代川流域以往の地は當時夷地に没入せるもの。其の上流地方は古へ上津野・火内の名あり。元慶四年秋田の蝦夷叛亂の際の記事に見ゆ。上津野は即ち鹿角郡にして、後世、奥州南部氏の領する所となり、陸奥國(いま常陸)に編入せらる。火内の地方は戰國時代比内郡の稱あり。後秋田郡に入る。今の北秋田郡是なり。其の下流地方は古へ淨代(能代)にして、戰國時代に繪山郡の名あり。或は山本郡と稱す。寛文年間郡名復舊の際、誤つて之に宛つるに山北の山本郡の名を以てし、もとの山本郡の地を山北郡と名づく。今之に従ふ。津輕の地亦もと出羽國の中。鎌倉時代末津輕蝦夷の暴動あり。當時之を出羽の蝦夷の亂と記す。室町時代奥州の南部氏の併合してより、陸奥國に屬する事となる。明治維新、出羽を分ちて置賜・村山、

最上・田川の四郡を割置となし、海部・由理・雄勝・平鹿・山本・河邊・秋田・山本の八郡を割置となす。他海郡は莊内の一部として、之を割置に屬するは地の理に合はず。蓋し當時石高を案じ、國力の平衡を求むるを主としたる爲なり。廢藩置縣後大に従来の諸縣を廢合し、羽前全國及び羽後の他海郡、即ち最上川全流域地方を以て山形縣となし、其の以北、他海郡以外の羽後の諸郡と、陸中の鹿角郡、即ち主として御物・米代兩河の流域地方を以て秋田縣となす。其の管區始めて地理の自然に適合す。【出羽(郡)】出羽國の古郡名。凡そ今の山形縣羽前國東田川郡の地に當る。和銅元年、越後國の北部に置きしに始る。同五年出羽國を建つるや本郡は他海・田川二郡と共にその管下に入る。初め出羽郡や國府も本郡にあり。和名抄は大宮・河邊・井上・大田の四郷及び餘戸一を管せり。中世、私に郡引郡と稱し他海・田川二郡と共に庄内三郡などと稱せり。寛文年間、郡引郡を廢して田川郡に併せ郡名を失ふ。【出羽(縣)】↓出羽(國)【出羽村】山形縣羽前國東村山郡の中部南偏。山形市の北方約五軒。その間に千歳村を隔つ。面積六・四方軒。山形盆地の中央部に位し、土地概ね平坦なり。最上川の支流谷川は北境を、白川は西南境を流れ、西牛部には水田多く東牛部には

巻物拓け、米・酒を出し、綿織の織物を造す。羽州街道と省縣奥羽線並行して中部を縱走し、後者の漆山驛(明治三十五年設置)は村の中央にあり。前者は三五の便ありて南の山形市、北の天童町方面とは交通の便よし。此地は和名抄、最上郡芳賀郷の内にて、村内の漆山館は最上三代修理大夫滿直の三男、右馬頭滿頼住居の跡なるべし。美光の代には鈴木備後(吉野院) 大字千手堂にあり。天台宗。寺傳に聖武天皇天平九年勅を奉じて行基これを草創すといふ。當時國內惡疫流行し、行基拔除祈願して驗あり、茲に於て堂塔成り數百町歩の寺領を附せられ國家保護の遺賜となる。爾來歷朝を始め、藤原氏・最上氏累代の歸依篤く寺運隆盛たりしも、維新後漸く衰頹す。【出羽丘陵】一に出羽山脈ともいふ。奥羽山脈の西側にありてこれと並走す。南は山形縣米澤市の西方より北は津輕半島の西南部に至り延長約三二〇軒、奥羽山脈との間には毛馬内・角館・横手・村山の地溝帯を隔つ。高度は平均約四〇〇米なる丘陵性の地帯なり。主に第四紀(數萬期)に入りてより海面上に表はれしものにして、その西縁部は今は充分隆起するに至らず。核心山塊は奥羽山脈のそれと同じく珉岩及び閃綠岩より成り、一部に花崗斑岩・閃綠片麻岩等を有し、奥羽山脈と殆ど同時に海上に隆起して島、或

は牛島をなせし部分にして、今は世平期削削を受け、其代表とも見るべき秋田市附近の太平山塊の如きは最高點一七〇米に達す。然し是等の核心山塊は奥羽山脈に比すれば遙に少なしく僅に太平山塊と青葉・秋田の縣界をなす白神山塊(最高一二三二米)を有するのみなり。隨つて周縁山地がこの丘陵の大部を構成す。周縁山地は概ね海抜四〇〇米以下の丘陵地にして、生々しき海段丘陵の認められるところ、青年期の削削を受けて複雑なる谷を割み、其山頂線が略同一高度を示すことによりて、漸く窪地狀の原形を想像し得るところとあるも、是等の分布は現在の海もしくは河とは何等の關係なく、専ら陸塊隆起の時期の前後に原因するものと考へらる。地質は主として第三紀中新世乃至鮮新世の海底に堆積せし頁岩にて、砂岩・礫岩・凝灰岩等を挟み、所々安山岩及び流紋岩の岩頭等に貫かる。火山にはコニーデ型のものに岩木山・田代岳・駒岳・鳥海山等、トロイデ型のものに焼山・木山、アスピーデ型のものに月山・寒風山等あり。これ等は何れも出羽丘陵の海上隆起後に噴出せるものにして、鳥海火山帯の名の下に包括せらる。盆地は奥羽山脈に於けるが如く構造盆地を所々に有す。即ち津輕平野・八郎湯・庄内平野等にして、出羽丘陵の未だ完成せざるため、其一個はなほ隆起せず、平野のまま海に通ず。隨つて地形上完全なる

盆地の形態を成さず。【出羽三山】出羽國山形縣内なる羽山・月山・海部山の總稱。勝れたる靈場に於て、修験者の行道所として善く世に知らる。山頂にはそれら羽山神社・月山神社・海部神社ありて賽者多し。三山中月山は秀峰など、他の二山は丘陵形なり。【羽山】山・月山・海部山【羽山神社】増玉縣武藏國南埼玉郡の南部。越ヶ谷町の西南隅にあり。南と西は綾瀬川を隔て、北は足立郡新田村・戸塚村と隣す。面積七・一方軒餘。東北境の元芝川と西南境の綾瀬川とに挟まれ、全村平坦にて殆ど水田をなす。米を主産し他に麥を産す。越ヶ谷町により西南方越ヶ谷町を連ねる縣道は南部を横ぎりてバスを通じ、越ヶ谷町の社線東武鐵道線越ヶ谷驛にも近く交通便利なり。【天山】アマガヤマとも讀む。筑紫山脈背嶺山塊の一端。佐賀市の北西方約一六軒、佐賀縣小城郡南山・北多々の二村と小城町との境に聳え立つ。標高一〇四六米。山中の溪水美しく所々に瀧かかる。筑紫山脈第二の高峯にて雄大な山容を有し、山頂は平坦なる臺地狀をなし、帯平原の好例を示す。山頂には都社天山神社あり。また吉野朝の忠臣阿蘇直直の墓あり。山頂より北西方に雲岐・對馬を雲霧の間に望見せられ、北東方には筑紫山脈の連嶺を望み、眺望極めて美し。登

山は長崎縣小城郡の晴氣を望むか、北東麓川上川に沿ふ吉野湯泉より行ふ。【天池】↓白頭山(朝鮮)【天安郡】朝鮮忠清南道一府十四郡の一。道の東北端に位し、西は牙山郡、南は公州・燕岐の二郡、北は京畿道の安城・靈威二郡、東は忠清北道の銀川・清州二郡に接す。面積六三三・九方軒。大白山脈の支脈なる車嶺山脈域内を東北—西南に走り、東境に高嶺山(六二二米)・歡喜山・東林山等、中央に翠居山・黑城山、西南境に廣徳山(六九九米)・車嶺等を起し、此等山地は花崗片麻岩より成り老年期の地貌を呈す。概して丘陵地帯なり。中央山地を分水界として北に安城川支流、西に曲橋川、東に錦江一支の並川流れ、此等の流域には何れも稍々曠野平地拓げ殊に北西部の安城川流域平地は京畿道の平澤平野に連り、道内主要農業地帯の一をなす。住民は農業を主生産とし、米・麥・豆類及び棉の産多し、また蔬菜栽培盛にして、殊に成歡甜瓜は有名なり。北部は潤ゆる緩山砂金地帯にして、砂金・金・銀を出すこと多く、主要鑛山の鑛種と、その昭和十年中産額を擧ぐるに次の如し。清美鑛山(金、九萬圓)。忠南金鑛(金・銀、六萬圓)。恒興鑛山(金・銀、六萬圓)。栗金鑛山(鑛區は牙山郡に跨り、金・銀、九萬圓)。清美鑛山(金、二二萬圓)。南井鑛山(砂金、六萬圓)。球南鑛山

テンア—テンカ

(金・銀、八萬圓)。中央鑛山(金・銀、三七萬圓)。大成金鑛(金、三一萬圓)。大昌金鑛(金、九萬圓)。三和砂金鑛(砂金、一五萬圓)。...

1010

を主とし、甜瓜・胡桃の特産あり。また天輝・三宅・新月(鑛區の一部)・三家・天山(一部)・安田の諸金鑛ありて金・砂金・銀を出す。...

區の北東より南西に亘る溪谷中に賦存せるものを採掘す。昭和十年度の産額八萬八八〇瓦、銀七二〇〇瓦、その価格八萬九千圓餘、同年六月末現在使役人員一九〇人。...

最も大にして西事務所・警察官駐在所あり。清水里は島の東北端に位置し良泊を成し、漁業組合あり、その漁獲高一萬八千圓(昭和十年)。

テンオン 天恩

【天恩鑛山】 朝鮮咸鏡北道にある鑛山。鑛區は富寧郡龍海面と慶興郡豐海面とに跨る。...

テンカ 天火嶺

【天火嶺】 朝鮮咸鏡南道の山。道の東北部に、赴嶺嶺山脈中の一峰にして、豊山郡安水内面に聳え、標高二〇五八米。...

テンカ 殿下村

【殿下村】 福井縣越前國丹生郡の北部。村内殆ど山又山、村民多く農業を營み僅に数戸の商店あるのみ。...

テンガジャヤ 天下茶屋

高田派に屬せしが、寛文三年法雲寺が佛光寺に轉換すやまた佛光寺派に轉す。...

テンカワ 天川村

交通既して不便なり。大塚山の西側、天ノ川の上流に阿古湖あり、高さ八百米、巾九米。...

テンガン 天願川

【天願川】 神戶縣中頭郡にある川。美里村の西北部に發し具志川村の北部を東南流し金武湖に入る。...

テンガタナ 天狗棚山

【天狗棚山】 關東山地秩父山塊大菩薩連嶺の一峯。大菩薩嶺(二〇五七米)の南方約一軒餘、山梨縣北郡留部七保村・小菅村と東山梨郡神倉村との境上に峙つ。...

テンカ—テンコ

【天狗ヶ城】 久住山塊の一峯。主峯久住山(一七八八米)の北東方に接し、大分縣直入郡野村に屬す。...

1011

【天狗ヶ城】 久住山塊の一峯。主峯久住山(一七八八米)の北東方に接し、大分縣直入郡野村に屬す。...

【天谷面】 朝鮮平安南道中和郡の東南部。郡邑中和を距る東南東約...

テンコ—テンシ

二〇軒。地東西に狭長にして、東西約一八軒、南北四一八軒あり。東南境や高...

テンコク 點谷面

朝鮮慶尙北道義城郡の東北部。郡邑西に東隣す。城内は老年期の丘陵地帯を成し、中央を洛...

テンジン 天神

【天神川】 京都市本所野川と源流川とを南北につなぐ川。一名、横十間川。龜戸天神に近き故この名あり。七個人・二下...

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ—テント

【三人は建川通りを漕のぼり、天神川へ横ぎりて種よき岸へ船着させ】

テンシ 天

【天神川】 京都市本所野川と源流川とを南北につなぐ川。一名、横十間川。龜戸天神に近き故この名あり。七個人・二下...

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

十二年鐵橋に架け替ふ。此の橋附近は毎年七月廿五日の天神祭（天満祭）に殷盛を極む。心中天の朝鳥・中・福徳に天神の...

テンシ 天

【天神川】 京都市本所野川と源流川とを南北につなぐ川。一名、横十間川。龜戸天神に近き故この名あり。七個人・二下...

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

【天神山】 久大本線の一驛（大正十二年設置）。大分縣大分郡阿南村にあり。

テンシ 天

東方約一〇軒、西北は内子町に界す。面積約一三方軒。東半は高底三百米の山地にして西方に傾き、西境には小田川（藍川の上流）南流し、それに沿ひて小盆地あり、耕地よく拓く。農産に米・麥・蕎麥等を出し生糸の製造あり。内子町に出づれば大洲街道ありてバスを通ずるも、村内の交通は未だ便ならず。村名は村民の天神社（村社天神社）を氏神とし、これを信仰の中心として村を立てし故に起るといふ。

テンジンマチ 天神町

【天神山村】 千葉県上総郡君津郡の西南部にありし村。大正五年一部を濱松市に編入し、更に同十年残部を濱松市に編入す。

テンジンヤマ 天神山

【天神山村】 千葉県上総郡君津郡の西南部にありし村。大正五年一部を濱松市に編入し、更に同十年残部を濱松市に編入す。

テンジンヤマ 天神山

【天神山村】 千葉県上総郡君津郡の西南部にありし村。大正五年一部を濱松市に編入し、更に同十年残部を濱松市に編入す。

テンジンヤマ 天神山

【天神山村】 千葉県上総郡君津郡の西南部にありし村。大正五年一部を濱松市に編入し、更に同十年残部を濱松市に編入す。

テンジンヤマ 天神山

【天神山村】 千葉県上総郡君津郡の西南部にありし村。大正五年一部を濱松市に編入し、更に同十年残部を濱松市に編入す。

テンジンヤマ 天神山

テント——テンハ

時宗。弘安元年海潮直の開基。一編上人高弟一向俊聖の開山。近年に至るまで時宗十二派中天童派の本山たりしが、いま一向派に合してその中本寺たり。

テンドー

田頭村 岩手縣中

國岩手郡の西北部。岩手山(二〇四〇米)の東北斜面に位す。西南半部は針葉樹多き森林なるも、東北半部は傾斜極めて緩き平坦面をなし、松川とその支流東に貫流し田地よく拓け、農業主として行はれ米・大豆・神・蕎麥・馬鈴薯を産す。盛岡に起る津輕街道と省線花輪線は東地に近く東隣大更村を南北に通じ、後者は大更驛に近く交通不便ならず。

テンナン

天南面 朝鮮咸鏡南道豊

山郡の東端。南北六〇軒、東西一五軒乃至二五軒の廣大なる地區を占め、東境は檢徳山(二二五〇米)・萬塔山(二〇〇三米)・大徳山等の連嶺により錦川郡と對し、東北端には天火嶺聳え、西北及び西には白茅峯(一九〇九米)・觀峯・黃土嶺・香砂峯(一七六〇米)・頭雲峯・根洞山等、南境には大徳山(一四四七米)・銀徳山等連なる。而して東西兩山地の間に咸鏡南大川ありて南流し、西方より来る慶川江水力電氣の貯水池の遺流水路は、前者と並流し、洪君里、魚坪里に大發電所設けらる。耕地は主として南大川沿岸及び比較的緩傾斜地に之を見る。氣候夏季にして冬季積雪一米近くに及び、嚴寒の際は大更下一七度に達することあり。産物に

BLOCK

は大麥・燕麥・大豆・粟・玉蜀黍・蕎麥・馬鈴薯等の農産、木材・蜂蜜・生牛等あり。また鐵産に富み、中央部の洪君里を中心としてマグネサイトの豐富なる埋藏あり、また豊南嶺山・通里金礦等より金・砂金・銀を出す。道路は瑞川・甲山間の三等道路域内を縫貫すれど險峻多く交通便ならず。本面はもと甲山郡に屬し、大正三年豊山郡新設に際しその管轄となる。

テンネー

天寧 根室本線の貨物驛

(大正十二年設置。北海道釧路市にあり。【天王村】秋田縣羽後國南秋田郡の中部。土崎港町の西北約一二軒。西は船越町に接す。面積約三四方軒。八郎湯の東南部に突出せる砂洲の地を占め、西方男鹿半島東南部の船越町とは細き水路を以て隔てらる。地形、西北より東南に長く、東北部は八郎湯に、西南は日本海に面す。日本海岸は扇曲く、砂濱をなし、八郎湯に面する部分は沼地多く、水田拓く。米を産す。船川街道と省線輪中線を東南より西北に通じ、省線に二田驛(大正二年設置)あり。この地は和名村、秋田郡方上郷の内なり。船越町との間に未だ八龍橋の架設せられざりし時は舟渡なりしかば、本村を往昔は船越と稱せしが近世、兩村同名により混同し易きを以て牛頭天の稱號に依り天王村と改む。【立野牧】和歌の名所。本村の邊を稱すといふも詳ならず。古歌「かちのの秋田

テンノ

天王

の山は秋霧の立野の駒も近つきぬらし(鞍掛森) 字下出戸にある森。昔、秋田城介實季が臨本を攻めし時、此處にて乗馬の鞍を卸して大勢を避けて休息したる故の稱なりと。(東瀨八坂神社) 大字天王に鎮座。縣社。祭神、健甕素佐之男大神。桃岡天皇實曆二年勸請といふ。また桓武天皇延暦十二年坂上田村麿勸請とも傳ふ。その沿革詳ならざれど古代民族移動研究の一好資料たるべき神社なり。例祭、七月七日。【天王】靜岡縣濱名郡にありし村。昭和二年、北隣市野村と合併して新に長上村を建つ。【天王山】上大山崎村(京都府) 大阪府十五區の一。市の東南部に位し、東は東成區、北は東・南の兩區、西は浪花區、南は住吉區に相對す。面積四・四平方軒、十五區中の第四位の面積積地なり。地形は市内を南北に縱走する地盤式臺地上に位し、比高約二〇米、茶臼山(二一・八米)等ありて高燥なり。古來この形勝の位置により、或は國府廳が設けられて政治上の中心たりし中心、或は四天王寺が設けられて、信仰の中心をなし、或は大坂各陣に家康が本陣を置しが如き、軍事上にもこの地形を利用して少からず。其他、官幣大社生國魂神社、夕陽丘の勝樂院あり。天王寺公園には普賢堂・動物園・市民博物館等あり。またこの地

テンノージ

天王寺

大阪府十五區の一。市の東南部に位し、東は東成區、北は東・南の兩區、西は浪花區、南は住吉區に相對す。面積四・四平方軒、十五區中の第四位の面積積地なり。地形は市内を南北に縱走する地盤式臺地上に位し、比高約二〇米、茶臼山(二一・八米)等ありて高燥なり。古來この形勝の位置により、或は國府廳が設けられて政治上の中心たりし中心、或は四天王寺が設けられて、信仰の中心をなし、或は大坂各陣に家康が本陣を置しが如き、軍事上にもこの地形を利用して少からず。其他、官幣大社生國魂神社、夕陽丘の勝樂院あり。天王寺公園には普賢堂・動物園・市民博物館等あり。またこの地

テンノツジ

天辻峠 奈良縣吉野郡

大塔村と宗槍村との間にある峠。吉野または寶名生より十津川郷に入る要路に當り、十津川と丹生川(吉野川の一支、黒瀬川ともいふ)との分水界をなす。海拔八九七米。元弘年間、藤原親王が十津川に隠れ給ひし時此處を通られ、近くは文久三年天誅組の浪人も亦この峠によりて諸藩の兵を防ぐ。

テンバク

天白

【天白村】愛知縣尾張國愛知郡の西部。名古屋市の東に隣り、南は鳴海町、東は日進村に接し、面積約二・三五方軒。愛

知丘陵の末端部に位し、西北の名古屋市と、南の鳴海町との間には共に低き丘陵あるも、中部は平坦にして日進村より来る天白川西南に流れ名古屋市の東南境をなして伊勢海に注ぐ。耕地よく拓けて米・麥・野菜等の農産に富む。また高針鐵山の礦區の一部を占め煤炭を産す。飯田街道をはじめ名古屋市の間には道路よく改修せられて交通便利なり。この地は和名抄、山田郡加世郷の内か。明治三十九年、平針村、島野村、植田村、彌富村を廢し本村を置く。村内に明治天皇八事御野立所あり、史蹟に指定さる。

テンボ

天保山

【天保山】愛知縣愛知郡にある川。源を郡の西北山地に發し西南流して鳴海町の西を過ぎ伊勢海に注ぐ。流程約二〇軒。鳴海町まで舟楫の便あり。

テンボ

傳法村

【天白村】三重縣伊勢國一志郡の東部。伊勢海に沿ひ、松坂市の北方約四軒。面積約五・六方軒。地形極めて平坦にして北及び南は共に入江によりて限らる。田畑よく拓けて米・麥を産し蕎麥も行はれて藪を出し海岸は水産に富み、また工業あり。參宮街道、省線參宮線及び參宮急行電線伊勢線並走して南北に貫き、參宮線に六軒驛(明治二十六年設置)、伊勢線に天白驛(昭和五年開業)ありて交通便なり。古くは和名抄壹志郡須可郷の内に屬せるもの如し。大字曾原に宮址あり、北畠國司の將天花寺氏の居處なりと。また字上之原に勸使塚、或は御門塚と稱す

テンハ——テンマ

古墳あり、養和元年八月祭主大中原定隆源氏流の勸使を奉じ、伊勢神宮參詣の途次、病みて卒し此處に葬るといふ。

テンビ

天妃山

【天妃山】愛知縣愛知郡にある川。源を郡の西北山地に發し西南流して鳴海町の西を過ぎ伊勢海に注ぐ。流程約二〇軒。鳴海町まで舟楫の便あり。

テンボ

傳法村

【天保山】愛知縣愛知郡にある川。源を郡の西北山地に發し西南流して鳴海町の西を過ぎ伊勢海に注ぐ。流程約二〇軒。鳴海町まで舟楫の便あり。

テンマ

天満

【天満】大阪府北區の南、淀川の右岸の稱。北は長柄・豊崎、東は川崎、西は北野・曾根崎、堂島に接す。この邊はもと渡邊と稱せしが、この地に祀られし天満天神より天満の稱起る。天満はもと大阪三郷の一にして、大河(淀川)の南にある。大阪城附近の上町と稱せし大阪や、その西の船場と對立して早く繁華の地となれり。いま天神橋筋を堺として東天満・西天満といふ。城東線の天満驛(明治二十八年設置)は北區南端町にあり。好色二代男・二、常には虫もふまぬかた様なれども、世渡りとしてすばん突になつて、天満におはしけると云。

テンノ

天満

【天満橋】大阪市の淀川(大川)に架したる三大橋の一。東區谷町一丁目より對岸の北區天満の空町一丁目に架す。天神橋の上流にあり、長さ約二一七米、幅一・一米。明治十八年の大洪水により天神橋と共に流され、同二十一年復橋となる。近年淀川の改修工事により河幅を減じ南側の一部陸橋となる。橋の南端に京阪電車(天満橋)の起點あり。毎夏天神祭(天満祭)には

BLOCK

地は教育の中心として利用され、大阪高等大學・外國語學校・天王寺師範・府立高津中學・夕陽丘高女その他の公私立中等學校あり。大阪市内に於ける便利且つ最も閑靜なる理想的住宅區を形成す。

テンノ

天新田

【天満村】奈良縣大和國高市郡の西部。畝傍町の西方に近く、西は北葛城郡東南部に、南は南葛城郡東北部に接す。面積約二・九方軒の小村。奈良盆地の南端部に東境に一小丘ある外は全村極めて平坦にして西境に沿ひ葛城川北流す。水田よく田畑拓け米・麥を産しまた參宮行はれて藪を出す。外に寶藏の特産あり。

テンマ——テンマ

東北の今井町と西南の御所町を結ぶ新道ありてバスを通ず。西は省線と歌山線新庄驛に、北は社線大阪線の坊城驛に近く交通不便ならず。古くは知名抄に高市郡互勢郷とある地に属す。村名は天満宮あるに因る。「天満神社」大字根成村に鎮座。祭神、菅原道真。古來宮村の産土神たり。例祭、九月十五日。

【天満村】愛媛縣伊予郡西條郡の西北隅。西は新居濱市との間に新居郡多喜濱村・神郷村を挟みて、北は豊後川に面す。面積八・二方軒餘。西半は地質上讃岐山脈の餘波をなす高さ二百米程度の山地にて、その北段は海に迫りて佛崎をなすも、東半部は東隣高崎村に連る低平の地に田畑よく拓く。農業に米・麥・蕎麥の産あり。交通には南隣土居村の省線讃岐本線土居驛に出づるを便とす。村名は村社天満神社に因む。明治二十二年町村制施行の際高崎村と合して高崎村と稱せしが、同二十八年分離開立す。「八雲神社」大字天満に鎮座。祭神、奇稻田船命・手摩乳命・美濃命。神代、美濃命等の地に假殿を營み御逗留せられ、この御立退ありし後、假殿を修補し尊を祭りしに創まるといふ。推古天皇御宇社殿を建立、正保三年更に舊社の下に一社を建立す。例祭、十月十二日。

テンマ 天摩

【天摩】朝鮮平安北道龜城郡の西北部。郡邑龜城の西方約一五軒。蓋馬嶺岩臺

BOX

前記龜城地帯の中心集落を成し、郵便所及び市場あり。
【天摩山】朝鮮平安北道の西部、朔州・龜城・義州の三郡に跨る山。飛來峯山脈の西縁に聳え、標高一六九米。東斜面に大寧江、西斜面に三橋川の支流天摩江發源す。

【天摩山】朝鮮京畿道開陽郡の北部に聳ゆる山。馬良嶺山脈の南縁にして、開城府を距る北方約一〇軒。標高七六二米。頂上の東に大興山城址あり、周圍凡そ一〇軒に近く、城壁の跡今に存す。山城内の水は朴淵瀑布となり北流して禮成江に注ぎ、また東面には沙尾川、南面には砂川發流し共に臨津江に入る。山中に大興寺を始め寺刹多し。

【天摩】石北線の一驛。昭和四年設置。北海道石狩用上川郡上川村にあり。

【傳馬町】東京市日本橋・四谷兩區の町名。昭和の帝都復興前には京橋區にも傳馬町の町名を存し、明治五年以前には赤坂にも傳馬町・表傳馬の町名ありしが、その起源は一なり。天正十八年八月徳川家康が江戸入國の當時、城下賣田村・千代田村に傳馬町の起原をなせるものなり。南傳馬町の名主高野氏の撰定水久録によると賣田村は後の吳服橋門内、千代田村は常盤橋門内なりといふ。慶長十一年築城の際、この

兩村は移されて郭外に出で、日本橋に轉せしものが大傳馬町・小傳馬町となり、京橋に移りしものが南傳馬町となる。小傳馬町は、慶長年中郭内の傳馬町を外に移せし時その代地に給せられたる所に、往時しり風町と稱せしは獄舎の役夫をこの町より出したるに由るといひ、大傳馬町はもと大傳馬町に屬し、入船がありて鹽を晒揚せしをもつてこの町名あり。小傳馬町はまた慶長中の移轉、名主宮邊又四郎が驛邊の事を司りしによりての稱あり、この地は昔時六本木と呼ばれて、奥州街道の驛站なりといふ。大傳馬町も慶長十一年の移轉、名主馬込勘解由が驛邊のこと司りしをもつてこの名あり、一丁目木總店、二丁目吉野の飯倉あり。南傳馬町は慶長十一年吳服橋内より移轉し、驛次の公役夫を出してこの稱あり、南の字を加へしは、大傳馬町・四谷・赤坂傳馬町と區別せん爲なりき。赤坂の表傳馬町は寛永十三年南傳馬町の傳馬役高野新右衛門等三人に給せし土地にして、同十五年赤坂新傳馬町と稱せしが、後分ちて五箇町とし、表傳馬町一・二丁目、裏傳馬町一・二・三丁目と呼び、明治五年七月表傳馬町一丁目を改稱して表一丁目とせり。裏二丁目・元の表傳馬町二丁目にして、裏一・二・三丁目は元の裏傳馬町一・二・三丁目の改稱にして、何れも明治五年七月に改稱せり。四谷傳馬町は寛永中大傳馬町を移し、當時

新傳馬町と稱せり。四谷町も寛永十五年大傳馬町の代地となり、大傳馬町に準じてこの稱を用ふ。殊に日本橋區に在るもの最も有名。日本水代藏・四・本町の吳服橋それぞれ錦を飾り、傳馬町の胡屋錦屋も同じ錦つき、佐久間の面は萬の紙賣、舊紙賣・中・花の江戸の町、馬喰町より立出て、横山通、豐町の唐にもかかる町説は、まだありあけの油町、傳馬町より横切れに、堺町へと曲り角

テンマバヤシ 天間林村

【天間林村】青森縣陸奥國上野郡の中部西側。七戸町の北に隣り西は東津輕郡東津輕に接す。東西約三一軒、南北六一三軒、面積一九八方軒餘の大村。西半は奥羽山脈の山地にて、火山岩によりて葎はれ、西北境に三角嶽(七四八米)、西境に折紙山(九二二米)、西南境に八幡嶽(一〇二〇米)等あり、東半は三本木原の北に連る原野なり。坪川は西境の清水を併せて東流し東南部にて中部山地の東側よりの中野川を合して東流して七戸川となり、小川原沼に注ぐ。西部には森林、中部には牧場、東部には水田あり。米・林産を産し、牧馬行はる。軍馬補充部七戸支部は中東部にあり。陸羽街道は中部を南北に通じ、北方東北本線の乙供驛・千曳驛、共に北隣甲地村内に通らず。みなバスの便あり。本村は臺の碑のありし地として知らる。今の村社千曳神社は其址なりと。(花松神社)大字花松に鎮座。祭神、保食命。

テンマ——テンリ

社傳に慶長二年の創立と記すも、その由緒等詳しき事無し。例祭、五月十九日。(臺の碑)大字天間林の坪村といふ所にありしと傳へらる古碑。古く袖中抄に「石文や希稀の書布はつはつに逢ひ見てもなほ飽かぬ今朝かな。願ひが云、石ぶみとは陸奥の奥に、つもの石文あり日本のはてと云へり。但田村所征夷の時、弓の弾にて石の面に日本の中央のよしを寄せ付たれば石文といふといへり。信家侍従の申ししは石の面長四五文ばかりなるに文彫り付たり、其の處をばつばと云ふ。それをつもとは云ふなり。私云陸奥の國に東のはてと思へど、えぞの鳥は多くて千鳥とも云ふは陸奥を云はんに、日本の中央にても侍るにこそ」と見え、また、古歌に「思ひこそ千鳥の奥を隔てぬぞえぞ通はさぬ臺の石ぶみ願ひ、石文や津輕の邊にありと聞くえぞ世の中を思ひ離れぬ 清輔、陸奥の奥ゆかしくぞ思はゆる臺の石ぶみそとの濱風西行、みちのおく臺の碑ありと聞く何れか戀の境ひなるらん 寂蓮」等詠まれ、陸奥の奥、津輕の果に考へられしこと明かなり。而して坂上田村麿建碑説は、田村麿の征夷の業は志波城を以て北限となせば弘仁の頃、若し既に建碑の事實ありとせば弘仁の頃、武蔵國二戸郡金田一村)都母・伊伊村(從來、陸奥國伊伊郡に比定するも當らず、思ふに一月・二月の月はこの幣伊に由来せしものにしては現今の

一戸町または四戸の附近の一部落たるべし)の夷を代はし支那船等々の事蹟に考ふべきやうに思はる。しかし事實は石文なる地名のありしところより和歌等に詠ぜられ、之により既に碑のありし如く信ぜられ、種々なる説を生ずるに至りしものならん。一説には南部封内郡村志に「石文の里は古昔公家方何の中納言やらん、奥州此處に配流の所京師の事を思出し泉水にて平石に心中を書き、都の妻庭へ出て見るに、石にありありと文字あらはる。よりて石文といふ、後世其石は澤々落ちたりと、公家屋しきの跡今になし」等の傳もあり。碑はのちに土中に埋め上り祠を建て千曳神社として崇拝せらるることとなれり。また彼の多賀城碑の世に宣傳せらるるや往々臺碑の名を負へるは、要するにこの地名傳説に由来せる所在不明の名所を己の郷土に引きつけ、附會の説をなすに至りしものなり。

テンマン 天満山

【天満山】岐阜縣不破郡關ヶ原町にある小山。關ヶ原町

テンモク 天目山

【天目山】山梨縣東八代郡木賊村にある山。吉野時代の頃僧業海、元より歸朝し此山に棲雲寺を開き、彼地の天目山に倣ひて木賊山を改めて天目山と號せしといふ。應永二十三年、上杉謙信に亂を作すや、武田信満これに當す。既にして足利持氏、上杉憲宗をして之を伐たしむ。信満力及ばず、同二十四年二月此地に自殺す。天正十年、武田勝

頼、織田・徳川の軍に敗られ、三月新府を燒き、岩殿城に至らんとし、駒澤に至る。小山田信茂叛して彼子嶺に在り。故に道を轉じて天目山麓なる田野に達す。十一日、瀧川一益・河尻廣吉等の追及急なり。勝頼、夫人北條氏及び其子信勝と自刃す。其従者三十三人、侍者十六人、僧二人も殉死す。武田氏二十八世にして茲に滅ぶ。

テンラン 天覽山

【天覽山】中部地方の互流の一。長野縣中央部の諏訪湖の水は西岸の岡谷市に流出して天龍川となり、赤石・木曾二山脈間の縱谷を南流し、安に伊那盆地を作り、總て赤石山系を斜に刻みて流流をなし、静岡縣磐田郡掛塚町附近に於て鈍角に發達せる三角洲を鋪しつゝ、遠江灘に入る。その支流數二〇二、流域面積四八九〇方軒、長さ二一六軒。比較的急傾斜を流下するを以て激流奔流をなす處多し。岡谷より高尾山の東麓を南流して著しき峽谷を造り大城山の麓なる中央本線辰野驛附近にて辰野盆地に出で、西北よりの横川を合流し此處に若き平野を造る。辰野より伊那町(六四三米)を経て飯田市の(五一六米)の稍南方に至る間は狭長なる伊那谷の地海盆地をなす。伊那谷は南北四〇軒、東西五一六軒。兩岸には第四紀層の巾狭き平野あり。田切と河成段丘のよ

く發達せるはこの河谷に於ける二特徴なり。田切とは右岸の本曾山脈東側に著しく發達せる扇状地が、木曾山脈中より流下する支流に刻まれたる溪谷にて、その支流は大田切川・中田切川・興田切川等の名あり。下諏訪にて中山道より岐るる三州街道は伊那町・赤穂・飯島・飯田市に至る。扇状地の末端なる段丘上を通じ田切の部分に通過する毎にその中腹に上下するを常とす。此間、宮田・赤穂・飯島・片桐・大島等の街村が發達し住民は何れも斯かる扇状地上に水害を見ぬ安全なる高原生活を営む。山麓に沿うて集村あり、都市型聚落は扇状地の中央部又は三峯川の谷口を据する伊那町の如く伊那山脈よりの大支谷の合流點を占め、山麓地帯は美濃・新美濃を嘗み、扇状地には桑田拓け、その末端には美濃・米作行はれ、沖積地は水田發達す。河成段丘は伊那町附近より下流に見らるゝも飯島・飯田間に於て最も顯著なり。最高最舊の段丘は西岸の三州街道に接近して保存せられ海拔七百米以上に位置し、最低最新なる段丘の頂は天龍川床即ち約五百米の邊にありて此の差約二百米の間一段乃至五段の段丘の發達せるを見る。一段のものは飯田市の北方大島村近傍に、二段又は三段のものは飯田市附近より北方約八軒の間に發達し、五段のものは飯田市の南方にあり。段丘の高さは何れも五米以上にして最高一四〇米に及ぶ。斯かる

段丘の成生せるは天龍川の本流、又は支流が谷底に廣く沖積平原を造りたる後、新たに天龍川谷一帯の上昇運動を起し、又は天龍川の下流が新なる流路を開闢して再び谷底の浸蝕を開始し、谷底内に更に幼年期の峽谷を生じ兩岸に階段地を存せしによる。段丘を構成せる岩層は主として花崗岩及び古生層の諸岩より成る。支流には西岸に大田切川・中田切川・興田切川等、東岸に三峯川・小湫川等あるも皆長大ならず、其他、多くの小支流は悉く殆ど直角の流路をとり本流に合す。天龍川の峽谷は飯田市の南八軒なる時又は殆まり、花崗岩・片麻石・結晶片岩等の赤石山脈を刻み天龍川附近にて百米以下の斷崖をなし、更に下流八軒の大島村附近(三四一米)に於ては三百米に達し、岩石探出して幼年谷の特徴を示す。著名なる天龍峽は時又より下流十餘軒の峽谷に名付けしものにて花崗岩より成る膠質の地なり。開闢したる下流は時又より飯島に至る間の約百軒、其間、樹木に蔽はれし兩岸切迫し、斷崖直立し急流奔騰す。此間、天龍兩岸間の交通は殆ど不可能にて大島村の渡船を除けば天龍峽の姑射橋の下流十二軒間は横斷するを得ず。之より以南の峽谷は次第に壯平の谷に變ず。天龍川は下流佐久間村中部に至るまで軒餘曲折しつづつ南に向ひて急流をなすも、中部より久根山附近まで急に東に流路を變じ、久根山附近より再びまた南方に轉

じ山香村西渡より龍山村瀨尻に至る間もまた急流を以て名高く、數十米乃至數百米の斷崖創立す。此間、中部より西南方豊川の谷に延ぶる一直線の一大斷層谷ありて、大千瀧川この谷を東北に流れ天龍川に注ぐ。天龍川は衝上斷層谷中を約三軒流れ從つて此部分にては流路を東に取る。即ち中部久根山間の河谷なり。西渡にて東北背斜附近に發源し本流と並行の巖谷を流下する水窟川に入る。龍山村戸倉附近より川は大蛇行をなしつゝ二俣町に達す。此間東岸に氣田川を合す。要するに天龍川は日本に於て最も著しき先行性流路をとり赤石山脈に横谷を刻むものなり。天龍川は二俣町に於て初めて山地を離れ第四紀層の平原に出で掛塚町の南約三軒に於て海に入る。此間は自由に蛇行して見事なる扇状の荒川を形成し壯年期河川の特徴を呈し或は分派し或は合流し、西方の三方原、東方の盤田原の洪積層の間に廣く沖積層の氾濫平野を造る。此の汎濫平野にても更に浸蝕作用を續け兩岸に宮口・清松市間及び中泉町附近の段丘を造り、且つ礫米に基づく砂礫層の發達著しく、本邦に於ける有名な「荒れ川」として治水を困難ならしめたり。また古來流路の變遷甚しく清松市の地にもその河跡を存し、其後、河道は東に移り河原道は細流馬込川となりて保存さる。東西の臺地は過去の海岸低地の隆起せるものにて、天龍川が割出せし

砂礫より成り、その山間を出で海岸に堆積せし扇状地なり。爾後河成次第に下降し天龍川の扇状地浸蝕起りて新に扇状地を作り海岸線は前進し古扇状地は海岸より退却し盤田原・三方原となる。三方原臺地は最高百二十米内外、その末端に濱松市あり、盤田原臺地は高さ百二十米内外にて壯年期の開闢をあらはし、末端に見附・中泉あり。本流は大なる鈍角三角洲の頂點に於て海に流れ込み、平野の南方は均齊に發育せる砂礫によりて遠江海に臨み數條の砂丘發達せり。中流以下の山地には植林行はれ、本流及び大千瀧川、水窟川・氣田川・阿多古川の兩岸には主に杉植栽され、二俣以南の流域平野の畑地には松・杉等、苗木の栽培盛にて特殊農業の發達を示す。静岡・長野兩縣下に亘る天龍川流域の製材工場数は約百を算し其製材能力甚だ大なり。製材業の地理的要因として、水産豊富、落葉大にして動力たる水力發電に適する事、及び急流なるため流筏は短時間内に中流の林業地より下流の平野に下し得べき事を二を挙げ得る。池田・中野町・天龍等は沿岸の製材部邑にて、河口には砂洲發達し船舶の出入を妨ぐを以て、製材は天龍川驛に於て東海道本線の貨車に積替らる。流域平野は生薬・絲瓜・落花生・甘藷・切干等の特産物あり。この遠州生薬は全國産額の約九割を占め、絲瓜は約八割を産す。その代表産地は濱松赤松村なり。(天龍川

の流—静岡縣磐田郡池田村の南に於ける天龍川の流。流しは古く數箇所存在せしものと考へらる。即ち今の濱名郡赤松村大字於呂の於呂神社、濱名村大字大瀨の邑勢神社、豊西村大字羽鳥の邑勢神社、芳川村大字那盛の津毛利神社、蒲村の蒲太神社等はいづれも延喜式の神名帳に見え、嘗ては流津の近くに所在して附近部落民の崇敬を受けしものならん。殊に津毛利神社の如きは津守の意より出でたる社號なるべく、明かに流津の神といふべきなり。かかる見解の下に延喜以前に於ては、凡そ現在の磐田郡辰瀬村を東西に通ずる線、濱名郡笠井町を東西に通ずる線、磐田郡池田村のや、南を東西に通ずる線の三線に於て、流津のありしことを想像し得べし。元龜三年三方ヶ原合戦の時、武田信玄が野邊の陣營を發して、三方原に出たるは第一線の流津により、建武二年、新田義貞が矢畑川に高御奈を破りて駿河に逐ひし時、また永享四年、足利義教の富士見物の時にも第二線の流津によりしものなり。而して第三線の流津即ち池田村の南のものは江戸時代に於て武士には船賃なく、商人百姓よりは錢六文を取り、將軍通行の際には浮葉を架せしことなど、東海道名所記・羅山文集等に見ゆ。なほ諸國道中袖籠によれば、船賃は十六文、大水の時にはこやすの森、宮の前より舟に乘れりあり。

一年設置。静岡縣濱名郡和村にあり。【天龍峽】天龍川中流の一峽谷。飯田市の南方、龍丘村時又の下流十餘軒の間をいよ。時又の南隣川路村の小盆地を通ぐれば、兩岸急ち區仄し、斷崖折裂急流奔騰、圍繞する鬱蒼たる樹林の美と渾然融合せる絶境に入る。この地は古來「ホッキ」と稱せられしが、弘化四年阪谷勘齋翁これを探訪し、天龍峽の記を作りてよ下流鳴鶴またこの地に遊びてその勝景を歎賞し、在來の名稱に漢名を充當し、自ら筆を揮ひて岩壁に刻みしもの即ち垂竿磯・鳥帽子岩・姑射橋・鶴鷹崖・新鶴岩・烟ヶ澤・仙林營・樵庵洞・龍角峯・芙蓉洞の所開龍峽十勝なり。嘗て英人ロッケもこの美觀を探り故國に歸りて、凡そ世界に於て見る限りの河川美は、悉く集まりて天龍川にあり、ライン河・ダニュープ河の美と雖も及ばざること益きものあり」と讚賞し、大正元年九月には英國皇子コンノート殿下も親しく天龍峽の探訪を試み給ひ、一層その名が喧傳さるるに至れり。附近の地質は主として片狀花崗岩にて、微粒片狀花崗岩の岩脈の侵入、赤片麻岩たる黒雲母片岩等もまた至る所に挟在す。この片狀花崗岩は直方狀の節理完全に發達し、この地方の地盤隆起のために河水の浸蝕が復活するや、堅硬なる河床への浸蝕よりも節理に従ふ下割作用が著しく進み、遂に現峽谷を生成せし

ものにして、節理によりて開闢されし狀態は華翠磯・新鶴岩・鶴鷹崖・芙蓉洞等に到る處に展開す。天龍の輪谷美は細幅として信濃兩國に跨るも、通常探訪を志し得るは、社線伊那電鐵の終點なる天龍峽驛附近より、これに連絡する三信鐵道第一鐵橋に至る約一軒の間にて、姑射橋より輕舟に身を托して探訪し、俣野伊那節にいよ、天龍下れば津沫に濡れる、持たせやりたや輪笠の境地を味ふも可なり。春は山櫻・山吹・藤等、秋の紅葉は一層景観を添ゆ。西岸には飯谷音天龍峽の碑の建てられし金尾山、山郷驛にて知られし富士山、標の名所公園等あり、天龍峽ホテルの前を過ぎて姑射橋を渡れば展望に富む新鶴岩・龍角峯・天龍橋の靈場・弘法小舎・今村公園等あり。この狹義の天龍峽を更に南に下ること約二〇軒、南少橋・瀧大久保あたりは兩岸の山は愈々高く、樹は更に密に、水は一層の勢を加へて、鏡子の瀧、大島の橋瀧等の急瀧に心膽を寒からしむる所多く、峽中第一の勝地と稱せらる。

【天龍川】静岡縣遠江國磐田郡の南西部。中泉町の南端にて面積僅に四・七五方軒の小村。天龍川下流の沖積平野に位し、全村土地平坦にして耕地よく拓け、米・麥等の産産多し。中泉町に接し、また西岸は掛塚町にも近く交通便利なり。古は天龍川の河道に當りしより村名起るといふ。(十輪寺)曹洞宗。開創年代不詳。

十村 福井縣若狭國三方郡の西南

北は八村に接し、西は遠敷郡島羽村、瓜生村等に隣り、東は遠敷郡高島郡三谷村と界す。東境に三十三間山(八四二米)の山嶺南北に連り、南境より西境にかけても高さ三百米内外の丘陵延び、中部は廣闊なる平地開けて北隣八村の中部に連り田畑よく拓けて米・藁を産し、製絲盛に行はる。丹後街道中部を南北に貫通して自動車を通じ、西北部には省線小濱線走りて十村驛(大正六年設置)あり。古くは和名抄、三方郡能登郡の地とす。中世以降は専ら倉見庄と稱したり。大字井崎に大倉見城址あり、武田氏の麾下下谷某の居せし所とす。天正中大膳亮直之あり、出でて豊臣秀次に屬し色五萬石を食みしも、文祿四年秀次の敗にあたり直之また部を被りて自刃し経没せらる。(「肥後神社」)大字成願寺に鎮座。神社。祭神、井本之大國見戸實神・菅原道直。弘化六年七月當社出火のため社殿及び書類悉く烏有に歸し、その創建年代沿革等を詳かにせざるも延喜式神名帳に載せられし古社なり。祭神は當郡の無名神社(耳村、縣社)祭神室屋古玉の御母に在し、室屋古玉は若狭耳別の祖なれば、當社も

耳別の氏人が祀れる祖廟なるべし。菅原道直は後に合祀せるもの。明治四十二年七月、同村の諏訪・愛宕・賀茂・熊野・山・日吉・住吉・八幡の八社を合祀す。例祭、四月五日。(「弘誓寺」)大字黒田にあり。曹洞宗。大同二年の創建に係る。のち豊臣秀吉の側室たりし江州佐佐木高正の女數千金を報復して修補に充つ。正保二年酒井忠勝祈願のため更に堂宇を修造す。

戸島 熊本縣天草郡久玉村の屬島。

久玉村の東南海上約一・二軒。東西約一軒、南北約〇・五軒の小島。最高處は一四七米にしてその山脚直ちに海に迫り沿岸殆ど海崖を成す。東岸に燈臺あり、昭和五年の設置にして、燈質は不動白光、光達距離は八・五哩とす。

利島 (利島村、東京府)

利島 朝鮮咸鏡北道の時中央、朝鮮アルプスの一峰。鏡城郡朱南面と茂山郡の間に峙り標高二三三・五米。冠帽峰の西南一・二軒餘に在り、一帯の山嶺は豆瀧江一支なる延海水と、東南流して日本海に入る遼瀾川との分水界をなす。

靉嶽 (靉嶽(宮城縣)の古地名)

和名に兒湯郡靉嶽とあり。中世以後譯りて靉嶽(戸町)と稱す。建久園田帳には「郡百五十町、地頭土持太郎宣綱」と見ゆ。いま郡が郡村あり、地名の遺稱なりとす。なほ郡城は同村及び妻町の一部に在るか。

斗意 備後國(廣島縣)の古地名。和名抄に叙可郡斗意郷見ゆ。中世は東莊と稱せしもの如く、のち東條または東城に譯りしものなるべし。いま比婆郡東城町の大字に戸字あり、地名の遺稱とす。而して郡城は東城町及び久代村の邊に當るべし。

東

【東西】朝鮮咸鏡北道明川郡の東北端。郡邑明川の東北約一〇軒。北は鏡城郡に接し、東は日本海に臨む。東部は七寶山地の北縁にて北境に江陵山(七六八米)を崛起し西方に向ひ緩傾斜し、中央を貫流する明瀾川以西は中央の老人峰(二〇七米)を中心として四方に展開する極めて平坦なるマター状臺地を形成し、東南縁には明瀾川、北縁には遼瀾川の峽谷發育す。海岸は山脚直ちに海に没してリヤム式海岸を形成し併地乏しく、東方日本海沿岸に多洲の池港あり。地河の形の關係上、西部は農を主業とし東部は漁業及び林業に從事す。産物は農産に米を筆頭に粟・大豆・大麻・馬鈴薯等あり。工業に朝鮮産・麻布あり。水産物は鱈を第一とし、明太魚・甘藷・若布・昆布・大口魚・鱈・海苔等あり。鐵道咸鏡本線は明瀾川の谷に沿ひて敷貫し、無洞・造基山の二驛(共に大正十五年設置)あり、一等街道之と並走し西部は交通便なるも東部海岸地帯は背後との連絡不便なり。山地西麓の鴨瀾川に龍潭の奇蹟あり。

【東西】朝鮮咸鏡北道茂山郡の東北端。郡邑茂山の東方五軒。四郡は山地を繞らす。即ち東境に民事峰・車輪嶺、北境には加羅支峰、南境には敏峰・根杖徳山、西境には岡崎山・大岡峰等の険嶺連り、中央に雲峰峯え、城内山岳重疊し平地極めて乏しく、之等周縁山地に發育せる諸水は城川水となりて面の中部を北西に流れ茂山邑を経て後豆瀧江に合流す。此沿岸僅に耕地を見るも水田極めて少し。氣候は寒氣酷烈にして一年の過半は結氷し殆ど未作行はれず。山地は茂山營林署所管に屬する森林地帯にして樺・赤松・落葉松等の森林に富み林業は此地の重要産業を成す。農産物は大豆及び小麥を主とし玉蜀黍・神・粟・馬鈴薯等あり、又蜂蜜を産し、西北部は茂山嶺山の嶺區の一部にして鐵・金・銀・銅を出す。社線朝鮮鐵道咸鏡北線は北鮮郡嶺古茂山驛より分岐し、車輪嶺を経て面の中部を横斷し西方茂山に達し、城内に金嶺・新嶺、共に昭和二年設置、西豊山・珍貨(共に昭和四年設置)の四驛あり、茂山・清津間二等道路は鐵路と並走し一部バスの便あり。

【東西】朝鮮咸鏡南道利原郡の東部。郡邑利原の東に隣り、北は鏡川郡に接し、南は日本海に面す。北境に靈徳山(一〇〇一米)及び崎嶇聳立し急傾斜を以て南方に下り、山麓縁に沿ひ東大川東流し頗る興味ある佛香谷を呈し、西南部一帯は丘陵を成す。海岸は西南部の一部を除きて

は鏡北山(一〇九米)と、西南端には伏成徳山等聳え、餘餘城内に及びて山岳重疊し、中央部を大同江支流東大川東南より西北に流路を探り沿岸僅に低地を見る。住民は農を主とす。特産物として光羅・麻布を出し、また大豆・小豆・粟・玉蜀黍等を産す。道路は茂山邑より来る二等道路、面の西北端を北走してバスの過すにも、交通未だ便ならず。粟落は東大川に沿ひて分布す。

【東西】朝鮮平安北道慈山郡の北東部。郡邑慈山の東南約一〇軒。蓋馬臺地の西北縁に當り、城内殆んど玄武岩を以て被覆され、中央に高山徳峰(八七二米)のメーサを初め城内八〇米高度の幾多のメーサの發達を見る。鴨綠江の支流楚山川其間を蛇曲流し、沿岸に狭長なる河岸段丘の發達を見る。住民は農産を以て生業とし、傍ら地蔵山に從ひ又養蜂をなす者あり。産物は大豆・粟・麻・廣草・煙草・山蔘・蜂蜜・蝸・豚及び黒鉛等あり。

は一帶に砂濱海岸を成す。耕地は主として東大川河谷及び西南部の丘陵地に發育す。氣候は同緯度の地に比し比較的溫暖なり。物産は大豆・大麻・燕麥・大麻・生牛・明太魚・鱈其他食糧等あり。陸路は利原及び東方鏡川に通ずる一等道路及び鐵道咸鏡本線沿岸沿ひに並走し、後者に双嶺・各口・群仙(共に昭和二年設置)の諸驛ありて交通便なり。群仙は近海航路の寄港地にして進港を便し、人口約三千、鱈油・鱈骨粉の産地にて此等製造品の外大豆等を海路元山・釜山方面に移出す。昭和十年中貿易額移出二・三六四萬、移入一四四、五五七萬。附近の海岸は松原の美を以て風に開け、谷口は東大川左岸平地に在り、魚油製煉場また盛なり。谷口驛の北約四軒、徳峰(萬徳山)中の福興寺は郡内第一の巨刹にて詣者多く、同驛の南方二軒の日本海岸には學士臺の景勝あり。

【東西】朝鮮平安北道慈山郡の時中央。郡邑慈山の北東に隣接す。妙香山脈に屬する温谷山(九八五米)・大岩峰(九七五米)等東南端に聳え、北境には角峰(八二〇米)等聳えて城内大部分は山地を成し、東部に清川江、西部には其支流照川江、何れも西南方に流れ照川面に至りて合流す。兩河共に深入蛇曲甚しく沿岸に河成段丘の發達を見る。耕地も亦多く段丘上に發達す。住民は農を主とするも養蠶・機械を副業とする者少からず。産物は粟・大豆を主とし、牛・豚等の家畜及び蝸・麻布等あり。また東羽・照川・大瀧・新嶺等の嶺山の嶺區に當り、金・銀を出す。總督府鐵道清瀾本線は照川江に沿うて北上し、草上驛(昭和十年設置)あり。道路は前記兩河に並行して南北に縦貫し、一は江界地方に、一は館洞・柔院驛を経て北方江界に通じ、後者には聯合自動車の便あり。

【東西】朝鮮平安北道慈川郡の東部。大寧江の東岸に位置し、郡邑慈川とは江を隔てて相對す。妙香山脈に屬する香積山(七八二米)・新雨山・地靈山等北境に聳えて江東面を劃し、餘勢東・南部に及び山地域を形成し、中に小盆地を擁す。西

【東西】朝鮮平安北道宣川郡の東端。宣川邑の東端。妙香山脈の末端なる舞鶴山(三三五米)の聳ゆる外著しきものなく、東境には東大川南流し、沿岸緩して低平なり。住民の多数は農業に從事し、また家庭工業として扇の製作に從事する者あり。産物には米・粟・馬鈴薯・木炭・麻・牛皮等あり。西部は宣川金山の嶺區の一部にして金・銀を多く出し、其他、日峰嶺山、公和金山等ありて金・銀・黒鉛等を産す。鐵道京義本線は面の南部を横斷し路下驛(明治四十一年設置)あり。京義一等街道亦南部を東西に横斷して西方宣川・東方定州に通じ、北部には龜城に至るバス路線あり、交通便なり。事務所を仁谷洞に置く。

【東西】朝鮮平安南道孟山郡の東南部。郡邑孟山に東隣し、南は鳴徳郡、東は成鏡南道水原郡に接す。妙香山脈に屬する靈峰(一一三六米)東南端に聳え、北境に

【東西】朝鮮平安南道安州郡の東北端。清川江の左岸に位置し、郡邑安州の東方約五軒。妙香山脈に屬する頭尾山(四一九米)の略中央に聳立する外、西境に西山峰(四五二米)ありて安州邑を劃し、城内花崗岩山地の老年期に屬する波狀臺地連り、低地は僅に東部の東江沿岸に見出すに過ぎず。從つて耕地は臺地西及び其傾斜面に發達を見、灌溉不便の關係上畑地卓越す。地味一般に膏腴にして産物豐富なり。住民は農業を主とし、生活程度一般に裕かなり。産物は大豆・大豆を主とし米・棉花・煙草・牛皮・明蝸・冠等の産あり。東南部は瑞龍金山の嶺區に當り金・銀を出す。鐵道价川線は京義線安州驛より分岐し安州を経て面の北部を東西に横斷し城内に龍興里・雲興里の兩驛(大正五年設置)あり、二等道路また略之と並行して走り、バスを通じ、龍興驛よりは城内に更に數條の路線を敷き、交通比較的便なり。粟落は散村形を成

成

し、地形の關係上普遍的に分布す。雲興里附近の清川江には姑の名産あり。

【東面】朝鮮江原道揚口郡の東部。郡邑揚口の北約一〇軒。大白山脈中の山間村にして、東境に加七峰(二二四二米)を初め大鳳山・兜率山・大巖山(一三二六米)等相連り、餘勢域内及び山岳重疊し漸次南方に低夷し南部は稍低平なり。住民は農及び牧畜を主業とし、副業として養蜂を行ふ者あり。産物は粟・大豆・大麥・大麻・生牛等なり。南北に揚口・内金剛間三等道路通ずるも交通未だ便ならず。聚落は多く街道に沿ひ、林塔里には兩事務所・市場あり。その東北、兜率山麓に三韓時代の創立に成る深谷寺あり。

【東面】朝鮮江原道伊川郡の東南隅。郡邑伊川の東南一五軒餘。馬良嶺山脈に屬する靈影山(六八三米)・大城山等南境を劃し、西境には修清徳山(六八一米)、北境には鳴鳳山ありて周嶽山を以て圍繞し、中部を臨津江の支流平安川西南に貫流し、沿岸に河成段丘の發達により耕地を見出すも灌溉不便にして畑作農業卓越す。住民の多くは農を業とし、傍ら養蠶を行ふ者少からず。産物は大豆・粟・大麥・米・麻・煙草等あり。位置偏在せるを以て交通概して不便なり。聚落南境極めて疎にして東部の月岩里には水利組合及び除塵一・六の日に開く市場あり。

【東面】朝鮮江原道春川郡中央より稍東に位置し、道廳所在地春川邑に東隣す。

大白山脈の西斜面に屬する加里山(一〇五一米)東境に聳え、大巖山(八九九米)南境を劃し餘勢域内に重疊し一般に山地帯を成し、北境には北漢江の支流に屬する昭陽江西流するも峡谷を成して沿岸殆んど平地なく、西方北漢江と合する附近に於て僅に低地を見る。産物は棉花・大豆・薪炭等の外、東員金山より金・銀を、大富嶺山よりタンクスチンを出す。域内大部分山地を成すを以て道路の改修充分ならず交通不便なり。聚落密度疎にして西部の低地及び中部の溪谷に其分布を見るに過ぎず。西邑枝内里の東、月谷里に新國王子の墓と傳ふる陵山あり。

【東面】朝鮮江原道旌善郡の東南部。郡邑旌善の東南約五軒。大白山脈に屬する大徳山(一三〇七米)・成白山(一五七三米)等東境に、南境には白雲山(一四二六米)・斗閣峰(一四六六米)、西境に芝徳峰、北境に高陽山等何れも壯年期の嶺々たる峻嶺を以て圍繞し、道中に於ける山間僻陬の山村にして清江の支流なる東面河の溪谷ありて沿岸僅に低地を見る。一般に土地耕作收穫少きも大豆・煙草・大麻等の産あり。材木・薪炭・蜂蜜等をも産し、また稻田(鏡湖の一部)・茶園・石谷・徳元(同一部)・渡雲の諸嶺山ありて金・銀を出す。僻遠のため道路改修行はれず、加ふるに輪坂路等多く運輸交通頗る不便なり。西邑巖岩里は北部の漢流に臨み、附近は小金剛を以て稱せらるる

僻地にて、下流の石谷里には石門の佳景あり。東南部の成白山中に新羅時代の創建に係る淨岩寺(葛米寺)あり、堂宇宏壯にして當時の寶塔(新羅蘇祿律制遺物)を存す。中部の虎村里には定期に開く市場あり。

【東面】朝鮮江原道洪川郡の南部。郡邑洪川に東隣す。大白山脈中に位し周嶽山を繞らし、東境の慶校山(九九八米)、北境の孔雀山(八八七米)、南境の帶岱山・五音山(九三〇米)等の山麓線の稀まる所に一盆地を形成し、周嶽山地に發源せる諸溪流は樹枝狀に盆地床を灌溉し、北西部に出口峡谷を成して洪川江に合流す。農産物は米と棉花を主とし大麥・粟・蜂蜜等あり、南部は慶興山金鑛の鑛區に當り金を出す。郡邑洪川に隣接せるも交通未だ便ならず。聚落は殆ど盆地に集積し多くは散村型式を成す。

【東面】朝鮮京畿道開陽郡の東端。開城府の東方約一〇軒。北部に小丘陵あれど其他は土地極めて低平にして地味肥え、臨津江の支流砂川これを灌溉し農産に富む。産物は特産たる人蔘を初め米・小麥・大豆・小豆・粟・煙草・棉花等あり。白菜も亦此地の特産にして京城方面に移出せらる。總督府鐵道京義本線は面の南境を東西に通じ、近く鳳東驛(通風面)ありて交通の便に附し、北境には京義一等街道ありて開城より聯合自動車通じ交通便なり。北東隅の鉢山里には除塵二・七

の日に開く市場あり。

【東面】朝鮮京畿道始興郡の北部。北は京城府の永登浦町等に接す。東境に冠岳山(六二九米)・三聖山等聳立し、域内は花崗岩の丘陵性山地をなし平地に乏し。耕地は西北部の安奉川流域の緩斜面を利用せるも灌溉不便にして畑作農業を主とす。産物は小麥・大麥・大豆・煙草・米等にしてまた蔬菜の栽培行はる。鐵道京釜本線は面の西部を縱貫し、中央に始興驛(明治三十八年設置)あり此地を中心として交通運輸行はれ、京釜一等街道も亦之と略並行して通じ西部は交通便なり。聚落も此地域に多く分布し、始興里はその中心邑をなす。

【東面】朝鮮忠清南道天安郡の東端。郡邑天安の東方約二〇軒。東嶺山脈中に位置し、東境に歡喜山(四〇二米)の聳ゆる外著しきものなきも平均高度二〇〇米内外の花崗岩の丘陵性山地を成し、平地に乏し。従つて耕地は丘陵面及び其緩斜面を利用す。農産物には小麥・大麥・大豆・大小豆其他穀類・蔬菜等あり。東北部は八木嶺山の鑛區一部に當り金・銀・アンチモニーを出す。道路は郡邑天安より来る三等道路、面の中部を横斷して東方五軒の嶺川に通じ聯合自動車の便あり。聚落は地形の關係上普遍的に分布し花崗岩を主邑となす。

【東面】朝鮮忠清南道義興郡の東部。郡邑鳥致院の南約四軒。錦江とその支流英

淵川との合流點に位置せるを以て土地低平、地味亦肥沃にして農業盛に行はる。近時華蠶をなす者著しく増加の傾向あり。農産物には米・小麥・大麥・大豆・煙草・繭・生牛等あり。鐵道京釜線は面を縱貫し、内板の簡易驛(大正十三年設置)あり。鳥致院驛(鳥致院邑)、英江驛(忠清北道清州郡芙蓉面)に近く、錦江も亦舟運の利ありて運輸交通便なり。聚落は美湖川・錦江の沿線原を建けて中央盆地の邊縁部に分布し、内板里を中心となす。

【東面】朝鮮忠清南道大徳郡の東部。大田府の東約五軒。東方に小白山脈に屬する環山(五八一米)、西境に鷓足山(四二五米)相對峙し、中間に南北に狭長なる低地横はりて重要な農耕地を成し、北は錦江によりて忠清北道と界す、米・大麥・大豆等の産頗る多し棉花・煙草・生牛等もあり。鐵道京釜本線南部を横斷し細川驛(大正十五年設置)ありて大田(七・四軒)、京釜一等街道また之に沿つて通じ交通概して便なり。聚落は南部及び東北部の錦江沿岸に多し。

【東面】朝鮮忠清南道舒川郡の西北部。郡邑舒川の北方約七軒。東嶺山脈の東端部に屬する丘陵性山地を以て圍繞し小盆地を成し、地味肥沃にして耕地利用比較的高度の發達をなす。住民は農業を主とし副業よく發達し、殊に婦女子の苧麻の製織に従事する者多く、韓山苧布として

牛馬各道に名高し。産物は米・小麥・大豆・煙草等なり。東部を社報朝鮮京南鐵道線南北に通じ板橋驛(昭和六年設置)あり。また道路は面の中央亭山里より南方舒川、東北方鶴山、西方鹿仁に各三等道路を通じ、路面平坦にして車馬の交通運輸便なり。聚落密度大にして、亭山里を主邑となす。

【東面】朝鮮慶尙南道梁山郡の南部。梁山郡に東南隣す。北境に近く大白山系の第四山脈に屬する元徳山(九二二米)、南境に金井山聳え、域内大部分山地を成し西南部に僅に低地を見る。灌溉不便のため耕地は概ね畑地を成す。産物は米・大麥・大豆其他の雜穀、生牛・陶磁器等の産あり。道路は梁山邑より南方東萊・釜山府に至る一等街道、面の略中部を縱貫し、東境を蔚山街道走り何れもバスの便あり。聚落は概ね一等街道沿線及び西部に分布す。南部の金井山西麓に伊達城址あり、文祿の役に伊達政宗、富山浦(釜山)に上陸し、直ちに金海に於ける淺野長政父子の急を救ひ、更に蔚山に向ふ途次、此處に陣營を設けて韓兵と激戦せし所なり。洛東江に臨みて風景頗る雄大な

主なるものは米・大麥・小麥等何れも品質優良にして殊に米は新羅昌原米と稱し内地米に比し差も遜色なく市場評價高し。其他大豆・野菜等の産あり。西部の白月銅山より銅・金・銀・亞鉛を出す。鐵道慶全南部線は三浪津より來り南部を横斷して西方昌原・馬山に通じ、域内に徳山驛(大正十一年設置)あり、當驛を中心として馬山・三浪津(各一等街道)を通じ、また金海(バス驛)あり、交通便なり。聚落は大部分東南平野に密集し、面事務所を新方に設く。

【東面】朝鮮全羅北道南原郡の東北隅。南原東方約二〇軒。小白山脈中にありて西北隅の阿栗面と共に一盆地を形成し、中央を貫流する瀧川を境として其東半部を占む。而して東部の慶尙南道との境に小白山脈の主脈走り、南境に徳頭山(一五〇米)等聳え、急傾斜を以て盆地に下る。畑作農業卓越し、産物は大麥を第一とし、大豆・棉花・煙草・乾柿・木炭等あり。咸陽・南原間の二等道路、面の略中部を横斷し、定期聯合自動車の便あり。聚落は盆地の周嶽山麓線に沿ひて分布し、主邑引月里に市場あり。

【東面】朝鮮全羅南道和順郡の略中央。和順面に東隣す。南境に天雲山(六〇二米)の聳ゆる外は著しきものなく、概して丘陵性にして緩斜面を圍繞して耕地發達す。産物は米・大麥・大豆及び小豆其他棉花・煙草等の特殊作物、蜂蜜・竹類

工等あり。道路は和順より來たる二等道路、面の略中部を東西に横斷し、途中狹窄部に至る道路を岐れ何れもバスの便あり、交通不便ならず。聚落の主なるものは南肥前線道路に沿ひて分布し、中央の壯東里は面の中心をなす。

【東面】朝鮮全羅南道東部郡の川。順天郡西面の北部、小白山脈の支脈中に發源し、南流して順天邑を過ぎ、川口に近く伊沙川の長支を容れ、汝自瀆に注ぐ。流域約三五軒。舟運の便を缺くも、流域は廣潤なる平野にして農業に富む。

ト 塔

【塔ヶ岳】關東山脈丹澤山塊の一峯。主峯丹澤山(一五六七米)の南方に續き、神奈川縣雙甲郡地蔵、中部北奈野村・西奈野村・足柄上郡三保村の境上に位す。標高一四九二米。北西方に經ヶ岳(一六七三米)を望む。三角點より西北方(六・七十米)下れば、尊佛様と稱する巨岩あり。奈野方面にては早岐の礫之に向ひて雨乞をなす。尙ほ石上に生ずる苔を御衣と稱し之を煎じて飲めば病癒ゆと云ふ。但しこの苔は關東大震災の際谷底に轉落して今は無し。奈野方面には右の岩に因みて此山を尊佛山とも云ふ。山頂の北側に不動の清水と稱する清水あり、清水の傍に不動石像立つ。

【塔山】臺灣阿里山の一峯。大塔山の西南方、對向山の西北方に峙つ。標高二四八〇米。山體は砂岩と頁岩との互層より

成る謂はゆる阿里山層にして大断崖を成す。其山脊は宛も塔の如きを以て塔山と稱せらる。頗る雄壯なる景観にして阿里山觀光の一名所とす。

ト一 遠山 久慈郡(長城)の別名。

ト一 道面 朝鮮黄海道瑞興郡の東北端。郡邑瑞興の北方約二〇里。馬息嶺山脈に属する鏡湖山(六五二米)南麓に屹立し、東部遼寧郡との境には甘朴山(六二六米)等聳え絶勢域内に及びて平地に乏しく丘陵起伏す。鏡湖江の支流鏡湖川北部を東西に貫流し沿岸稍低地を見る。生業は農を主とし、近年養蠶をなす者増加す。産物の主なるものに小麥・大豆・粟其他穀類・棉花・人参・鮑・木炭等あり。道路は西方黄州より遼寧に通ずる三等道路域内を東西に横断しバスを通ずるも交通未だ便ならず。

ト一 東安山 秋田縣雄勝郡院内町と由利郡佐子村との境上に位置す。大仙山とも云ふ。標高九二〇米。秋安山より成る。東麓には院内山あり。北方に松ノ木峠・姥井戸山嶺き、南方に飯峠・大森山連る。

ト一 道安面 朝鮮忠清北道槐山郡の北西端。郡邑槐山の西方一五里。東嶺山脈の中の一芝脈内に位置し、西麓に頭陀山(五九五米)聳え、西半部は山地を成せども東半部は低平にして清州平野の北部をなし地味肥沃、加ふるに産物

の便よく農産盛に行はる。住民は農を主とし、傍ら養蠶をなす者少からず。産物は米・小麥・大豆・大豆畑草等あり、また南部の不夜鏡湖山より金・銀・銅を、紫陽金銀より金・銀を出す。中部を社線(朝鮮北線)道安驛(昭和三年設置)あり、道路網よく發達し清州・鎮川・忠州(何れもバス)の便あり。

ト一 頭陀山 遼寧遼北州宣寧郡の最北端。龜山島・龜島の屬あり。東は太平洋に面し、北は基津郡、西は文山郡と界す。地勢は概して西部高く山嶺重疊し、海に面する地帯及び南に若干の平地を有す。河川には南なる平地に頭陀溪ある外若干の小流あれども水最少くして灌溉の用をなさず。主なる産物は農・畜・水・林・工業に於て、殊に産物は最も盛なり、主産物は茶・粟・甘藷・落花生・甘蔗なるも他に柑橘類・蓮霧・桃・李・柿・芭蕉・龍眼・鳳梨等の生産も農産の重要部分なり。畜産は主として農家に於て副業的に營まれ、水牛・家禽の飼育多し。南北に長き海岸線を有し海また魚族に富むを以て水産業は農産に強ぐ重要産物なるも、海岸に良港なく、従つて小型船舶を以てする小規模のものなるゆゑ、其漁獲高も年十萬圓程度に過ぎず。林産には木村・薪・木炭・竹材・生漆あり。工業に於ては製糖・精米・煉瓦・木製品・竹細工・下駄等多岐に互れども、何れも其規模大ならず、年工業利

有餘の島嶼より成り、北に鏡湖海を擁し、東に日本海を望み、東南は朝鮮海峽を隔てて對馬と相對す。面積六五四方里、その十分七は島嶼部なり。半島部は北方國境部の巨流山より派生せる餘脈、半島の脊梁をなし、ために平地乏しく、半島末端部は一たゞ海の中に沈降して、南方海上に岡山・彌勒・欽知・龍草・蓮華・每勿等幾多の大小島嶼を存す。更に西北部には蛇梁島・樹牛島あり。而して岡山島より西方海水に至る間麗水道はその脊梁、内地の瀬戸内海に彷彿し且つ又傳説に富み、朝鮮八景の一に推さる。東部の巨濟島は濟州島・江華島に強ぐ朝鮮第三の大島にして、面積三七九方里、その最高海拔五五五米に達し、丘陵性にして、これをまた平地に乏しく、海岸線延長は二八五里に及ぶ。此島の東南部一帯は要嶽地帯に編入せらる。郡民の主生業は農産及び漁業にして、總戸数の六一%は農、一三%は漁業、八%は商業及び交通業、三%は工業に従事す。耕地面積は約一萬三千ヘクタールにて、うち水田稻田約、米(七萬石)・大豆(三萬六千石)・稗(六萬五千石)・棉(二百萬斤)・甘藷の産多し、その他小麥・大豆・大麻・苧麻・除蟲菊・果實(梨・葡萄)等を出し、また青刈大豆・ヘアリペッチ等の栽培盛なり。副業として豚・雞・鵝の飼養、牛・豚・山羊の飼養、燕窩など行はる。山地より薪材・木炭を出し、また竹材の特産あり

ト一エ

ト一エ 東榮村 山形縣村山郡東田川郡の北端。鶴岡市の東約九里。鶴岡町の東南に接す。面積二五方里。東半部は利根山の北方に連る高さ二百米臺の丘陵性山地なるも西半部は庄内平野の東南部にして平坦なり。秋川は南方より來り、平地の中を北流す。物産は米を主とし、外に木材・木炭あり、また藤を産す。東南部山地に竹澤温泉あり。一に手向の湯といひ硫黄泉にして切羽・胃腸・リウマチスに效ありとて浴客常に絶えず。道路は中部を南北に通じ、北方省線陸羽西線狩川線、南陸手向村間のバス往來す。省線羽越本線鶴岡線は西方約四里にあり交通不便ならず。村内に活川館址あり、梅津中野(上旬)の居りし處。

ト一エ 東瀛 臺灣の別名。昔朝領臺灣後、臺灣に於ける文學の士、本島を以て東海の瀛洲となし、東瀛の稱を以て呼べり、専ら文學上用ひらるる呼名とす。東瀛戰事・東瀛記事等は即ち其例なり。

ト一エ 桃茶 愛知縣西春日井郡にありし町。明治三十三年西尾江・須ヶ口の兩村を合併して本町を置き、同三十九年他の一町二村と共に廢し新川町を置く。

ト一エ 統營 朝鮮慶尚南道二府十九郡の一。道の南端に位し、固城郡の東南に突出せる狹窄半島と、巨濟島を初めとし百二十

四十萬圓なり。交通は東部海岸地方に於て最も好く開く。即ち宜蘭線は東部海岸に沿ひて本庄下を南北に貫き、北より大里・大浜・龜山・外澳・頭陀の五驛(大正九年設置)を設け、又之と並行して基隆・宜蘭道ありて自動車の便あり。本庄の地は清領當時建てられたる頭陀堡にして、大字頭陀はもと頭陀と稱して、陸路臺北より宜蘭に入る要路に當るを以て、早くより開けたり。即ち清の嘉慶元年福建漳州の人吳沙、宜蘭平野の開拓を企つるや初めて土圍を築きて根據となせる所なり。其第一に築きたる土圍にかゝるを以て名づけて頭陀といひしが、後に鳴鴨湖區域の建置と共に城宇の冒用を避けて頭陀と改稱す。烏石港は其近くの海岸、頭陀溪の河口にあり、往時は海水深くして砂堤海波を防ぎ船舶難滞せし、後洪水のため海底隆起して現今港としての用を爲さず。(京省)基隆・雙溪道路間の基隆驛と宜蘭郡との郡界にある一嶺。眺望絶佳にして古來兩郡八景の一に數へらる。(大里海峽)海濱一帶に奇岩怪石起伏し、海上遙に龜山島を望み風光絶佳なり、近年海水浴場開設せられ、夏季ここに遊ぶ者多く漸く繁盛を加へつつあり。(龜山島)龜山島より海上五里東方にあり。その形状龜の海上に浮遊するに似たり。火山質の丘阜にして、海岸に硫黄孔あり、附近の海中よりは盛に硫黄を噴出す。住民五百餘、鹽業を以て生計を維持す。

ト一 東雲面 朝鮮黄海道海州郡の東北端。郡邑海州の東方約二五里。城懸山脈に属する雲連山(六〇〇米)北麓を劃し、絶勢域内に及び北半部は山地帯をなせども南半部は土地一般に低平にして轉地よく拓け農業よく行はる。東南部に延島の大野池あり。物産は小麥・粟・大豆・豆・粟・粟及び梨・栗等の果實あり、南部の徳連山、北部の屏岩金山より金・銀を出す。道路は西方海州より二等道路を通じ聯合自動車の便あり。東落は山麓線に沿ひて發達し徳連里をその中心となす。

ト一 頭雲峰 朝鮮咸鏡南道の北部、龜山郡院内町と長津郡東下面とに跨る山。熊耳江支流と社院江支流との分水界をなす白頭山支脈の中の一峰にして標高二四八七米。

ト一 東田川郡 山形縣村山郡の北端。鶴岡市の東約九里。鶴岡町の東南に接す。面積二五方里。東半部は利根山の北方に連る高さ二百米臺の丘陵性山地なるも西半部は庄内平野の東南部にして平坦なり。秋川は南方より來り、平地の中を北流す。物産は米を主とし、外に木材・木炭あり、また藤を産す。東南部山地に竹澤温泉あり。一に手向の湯といひ硫黄泉にして切羽・胃腸・リウマチスに效ありとて浴客常に絶えず。道路は中部を南北に通じ、北方省線陸羽西線狩川線、南陸手向村間のバス往來す。省線羽越本線鶴岡線は西方約四里にあり交通不便ならず。村内に活川館址あり、梅津中野(上旬)の居りし處。

ト一 東瀛 臺灣の別名。昔朝領臺灣後、臺灣に於ける文學の士、本島を以て東海の瀛洲となし、東瀛の稱を以て呼べり、専ら文學上用ひらるる呼名とす。東瀛戰事・東瀛記事等は即ち其例なり。

ト一 統營 朝鮮慶尚南道二府十九郡の一。道の南端に位し、固城郡の東南に突出せる狹窄半島と、巨濟島を初めとし百二十

村・カーバイト等にしてその貿易額、移出七六八萬圓、移入九二二萬圓に達し...

名は「干戈止息長流河洗兵」の古語に出づといふ。萬曆三十一年(二二六三)統制使李...

乗じ此地塊を割割りて西方に脱出するを得、大開闢の名これに起るといふ。而して...

ト一エ 桃園 臺灣新竹州一市八郡中の一。州の北端に位置し、東は臺北州下新莊...

建し、發賣道路に臺北・新竹間の自營バスある外、民營バス及び手押電車(軌道)は...

東西に貫通し、前者は桃園郡(明治二十九年設置)置き、後者は臺北・新竹間の...

十四年に至りて初めて周圍に土壁を構築し、以て防禦に備へ、市街を再建せり...

西方後龍溪畔に傳かの田圃散在するに過ぎず。河川は西境の後龍溪の外、老田寮...

勢をなし、激は老田春雲に合流する地... 庄との境界にある黒石山にして住時は山...

トカー 十日

【十日町】新潟縣越後中魚沼郡の時中... 信濃川右岸にて南は川治村、北は中...

越後との連絡線たり。越後四方に通じ、... 越後、小千谷、六日町及び長野方面へ...

トカー 東下

【東下】朝鮮東道長津郡の東北部... 特産地は高麗山を占め、郡邑長津の...

赴鴨江は城内の農業地及び居住地... 交通路を決定す。産物は燕麥・馬鈴薯・...

トカー 東化

【東化】朝鮮全羅南道長... 城郡の中南部。郡邑長城の西南約七...

トカー 桃花

【桃花】朝鮮平安北道宣川郡東部の... 鎮山。鎮山は宣川邑及び東面に跨る。...

トカー 道化

【道化】朝鮮全羅南道高... 麗郡の南端。北西端に天冠山(五五五米)...

トカー 東海

【東海】我國八道の一。畿内の東、東... 山道の南、主として海に沿へる地方をい...

トカー 東下

【東下】朝鮮東道長津郡の東北部... 特産地は高麗山を占め、郡邑長津の...

トーカー トーカー

き。酒匂・興津・安倍・大井の四川には舟を置かず、徒渉せしめたり。されば名だたる大井川の如きは、往來の人々、島田・金谷の川越所に至り、制符を取りて八人懸の運送に乗る者、肩車にて渉る者などにて頗る混雑を極めたり。諸大名の参預交替は、身分に応じて多数の人数を従へ、鎗・蓑刀・狹刀・豪弓・鐵砲・茶神當・赤馬等華美を競ひし所謂大名行列なるものにて、各驛の商工業者は之によりて潤ふところ多かりき。されどまた一面、人馬輻輳過超のために宿場及び近村の負擔の重課となり、定助郷・加助郷に對する悉訴絶ゆることなかりき。これ等東海道五十三次の各驛の情景は歌川重忠の東海道五十三次、十返舎一九の東海道中膝栗毛に遺憾なく描寫さる。今當時の五十三次の名稱・里程、現今所在地を表示すれば左表の如し。なほ東海道を本とする臨往還と稱せられたるものは、四日市より伊勢山田に至るものを伊勢路、尾張の岩塚より佐屋へ出、桑名を渡りて東海道を連絡するものを佐屋路、名古屋より大垣へ出、中山道の垂井に連絡するものを美濃路といへり。

東海道五十三次 (支那語)は、普通地名に當るを普通と(し)支那語、假名もも位置通りといふ(る) 驛名 現該當所在地 日本橋 東京市(武蔵國)日本橋區 品川 同 品川區

Table with 2 columns: Station Name (驛名) and Current Location (現該當所在地). Stations listed include 川崎, 神奈川, 程ヶ谷, 戸塚, 藤澤, 平塚, 大磯, 小田原, 箱根, 沼津, 原, 吉原, 浦原, 津井, 興津, 府中, 丸子, 四日市, 桑名, 津, 金谷, 日坂, 掛川, 袋井, 見付, 濱松, 新井.

Table with 2 columns: Station Name (驛名) and Current Location (現該當所在地). Stations listed include 白須賀, 二川, 吉田, 御油, 赤坂, 藤川, 池田, 鳴海, 宮, 萬場, 守, 桑名, 四日市, 石薬師, 庄野, 龜山, 坂ノ下, 土山, 水口, 石部, 大津, 京.

道本線・横濱線・横須賀線・御殿場線・伊東線・二俣東線・二俣西線・武蔵線・西成線・御知山線・有馬線の總稱。 【東海道本線】 省線東海道線の幹線。東京市麹町區丸ノ内の東京より横濱・熱海・沼津・静岡・濱松・豊橋・岡崎・名古屋を経て神戸市兵庫區相生町の神戸驛に至る五八九・五軒と横濱市鶴見區鶴見町の鶴見驛より中區海岸通の横濱港に至る一〇・九軒、横濱驛(横濱市神奈川區高島通)より中區榎木町驛に至る二・〇軒、大垣市高屋の大垣驛より岐阜縣不破郡赤坂町の美濃赤坂驛に至る五軒、神戸市灘區灘北通の東灘驛より神戸區新港町の神戸港驛に至る四・九軒、東京市芝區高輪南町の品川驛より同區汐留町の汐留驛に至る四・九軒、汐留驛より同區日之出町の芝浦驛に至る二・八軒、汐留驛より京橋區築地の東京市場驛に至る一・八軒、品川驛より鶴見驛に至る一七・八軒、川崎市堀川町の川崎驛より同市渡田の濱川崎驛に至る四・一軒、横濱市神奈川區東神奈川町の東神奈川驛より同區千代田の海神奈川驛に至る二・〇軒、東神奈川驛より同區高島町の高島驛に至る二・五軒、横濱市神奈川區守屋町の入江驛より鶴見區地立地の新興驛に至る二・七軒、入江驛より神奈川區千代田地立地の瑞穂驛に至る二・八軒、高島驛より神奈川區山内町の山内驛に至る二・

六軒、高島驛より表高島町地先地立地の表高島驛に至る一・三軒、沼津市上土井方の沼津驛より同市蛇松の蛇松驛に至る三・二軒、清水市水町の清水驛より同市日之出町の清水埠頭驛に至る二・五軒、名古屋市西區佐屋町の名古屋驛より南區瑞穂町の瑞穂驛に至る九・九軒、名古屋驛より熱田區熱田町の白鳥驛に至る四・九軒、大津市馬場の馬場驛より同市港町の濱大津驛に至る二・二軒、京都市下京區八條歡喜寺町の梅小路驛より同區朱雀分木町の丹波口驛に至る二・八軒、大阪府三島郡吹田町の吹田驛より同市長瀬外ヶ濱の神崎驛に至る一〇・七軒の支線を含む。本邦省線中の主要線にして主要列車に國際列車が運轉され、特別急行列車三往復、外に多数の急行旅客列車あり。なほ歴史的にも重要な線路にして、日本最初の鐵道は明治五年十月この新橋・横濱間に營業開始さる。線路には丹那(我國第二位、七八〇四米)・泉嶺(我國第十七位、二四五七米)・新達坂山(我國第二十位、二三二五米)のトンネルあり。

差川の扇状地にして土地平坦、田畑よく拓け、米・麥・野菜等を産し、華嚴・黄鶯も行はる。鐵道千種村との境を略南北に通じ、また省線房総西線の五井驛・姉崎驛にも通からず。この地は和名沙、海上郡鳥穴郷の内にして後に海保庄と稱せし地。大半海岸の海保城址は長元年中、平忠常の城きしものか。(鳥穴神社)大字鳥野に鎮座。神社。祭神。志那都比古命。豊行天皇四十年日本武尊東征を御討伐あらせられし時海上にて暴風起り御船危かりしかば、風神志那都比古命を祀り給ふ。神位正五位下。式内小社に列し、當國五座の一。高倉天皇治承四年源頼朝神領として三十六石を寄す。文政六年松平定信當地附近の海防事業成就を祀り自筆の扁額を納む。これよりの毎年幕府より幣帛を奉るを例とす。例祭、七月二十五日。

交通不便ならず。此地は和名沙、夷語舊道郡の内。(舞臺寺等)大字舞臺各にあり。天台宗。創建年次、岡山名等不詳。住古此境内に大なる釋迦堂あり、地名、寺稱これに因由せりといふ。本堂薬師如来を安ず。 【東海西】 朝鮮咸鏡北道吉州郡の南端。郡邑吉州の南方二〇軒、東は明川郡、西は城津郡に接し、南は日本海に面す。冠帽山山脈に属する冠帽峰(六二二米)、壹芝峰・馬乳山・平徳山・城内山等連りて北地を劃し、西南端は南大川流れ、沿岸は所謂東海平野の一部にしてやや廣き低地帯はる。海岸は長き弓状の砂濱をなし、海上七軒に洋島嶼はる。東海平野は道中屈指の農作地にして、産物は大豆・粟・大麦・米・麻布等あり。また洋島は好漁場をなし春より秋に互り鱒・鱒・鱒・鱒・明太魚等の回游頗る多く好漁場をなす。道路は吉州・城津間の一等街道面の西南境近く縱走すれども直接城内に觸れず、交通やや不便なり。葉落は概して平野に多く龍原洞には定期に開く市場あり。

主として農産物に在り。産物は大豆とし、麥・糠草・蕎麥・粟等あり。特産として葡萄は有名にてミツウツリ項産あり、葡萄園の總面積一八〇ヘクタール、産額約四〇萬貫、農場に於て醸造をも行ひ、製品はミツウツリ葡萄酒と稱し品質の優良を以て鳴る。水産物には鱒・鱒・鱒・鱒等あり。道路は海岸道路一線あり過ぎず、大部分臨海低地帯なるを以て舟により對岸浦項等と連絡す。面色は西端の都邱洞にして、陰曆二・七の日に開く市場あり、市日には隣接の兄山面・鳥川面・延日面等より來流し頗る活氣を呈す。 【東海西】 朝鮮慶尚南道固城郡の東方臨海海に向ひて突出せる半島郡を占む。半島郡部に互流山聳えて喉口を扼し、東部には慶岩山屹立し、東部及び北部はリヤス式岩石海岸を成し、南岸及び西北岸は砂濱を成し、低地は海岸に沿ひ僅に帯狀に分布するに過ぎず。住民の多数は農業または漁業に従事し、少數の製鹽業者あり。産物は大豆・粟・大豆を主とし、米は釜山又は馬山より移入の狀態にあり。水産物は鱒・鱒・鱒等に於てまた食鹽を産す。道路は海岸環狀道路の外に南北横断路あるに過ぎず、面内相互の連絡は舟によるを便とす。葉落は總て臨海部落にして、東岸には尾浦の泊港あり、漁業の中心をなす。 【東海西】 朝鮮慶尚南道海州郡の東海南部線及び東海中線の總稱。此三

トーカー トーカー

等あり、これに續いて本郷・小石川・牛込・四谷・赤坂等、舊市域の山ノ手の各區横はり、更にその外側には豊野川・豊島・澁谷・澁谷・目黒・荏原・品川・板橋・中野・杉並・世田谷・大森・蒲田等、新市域の各區並ぶ。(山ノ手臺地)山ノ手とは「山の方」といふ意味にして、武蔵野臺地の東の部分なり。武蔵野臺地は多摩川と荒川及びその支流なる武蔵川との間の洪積の波状臺地にして小起伏多く、植栽を施すも、その表面はローム、即ち通稱赤土に蔽はれ關東地方に特有なる赤土臺地の代表をなす。ローム層の厚さは舊市域に於て三米乃至七米にして本郷區に最も厚く、小石川・豊島・四谷・麻布の各區これに次ぎ、赤坂・牛込・芝の各區に最も薄し。ローム層の下部には臺地の基盤をなす洪積世の厚き粘土及び砂礫の層あり。その中には化石石・有孔蟲を埋藏し、往時に於て臺地が淺海もしくは海岸に堆積せし三角洲なることを示せり。即ち山ノ手臺地はロームの堆積の終了後水底より漸次に隆起して乾燥となり、今日に及ぶるものなり。而してこの三角洲の頂點は、青梅町(西多摩郡)にありて荒川・多摩川・東京灣にその三方を圍まれ、長さ四五百軒、幅は二〇軒に達し、高度は大體三〇米より一九〇米にまで達し、西端の關東山地に接する方面最も高し。即ち、武蔵野臺地は關東山地の隆起をなす所謂ビームントプラトーの最

も幼稚なるものなり。武蔵野臺地が水底より隆起せし後、臺地の表面は、古くより關東山地より流れるる河川及び臺地間に新に發生せし後生河川によりて割裂せられしかば、今日に於ては各河川はそれれその大きさに應じて大小の浸蝕谷を作り、臺地面は幾つかの地域に分割せらる。更にこの各地域も雨谷の發達せるため複雑なる波状起伏を呈す。されど雨谷と雨谷との間には平坦面が殘存し、總じて武蔵野臺地は幼年期の地形を呈すといふべし。斯くの如く、山ノ手臺地は武蔵野臺地の東部に在り、その表面はかなり浸蝕開新せられ、谷に谷戸と稱せらるる窪地の谷が野餘曲折せるを山ノ手地形の特色となす。武蔵野臺地の谷は成因上二つに分つことを得。一は多摩川・荒川・江戸川の如く、山地より發して海に注ぐ大河の浸蝕が明瞭に示す如く、謂はゆる延長河の浸蝕に因るものなり。されどこれは山ノ手臺地の谷の形成には直接關係せざるべく、却て崖線より浸蝕し始めて次第に後退せる、所謂崖線浸蝕谷及び古延長河が管ての臺地上に形成せし浸蝕谷の中に源を發せし河川が以前の幅廣き谷の中に更に谷を割かしもの方を重要とす、即ち名残川が重要ななり。而もこれ等の河川は山ノ手臺地の中心ともいふべき田原・吉祥寺附近を中心として西方を除く周圍の地に放射状に流れ、自然の傾斜に對して必從(Consequent)河川を形

成す。山ノ手臺地の下町低地に臨める所はいづれも斷崖、又は急斜面をなす。赤羽・上野公園の崖、湯島・神田明神間の崖、愛宕山の崖、高輪の崖等は其の著しき例とす。これ等の崖はいづれも斷崖にして、その東側の地盤がローム層の堆積せし後に陥没して海となりしものなれども、中には更にこの崖の脚部が海波の侵襲を受けて後退せし所もあり。山ノ手臺地東端の崖の方向を見るに、赤羽・上野公園間の崖は西北より東南へ一直線をなし、鶯谷・駿河臺間の崖はこれと直交して東北より西南へ向ひ、また宮城・愛宕山間の崖、高輪・品川間の崖は鶯谷・駿河臺間の崖と平行す。この事實により本市域は、西北・東南行と東北・西南行との二斷層が交叉して地形を支配せることを知る。而して臺地の間を流るる河川のうちに、この孰れかの系統の斷層に流路を求むるものあり。即ち根津東横川の澁谷、板橋下流の千川澁谷、池尻下流の目黒川澁谷、澁谷川澁谷の一部、赤坂澁谷澁谷等は西北・東南行の斷層に沿ふ斷層谷と見られ、和田堀・落合間の神田川中流、大和田・板橋間の千川澁谷、四谷坂町・飯田橋間の澁谷、澁谷川上流の千駄ヶ谷澁谷等は東北・西南行の斷層に沿ふものと考へらる。斯くの如き地形の山ノ手臺地は地形上次の如く分つことを得。一、上野・湯島山臺地、東は上野・田端・赤羽線を以て區切られ、西は荒川

の谷によりて割されし狭長なる丘陵にて東北部は絶壁をなすも、西北部は緩傾斜をなす。高度は上野公園附近にて五米、谷中にて八米、筑波臺にて二二・五米、澁野川の鴨島山にて二五米あり。二、本郷・巢鴨臺地、東は荒川澁谷の谷、西は千川澁谷の谷、即ち板橋・巢鴨新田・大塚・米川町・戸崎町・水道橋の一線を以て限られ、本郷區の大部分、小石川・巢鴨兩區の各一部に屬す。駿河臺もこの一部なるも人工的に神田川によりて切放さる。低地に臨む所は概ね斷崖をなし、高度は駿河臺二〇米、宮本町二〇米、彌生ヶ岡附近二三・五米。三、小石川臺地、千川の谷と神田川との間の臺地にして、小石川區の大部分と豊島區の一部とが之に屬し、神田川に面する所には一〇米乃至一五米の斷崖を呈す。高度は傳道院附近二〇米、小日向臺・豊島ヶ岡・聖學院附近は三〇米なり。四、牛込臺地、小石川臺地の南方に在り、神田川によりて之と離され、南は外濠・澁谷川等によりて限られたる臺地にて、鐵道は大體二五米線を以て圍まれ、若松町及び豫科士官學校附近は三〇米、最高所をなす。戸塚町附近は斷崖緩かなるも他は七米乃至一二米の斷崖斷所に存在す。五、麹町・四谷臺地、牛込臺地の南方に在り、南は虎門・澁谷・赤坂見付・田原町・明治神宮外苑の北をかすめ、西方は澁谷川、東方は宮城・九段の線に限らる。麹町・四谷の兩

區は之に屬せるも、この兩區の接觸面には人工的の谷ありて兩區を隔る。麹町は概ね二五米乃至三〇米、永田町附近は二七・五米、四谷は概ね二五米にして、高所は三二米乃至三五米なり。三年町より紀ノ國坂までと、飯田橋より九段坂までまでは一二米乃至一六米の斷崖をなす。六、麻布・赤坂臺地、麹町・四谷臺地の南に在り、南と西とは澁谷川を以て限らる。開折進み、起伏複雑にして所謂各戸よく發達す。高度は大體二五米なるも、青山より麻布本町までは三〇米以上なり。七、芝白金臺地、澁谷川と目黒川との間の臺地にして芝區を主とす。開折は諸臺地中にて最も進み、頂上は白金・高輪・三田・伊達路の如き小區劃に分れる。高度は概ね二五米にして四則には斷崖よく發達す。以上は舊市域の臺地なるも、更に新市域の臺地は次の如くに分たる。一、新河岸川地域、市の最北部に在り、大泉地方の外は概ね東上線(社線東武鐵道の一)以北の狭長なる斜面なり。赤坂臺地・赤羽臺地ここにあり。これ等然として、多数の小澁谷を形成す。赤坂は三四・七米、赤羽は二四・七米、大泉地方は五〇米内外の高度とす。二、石神井川地域、大體東上線と千川上水との間の丘陵地にして、到る處に若く澁谷谷地が見られ、また石神井・練馬・江古田・池袋等の臺地は、高度は上板橋方面

三二・七米乃至三三・二米、練馬三六・四米、西方部は四六米なり。三、神田川地域、北は千川上水、南は玉川上水によりて限られたる地域にして、石神井川流域の南に在り、妙正寺川その他は澁谷谷の發達を見る。高度は多摩川附近にて三・四・三米、中野區本郷附近にて三・六米、高井戸臺地の南部にて四・六米、西側に於て四・八米なり。四、目黒川・多摩川地域、玉川上水以南一帯の地域なるも、更に品川上水によりて北部の目黒川地域、南部の多摩川地域に分たる。目黒川地域のうち、左岸地域は小さく澁谷谷よく發達し、その右岸は澁谷川の流域に屬し、西北より東南に傾斜せる谷地の發達を見る。また多摩川流域は多摩川に向ひて傾斜し、ここに用賀・自由ヶ丘・大岡山・富士見臺・荏原臺地が大體用水に平行して一列に並ぶ。尙また多摩川畔には田圃調布を中心として、殘丘の如き臺地は、高度は駒澤練兵場にて三一・二米、荏原臺地にて二六米、富士見臺にて三六・二米、田圃調布附近にて四五米なり。〔下町低地〕山ノ手臺地の東方の低平なる沖積平野にして、ローム堆積せし後、洪積世の末期に起りし東京灣の陥没に起因するものなり。東京灣陥没地帯の北邊は利根川に沿ひて遙か北方に延び、鬼怒川流域にまで及ぶ。この沈降時代には今日の下町のみならず、多摩川・荒川・神田川・目黒川・澁谷川の下流ま

でも海侵を受けたり。然るにその後、これ等の地域は徐々に隆起し、また澁川が土砂をもちらして漸次に埋立てしを以て現在の如き沖積平野の發達を見たり。而もこの沖積作用は山ノ手の澁谷より始り、漸次に臺地沿ひの平野部及び、利根川・多摩川の吐口には今日なほ三角洲が作られつつあり。かくて下町低地は次の如く海面が数米に過ぎざるも、その地下には更に低き臺地澁谷及び舊河床の埋藏せるあり。以下町低地の標高を見るに、月島南端一・二米、兩國橋河畔一・八米、龜戸下水神一・二米、洲崎海岸二・五米、香取町一・五米、砂村東南四・八米、千住町中央二・七米、下小岩一・九六米、龜有二・一四米、荒川放水路上〇・九九米、葛西〇・八米なり。尙この下町低地の生育には人工埋立も重要な役割を果せるものなり、即ち慶長以來行はれし埋立工事のうち重要なものは次の如くにして、今日もこの埋立工事は引續き行はれ、益々新開地の増加を見つつあり。一、慶長八年神田山を切崩し、南の大海四方三〇餘町を埋立。一、寛永の頃永代島と稱へたる廣藪地を伊勢の人深川八郎右衛門なる者開拓(今の深川の地)。寛永元年更に淨土宗の僧地蔵院上人、海行を埋立て靈巖寺を建立す。のちこれを靈巖島と稱す。一、寛永十年南傳馬町三丁目北川を埋立。一、寛永年間溝津御村の漁人に鐵砲洞・向千沼百間

四方の地を掘り、正保元年鴨島の漁村成る。一、寛治元年水町御海手・赤坂・小日向等を埋立。一、寛治二年仙臺侯、命を受けて神田川掘削を行ひ、牛込・御茶ノ水大川に通じ、小日向・小石川に新生地を作る。一、同年深川鐵砲洞の地を開拓。一、元禄十一年深川海手一萬坪を埋立てて洲崎と稱す。一、元禄十三年永代島・鷗島六萬坪成る。一、明和二年平井満右衛門なる者洲崎の東方に沙除土手十七町(高さ十二尺、幅六間)を築き二十萬坪を作る。翌三年製鹽をなす。平井新田即ちこれなり。一、明和三年靈巖島埋立成る。高島島といふ。一、明和八年靈巖島埋立成る。一、安永元年大川の中洲成り、同四年に至りて町家全く成る。一、安永八年小網町・甚左衛門町間を埋立。〔海岸〕本市の面する海面は東京灣の大黒頭巾形に彎入せし一部にして、東は江戸川三角洲の突出部、南は多摩川三角洲のそれとによりて區劃せられ、大體、品川灣と稱せらるる海面に當る。灣内は頗る淺く、五米等深線以下なり。特に江戸川三角洲の地先の三枚洲、多摩川三角洲の地先の羽田洲は水深〇・五米の河川排澁の土砂より成る泥堆にして、干潮時にはこの泥堆が遠く一裡沖まで露出し、貝類及び淺草海苔の養殖に利用せらる。東京靈岸島の潮沙恆数は大潮差一・三米、小潮差〇・五米なり。浦賀水道より進入す

る潮流は第二・第三海堡を流して東北の方向に過路をとりて豊洲沖に達し、江戸川口を目標として進むものと見られ、ここに左右に分力、東方に出づるものは千葉沖に、西方に出づるものは品川沖に向ふものと見らる。また落潮時には大體西方海岸に沿うて流出するを常とす。品川沖の表面水の温度は冬季六度内外、比重一・〇一七内外、平均水面は三月に最低、八月に最高にしてその差は約〇・二米とす。水色はフォーレル標準液の帯黄色なり。また海水停滞して赤潮の現象を生じ易し。赤潮は海水が河口又はその附近に数日乃至十日一週一週してその上に淡水が重り停滞する時、この淡水中に發生する浮遊微生物のために生ずるものにして通常褐色を呈し、魚類には極めて有害なるため、その死滅又は退走を促し水産業上の大問題を惹起す。

三 地質

市域は前述の如く山ノ手臺地と下町低地とに分せらるるを以て、地質もこの二つの區域に分けて述ぶることとすべし。〔山ノ手臺地〕臺地の最上層は赤土といはるるロームとす。厚さは三米乃至一・二米の水平層をなし、臺地の表面を一律に蔽ひ、大體東北部に厚く、南部と西南部に薄し。ロームは洪積層にて色は茶褐色乃至黄褐色に染め、多孔質組織にして乾けば土塵となりて飛び易く、雨に遭へば水を合せて軟化し、道路は泥濘とな

り、冬は霜柱を生じ易し。七〇%は粒徑〇・〇一以下で粘土より成り、その餘は大部分粒徑〇・〇一乃至〇・〇五の細砂と粒徑〇・〇五乃至〇・二五の粗砂とより成り、粘土の一種と見らる。主に紫輝輝石・斜長石・磁鐵礦・火山玻璃より成り、また角閃石・普通輝石・黒雲母・石英の晶片を有することあり。ローム層の下部には一般に厚さ三乃至八層の黄色砂石片の薄層を有す。更にその下に粘土と多少の石英砂とを含む異性赤土存在せるも、その厚さは一定せず。更にこの異性赤土の下には褐色・黄色または灰白色の粘土砂の互層あり、その厚さは薄き所にて〇・五米乃至一・五米、厚き所は六米乃至七米に達す。以上ローム層と粘土砂互層を一括して關東ローム層と稱す。このローム層の下には之と不整合をなして成田層と稱せらるる黄褐色の砂礫層存す。海棲貝化石を含むことあり、海成層又は海岸成層といはれ、その地質時代は洪積世と見らる。厚さは田端附近にて六米、東横にて一乃至三米、豊洲ヶ谷にて五・五米、戸塚にて五・九米、上目黒にて二・六米、北品川にて三・六米とす。臺地の牛込北部・目黒川間の地帯には分布を見ず、又は分布を見るも甚だ薄きものとせらる。尚ほ山ノ手臺地の溪谷には第四紀の沖積層の分布も見らる。これは概して泥炭層にして、千駄木町・指ヶ谷町・蒲田・古川等に分布す。

厚さは一・五米乃至二米、稀に一〇米に達する所あり。主に粘土と泥炭とより成り、粘土は褐色にて頗る軟く、泥炭は苔類又は蘆葦の遺根より成り、褐色を呈し粘土を多少含む。而して溪谷が臺地を離るれば本所・深川に於けると同じく粘土層厚く、泥炭層尖鋭す。上述の成田層の下部には第三紀層尖鋭す。この層は東京層と稱せられ凝灰質粘土・砂礫等の互層より成り、地層全流が青灰色を呈する所多し。而してこの東京層は上部より上部粘土層・上部砂礫層・下部粘土層・下部砂礫層・凝灰質粘土層の順序とす。上部粘土層は黄褐色、又は灰色の粘土より成り、往々砂質粘土に移化するものあり。これは臺地の北部に廣く分布し、厚さは普通三米乃至四米とす。上部砂礫層は灰色又は褐色の砂礫の累層より成り、薄き粘土層を數層挟有す。礫には磁石・砂岩多し、また時に貝化石を含むことあり。臺地の中部に最も厚く、厚さは一〇米乃至三〇米に達す。これ等の二層が第三紀層の上部層をなす。下部粘土層は灰色又は青灰色の粘土より成り、一般に凝灰質にて細砂を混ざることあり、又往々細砂の薄層を挟む。厚さは五米乃至二〇米とす。下部砂礫層は灰色又は褐色の砂礫より成り、數枚の粘土層を挟む。礫は上部に多く、主に磁石・砂岩・粘板岩等とす。下部は細砂を主とし、貝化石を含むことあり。厚さは五〇米乃至一〇〇

米に達する所あり。この二層が第三紀層の中部層をなして殆ど全市域に分布し、上部層とは不整合關係にあり。凝灰質粘土層は第三紀層の下部層をなし、主に青灰色の凝灰質粘土より成り、細砂を混ざることあり、また數層の砂層を挟有す。月島にては海面下九一米にして厚さ二米の化石層あり、貝化石のほかに數種の有孔蟲を含む。されど一般に地表に露出を見ず、中部層に對しては不整合關係にありとせらる。〔下町低地〕下町低地の最上層は沖積又は凝土なり。この沖積層は臺地の溪谷にも分布せるも、下町は一度海浸を被り後に河川と海との沖積によりて陸地となりしものなるを以て沖積層に蔽はれたる事勿論なり。これを構成する物質は粘土砂礫にしてその中には海棲貝類の殻多く埋藏し、淺海の堆積層なることを示す。通常は多量の水を含み、凝結度は極めて低く、従つてその厚き所は地盤脆弱にして、大地震の時には震害を被ること大なり。沖積層の厚さは一〇米より五〇米大なり。沖積層の厚さは一〇〔一〕粘土砂礫互層・粘土質砂層、〔二〕粘土層、〔三〕砂礫層に區分す。粘土砂礫互層は淺草東部・神田・日本橋等に互りて地下に伏在する第三紀臺地の縁邊又はその上に沈積し、厚さは普通五米内外なるも、本所小梅町附近にては一・一米より二〇米に及ぶ。粘土は暗灰色又は黒灰色にして、時に砂又は少量の小礫及び貝類を

含む、砂は暗灰色・褐色又は帯青暗灰色を呈し中粒乃至粗粒にて豆大の礫を混へ、礫は灰色にして主に磁石・粘板岩・砂岩の圓礫なり、尙ほ砂・礫は普通粘土を含有しまた貝殻を埋藏することあり。粘土質砂層は主に暗灰色の細粒乃至中粒の砂より成り、常に多少の粘土を兼へ、また貝殻を埋藏す。淺草北部・本所・深川に廣く分布し、厚さは三米乃至五米にして時に七米乃至八米に達する所あり。粘土層は沖積層の上部層をなすものにて暗灰色・帯青暗灰色又は黒灰色の柔軟なる粘土より成り、時に細砂を兼へ砂礫粘土に移せる所あり。また貝殻を埋藏す。淺草北部・本所・深川・不忍池南方・丸ノ内等に最も厚く、厚さは普通一五米乃至二五米、深川南部にては五〇米に達する所もあり。砂礫層は沖積層最下部に沈積し、砂は暗灰色又は稀に帯青暗灰色にして普通細粒又は中粒なるも、時に粗粒又は豆大の礫を混ざることあり、礫は暗灰色・帯青暗灰色又は黒色を呈する磁石・砂岩・粘板岩の圓礫とす。淺草北部より月島に互り地下に伏在せる第三紀臺地の東縁及び丸ノ内・蒲田・古川の如き第三紀溪谷の谷床に分布し、厚さは普通一〇米内外なれども個所に於ては一五米に達す。以上の沖積層の下部の基盤として第三紀層あり、これが臺地の場合の如く上部層・中部層・下部層の三層より成れるものなることは敢て言を俟たず。

〔地下水層〕臺地にては大體五層の地下水層が認めらるるも、何れも浸潤水が不透水性の粘土層の上に停滞せしものにして概ね砂礫層中に含まる。第一帯水層はローム層の下部にあり、水道敷設前山ノ手の汲井戸は概ねこれを利用して第一帯水層は第四紀層成田層の砂礫層なり。第二帯水層は第四紀層成田層の砂礫層なり。御茶ノ水切羽北側崖壁に湧出する湧水はこれなり。次に第三紀層の上部層の砂礫層、中部層の砂礫層及び下部層の砂礫層に三層の帯水層を見る。低地の沖積層にありては、上部の粘土質砂層又は粘土砂礫互層と下部の砂礫層とに帯水層を認むれども、水質は一般に不良にして飲料に適するものは稀なり。

四 氣候

本市の氣候はその位置によりて示さるる如く、良好なる温帯性氣候なり、また表日本型の氣候といふを得べし。次に各要素に就きて述べし。〔気温〕東京の年平均気温は攝氏一四度にして、これを世界の主要都市、例へばモスコウの三・七度、ベルリンの八・六度、パリの一〇・四度、ロンドンの一・七度、ローマの一・五度、ニューヨークの一・四度、プエノスアイレスの一・六度、シドニーの一・七・二度等に比較すれば稍高き方なり。我が内地にては京都の一・三・九度最も近し。されど本市は東京沖に臨み太平洋に近きを以て気温は海洋性を帯び、京都に比して一日中及び一年中の気温の

較差は小なり。七月同東京市内に於ても西部の新興市が海岸寄りよりは比較的熱の大なることは云ふまでもなし。気温上昇の時は通常七月下旬より八月初旬にかけて現れ、一年中の最高もこの間に現るるを普通とすも、時としては七月上旬及び九月初旬に突然高温の現るることあり。これまでの最高気温は明治十九年七月十四日の三六・六度とす。月別平均にては八月の二五・六度が一年中の最高とせらる。又一年の最寒期は一月の下旬より二月の初旬にて、一年の最低気温もこの間に現るるを普通とすも、時には氣壓配置の關係その他の事情のためにその前後に突然低温の現るることあり。昭和二年一月二十四日の零下八・六度は東京に於ける最低気温なり。月平均にては一月の三・一度が最低なり。尙ほ本市に於ける平均気温は次に示すが如し。(單位攝氏度)

Table with 4 columns: 月別 (Monthly), 平均気温 (Average temperature), 毎日最高 (Daily maximum), 毎日最低 (Daily minimum). Rows for months from January to September.

本市の年雨量は、一五五八毫、國內にては中位なるも、これを世界大都市、例へばモスコウの五七一毫、ベルリンの六二二毫、パリの六〇四毫、ロンドンの六一一毫、ローマの八八〇毫、ニューヨークの一・〇四三毫、プエノスアイレスの八五七毫、シドニーの一・二三二毫に比すれば断然多し。總じて一箇年に二回の雨期あり。即ち最初は六月頃の梅雨期にして、降雨日數頗る多きも雨量は比較的少し。第二の雨期は九月・十月の颱風季節にて雨量最も多し。尙ほ一日の雨量の最

大記録は昭和十三年六月二十九日の二七八・三耗なり。(雪・霜)本市の初雪は十一月中旬にも見らるることあれども、平均にては十二月二十四日にして、終雪は四月十日頃のことあるも、平均にては三月二十日頃なり。又初霜は十月二十一日頃にもあれど、平均は十一月十二日、終霜は平均にては四月六日なるも、時としては五月中旬のことあり。尚ほ本市の雨量・降水日数・快晴日数・曇天日数は次の如し。

Table with columns: 月別 (Monthly), 雨量 (Rainfall), 降水日数 (Precipitation days), 快晴日数 (Clear days), 曇天日数 (Overcast days). Rows for months from January to December.

【農業】 市域の農業は、本市には農業も相當に行はるることとなり。これは同じ東京市内でも都心より遠隔の地域にては、未だ都市化せず、猶ほ農村となつてあり。

【水産】 市の沿海は魚類豊富とは云へど、海産・貝類の養殖を主とする水産養殖は、水産物六百二十萬圓、水産製造物一千七百七十萬圓、合計年産一千八百萬圓内外をあぐ。また水産業主は本業約六千二百人、副業約一千八百人、同業業者は本業一萬七千人、副業四千九百人、漁船は約八千隻なり。舊市域にても行はるるも新市域の方面に盛大にして水産養殖の四分の三は新市域の生産にかゝる。漁場は品川御家場以西、多摩川口沖に至る一帯の海面を主とし、漁獲物は鱈・鮎・鰯・鱈・白魚等を主とす。水産養殖の盛大なることは東京市水産業の特色にして、アマノリ・鯛・金魚・鰻等を主とし、その價額は五百萬圓内外に達す。殊にアマノリは東京の名物ともいふべく、養殖場數約二百二十、養殖面積百六十萬坪、生産額四百二十萬圓(四百五十萬圓内外)に達す。深川・品川兩區に於ても産すれども、主として大森・蒲田・江戸川の三區にて行はる。金魚の養殖は主として江戸川・城東の兩區にて行はれ、養殖面積約十萬坪、生産額は約八萬圓に達す。また鯛の養殖は遠淺の海面を利用するものにしてその年産額約十萬圓とす。水産製造には乾海苔・蒲鉾・竹輪・佃煮等あり。蒲鉾・竹輪は年産額百五十萬圓に達するも、原料は市内にて産せず。また佃煮の年産額は百六十萬圓内外にして古き歴史をもちし水産製造物とす。さてはこの地産の原料を用ひしも、今日に於ては全く他地方に依存す。乾海苔は専ら淺草海苔の名を以て古くより人口に膾炙せらる。昔は淺草川、今は大森區に最も多く産し、本市の年産額は六百五十萬圓内外にして日本全國の約二分の一を出す。

て残存せる處多きが故なり。尤も最近所謂郊外居住者の年々増加するにつれ、耕地の漸減しつつあることは言を俟たず。現在に於ては市域の農業世帯數は約一萬八千戸、農産總額は約一千四百萬圓に及ぶ。

Table showing agricultural statistics for various districts (Shinjuku, Nishi-Shinjuku, etc.) across the years 1928, 1929, 1930, and 1931. Columns include household numbers and production values.

【工業】 本市は一大城下町たりし關係上消費都市として發達せしものなるも、帝國の首都となるや、帝國の中樞的金融機關の本據ここに設けられ、資本の供給が潤澤となり、又交通上にも帝國の大中心となり、人口の集中は勢力の供給を豊かにし、製品の需要を旺盛にする等工業の發達に有利なる條件が具備せられたるを以て、次第に工業地として躍進し、今日には川崎市・横浜市と合して京濱工業地帯を形成し、本邦四大工業地帯の一となるに至る。最近に於ける生産總額は約十二億七千萬圓、このうち工業額は十二億三千萬圓にして、全生産額の實に九七%を占む。殊に舊市域の工業額は各種生産額の九九%を占め、新市域の九五%より多し。工業以外の生産は殆ど全く行はれざる状態なり。されど工業額そのものは新市域の方が二割方多く、この點にても新市域の併合は工業都市として

【工業】 本市は一大城下町たりし關係上消費都市として發達せしものなるも、帝國の首都となるや、帝國の中樞的金融機關の本據ここに設けられ、資本の供給が潤澤となり、又交通上にも帝國の大中心となり、人口の集中は勢力の供給を豊かにし、製品の需要を旺盛にする等工業の發達に有利なる條件が具備せられたるを以て、次第に工業地として躍進し、今日には川崎市・横浜市と合して京濱工業地帯を形成し、本邦四大工業地帯の一となるに至る。最近に於ける生産總額は約十二億七千萬圓、このうち工業額は十二億三千萬圓にして、全生産額の實に九七%を占む。殊に舊市域の工業額は各種生産額の九九%を占め、新市域の九五%より多し。工業以外の生産は殆ど全く行はれざる状態なり。されど工業額そのものは新市域の方が二割方多く、この點にても新市域の併合は工業都市として

Table listing industrial statistics by district (e.g., Shinjuku, Nishi-Shinjuku, etc.) for the years 1928, 1929, 1930, and 1931. Columns include factory counts and production values.

【畜産】 家畜も主として新市域に飼育せらる。主なる家畜は牛の七千二百頭、馬の二千五百頭、豚の一萬七千頭、山羊の三百頭などなり。牛乳の消費地たるだけに乳牛斷然多く、その數三千八百頭に及び、牛乳の年産も八萬八千石内外に達し、所謂搾乳業者の多きことは特色をなせり。また獸肉の産額も多し。屠殺は専ら新市域にて行はるるものにて、一箇年の屠殺數は牛四萬一千頭、馬一萬五千頭、豚二十一萬頭、羊七千頭内外にして、その肉量は牛百八十萬圓、馬五十萬圓、豚二百三十萬圓、羊三十五萬圓内外とす。而してこれ等の屠殺業者は勿論市域内に自給するものにてはなく、殆ど全く各地よりの移入に俟つ状態なり。家禽としては雞の約五十六萬羽、鶯の約一萬五千羽はその主なるものとす。産卵數は雞約三千五百萬個、鶯約十九萬個なり。また練乳・バター等の乳製品が約六十萬圓、ハム・ベーコン等の肉製品が約七十五萬圓に上り、これ等すべての畜産總額は一千八百萬圓内外に達す。

【林産】 新市域には千町歩内外の林野あり、年約十萬圓の林産物を出す。林産には杉その他の用材及び薪炭材あり、その過半を占むるは杉なり。目黒の物の如く古き傳統をもちしものもあり。されど最近にては新市域の都會化が進むにつれ林野面積は次第に減少し、林産は不振となり、古き傳統をもつ林産も次第に無く

Table listing industrial statistics by district (e.g., Shinjuku, Nishi-Shinjuku, etc.) for the years 1928, 1929, 1930, and 1931. Columns include factory counts and production values.

トキョー 東京市 産業

市内工場及職工推移 (昭和十一年末)

事業別	七年		八年		九年		十年		十一年	
	工場数	職工数	工場数	職工数	工場数	職工数	工場数	職工数	工場数	職工数
紡織工業	2,000	100,000	2,000	100,000	2,000	100,000	2,000	100,000	2,000	100,000
金属工業	1,500	75,000	1,500	75,000	1,500	75,000	1,500	75,000	1,500	75,000
機械器具工業	1,000	50,000	1,000	50,000	1,000	50,000	1,000	50,000	1,000	50,000
化学工業	500	25,000	500	25,000	500	25,000	500	25,000	500	25,000
印刷及製本業	300	15,000	300	15,000	300	15,000	300	15,000	300	15,000
食料品工業	200	10,000	200	10,000	200	10,000	200	10,000	200	10,000
瓦葺及電気業	100	5,000	100	5,000	100	5,000	100	5,000	100	5,000
其他ノ工業	100	5,000	100	5,000	100	5,000	100	5,000	100	5,000
計	7,700	385,000	7,700	385,000	7,700	385,000	7,700	385,000	7,700	385,000

るが、或はまた機械による大量生産が非
経済的なる物品を作りつづつあるものにし
て、大規模なる工場工業時代の今日にて

も職は特殊の存在理由をもつものなり。
また工業生産額を業別に見れば、右表
の如く、機械器具工業最も多く、化学工

四三六

に多く設置せらる。隅田川・荒川・目黒
川流域及び町野・芝浦・月島附近の如き
はこれが實例なり。第四に工場は舊市街
の場末地帯に集まる傾向あり。都市よ
りや離れたる地帯に多く、又餘りに遠
隔なる地帯にも少し。即ち山手線一帯或
は江東地帯に多し。第五に工場によりて
は自然的條件の絶対的支配を受く。染色
工場が用水と特殊の関係をもち、製材
工場が河海沿岸に位置し、造船工場が相
當の水深の河海沿岸にあるが如きはこれ
の例なり。第六に工場によりては経済的條件
に強く支配せらる。印刷工場・製本工場
が商業地帯に集まるが如きはこれの例
なり。第七に工場によりては普遍的に分
布するものと、或地帯にのみ集まるもの
とが認めらる。精米工場・製氷工場の
如きは前者の例なり。要するに、東京市
の工業地帯は低平なる河海に面する地帯
にあり。東京市の都市計畫に工業地帯と
せられたる地帯は大體隅田川以東と芝浦
以南、多摩川沿岸までの地帯を中心と
す。工場の最も稠密なるは荒川放水路と
隅田川との間の所謂江東地帯にして、こ
れに隣り隅田川の西岸に沿ふ千住・墨野
川・王子に至る江北地帯も亦工場稠密な
り。別に月島・芝浦等より荒川に沿う
て白金臺地を隔て大崎・品川・大井・蒲
田に至る市南西部の地帯にも工場稠密す。
江東・江北の地帯は隅田川と之に連絡す
る多数の河川が水運の便を興ふること

が工場を集中せしめ、市南西部の地帯は日
黒川の沖積地にして東京灣に面し、京濱
運河に沿ひ、舟運の便大なる上、横濱に
近く輸出入に都合なる事情が工場を集
中せしむる主要なる原因をなせり。これ
等の工業地帯より離れて、下町の商業地帯
にも多少の工場あり、大工場は少く、
更にこれを北より西に取巻く山ノ手の住
宅地に至りては一層工場少し。また新市
街の山手線沿線の石神井川・谷崎川・神
田川・澁谷川等の浸蝕谷に小工場分布せ
るも、山手線沿線を離れ市の外側地帯に
至れば殆んど工場が存在を見ず。以上は
工場一般の分布状況なるも、工業の種類
によりてその工場の分布に多少の差別を
生ずるを以て、更に工業部門別の分布を
見るに、紡織工場は概ね江東・江北地帯
に集中す。紡織工場には大規模なる近代
的工場多く、向島・葛飾・足立・墨野川
等隅田川の沿岸に設けらる。これに對し
て機械工場は板橋・豊島の兩區に、製糖
工場は荒川・豊島・向島・品川・足立・
城東・深川・澁谷の各區、機械工場は荒
川・足立・豊島・墨野川の各區、莫大小
工場は本所・豊島・向島・目黒の各區、
染色工場は川水に晒す必要よりその便の
ある向島・葛飾・江戸川・豊島・本所の
各區に多く設けらる。機械器具工場にて
は電気機械器具工場は品川・芝・蒲田・
大森・澁谷・豊島・荒川・墨野川の各區
に、電球は荏原・品川・大森・澁谷・目

黒の各區、精密機械は荒川・墨野川・豊
島・本所・向島の各區、自動車・
自轉車の車輛は芝・蒲田・浅草・品川・
豊島・荒川・城東・本所等の諸區に、農
具・土木建築用機械・紡織機械工場は江
東一帯に、時計工場は本所區、活字工場
は神田區、計器類は品川區に多し。金属
工業のうち金銀製錬に材料品工場は江
東地帯に最も盛んなるも、板橋・品川・
蒲田等の各區にも行はる。鑄物は江東の
諸區と品川・蒲田・大森・芝・豊島の各
區に多く、又鐵工場は江東の諸區に品
川・蒲田の兩區に、鍍金工場は本所等の
他江東一帯と品川・浅草・芝・下谷等の
諸區、製糖工場は京橋・本所・品川等の
諸區に盛んなり。窯工場は城東・本所・
深川・向島等の諸區に多く、これに次い
で豊島・品川・蒲田・京橋・芝・下谷等
にも行はる。江東の小名木川・荒川の流
域に殊に密集す。化学工業にては肥料工
場は城東・深川・荒川・王子の各區、製
紙工場は江東地帯に、製薬・染料・塗料
工場は江東一帯及び豊島・澁谷・品川・
蒲田・芝の各區に、油製工場は江東一帯
に、ゴム工場は向島・荒川兩區に、エボ
ナイト・セルロイド工場は葛飾・向島・
荒川の各區に多し。製材・木製品工業に
ては、製材は深川・城東・本所の各區、
木製品工場は本所・深川・豊島・澁谷・
芝の各區に多し。食料品工業にては、釀
造工場は目黒・本所の大日本麥酒工場著

トキョー 東京市 商業交通

四三七

に多く設置せらる。隅田川・荒川・目黒
川流域及び町野・芝浦・月島附近の如き
はこれが實例なり。第四に工場は舊市街
の場末地帯に集まる傾向あり。都市よ
りや離れたる地帯に多く、又餘りに遠
隔なる地帯にも少し。即ち山手線一帯或
は江東地帯に多し。第五に工場によりて
は自然的條件の絶対的支配を受く。染色
工場が用水と特殊の関係をもち、製材
工場が河海沿岸に位置し、造船工場が相
當の水深の河海沿岸にあるが如きはこれ
の例なり。第六に工場によりては経済的條件
に強く支配せらる。印刷工場・製本工場
が商業地帯に集まるが如きはこれの例
なり。第七に工場によりては普遍的に分
布するものと、或地帯にのみ集まるもの
とが認めらる。精米工場・製氷工場の
如きは前者の例なり。要するに、東京市
の工業地帯は低平なる河海に面する地帯
にあり。東京市の都市計畫に工業地帯と
せられたる地帯は大體隅田川以東と芝浦
以南、多摩川沿岸までの地帯を中心と
す。工場の最も稠密なるは荒川放水路と
隅田川との間の所謂江東地帯にして、こ
れに隣り隅田川の西岸に沿ふ千住・墨野
川・王子に至る江北地帯も亦工場稠密な
り。別に月島・芝浦等より荒川に沿う
て白金臺地を隔て大崎・品川・大井・蒲
田に至る市南西部の地帯にも工場稠密す。
江東・江北の地帯は隅田川と之に連絡す
る多数の河川が水運の便を興ふること

【商業】本市は一大消費都市なり。故に
國內は勿論世界の各地より大量の物資流
入し、又この地にて作り出されたる物資
も間断なく國內は勿論世界の各地に流出
す。従つてこれ等の物資の配給を目的と
せる商業の發達は頗る自然といふを得べ
し。加ふるに、帝國の首都たる關係上、
日本銀行を初めとし帝國の金融機關設け
られてその中樞を成す故に商業は自然發
達せざるを得ず。昭和五年國勢調査の結
果によれば、現在の市域の有業者二百十
二萬人中、商業に従事するものは六十五

萬八千人にて全體の三二・九%に當る。殊
に現在の市域は商業従業者が有業者の
三七%を占む。またこれを商取引の反映
たる手形交換高に見ると、昭和十一年中
の手形交換高は二百七十四億圓にして、
大阪の二百五十億圓を凌駕し、全國第一
に位す。即ち全國の手形交換高六百九十
八億の約四割に當り、本市が商業都市と
して如何に有力なるかを如實に物語る。
【金融機關】金融市場としては本市は全
日本の指導的地位を占む。中央銀行とし
ては銀行券發行の特権を有する日本
銀行を第一として、不動産金融を行ふ日
本勸業銀行、産業金融を行ふ日本興業銀
行の本店及び横濱正金銀行・朝鮮銀行・
臺灣銀行・北海道拓殖銀行等の特殊銀行
の實質上の本店も概ね本市に設けらる。
更に三井・三菱・安田・第一・第一百等の
普通銀行の本店もあり、又多数の貯蓄銀
行もあり。これ等を合して昭和十一年末
の市内所在の銀行本店は特殊銀行三、普
通銀行一六、貯蓄銀行五、支店数は特殊
銀行二、普通銀行一七五、貯蓄銀行五七
の多数に昇り、六十億圓以上の預金を運
用して、全國の経済活動の指導に當る。
而してこれ等の銀行は主として麹町・日
本橋・京橋等の都心の商業地帯に最も多
く密集し、工業區にも少からず分布せる
も、本支店合計三五一のうち二七八は舊
市域にあり。銀行外の重要な金融機關
としては、三井・三菱・安田等の信託會

トキョー 東京市 商業交通

と循環電車運轉せらる。以上省線電車は専ら都心のビジネスセンターへの通勤者を運ぶものにして、毎日の省電乗客は平均百萬人位と見らる。通勤者の殺到するラッシュアワーは午前七時より九時まで、その最高時は七時

駅名	乗車人員又ハ貨物運送回数	降車人員又ハ貨物到着回数	旅客貨物収入
東 京	七三、三九八人	七三、四七九人	四六、〇一四圓
新 橋	四一、七七九人	四一、〇五八人	七、六三三圓
品 川	一八、七九八人	一八、八七九人	八、〇〇八圓
品 留	一、五二五	一、五二五	一、三三〇圓
飯 田	一、五二五	一、五二五	一、三三〇圓
新 宿	七〇、〇四八人	七〇、〇四八人	一、三三〇圓
秋 葉 原	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
上 野	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
兩 国	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
錦 糸 町	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
有 楽 町	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
神 田	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
御 茶 水	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
池 袋	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
田 町	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓
蒲 田	一、八〇〇人	一、八〇〇人	一、三三〇圓

省線電車は上述の如く専ら旅客の運輸にあたるものなるも、省線電車は貨物の運送に最も大なる貢献をなす。鐵道による貨物入出賃運送の約八割は省線鐵道による。昭和十一年には省線が出貨五百八十六萬圓、入貨三百四十萬圓、私線が出貨百五十萬圓、入貨四十六萬圓なり。省線にては東海道線・常磐線・東北本線・山手線・總武本線・中央本線の順とす。私線にては東武鐵道が歴史的に多く全線の約八割を占む。貨物集積量の最も多き驛は隅田川驛にして、入出賃合計百五十四萬圓。沙留驛の入出賃百五十萬圓、秋葉原驛の九十二萬圓これに次ぐ。更に品川・飯田町・新宿・兩國・錦糸町・小名木川等も有力なり。また私線にては東武鐵道の葉平驛が八十三萬圓をもつて歴史的なり。入貨のうち重量に於て最大なるものは砂利の百三十三萬圓にして、これに次ぐものは木材の七十三萬圓、米の六十三萬圓、石炭の五十九萬圓、木炭の四十二萬圓、石材の二十七萬圓、洋紙の十四萬圓、鮮魚介の十三萬圓等なり。出賃に於ては肥料の五十三萬圓最も多く、石炭の二十八萬圓、鐵鋼及び同製品の三十五萬圓、米の二十萬圓、食鹽の十萬圓等がその主なるものなり。更に私設の出賃のうちにて石炭の九萬圓、肥料の七萬六千圓はその著しきものとす。(「郊外電車」本市の陸上交通機關の一として郊外電車あり。この電車は本市と本市外とを連絡す

四〇

田原間。京王電氣鐵道：京王新線・多摩御成間。調布・京王多摩川間。西武鐵道：新宿線・荻窪間。高田馬場・川越間。武蔵野鐵道：池袋・飯能間。練馬・豊島間。王子電氣鐵道：早稲田・三ノ輪間。王子電氣鐵道：上野・京成成田間。押上・京成金町間。東武鐵道：淺草門・伊勢崎間。淺草門・東武日光間。淺草門・龜戸間等。東武鐵道東上線：池袋・寄居間。水城東武鐵道：練馬町・西武川間。水神森・酒崎間。東武川・今井間。昭和十一年末の營業路線延長は八九二軒に達し、そのうち本市内は分は二三九軒なり。又同年度の旅客数は三億四千七百四十七萬人にして、そのうち本市内は分は二億八千八百萬人なり。旅客数の最大なる驛は目黒蒲田電鐵の六千三百七十萬人にして、之に次ぐは京濱電氣鐵道の四千七百萬人なり、その他に於ては東京横濱電鐵・東武鐵道・京王電氣鐵道等その有力なるものとす。斯くの如く郊外電車は主として旅客の運輸に従へるも、貨物運輸にも貢献することは前述の如し。而して貨物運輸にては上述の如く東武鐵道

トキョー 東京市 商業交通

が歴史的に有力なれども、玉川電鐵・京王電氣鐵道・武蔵野鐵道も若干の貨物を輸送す。更に私線の貨物驛としては上述の葉平驛の外に、練馬・池袋(東武・武蔵野)・新宿(京王)・澁谷(玉川)等あり。以上の外に又市内の私設鐵道として地下鐵道あり。大都市に於ては諸種の地上交通機關の發達に伴ひ、相互に速度の遅減を來し、且つ交通事故を惹起し易きを以て、高速度にして而も安全・正確なる交通機關としての地下鐵道の發達を招來するものなり。本市に於て高速度地下鐵道建設の構想せられたるは大正八年なり。これが建設に着手せしは同九年八月にして、昭和二年十二月淺草・上野間が開通し、更に同五年一月に上野・萬世橋間、同六年十一月に萬世橋・神田驛間、同七年四月に神田驛・室町間、同八年一月に室町・京橋間、同九年三月に京橋・銀座間、同九年六月に銀座・新橋間が開通せり。現在の路線延長は八軒、一億年の旅客数は二千七百萬人(昭和十一年)なり。(「市營電車」本市の特に舊市域の大衆的なる交通機關として大なる意義をもつものは市營の電車なり。市内の路面に鐵道を敷設し乗客を運送せしは明治十五年六月に同業せし新橋・日本橋間の馬車鐵道を以てその初めとす。これが電氣に改められしは同三十六年なりしも最初は民營にして同四十四年に至り市營に移管せられたり。當時の路線延長は約一二〇軒な

四一

業は一時著しく發展せしも、大震災後東京市これに退出せしを以て頗る壓迫を被り、東京乗合自動車は乗合自動車は青バスの名を以て知らるるも、最近東京

Table with columns for years (昭和六年 to 十一年) and rows for various transport metrics like '乗車人員' (Passenger count) and '乗車料' (Fare).

次に謂はゆる青バスの路線延長六七軒、乗車人員は七、一一八萬人、乗車料金は四三〇萬圓とす。その他の私設バスの路線延長九五三・八軒、乗車人員は一三、二一七萬人、乗車料金は七八七萬圓(いづれも昭和十一年)なり。乗合自動車の一形態に遊覽乗合自動車あり。學生その他東京見物に上京する者を目的とするものにして、大正十四年十二月東京乗合自動車會社の創始にかゝる。出發地は、最初は上野、新橋兩驛前なりしも、のち東京・新橋兩驛前を加へ四地點とす。その路線八〇軒、所要時間約八時間、料金は大人三圓五十銭、小人二圓三十銭なり。東京驛前發の遊覽コースは次の如し。東京驛前發—帝國ホテル—市政會館—霞ヶ関官廳街—櫻田門—宮城二重橋(橋公園側)—中央氣象臺—神田書店街

九段靖國神社—青葉通—三宅坂—藏事堂—赤坂離宮—青山御所—明治神社—泉岳寺—芝公園—上野公園—愛宕山(放送局)—日比谷公園—勸業銀行—日本銀行—三越—國技館—愛宕記念堂—淺草公園—上野公園—須田町—日本橋—銀座—歌舞伎座—新橋—東京驛前發。向は遊覽乗合自動車には郊外乗合自動車あり。市内より奥多摩・三浦・三時等市外の遊覽地へ行くものにして、大正十五年に開始せられたり。その後利用者も増加し營業者も増え、今日では東京地下鐵道は合計四社これを經營す。また本市を環繞する郊外電車も概ね自社の線と連絡して乗合自動車を經營し、そのうちの或者は市内の交通機關として活躍しつつあり。有様月自動車は所謂トラクタ

一軒の市道あり。昭和十一年末現在の明細は次表の如し。

Table with columns for '舊市域' (Old City Area) and '新市域' (New City Area), listing various roads and their lengths.

これ等の道路の面積は約四八方軒に達して、本市面積の八・四%に當る。道路の發達は文明の程度を示す一標準と云はるるも、本市のこの道路面積の割合は歐美の大都市、即ちニューヨークの約三五%、ワシントンの約四四%、ベルリンの約三〇%、パリの約二五%等に比すれば甚だ少し。舊市域の道路面積は震災後著しく増加し、大體舊市域面積の約一七%となり、殊に震災に因る被災區域は約二六%に上り、歐米大都市の水準に達したるも、市域擴張の結果、この割合は大減少を示すに至れり。本市はもと城下町たりし關係上、市の道路網は不規則なりき、即ち舊市域の道路網は江戸城を中心として設けられ、専ら市街戦に備へん事を第一條件として作られしを以て殊更に好曲せられたり。明治維新の際に大名・旗本の大邸宅は荒廢し、やがて東京の發達につれて徐々に道路も作られしが、多くは自然のままに延長せらるるに委せたり。又舊市域外に都市が發展するに際しては概ね無計畫的に延長せしかば道路は錯

雑を極めたり、而もその道路も多くは無舗装にして、謂はば一種の踏分路に過ぎざる有様なりき。然るに、市當局に於ては、明治三十四・五年の間に市内主要道路を幾分擴張せしを除けば、明治年間間の市區改正は殆んど行はれず、漸く大正九年に至りて市に道路局が設けられ、同年より資金一億圓餘をもつて道路を新設し、又主要道路を擴張し改裝することとなれり。而してや道路の改裝進行せし時、大正十二年、かの大震災起り、下町一帯は焼失したり。ここに於て計畫を根本的に立直し、新にこれが事業に着手せしを以て本市舊市域の街道の面目は全く一新するに至れり。即ち街道網は第一に東京を東北より西南に貫する街道、即ち品川八ツ山より銀座の東東側を經て上野驛前を通り、千住に至る延長一三軒、幅員三三米乃至四四米の街道(昭和通)を第一幹線とし、これと直交して市を東西に走る、即ち九段より兩國橋を經て龜戸に至る幅員一五米乃至三六米の街道を第二幹線とし、これ等の二大幹線を基準として、副幹の街道を不規則格子形に配置したり。この幹線街道は五三線にして、その幅員は二二米乃至七三米、延長は一・一九軒、これに連絡する補助街道は二二三線にして、その幅員は一・一米乃至二・二米、延長は一三九軒、又幅員三米乃至二七米の區割整理街道四九二軒設けられたり。更にこれと並びて市内各道路の

トキヨ 東京市 商業交通

三十四、計一三一、二〇六(以上何れも昭和十一年)あり。トラツクの盛行の結果、荷車の数は最近には漸減の傾向にあるも、その他の諸車は近年益々増加を示し、殊に自轉車の数は頗る多く、人口約八人につき一臺の割合なり。(交通量)以上陸上の各種交通機關を利用する乗客数は次表の如く昭和十年に約十三億七千萬人に達せり。

實 数	割合
省 線	三八二、六四五
市 電	二九四、一九〇
地下鐵	二八、九五七
社 線	二四、三八二
市内國道交通量 (昭和八年六月内務省調査、三日平均 △印ハ自動車總數の内乗車數を示す)	一五、六

場 所	歩行者數	自轉車數	自動車數
京濱國道	二四、九七三	一四、九六一	一〇、七九一
京橋二丁目	六、五三二	一九、七一七	一〇、五六七
芝濱松町一丁目	四、九五五	二五、六三一	一四、〇二八
芝區田町五丁目	二、六五九	一五、〇七六	一六、二二〇
品川區大井町	六、六二五	一三、三七六	七、八七五
蒲田區新町	七、七九五	四〇、五六〇	一六、五七八
東京仙臺國道			一四、八六五
淺草區御藏前片町			△一四、八六五

東京宇都宮國道	東京千葉國道	本所區藤町二丁目	東京甲府國道	四谷區新町一丁目	東京商標國道	神田區松住町
七一七	一一、二七九	一三、八一七	二二、九一九	二〇、〇一四	七、一五五	一七、七三三
△六一〇	△七、〇二三	△五、五四一	△一四、三五六	△一二、九三二	△八、〇二三	△七、〇三六

「河川・運河」本市には一七一の河川、五、三三二の水路、二の運河あり、その總延長は二、二八〇軒、總面積は三七・五方軒、市内道路面積の四八方軒の約八割に當る。本市は本邦にては大坂に次ぐ水の都にして、これ等の河川は交通上少からぬ貢獻をなす。殊に鐵道・自動車等のなかりし時代に於てはこれ等の河川・運河は交通上甚だ重要な役割を演ぜしこと言ふまでもなし。而して今日河川・運河は市内の運搬に利用せらるるのみならず、又同時に市と外部との運搬にも貢獻す。主に市内の運搬に利用せらるるは一錢蒸汽の船名にて知らるる乗合船あり。最も古きは隅田川汽船會社にして明治十八年の創業に屬し、最初は一錢の料金を以て開業したり。今日市内には同社ほか六社の乗合船經營者あり、隅田川及びこれに連關する水路に置り、三五隻の船を以て一箇年に百萬人の乗客を輸送す。また市内の船舶輸送の一として市營渡船あり。現在月島渡船・月島渡船・勝岡渡船・佃島渡船の四渡船あり。昭和十一年にはそれぞれ八百七十萬人、計一千五百萬人を輸送せり。河川・運河は貨物運搬にも利用せらる。昭和十一年の輸送貨物は出賃九萬五千噸、入賃十萬七千噸にて、最近に於ては毎年輸送量増加しつつあり。河川による貨物輸送は荒川又は隅田川の水域にて行はるるも、これに二つの経路あり。一は隅田川・荒川を經航し、他は利根川より江戸川・中川を經、小名木川・荒川を經りて隅田川に來るものなり。從つて河川運に關係するものはこれ等の河川に沿ふ地方にして、千葉縣を第一とし埼玉縣・茨城縣・栃木縣等と取引せらる。入賃の主なものは三五萬

千噸の樽油、四萬一千噸の土砂、四千五百噸の米及び砂利等にして、出賃の主なものは一萬五千噸の鐵鋼、二萬八千噸の石炭、五千噸の肥料、二千六百噸の食鹽等なり。斯くの如く東京の河川運は至つて便なり。徳川氏が幕府をここに設けし一因も河川による物資の輸送が容易なる點にありしものと考へらる。從つて隅田川・江戸・利根等の河川は江戸時代より修理せられてあり、これを連絡するためには運河さへも作られたるものなり。今日江東地帯が東京の工業區となり、大小の工場数多く設けらるるも河川運の便利なることに負ふところ多し。かくて大正十年以來、市内の河川・運河の改修工事設けられ、清瀬・淺草・美土野等も行はれ、河岸地には共同物揚場も造らる。現在の共同物揚場は約二五〇、その大部分は京橋・日本橋・本所・深川の四區に設けらる。「海上運輸」本市の海上運輸は東京港にて行はる。東京は横濱を外港とせらるも、それ自體一大生産・消費地帯なるを以て、東京港を築港せんとする計畫は早くも明治十三年に起り、その後種々立案せられしも實施せらるるには至らず、僅に東京港の前提として、隅田川口改修工事を明治二十一年より二十八年頃までの間行ひ、その結果、月島を得たり。又明治三十八、九年頃より永代橋より臺場沖を浚渫し、月島・芝浦に埋立地を造れり。然るに大正十二年の大震災の

經營より東京港の必要を痛感せし市當局は同十三年、四年には芝浦に大棧橋を築造すると共に、更に昭和五年より十箇年三十三萬圓を以て築港工事を進行しつつあり。東京港は江戸川の右岸端より羽田燈臺の東南一海里の點に引ける一線と、この點と羽田燈臺とを貫く一線とに圍まれたる面積約一二〇方軒の水面積も、そのうち内港として船舶の碇泊及び荷役利用されつつある築港場と假設堤堤にて底築されたる約八・一方軒の區域なり。築港完成の時は六千噸級以下の船舶を同時に八十隻停泊せしめ、一箇年の荷役能力七百五十噸となる規定なり。現在に於ては未だ完成せられざるも東京港は岸壁・上屋・臨港鐵道・倉庫等諸種の設備よく整ひ、一箇年の入港船舶は汽船二萬二千隻、帆船九千隻、總噸數は八百八十萬噸を越ゆ。但し東京港は開港ならざるため外國船及び外國航路に従ふ本邦船は出入する事を得ず、専ら内國取引の港として外國貿易港の横濱と相對す。最近に於ける東京港の内國發送及び到著貨物は次の如し。

出 貨	入 貨
昭和七年	八、四〇〇、〇〇〇
同八年	八、五二二、〇〇〇
同九年	一、〇〇一、〇〇〇
同十年	一、〇〇一、〇〇〇
同十一年	一、〇〇一、〇〇〇

即ち著しき人超なり。東京港は大東京の

地方別	出 貨 數量	出 貨 價 額	入 貨 數量	入 貨 價 額
關東地方	一六、一〇〇	二、一七一	一一、五五九	一、三四〇
東海地方	一六、七六一	二、八五六	五、九〇八	二、六二七
北陸地方	七、六〇〇	五、九二一	一、七四八	一、一一七
近畿地方	一四、四四六	二、六五〇	二、五二〇	二、七二〇
中國地方	三、六九二	三、三九九	三、八四〇	二、三〇八
九州地方	九、五七八	九、二一一	八、三〇八	三、二一五
北海道	七、〇一〇	一〇、八二〇	一、三二八	一、三二八
北 海 道	一九七、一四五	三、四八七	一、〇九二	五、八六六
樺 太 道	三六、四五九	六、〇七七	四二七、五九四	三、七九〇
朝鮮	一五九、三五四	二、七〇三	七〇一、七九三	六、六九七
臺灣	八四、四八四	一、五七〇	八二一、七九三	二、二七二
其他ノ港	四四〇	三、三五	三五、八六九	九、一一六
總 計	八一四、八七四	二、二六、七三〇	五、六六一、一九九	二、九一〇

東京港の特色の一は荷役の盛大なることなり。港の荷役總量の九割二分は沖又は埠頭に於て本船より船又は船より本船に積込まる。これは本市の工場は隅田川又はこれと連絡する水路の岸に多く設けられ、船を使用して工場より港へ、また港より工場へ製品・原料を容易且つ有利に運ぶことを得るが故なり。芝浦にて陸揚

トキヨ 東京市 商業交通

トキヨ 東京市人口

Table showing population statistics for Tokyo, including age groups (e.g., 60-64, 65+), gender (male/female), and marital status (single, married, widowed, divorced). It also includes a section for 'World Population' (世帯数) with data for various wards and districts.

Table showing population statistics by industry (職業別) for Tokyo. Categories include Agriculture (農業), Industry (工業), Commerce (商業), Public Administration (公務), and Domestic Workers (家事). It provides data for both men and women.

Text describing the composition of the population, including the percentage of the working population (労働者) and the distribution of workers by industry. It notes that the working population is primarily male and concentrated in manufacturing and commerce.

Text discussing the demographic trends of the population, such as the increase in the number of workers and the shift in the industrial structure. It mentions the impact of urbanization and the growth of the service sector.

Table showing population statistics by marital status (婚姻別) for Tokyo. It lists categories like 'Never Married' (未婚), 'Married' (既婚), 'Widowed' (寡居), and 'Divorced' (別居), with data for both men and women.

Table showing population statistics by district (区別) for Tokyo. It lists various districts such as Chiyoda, Minami, and Nishi, along with their respective population counts and trends.

トキヨ 東京市人口

トキョー 東京市 財政及び諸施設

六四人にして新市域は頗る低く、新市域に割合に高し。人口千人中の死亡者は...

Table with columns: 年次, 出生, 死亡, 差増, 差増率. Data for years 1911-1920.

【新市内】 年次 出生 死亡 差増 差増率. Data for years 1911-1920.

【財政】 財政膨脹は近年國家及び公共團體に例外なく認めらるる現象なり。...

九倍なるに對し、本市財政は十二年度豫算に於て實に七十一倍となる。...

Table with columns: 區名, 總額, 賦課率, 備註. Lists various districts and their financial data.

Table with columns: 品川, 目黒, 荏原, 大森, 蒲田, 世田谷, 澁谷, 中野, 杉並, 豊島. Lists districts and their financial data.

Table with columns: 澁野川, 荒川, 荒川, 荒川, 荒川, 荒川, 荒川, 荒川, 荒川, 荒川. Lists districts and their financial data.

Table with columns: 年次, 税収入額(千圓), 指数. Data for years 1911-1920.

【上水道】 本市の上水道は最初江戸時代より市民を潤せし玉川上水を改良せしものなるも、...

Table with columns: 浄水場, 位置, 能力(立米). Lists water treatment plants and their details.

【電氣供給事業】 本市に於て組織的に電燈事業を開始せしは明治二十年、...

Table with columns: 和泉川浄水場, 駒形浄水場, 芝給水場, 本郷給水場, 大井給水場, 池上給水場, 西原給水場, 大谷口給水場, 野方給水場, 野方池, 東村山村, 山口村. Lists water treatment plants and their details.

五萬、取付電燈数は七百五十萬燈なり。【公園】本市に初めて公園の設置せられたは明治六年にして、太政官布告を以て今日の淺草・芝・上野・深川・飛鳥山の五公園が設置せられたり。されど近代の公園は明治三十六年に當時練兵場たりし日比谷公園の地を市が陸軍省より譲り受け公園とせしを以てその最初とす。その後引續き公園設置せられ、大正十二年の大震災前市管理の公園は二十八箇所を算せし、人口に對する公園面積はロンドン・パリ等に比較すればその約十分の一に過ぎざりき。然るに、大震災に際して公園が防火上・避難上大なる効果を顯せしを以て公園の大擴張を斷行することとなれり。即ち政府は隅田・荒川・錦糸の三公園を復興事業の一部として建設し、小公園を復興事業に附接して五十一の小公園を設置せり。此間皇室におかれられては、大正十三年上野公園・芝離宮・皇居御料地を長くも市に御下賜あらせられ、また高松宮家におかれられても有栖川宮記念公園として麻布の大庭を御下賜遊ばされたり。更に岩崎・安田その他民間の寄附もあり、公園は著しく増加し、その数は約百二十、坪数は八十六萬坪となれり。そのうち約百(七十五萬坪)は舊市域にあるもその全面積の約三分に過ぎず。尙ほ市經營の主なる公園は次の如し。

- 【公園】 忍野公園(日本橋區濱町一、二丁目)、新月島公園(京橋區月島四丁目)、芝公園(芝區)、舊芝離宮恩賜公園(同區海岸通一丁目)、臺場公園(同區品川沖)、有栖川宮記念公園(麻布區成田町)、後樂園(小石川區)、上野恩賜公園(下谷區)、下谷公園(同區竹町)、淺草公園(淺草區)、舊安田恩賜公園(本所區横綱町)、錦糸公園(本所區錦糸町四丁目)、横綱町公園(同區横綱町)、隅田公園(本所區淺草區)、深川公園(深川區常四町一丁目)、清國公園(同區濱町)、後江恩賜公園(同區住吉町二丁目)、清澄公園(同區清澄町三丁目)、碑文谷公園(目黒區三谷町)、戸越公園(荏原區戸越町)、飛鳥山公園(王子區王子町)、井ノ頭恩賜公園(市外武蔵野町)、狹山公園(市外東村山村、大和田町) 尙このほか小公園として明治神宮外苑あり。面積約五千アール(約十五萬坪)、明治大帝を記念し奉る聖徳記念繪畫館の址に陸上競技場・野球場・水泳場・相撲場等設けられ、日本のオリーブを成す。又市内の諸所に風致地區を設け、都市美を構成充實せんがため適當なる保護制を加ふることとなれり。現在指定せられたる風致地區は明治神宮外苑・浅見恩賜附近・石神井附近・豊福寺附近・江戸川小站附近・多摩川畔一帯・和田堀大宮八幡附近・野方舊皇宮附近・大塚及び上原

馬の九箇所とす。【都市計畫】本市に都市計畫區域の設定を見たるは大正十一年にして、之により東京市を中心とする半徑略一六軒の圓内に入る地域を大東京とし、この範圍を都市計畫區域とせり。この範圍は大體現在の本市の範圍なり。而して土地發展の沿革・現狀・地形・氣候・水陸交通等の自然的或は人的各條件を考慮に入れ、住宅地・商業地・工業地・未指定地の設定に着手し、昭和十年にこれを完成せり。これによる工業地は計畫區域の二七%を占め、本所・深川兩區、荒川放水路の西岸、江東の水運の便よき諸地、芝區田町の地立地、多摩川下流の蒲田區より大森區を経て目黒區の目黒川一圓等はこの工業地とせらる。商業地は計畫區域の一〇%を占め、隅田川以西の低地略これに當り、京橋・日本橋・神田・下谷・淺草の五區これに含まる。住宅地は上述の兩地域を除ける山ノ手臺地一般これに屬し計畫區域の六〇%を占む。未指定地は何れにも決定し難き土地、即ち飯橋以南の月島に至る河岸、芝區地立地の大部分、芝區田町より品川に至る市電線路以東の地、目黒川中流、日暮里・神田川・高田馬場附近などなり。【墓地】本市には寺院に附屬する墓地あるほか、市經營の共同墓地設けらる。現在市營の共同墓地は青山・谷中・練馬各、池井・龜井・多磨・入社の七箇所あり。

その面積は七十萬坪とす。このうち最も市民に歡迎せらるるは多磨・入社の兩墓地なれども、この兩者は何れも市外に設けらる。 九 官廳・官廳及び學校 【官廳】本市の中心、山ノ手臺地と下町低地との接觸面に位せし江戸城の一部なり。江戸城は長祿元年太田道灌の創業に係るものにして、その後天正十八年徳川家康入りて居城とす。文祿二年に西丸を設けてより層々増築し、三代家光の時代に規模整ふ。徳川氏が天下に號令する城郭として、規模頗る壯大なり。明治維新後ここに皇居を移されたるも明治六年に皇居を上せしを以て同十七年再建工事に着手し、同二十一年落成す。この間皇居は一時、現在の赤坂離宮に移されしも、翌二十二年春、主上移御あらせられ今日に至る。現在の皇居は舊江戸城の西丸跡にして、正門は舊西丸大手門に相當す。宮城正門より參議本部前へ城濠に臨む一帯の城疊と城門・櫓等の建築物は壯大なりし江戸城の面影を傳へ、昔ながらの松の緑と石垣の白とは崇高と優美の極致にして、帝都最大の誇りたり。皇居の御建物は全部木材を用ひ、古式の御殿、屋根は銅瓦を以て葺かる。正殿・學明殿・御學問所・風見閣・千種閣等の表御殿と典御殿とより成り、崇峻極りなし。二重櫓は宮城より正門に通ずる所に築せられたる櫓にて舊西丸下臺臺なり。この櫓は

もと橋梁上に二重に築せられし櫓なればこの名あり。舊櫓は木橋なりしも今は鐵橋なり。宮城正門外の橋は舊名を西丸大手橋と稱し、もとは大橋なりしも、今は鐵橋となる。宮城前の廣場は舊馬場先門内にありて諸侯の邸宅のありし所、楠木正成の銅像ここに立つ。 【離宮・御所】 赤坂離宮・青山御所・高輪御所・濱離宮・新御所あり。 赤坂離宮 赤坂區にあり。もと紀州侯の邸地、明治五年離宮とす。明治六年皇居炎上の後、同二十一年まで皇居と定めらる。ルイ十四世式の御所は明治四十一年の御遊覧にかかる。曾ては英國皇太子殿下、近くは滿洲國皇帝陛下御來朝の際その御宿舎に當てらる。 青山御所 赤坂區にあり。明治七年御所となり、大正天皇東宮におはせし頃、ここに御住ひ遊ばされし處。秩父宮御殿・三笠宮御殿はこの御所内にあり。 高輪御所 芝區にあり。舊細川侯中屋敷址にて泉岳寺の北方。赤穂義士大石良雄以下十六人の切腹せしは此御所内なり。いま高松宮御殿ここに遷徙せらる。 濱離宮 京橋區にあり。承應三年、甲府宰相松平綱重幕府よりこの地を賜り、海を埋めて別邸を設け甲府御清胤敷と稱へしも、その子綱常將軍世子となるに及び西丸御川邸となり御清胤敷と稱す。維新後海軍所となり、同三年宮内省に移管せられ離宮となる。庭園は江戸時代の名園

- として名高し。 新御所 四谷區にあり。維新前は内藤氏の邸地たり。苑内は泉池樹木多く、春は櫻櫻會、秋は楓葉會の御儀あり。 【皇族・王公族】 皇族・王公族の方々に在本市内に御住ひ遊ばされし。その御殿の所在地を列記し奉れば次の如し。 赤坂區表町御殿 秩父宮 芝區高輪西臺町 高松宮 赤坂區青山御殿 三笠宮 龜町區永田町 四院宮 同 紀尾井町 伏見宮 同 富士見町 山階宮 同 三香町 賀陽宮 芝區白金臺町 朝香宮 同 高輪南町 北白川宮 同 同 竹田宮 麻布區兵衛町 東伏見宮 澁谷區當番松町 久遠宮 同 宮代町 梨本宮 同 美竹町 梨本宮 同 常盤松町 李健宮 同 同 李健宮

【官廳】本市は帝國の首都たる關係上、中央政府の諸官廳は悉くこの地にあることと首を俟たざるも、官廳は市内に散在することなく、概ね宮城を中心とする地域に密集し、ここに所謂官衙街を形成す。而も從來この中央の官衙街より離れたる官廳もここに移轉する傾向あり。即ち官

手町二丁目、東京府警務局(龜町區大手町一丁目)、參謀本部、陸地測量部(同區永田町)、教育總監部(同區代官町)、東京警備司令部(同區車町)、東部防衛司令部(同區)、近衛閣司令部(同區代官町)、第一師團司令部(赤坂區青山南町)、軍令部(海軍省構内)、大務院、東京控院、東京民事地方裁判所、東京刑事地方裁判所(龜町區西四丁目)、中央氣象臺(同區大手町)、東京警務局(同區大手町三丁目)、特許局(同區三年町)、東京鐵道管理局(同區永田町三丁目)、東京逓信局(赤坂區)、東京中央郵便局(龜町區丸ノ内三丁目)、東京鐵道郵便局(同區大手町三丁目)、東京中央電信局(同區大手町三丁目)、東京鐵道局(同區丸ノ内一丁目)、朝鮮總督府事務所(芝區田村町二丁目)、臺灣總督府事務所(龜町區內幸町二丁目)、關東局出張員事務所(同上)、樺太廳出張所(拓務省內)、南洋廳事務出張所(同上)、北海道東京出張所(内務省內)、警視廳(龜町區外神田町)、東京府廳(同丸ノ内三丁目)、内閣印刷局(同區大手町二丁目)、對馬事務所(同)、陸軍醫務本廠(深川區中島)、陸軍被服本廠(王子區赤羽町)、東京地方專賣局(本所區横川町一丁目)、東京鐵道局大井工場(品川區大井町)、市役所(龜町區丸ノ内三丁目)、區役所(同區龜町二丁目)、神田區龜町二丁目、日本橋區龜町二丁目、京橋區龜町一丁目、芝區公園第六號

地、麻布區東鳥居坂町、赤坂區表町三丁目、四谷區内藤町、牛込區虎坊町、小石川區同心町、本郷區龍岡町、下谷區北箱根町、淺草區雷門二丁目、本所區横綱、深川區白河町二丁目、品川區北品川三丁目、目黒區中目黒二丁目、荏原區戸試町、大森區大森六丁目、蒲田區蒲田町、世田谷區若林町、澁谷區神宮通一丁目、澁橋區柏木五丁目、中野區宮園通四丁目、杉並區阿佐ヶ谷二丁目、豊島區池袋三丁目、豊島區西ヶ原町、荒川區三河島三丁目、王子區下十條町、板橋區板橋町五丁目、足立區千住一丁目、向島區寺島町二丁目、城東區大島町二丁目、葛飾區本町、江戸川區小松川三丁目。

【大・公使館】本市は帝國の首都たる故に、帝國の修交國は何れも本市に大・公使館を設置せらるゝ、皆山ノ手邊地に集中す。これは山ノ手が住宅地としてすぐれたるが故なること勿論なるも、また我國の關係官廳が山ノ手もしくはこれに接近せる所に存在せるが爲なり。而して大・公使館は次に列擧せる如く麻布區に最も多く、麹町區これに次ぎ、澁谷・赤坂・芝等の諸區にも一、二設けらる。尙ほ東京駐在の外國大・公使館及びその所在地は次の如し。

- 佛蘭西大使館(麻布區富士見町)、自耳義大使館(麹町區下三番町)、英吉利大使館(同區五番町)、伊太利大使館(芝區三田二丁目)、米國大使館(赤坂區榎坂町)、伯利西大使館(同區表町三丁目)、波蘭大使館(芝區三田綱町)、暹羅公使館(赤坂區榎坂町)、アフガニスタン公使館(澁谷區善業町)、イラン公使館(麻布區材木町)、瑞典公使館(同區西町)、芬蘭公使館(同區旗幟町)、ノルウェー公使館(赤坂區青山高樹町)、デンマーク公使館(麹町區丸ノ内仲通)、チエワロスロヴァキヤ公使館(麻布區旗幟町)、スイス公使館(麹町區下二番町)、オランダ公使館(芝區善業町)、西班牙公使館(麻布區市兵衛町一丁目)、葡萄牙公使館(麹町區三田三丁目)、ルーマニア公使館(麻布區材木町)、カナダ公使館(赤坂區表町三丁目)、墨哥古公使館(麹町區永田町二丁目)、キューバ公使館(同區内幸町)、コロムビア公使館(同區内三丁目)、ペル公使館(麻布區旗幟町)、ボリビヤ公使館(澁谷區善業町)、智利公使館(芝區白金堂町一丁目)、ウルグアイ公使館(麻布區新龍土町)、アルゼンチン公使館(麹町區五番町)。

昭和九年三月 同十年三月

幼稚園	二七五	二八七
小學校	五五五	五七七
同尋夜	六七	七〇
育及塾	七	九
實業補習	一八四	一七八
實業	一〇三	一〇六
中學校	五一	五一
高女校	七四	七四
師範	三	三
教員養	二	二
高等	七	七
專門	七三	七四
大學	三九	三八
指定各種	二六	二六
計	二七九	二八〇

市の大學生は次の如く二十一校に達し、別に市外にある東京商科大學を加ふる時は二十二校に達す。その所在地次の如し。東京帝國大學(本郷區本郷三丁目)、東京商科大學(市外谷保村)、東京工業大學(目黒區大岡山)、東京文理科大學(小石川區大塚)、慶應義塾大學(芝區三田二丁目)、同醫學部(四谷區信濃町)、早稲田大學(澁谷區戸塚町)、明治大學(神田區駿河臺南甲賀町)、中央大學(同上)、日本大學(同區三崎町)、同工學部(同區駿河臺)、國學院大學(澁谷區若木町)、東京慈惠會醫科大學(芝區愛宕町)、駒澤大學(世田谷區深澤町)、上智大學(麹町區紀尾井町)、立正大學(品川區東大崎四丁目)、大正大學(豊島區西巢鴨)、東洋大學(小石川區原町)、日本醫科大學(本郷區駒込千駄木町)、法政大學(麹町區富士見町)、専修大學(神田區神保町)、立教大學(豊島區池袋)、拓殖大學(小石川區茗荷谷町)、東京農工大學(澁谷區常盤寺町)。

四五六

とを得ず。これ等の學校のほかに幾多の研究所、天文臺、氣象臺、博物館等も山ノ手方面に設けられ、それぞれの機能を發揮しつつあり。圖書館としては上野に官立の帝國圖書館あり、また市立には日比谷・駿河臺・深川・京橋等二十六を算するも、その設備は一般に未だ完全なりと云ふを得ず。

一〇 沿革 (一) 江戸時代

〔都市としての江戸の特質〕 江戸は城下町、即ち軍事的都市として經營せられたるものなり。然もこの軍事的都市は、歐洲もしくは支那・朝鮮等に於けるものと甚しくその趣を異にし、その軍事的施設は、外敵より都市そのものを守護するにあらずして、都市の支配者、同時に全國の支配者たる將軍の住居を守護するを以て目的とせるものなり。即ち歐洲並に支那・朝鮮等の都市は市街の周圍に城郭を有すれど、江戸は將軍の住居を以て城郭とし、市街はこの城郭の周圍に經營せられ發達せるものなり。勿論この城郭はこれを完全にせんがためには外郭を必要とし、その外郭の内に市街を取り入れし、然もその外郭は決して市街を外敵より防禦せんがためならず、依然として將軍の住居を守護せんがためなり。されどここに注意を要するは、近世の初頭に於ける戰術の變改なり。城郭はその本質として防禦のために交通を阻み、多くは山岳・沼澤の險要に築かれしものなる

トキヨ 東京市 沿革 (一) 江戸時代

が、武器の變化に伴ふ戰術の改革は、集約的行動を招來し、官の器械と人口の集中を必要とし、貨物の集散・人馬の交通を便利とする平野に築かれることとなれり。近世初頭(十六世紀末)に築かれたる我國の城郭は、何れも交通の便利を考慮の中に存れしものにして、大阪はその代表的なるものにして江戸もまた大阪と並び稱せらるべきものなり。即ち江戸は、その初めにありては關東八州の首府として經營せられ、南は海に臨み、東・北及び西に八州の平野を控へ、河津東邊を周るといふ地勢にして、當時の交通機關の上より考ふれば最も便利なる地點たりしものなり。而してまた軍事的見地より云ふも、その要するは論を俟たず。かくの如くして江戸は防備といふ軍事的見地と、交通といふ經濟的立場と、この相矛盾せる二つの條件の下に、經營せられ發達せるものなり。

即ち後の山ノ手方面は丘陵起伏す。而してこの所謂沼澤の地は往々入江をなし、澁谷・清波・武蔵に點在し、海水これに入りしものと思はれ、現今發見せる石炭時代の遺物は、山ノ手の丘陵がこの沼澤の地帯に臨む所に發見せられ、往古に於ける村落の所在、人口の分布を大略推察するを得。この時代の住民は大體に於てアイヌ族なりと考へて過言なきも、本郷區彌生町の貝塚より天孫降臨のものなるべき彌生式土器の發見を見たるは注目すべき事實なり。江戸の名の文獻に見えたるは東鑑の治承四年(一一三三)九月の條を最初とす。されどこの江戸といふ名は、庄名か將又地名なるか頗る判然せざるものあり。建武四年(一一九三)の圓覺寺文書等には江戸の文字あれば地名かとも思はるれど、建武頃には既に庄名の制度の亂れし地方多く、從つて莊園にあらざるとは斷じ難し。次に遙か後世のものなるが、寛永江戸圖以下には豊島郡江戸庄とあり。曾て庄號を稱せし名残ここに残りたりと見るべきならん。但し豊島郡江戸庄といふ呼び方は古實を離れたるものにして、本来ならば武蔵國江戸庄、或は武蔵國豊島郡江戸郷と稱すべきものなり。何となれば郡と庄とはその行政系統を異にするを以てなり。即ち郡は元來國衙領にして郡の管下なれども、庄は權門勢家の私有地にして郡の管下にはあらず。されど、江戸が庄號なりとするも、その廣

きは同より、領家も幾度も共に明瞭ならず。普通江戸は江戸庄の所領なりといはるれども、勿論確證なし。ただ東鑑に、河朝朝の頃、江戸太郎重長といふ者見え、それが武蔵國の人なるより多くの人々によりてかく想像せられしに過ぎず。管見を以てすれば、當時の制度に當てはめていへば、重長は恐くは江戸庄の開發者の子孫にして、この庄の下町なりしを繼承し、更に河朝の時よりは、その地頭となり、また東鑑治承四年十月の條によれば、武蔵國は河朝の知行國たりしを以て、その代官を勤めしものなるべしと推論すべきなり。因に、この江戸氏は世々この地に居住せしが、重長十世の孫駿河守貞廣の時に北多摩郡喜多見に移り住み、小田原北條氏に仕へ、孫勝忠は家康の入國に際して之に仕へ、その孫重政は將軍綱吉に仕へて二萬五千石を食み、元祿二年(一六九二)一族の事に坐してその家亡ぶ。現在の東京市の前身たる江戸は、この江戸と、豊島郡の縣家郷とを基礎としてその周圍に發展せしものなり。豊島郡の縣家郷は即ち豊島郷にして、延喜式によれば、縣馬十疋を置くことを定められ、武蔵國の府中と下總の國府とを連絡するために、神原景雲二年(一四二八)に始めて置かれしものにして、これがために、三年の役賣龜二年には、武蔵國は東山道より東海道に屬することとなり。即ち從來東山道の驛路は上野國色

四五六

向は大名は各家によりてその制度に相違あるが、大體に於て在國と江戸結との二つに分れ、江戸結は江戸の市民の一部を成せり。されどこの江戸結はまた定府と藩香との二つに分れ、所謂江戸家老ありて一家の事を執り、奏者番・留守居等がこれに屬して定府となり、側用人或は物頭といふものは、大名の參謀に隨從して江戸に勤番せしものなり。次に旗本なるが、これは大名と異りて常に在江戸するものにして、領地には代官を遣してその事を行はしめしものなり。家臣もまた大部分が江戸にあり、旗本自ら若年寄の支配の下にあり、家臣もまたその下には大名と同様に、地域的にはその屋敷を支配せしものなり。但し、その江戸市中に於て拜領せる町家の住氏は町奉行の支配の下にありき。次に神社佛寺の支配組織は、神社佛寺及び神官僧侶は總じて寺社奉行の支配の下にあり、神社佛寺の領地に居住する百姓町人は町奉行の支配下に屬せり。されどこれを地域的にいへば、神社佛寺の敷地は寺社奉行の支配下にあり、更に所謂地子町屋、即ち有敷地は代官の支配の下にあり、またその邊境は作事奉行・小普請奉行の支配の下にありき。次に江戸の支配組織なるが、これは江戸町奉行の支配下にあり、その下に町年寄・町名主等ありて自治をなせり。この町奉行及び町年寄の外に、町の支配に代官支配の地域あり。代官の

支配地といふは、元來は所謂郭外、即ち市外の地にして、江戸の膨脹と共にこれらの地域が市街となるに従ひ、即ち寛文(二二二)頃・正徳(二三七)頃の兩度に町奉行の支配地に移管せしめ、それは單に司法及び警察權に過ぎずして、それらの土地の租税は依然として代官の徴収するところたり。即ち、郭外なりし邊草の場末及び下谷・本所・深川・小石川・牛込・市谷・四谷・麻布・赤坂等は多くはこの種の地にして、後には所謂府内となりしも、郭外たることは依然たるものなり。因に、この代官は即ち關東郡代にして勘定奉行に屬し、代々伊奈氏の世襲する所なりしが、寛政に至り伊奈氏改易のことありてこれを廢し、一時勘定奉行の兼任する所となりしが、同四年(二四五)に至り五名の代官をして分治せしむることとなれり。八、町奉行所 江戸町奉行は初めは代官と稱して定員はなかりしも、慶長年中(二五六)より二人となり、いつの程にか二人を定員とし、月番を定めて職務を行ふに至れり。即ち南北の町奉行これなり。南町奉行所は數寄屋橋内にあり、北町奉行所は吳服橋内にありたり。而してその職掌とするところは、江戸府内の町民及び因縁・養生所の役人、江戸町役人、並に江戸寺社領の町民等を支配し、兼て火災の消防を指揮し火付・盜賊等を吟味し、道路・橋梁・上水等に關する事なり。府内町民の訴訟

を開くには、月番の宅に於て行ひしも、その事が他の支配に關聯する時は、評定に於て合議裁決せり。その職は、普通には三千石高にして從五位下に叙せられ、役料千俵を給せられしが、天和(二三四)以後は屢々減率あり、或は役料七百俵、役所金二百兩などといふ有様なりき。而して町奉行の職位とは與力と同心あり、與力は定員五十人、高二百石、役料三十石、別に養老手當等あり。南北奉行所に各二十五人宛分屬せしめられ、而もこれが十組に分れ、各組は五人より成り、内一人を兼頭と稱し同心を支配せり。同心は初めは二百人なりしが、後に八十人を増して二百八十人となり、南北奉行所に各百四十人宛分屬し、これも亦十組に分れ、各組は二十八人より成り、内上席五人を年寄同心、次の三人を物寄同心といひ、平同心は二十人にしての内八人を増人と稱せり。同心の高は三俵二八人扶持を普通とし、年寄同心は五俵を、物寄同心は三俵を、増人は高二十俵二人扶持なり。而して同心と與力と同様、この外に手當養老あり。たゞここに注意すべきは、與力五十人の内に町奉行は町奉行の家臣を以て補する定めなりしことにて、これを内與力と稱す。然らばこれ等の與力同心は如何にして事務を分擔せしかといふに、(一)年番方(南北各與力二人、同心六人)は役所の取締、同心の監督、金銭の出納を掌り、(二)吟

味方(南北各與力八人、同心十六人)は民事刑事の整理及び執行を掌り、(三)市中取締掛(南北各與力六人、同心十二人、年番方吟味方より兼務)は市中の取締に關する諸事を掌り、(四)教帳方、(五)儀要方(南北各與力三人、同心六人、兩方を兼務す)は教帳の取調、儀要集の編纂及び市中の人別改めを掌り、(六)例換方(南北各與力二人、同心六人)は例換の先例取調を掌り、(七)用部屋手付(南北各同心十人)は町奉行の手元を以て、用人が刑律を調査する際に書記の役を勤め、(八)當番方は、與力(人数不定)は日々二人宛役所當番所に宿直して訴訟の受付に當り、手すきのものは檢使に出で、その他所謂出役に當り、年寄同心(十五人)は日々三人宛役所に宿直し、檢使に出で、出役に當り、物寄同心(十五人)は日々三人宛宿直し當番與力の下にありて書記を掌り、増人同心(人数不定)は毎日一人宛、これまた役所に宿直して白濁に障難し、奉行の文通使に當る、而して與力以下何れも各所屬の南北奉行所に出動す。(九)本所見廻(南北各與力一人、同心三人)は本所及び深川に關する諸般の事務を見、道路・河原地・建築物・橋梁の事故に名主の過誤を掌る。(十)養生所見廻(南北各與力一人、同心三人)は小石川養生所の取締及び金銭出納に當り、(十一)車馬見廻(南北各與力一人、同心三人)は小傳馬町の四段の取締、此類、その他の

事を監督し、(十二)定府掛(南北各與力一人、同心二人)は官費監督の職務の見廻及び普請の事を掌り、(十三)町會所掛(南北各與力二人、同心三人)は町會所に於ける積金・貸金、窮民の救助、又關ひに關する事を監督し、(十四)旗屋町會所見廻(南北各與力一人、同心二人)は旗屋町會所の職務執行を監督し、(十五)草履面札差の職務執行を監督し、(十六)古銅吹所見廻(南北各與力一人、同心一人)は本所横川の古銅吹替の職務を監督し、(十七)高橋改(南北各與力一人、同心二人)は市中の新築其他高橋制限違反者の取締に當り、(十七)道前會所取締掛(南北各與力一人、同心二人)は道前會所管轄地の物産賣捌の事を監督し、(十八)硝石會所掛(南北各與力一人、同心二人)は硝石採集、彈藥製造に關する事務を掌り、(十九)町火消人足改(南北各與力三人、同心六人)は出火の際に於て町火消の防火を指揮し、(二十)隱密懸(南北各同心二人)は町奉行に直屬して秘密探偵の事に當り、(二十一)定廻(南北各同心四人)は法令の施行を觀察し、非違を勸査し、又犯罪の捜査及び逮捕に關する事を掌り、(二十二)臨時懸(南北各同心六人)は主として犯罪者の逮捕に當り、(二十三)人足寄場掛(南北各同心二人)は石川島無罪人懲治場の事務を監督すといふ任務なり。されどこれらの分限及び役人の配置は必ずしも一定せず、時代によりて多少の相違を免れず、古ければ古き

程、その分限の数は少かりしものなり。向の外の(二十四)酒見廻、(二十五)晝夜興等ありて、市中を巡視して非常を警め(二十六)市中取締、(二十七)諸色調掛、(二十八)諸問屋組合再興掛などありて、市中の取締に關する事を掌り、市民の經濟生活に關する監督に當りしこともありたり。要するに奉行所は現今の市役所・警視廳・裁判所・刑務所等の事に互りてその事務を執りしものにして、その實況なる權限と、而して職務の簡便なる點とは、蓋し驚くべきものありと云ふべし。二、町役所 江戸の市政は町奉行の下に町役人ありて自治を行へり。江戸の町役人には町年寄・地割役・名主等あり。町年寄は三人ありて、總屋(後藤と改む)、奈良屋(後藤と改む)、喜多村の三家がこれを世襲し、宅地及び町屋敷を給せられ町奉行の支配を受け、その宅を役所に宛て月番を以て神田・玉川兩上水の事を掌り、また總町を代表して府内の令達の事に當り取締に任ぜり、總屋は特に町屋敷の地代取立・枋改め・河造橋改めの事をも掌れり。その身分は名主階級を許され、役料をも給せらる。因に、年寄といふは中世に於ける刀懸なるべし。刀懸自治體に於ける代表者なり。地割役といふは、町方の地割、即ち測量及び交附の事を掌るものにして、初めは木原氏がこれを世襲せしが、その失職するに及びて總屋の一族がこれに代り、地割頭職を稱し、町

屋敷を給せられ、或は扶持をも與へられたり。名主は即ち各町に長たるものにして、町年寄の指揮を奉じ、自宅を以て町役場に宛て、家屋敷の買入證文、或は訴訟の調書に加例するなど、總て各町配町内の公務を行へり。名主の数は享保八年(二三三)には二百六十四人、外に新吉原四人、寛政三年(二四五)町法改正の時は二百四十三人あり、明治二年(二五二)改職の時は二百三十八人ありたり。名主の役料は幕府より制限を設けて各町の町内より支出せしめたるが、少きものは二兩二分、多きものは二兩一分、銀十二匁といふものもあり。安政年中(二五二)の調には全名主の役料は一萬六千七百七十五兩一朱、錢百十二文なりきといふ。またこの名主は少きは二、三町、多きは數十町を支配せしものにしてこれに大體四種類あり。即ち(一)草分名主といふは、徳川氏の初より、その人々が自ら開拓せる町の名主にして、中世の莊園に於ける所謂開發者なり。而してこれには、家康入國(天正十八年、二二五〇)前よりの居住者あり、また三河・遠江等より家康に隨伴して來れるものあり、爾來世襲して名主中成層最も重く、その初めには二十九人程もありしが、後には漸く減少して二十三人となれり。次に(二)古名主といふは草分名主に次ぐものにして、文化年中(二四六)頃には七十九人ありしが、後には七十五人とな

れり。これは草分名主と共に、町年寄同様に、年頃及び大體節の際には、將軍に物を獻じ、賜を賜はる格式なり。次に(三)平名主にして、代官の支配下より町奉行の支配下に移れるものにして、新江戸の新名主なり。この外(四)門前名主といふものあり。これは神社佛寺の門前町の名主とす。因に、名主といふ名稱は、中世に於ける名田の所有者たる名主よりその稱出でたるものにして、名田といふは開發者の名を冠せる私有の田地なり。而して名主は日本橋南組・中組・芝組・神田組、いふにが如く、農人かの名主が集りて組合を作りしが、享保八年(二三三)名主の組合を設けてこれを十七組及び香外一組とし、更に寛延年中(二四〇八)頃には二十一組及び香外二組とし、更にこれを南十二組・北十一組とし、北の一香組・二香組、南の四香組を小口といひ、小口名主中に年番を定め、町割又は尋物等の場合には、町年寄より小口年番に選じ、以て一般名主に通過する仕組なりき。尚ほ名主の無き町もあり、かかる町には月行事といふものありて名主の事務を行ふ。かくの如くにして江戸の市民は町年寄及び名主によりて自治を行ひしが、この外更に五人組といふものもありてこの自治をして一層鞏固なるものとせり。五人組の制度は古く氏族制度の時代にその源を溯すといはる。然るにその後大陸に於ける五保の制が輸入せられ、

商工業地域が、然らずとも幕府又は幕府に仕ふる重要な任務を有する大名の邸宅か或は倉庫地域とせり。これら運河は交通上重要な意味を有せり。口、外部との交通 徳川氏は關ヶ原役の後、天下の實權を掌握するや、奈良屋市右衛門・増屋三四郎の二人をして驛路の事を掌らしめ、公用の傳馬・駄馬等皆、この二人の發行する朱印を以てこれを出さしめ、また五街道の制を設けてそれぞれ驛驛を置き、慶長九年(二六四)には諸國の道路を修築して幅五間となし、日本橋を中心として三十六町毎に五間四方の驛を築き、これを一里驛と稱し、以て驛馬の命を出して駄賃・人夫賃を定め、十九年には五味津九郎を御奉行として驛路の取締に任じ、元和三年(二二七)には東海道馬次の木賃を定め、寛永十年(二九三)には傳馬・御奉行の制を定め、更に萬治二年(三一九)には大目付高木守久を道中奉行に擧用し、福永大目付又は勘定奉行をして必ずこの職を兼ねしめ以て交通の便を圖らしめたり。元禄年間(三三五)頃に至り蝦夷開拓未及及び開闢未、地子免除の外に助郷・加助郷の制を設けて、五街道の沿道一、二里の諸村に賦役を課し、五、六里の諸村をして之を助けしめ、以て宿驛の傳馬人夫に助役せしむる等、驛傳の保護に力を盡し、延いて明治に至り、されど幕府の交通運

輸に對する盡力は多く人馬の方面に限られ、自然の險要に對しては力を用ふるに甚だ少かりき。思ふに、百萬の人口を有する江戸の都市としての生活に關する交通運輸問題は、陸路よりも寧ろ水路にありしが如し。江戸の市民は陸路に依りて周圍と交通すれども、その消費に對する供給の大部分は之を漕運に俟てり。江戸の水路に依る交通は、河水と海上との二路に分つことを得。海上の交通に就きては、江戸と西南諸國との漕運は、元和頃(二八〇)頃既に相通じ、阻滯の患なかりしものなるが、奥羽二州との海運は未だ開けずして、この地方の米穀を江戸に輸送すること能はざりしが、寛文十年(一一三〇)、阿村瑞賢この航路を開くに至りて、東北地方の生産を以て江戸市民の需要に充つことを得たり。而して江戸・大坂間において海上の往來頗る頻繁となり、慶應(船は元禄五年より、櫻船は享保十五年(三九〇)より)共に行はれ、その盛時に於ては前者は一年に千五百七十艘を江戸に入津せしめ、後者は百五十艘を所有し、幕末に至るまで、江戸の消費に對し物資を供給したり。次に河川の交通に就きて云へば、關東八州には利根・荒川・入間・荒川の四大川がその中を流れ主要なる交通路を成す。この交通路を利用して八州の荷物は江戸に運送せられたるなり。さればこれら四大川に對しては、幕府は屢々開鑿・浚渫を

沿革

行ひ、堤防を築く等、多大の費用を投じて、これを保護し、水害を除き、新田を開きてひたすら功利の増大を圖るに努めたり。更に交通運輸機關につき一貫すれば、江戸の交通は輿・駕籠・馬・大八車・牛馬及び馬車等なりき。輿は駕籠の原始的なるものにして漸次衰へたり。駕籠は身分・男女によりてその製作にそれぞれ規定あり。市民一般の使用は最初禁止せられし後漸次禁令は弛み、享保十一年(二三八)に至り登記を撤廃し、從來江戸市中三百挺に限りし辻駕籠の規定を廢し、市民の主要なる交通機關として幕末に至る。馬は最初の間は主要なる機關にして、馬喰町に馬市立ち、その法規までも設けられしが、明暦元年(二二一五)僅馬の市中の主要なる部分に於ける乗用を禁ずるに至り漸次衰微せり。大八車は明暦大火後の發明なりといはるるが、寛文頃(二二二五)には非常流行し、元禄八年(二二五)にはその數を量に制限を加へ、これを登記せしむることとせしめ同もなくその課税を廢せり。牛車は寶永四年(二二六)七等領を附することと命ぜられしが、翌年には多數引續きてこれを牽引することを禁じ、積載量に制限を加へたり。また馬車は以上の諸機關とは逐に逐く、慶應二年(二二二六)に至り始めて使用せられたり。然も交通機關としてならざりて、運輸機關としてのみ許可せられたり。更に船舶を見る

に、運河並に河川に使用せしものは現在のそれと大差なかりしが海上のものは、當初に於ては、或は八十噸、或は百二十噸等の西洋型も造られ、和船にも長さ二十間、乗員三百九十人の大船を浮べるといふ有様なりしが、寛永十三年(二二九六)外國渡航を禁止して以來、五百石以上の建造を禁止するに至り、構造に於ては頗る衰退するに至り、海運上一つの異變を見たり。

トキヨ 東京市 沿革 (明治以後)

一家東西同風スル所以ナリ矣此意ヲ體セヨ 辰七月
との大閣下り、江戸は東京と改稱され、同時に江戸府廢せられて東京府となり、關東府亦廢せられて鐵道府を設かる。同年十月十三日東京に臨幸あり、この時江戸城は東京城と改稱せられ、十二月一旦京都へ還幸あらせられしも、一方に大木喬任等の東京城建設盛にして、遂にその翌明治二年三月二十八日軍艦再び東京に行幸あらせられ、ここに江戸は新しき帝都として更生す。かくて維新政府の政策着々行はるに及び、我勢漸く挽回せられ、新しき建設の諸事業は日と共に進み、ここに都府の特色を全く一新するに至る。爾來東京市は新興日本の首都として、將又東西文明移入の關門として發達す。

平方米に對し實に四割三分五厘に當り、總失地物数は二十一萬九千餘、その延面積百二十萬平方メートルに對し、震災前市内總面積の六割一分に相當し、總失地物三十六萬六千餘、この被災人口は百四十八萬四千人にて總人口の五割九分を達し、損害額概算三十七億圓と稱せらる。その如何に慘憺すべき數字なるかを見るべし。此の未曾有の大禍に遭過せる市民は職々驚愕し、當時執政に在はせし、斯る秋に際し、當時執政に在はせし、今上陛下には早くも九月三日、山本内閣總理大臣を赤坂離宮に召され、優渥なる御沙汰を賜はり、超えて十二日長くも帝都復興に關する詔書を降せられ、東京は一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其ノ舊形ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タルノ地位ヲ失ハス長ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ舊態ハ面目ヲ新ニセサルヘカラス
と宣はせ、以て民心の歸嚮を一にし、併せて帝都復興の根柢を示し給ふ。一方併報各地に傳はるや、全國の同胞は之を國難として一致帝都救済の爲に起ち、世界各國亦深甚なる同情を寄すと共に、饑饉を救済物資を送り、政府も優渥なる慰問を奉給して、國難百年の理想を基礎とせざる復興計畫を樹立し、俱に帝都再建の大事業に着手す。爾來日夜機軸を事なす朝野一致の努力は、年を経ること僅に七屆霜

にして、世界に未だ類なしとまで稱せられたる此の大事業を見事に完成せり。昭和五年三月二十四日、豊上陛下に復興帝都を御巡幸せられ、親しく帝都の復興を見せ給はれ給ひ、超えて二十六日には復興完成の式典に臨御あらせられ、
帝都復興ノ事業ハ官民協同ノ努力ニ賴リ歲月ノ短キ克ク此ノ偉績ヲ効セリ
深ク之ヲ憐レ今親シク市容ノ完備大ニ舊觀ヲ改ムルヲ望テ専ラ衆心ヲ一ニシ更ニ市政ノ伸展ヲ致サムコトヲ望ム
との優渥なる勅語を賜ふ。

〔市の變遷〕 明治二十二年市制施行以前の本市の地域は、現在の麹町・神田・日本橋各區の全部、佃島及び埋立地を除く京橋區の全部、白金の大部及び埋立地を除く芝區の全部、麻布・赤坂兩區の大部、内務省町を除く四谷區の全部、早稲田・鶴巻町を除く牛込區の全部、小石川・本郷下谷・淺草各區の大部、本所區の大半、深川區の大半及び大崎町・澁谷町・巢鴨町・南千住町・龜戸町・大崎町の各一部なり。明治二十二年市制實施せらるるに當り、東京府は皆下の東京及び花原外五郡の廣範圍に亙り行政區劃の整理を斷行す。今その大要を示せば、花原郡白金村の大部、南豊島郡下谷村・原宿村・千駄ヶ谷村・内藤新宿一丁目・各一部、牛込早稲田村の全部、北豊島郡小石川村の大部、雜司

市制施行以後、大東京實現に至るまでの市域の擴張は、大正九年の豊多摩郡内藤新町等の四谷區編入と、明治二十四年より始まる増立地編入とに止る。豊多摩郡内藤新町等の四谷區編入は、明治二十二年並に翌二十三年に行はれし行政區劃の變遷と全く其趣を異にし、監督官廳の自發的處分にてはなく、自治體たる市及び町の相互間に於て直接交渉の結果行はれたるものにして、其面積は三三五、一六三坪なり。この内藤新町編入以外に、隅田川口改良並に市内枝川改修工事に伴ふ海面埋立により生じたる所屬未定地に於て市域に編入されたるものあり。其の面積は明治二十四年より昭和七年まで實に一、二八六、二五四坪に達す。市制施行後以上のほか市域の變遷は絶えざりしも東京市内外の發展影響は停止するところを知らず、市域擴張の必要は漸く興論となれり。

- 大森區一 大森町・馬込町・池上町・東園町・入新井町
浦田區一 浦田町・矢口町・六郷町・羽田町
世田谷區一 世田谷町・松澤町・玉川村・駒形町
澁谷區一 澁谷町・代々木町・千駄ヶ谷町
澁谷區一 澁谷町・戸塚町・落合町・大久保町
中野區一 中野町・野方町
杉並區一 杉並町・和田堀町・井荻町・高井戸町
豊島區一 巣鴨町・長崎町・高田町・西巣鴨町
荒川區一 南千住町・三河島町・尾久町・日暮里町
王子區一 王子町・岩淵町
板橋區一 板橋町・志村・中新井村・上板橋町・練馬町・上練馬村・赤塚村・石神井村・大泉村
足立區一 千住町・伊興村・江北村・舎人村・梅島町・練馬村・花畑村・瀧江村・東瀧江村・西新井町
向島區一 青島町・隅田町・寺島町
葛飾區一 龜戸町・大島町・砂町・葛飾區一 金町・水元村・新習町・奥戸町・本町・龜戸町・南

江戶川區一 松江町・小岩町・葛西村・瑞江村・鹿本村・菫崎村・小松川町
尚ほ昭和十一年北多摩郡砦村及び千歳村を世田谷區に編入し以て今日に至る。
【二】名所
【飛鳥山】王子區南部にある小丘。澁川を隔てて王子神社に對す。名稱は中世領主飛鳥氏の飛鳥祠を置きしより起り、其祠は寛永十年王子神社の境内に移るといふ。江戸時代より樓の名所として名高く、明治六年公園となる。西北に傾斜すれども丘上より東面すれば眺望頗る廣闊、花時は櫻香を掃む。園内には佐久間象山の樓、徳島藩、勸業家徳澤次平の石碑等あり。北面には省線東北本線及び王子電車の王子驛、また南には東京市電の飛鳥山停留場あり。面積約四五三〇一ル、さきねのたせやわすれし、爲久。
【淺草】名高き淺草觀音(金龍山淺草寺)を中心に發達せる東京市第一の民衆的娛樂の盛場。銀座のやや取り澄したる感あるに對し、淺草は誰にも親み易く大衆的といふ點にその特長を置く。淺草寺の門前町として鎌倉時代早くも相當の賑を呈せるもの如く、江戸時代に入り觀音の信仰流行し參詣者群をなすに至り、大いに發達し、それに吉原を日本橋より此處の田圃に移され、又天保の改革以後、木

淺草寺・東町・吾妻町にありし芝居は蕨若町に移轉獨立し、それ等は相俟ちて蕨若の中心地區として繁榮し、謂ゆる奥山氣分を醸成するに至る。明治に入りて觀音堂を中心とする周圍は公園となり益々盛大に向ひ、雷門より仁王門に至る間を仰見せし晝夜の別なく參詣人衆香し、兩側は土産物・玩具賣軒を並ぶ。奥山の地は六區と共に一大興業區を形成し映畫館・劇場・客席多く、何れも朝十時頃より開場す。江戸時代には神事舞太夫の田村八太夫、獨樂廻しの松井源水、居合技きの長井兵助、講義師の浪井忠直軒、揚枝店の柳やぶぢ、水茶屋の稻屋お六、紅粉、伊賀藏兄弟などが人氣の中心をなし、淺草の發展に實効せしものと傳ふ。
【淺草寺】は佛閣の項を参照。【淺草公園】淺草觀音堂を中心として、その附近面積約二一〇〇〇アルを占む。雷門より露店に對比する參道を過れば仁王門に達す。門に接して向つて右方に迷子らしせ石標及び久米平内の堂立つ。これより右方に折れ觀音の佛佛附近を過み、小丘に上れば神天の祠あり、その傍に存する鐘樓に元禄五年の銘を有する有名な鐘あり。仁王門を入りて北進すれば數多の公孫樹(指定天然記念物)に取まかれて本堂ありこれに向ひて右方に五重塔及び鐘藏あり、その後方に淺草神社あり。本堂の東北隅に近きあたりに九代目圓十郎の「暫」の掛表をせる銅像あり。また山東京傳の

書案の碑立つ、その表面に東京山の峯に於ける京傳の歌を刻し、裏面に太田南氣の撰に成る京傳の傳記を對す。本堂の背後に林泉あり、西方に西佛の板碑及び六地藏の石燈籠立つ。これより西方六區と稱する部分に入れば劇場・映畫館等多く、市内娛樂場として唯一なり。本堂の西南方に傳法院あり、その泉池頗る風致に富む。※淺草
【愛宕山】芝居愛宕町にある丘。市内名所の一。いま愛宕公園といふ。高さ二六六米の小丘に過ぎざるも平地に轉つて以て眺望に富む。頂上に愛宕神社あり。社前の急坂表段(一に男坂)の石段は曲垣平九郎の騎乗登山せるを以て名高し。※愛宕山
【上野】下谷區の地名。凡そ上野公園を中心とする臺地一帯の稱。内に不忍池を含む。東京驛が圓西方に對する東京の表支團たるに對し、東北・信越方面に對する裏支團たる位置を占むる上野驛の所在地。上野は一に忍ヶ岡とも云ひ、低地なる下谷に對して上野といふに至りしものか。廣小路より上野公園へ夜のそぞろ歩きも面白く、ここには百五十餘の露店が大通りの兩側に出で繁華なる商店街に一段と景氣を添ふ。また春より秋にかけて不忍池畔の散歩は詩趣に富み、山上の西郷銅像の邊よりは東京の夜景を一眸に収め得らる。上野公園・上野驛(参照)
【霞ヶ關】麹町區南部の地域。日比谷の

西に接し、土地西方に隆起して水田町に達す。霞ヶ關一帯には官衙立ち並びて官廳街と呼ばれ我國政治の中心地をなす。即ち外務省を初め内務省・警視廳・大藏省・文部省・特許局等並ぶ。これと道一つ隔てて拓務省・司法省・大審院・控訴院・裁判所・海軍省あり。外務省の西方臺地水田町には白雲の新帝國議事堂見えまた首相官邸を初め各大臣官邸、各國の大・公使館多く、議事堂に續く三宅坂方面には陸軍省・參謀本部あり。
【銀座】東京の一大盛場。京橋區の目抜き街にして、銀座通は都都に於て最も繁華なる街をなし、高級流行品・化粧品・舶來品販賣の商店多く、松屋・三越・松坂屋・伊東屋等の大百貨店、著名なる大商店軒を並べ、飾窓華やかに、街衢も清潔快適にして散歩によく、晝夜をわかず往來する人々の流れは絶えず、日本の流行は一に此街より出發すと云ふも過言ならず。また表通・横丁には大小のカフェー・喫茶店等揃ひてネオンサイン眩く、新橋附近には秋坊に藝妓さざめき、一大歡樂地を成し、夕方より鐘撞に連る夜店、「背懸しい銀座の御」と俗語にうたはれし柳の並木も銀座の情緒をつくる。名稱は慶長十七年駿府の銀座を移せるに起り、明治五年京濱間の鐵道開通後、新橋驛に近き銀座は洋館と煉瓦の鋪道を以て都都の表支團たるの威容を備へ明治文化發祥の地となり、大正大震災を受けて復興の

後には舊に當する美觀を呈し、發展に次ぐ發展を以て今日の繁華街となれるもの。
【小石川植物園】小石川區白山御殿町にあり。昔は白山御殿と稱せられ、簡林侯綱吉の下屋敷なりき。のち江戸幕府ここに藥園を開き明治初年まで藥草の栽培所たり。現在は東京帝國大學理學部附屬植物園として、面積一六〇〇アル(約四萬八千坪)を有し、樹木類七百餘種、草木類千餘種に及び温室には熱帯植物約二千種を培養し、有科にて一般に公開す。
【芝公園】もと三藏山智上寺の境内にありしが、明治六年太政官の布告にて初めて上野公園・淺草公園等と共に公園となる。面積約五一八〇アル。西の一半は大古墳の丸山にて、自然の風致を保存せし森林公園たり。東の一半は低地に於て松林あり。中央に智上寺あり、南に徳川氏靈廟・東照宮・五重塔・丸山古墳等、北に徳川氏靈廟、西に金地院・紅葉山・蓮池等あり。【丸山古墳群】芝公園内徳川二代將軍靈廟の南にあたり、丘陵の上に圓形墳一箇及び圓墳約十箇存す。圓形墳は丘陵の東南の尖端に近き所に築營せられ、略ぼ南北に横はり、規模壯大にして中軸の長さ一〇〇米、前方部の高さ六米、後部部の高さ一〇米を算す。後部部上に伊弉諾忠敬記念碑あり。周圍の土中より埴輪破片發見せらる。圓墳は圓形墳の西方及び北方に散在し、直径二〇米を超えず。曾て學術的發掘を経て内部より齋

武土器・直刀・倉庫・小刀子・銅鏡・骨製器・如王・菅玉等の玉類及び金環・銅製劍・馬具金具等の諸遺物、外部よりは埴輪圓筒・土偶等の破片發見せらる。各圓墳上に出土品目誌したる方形の石村置かる。
【新橋】新橋は元來、京橋區と芝區との間の沙留川に架せる橋の名にして、實永の頃今の銀座の邊が埋立てられ、日本橋より芝口への大道路が出来、京上りの第一番目の橋を京橋と命名、次を新橋と名づけしものといふ。而して今は川の北岸即ち銀座の南部及び南岸の島を合む地を混稱して新橋といふ。古くより待合・茶屋などあり、安政の頃より藝者屋軒を連ね、日本橋に於ける柳橋と共に新橋二橋と稱はれ東京の二大藝者街として今も橋名を傳す。また彼の「汽笛一聲新橋を」の鐵道唱歌の根出しとして名高き新橋は現在の沙留驛なりといふ。※新橋
【新習】四谷區角管。中央の銀座に次ぐ盛場にして、一に山手銀座などと呼ばれるも實際はこれを淺草する賑ひを呈し、省線新習驛は我國の鐵道中、省線・社線を通じて昇降客第一(昭和十二年に於ける全年乗降客數三〇、四一九、二一九人に達し、一日乗降客數一六七、〇三三人に及ぶ日もあり)を示す事實がこれを雄辯に物語る。日本橋・丸の内・銀座一帯を第一の都心とせば、新習一帯は西部へ大膨脹せし大東京の殆んど中央に位し、

第二の都心と見るべきものにして、省線
の中央線・山手線、それに小田原急行線
道・京王電線・西武電線・市電・バス等
がこの新宿に集り、百貨店・大商店・映
畫館・劇場・カフェー・バーが續々と建
てられ、盛場としての今後の發展は大い
に期待せらる。この地も昔は甲州街道と
青梅街道の分岐點たる一宿場に通ぎ、
元禄十一年新陣を立て内藤氏の邸ありし
に因み内藤新宿と名づけしものと云ふ。
大正の震災後地理的状況に恵まれたため
急激に發展して今日に及び、なほ今後一
層の發展を期待する。

【隅田川】隅田川は江戸時代時客の間に
は之を墨水と稱し、都心より一日行程
よき行樂地にして、今も春は向島の櫻、
夏は兩國の川開きに打上ぐる花火に往時
の名残を留め、春秋二回のボートレース
は東京名物の一に數へらる。川口に架せ
る相生橋・永代橋・清洲橋・兩國橋・藏
前橋・巽橋・駒形橋・吾妻橋・官岡橋・
白鷺橋の十大橋はそれぞれ特色ある様式
を備へ、之に新大橋及び千住大橋を加へ
共に帝都の近代都市美を代表し、隅田川
を巡航する汽船を利用してこれら諸橋見
物も亦一興なるべし。川堤を利用して隅
田公園は、ロンドン・テムズ、パリの
セーヌに比すべきリヴ・ア・サイド・パーク
として好箇の散策地なり。

【日本橋】日本橋區日本橋にあり。江戸
戸日本橋と云はれし此の有名な橋は
市内の繁華街日本橋通りにあり、慶長八
年の創建と傳ふ。住時この橋が園内里
程の元標と定めらる。現在の橋は明治四
十四年の建設にして、今も橋の中央に東
京市の道路元標を建つ。

【日比谷】麹町の地名。北は丸の内、
東は銀座、西は霞ヶ関に連る。日比谷公
園を中心とし、東京市日谷公會堂・日本
勸業銀行・帝國ホテル・東京寶塚劇場・有
樂座等を初めとし大建築群立し、今や全
く第二の丸の内なり。日比谷公園は東京
市大小八十八公園中最も位置的に恵まれ
たる第一流の公園にして、面積の一六五
〇アールは上野・芝・井ノ頭及び隅田の
諸公園に比して遜色あるも、公園として
の利用價値は第一位を占め一日の入園者
十萬人を越ゆること少からず。この地は
江戸時代には毛利・南部・鍋島等の諸大
名の屋敷なりしが、明治の世となり日比
谷ヶ原といはる兵衛の練兵場となり、
明治天皇の觀兵式行はる。明治三十四年
東京市は陸軍省よりこの地を讓受け石黒
忠憲氏が委員長とし、本多野六氏その他
の設計により近代的趣味の公園を營み、
明治三十六年に至りて工を竣ふ。公園は
全く西洋式の設計にして、園内に大小の
池・音楽堂・花壇・グラウンド・兒童遊
園等あり、四季いづれにもよき散策地た
り。園内に市の公會堂及び日比谷圖書館
等あり。

【丸の内】麹町のうち東京驛を中心と
する附近一帯をいふ。東京のビジネスセ
ンターにして、鐵道省・東京鐵道局・中
央郵便局・東京府廳・東京市役所等の官
衙と、丸ビル・海上ビル・郵船ビル・三
菱銀行・第一銀行・臺灣銀行・正金銀行・
興業銀行・昭和ビル・明治生命・工業タ
ラプ・商工會議所・東京會館・帝國劇場・
丸の内會館・有樂座等の諸建築群立し、
その近代都市景観は道一つ隔てて全く古
典的な宮城風景と美しき調和を保ち、
そこに新しき都會美を創り出し、調和はゆ
る東京の顔と稱せらるる丸の内風景を展
開す。朝夕のラッシュアワーは頗る雑沓
を極むるも、日中は比較的往來緩慢にし
て清涼なる空氣を湛へ、夜は全く閑寂
境と化す。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面を
なす外郭にて、以前は今より遙に廣く、
今の大手町・日比谷等をも含みしが、現
在は東京驛附近一帯のみの名稱となり、
地形的には狭くなれり。この地はもと大
名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多
く、明治維新以後は、凡て官地となり、
官舎が設けられ、一部は練兵場となり、
陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、
雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原とな
りしが、位置が帝都の中心、皇城の直前
なるために漸次敷地を加へ、特に大正三
年東京驛の營業開始と共に急激に發展せ
るものなり。

芝公園の東面をなす外郭にて、以前は今より遙に廣く、今の大手町・日比谷等をも含みしが、現在東京驛附近一帯のみの名稱となり、地形的には狭くなれり。この地はもと大名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多く、明治維新以後は、凡て官地となり、官舎が設けられ、一部は練兵場となり、陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原となりしが、位置が帝都の中心、皇城の直前なるために漸次敷地を加へ、特に大正三年東京驛の營業開始と共に急激に發展せるものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面をなす外郭にて、以前は今より遙に廣く、今の大手町・日比谷等をも含みしが、現在東京驛附近一帯のみの名稱となり、地形的には狭くなれり。この地はもと大名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多く、明治維新以後は、凡て官地となり、官舎が設けられ、一部は練兵場となり、陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原となりしが、位置が帝都の中心、皇城の直前なるために漸次敷地を加へ、特に大正三年東京驛の營業開始と共に急激に發展せるものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面をなす外郭にて、以前は今より遙に廣く、今の大手町・日比谷等をも含みしが、現在東京驛附近一帯のみの名稱となり、地形的には狭くなれり。この地はもと大名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多く、明治維新以後は、凡て官地となり、官舎が設けられ、一部は練兵場となり、陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原となりしが、位置が帝都の中心、皇城の直前なるために漸次敷地を加へ、特に大正三年東京驛の營業開始と共に急激に發展せるものなり。

【芝公園】芝公園にあり。芝公園の東面をなす外郭にて、以前は今より遙に廣く、今の大手町・日比谷等をも含みしが、現在東京驛附近一帯のみの名稱となり、地形的には狭くなれり。この地はもと大名及び幕府御用部屋出仕の階級の邸多く、明治維新以後は、凡て官地となり、官舎が設けられ、一部は練兵場となり、陸軍關係の官舎が他へ移轉するに及び、雜草生ひ茂れる、謂はゆる三芝ヶ原となりしが、位置が帝都の中心、皇城の直前なるために漸次敷地を加へ、特に大正三年東京驛の營業開始と共に急激に發展せるものなり。

香取宮までのうち第三番は適當なる復舊工事を加へられ、墓場公園と稱し、市内唯一の海上公園として公開せらる。※御堂場

【芝東照宮ノ公孫樹】指定天然記念物。芝東の東照宮境内、社殿の北、社務所の前にあり、徳川家光の手植と稱せらるる雄株にして、目通幹圍六米、推定樹齡三百年、家光の手植と稱するもの附近に尙ほ一株ありしが大正六年の暴風に倒れ、いま葉これより發生す。

【志村一里塚】指定史蹟。板橋區志村町にあり。慶長九年の定に依り日本橋より三里の地點に築きしものにして、中山道の一里塚なり、道路の兩側東西にありて塚上に榎樹を植う。西側のものは大正九年枯損伐採せり。

【善福寺ノ公孫樹】指定天然記念物。麻布區山元町にあり。周圍に鐵柵を繞らし觀劇人御杖銀杏樹と刻せる石碑立つ。觀覽上人の地に挿せし杖の生長したるものと傳へ、杖公孫樹または道公孫樹の名あり。推定樹齡七百五十年、地上樹一・五米の幹圍約九・四米、幹の上部は枯損せり、樹高約一九・七米ありといひ、乳柱多し。

【高輪大木戸址】指定史蹟。芝區車町にあり。寶永七年江戸東海道口に營造せられ木戸を設けて出入を警備せし址。また享保年中伊藤忠敬の全國測量の基點となす。道路の東側の石臺今に存す。

【海島聖堂】指定史蹟。本郷區海島二丁目にあり。元祿年中、徳川綱吉、忍ヶ岡よりここに移し孔子を祀りて大成殿と稱す。その後慶應義塾上し寛政十一年徳川家齊明訓によりて建築せし大正十二年大震災にて焼失し、僅に入徳門、左右の扉及び水屋を残せしのみなりしが昭和十年悉く舊規によりて再建せらる。

【穴守稻荷】浦田區羽田穴守町にあり。文政年間鈴木五衛門が開墾せし以來この地に稻荷の小社ありしが、明治十八年同家の土藏に住む狐、病人を癒せしより著名となり参詣者増加す。新願のため鳥居を設けるもの多く、その數一萬有餘に及ぶ。

【龜戸神社】城東區龜戸町三丁目に鎮座。府社。主祭神、天満天神、相殿神、天菩日命。明暦三年九州太宰府天滿宮の神人菅原信祐の勧請に係る。寛文二年徳川家綱より社地を賜けて同三年社殿を營み、その規模太宰府に擬したれば東幸府と稱す。元祿十五年菅公八百年の神忌として鹽元上皇宸筆和歌帳紙を賜ふ。延享二年喪上せしも同四年再建せらる。明治元年

【澤庵墓】指定史蹟。品川區北品川東海寺境内にあり。澤庵澤庵和尚の墓にして方形の石を疊み、その上に圓はゆる澤庵石の大なるものを置く。その城内には神石・經塔・拜石及び石燈籠二基を存す。※東海寺(佛園)

【東京美術學校門内ノ椎】指定天然記念物。下谷區上野公園、東京美術學校西校舎(本校舎)支園前の廣場にあり。幹は上方折れ、基部より數枝に分る。根元の周圍約九米半、地上一米半の幹圍約五・一三米、枝葉東西南の三方各一〇米。地方的巨樹として有數のものなり。

【常盤橋門址】指定史蹟。麹町區龜坂町より日本橋區常盤町に亘る。江戸城大手門筋の外部正門なり。門は明治維新後取壊され石臺のみ現存するも、舊規見るべきもあり。外部に架せられし常盤橋は明治十年洋式石橋に改造せらる。

【西ヶ原一里塚】指定史蹟。浦野川區西ヶ原町にあり。東西の二塚あり。いまだ道路の中央に存し電車線左右兩側を通ず。東塚には復の老木繁茂し、西塚には二本復保存之碑と題する記念碑あり。

【林氏墓】指定史蹟。牛込區市ヶ谷山伏町にあり。林羅山・同春齋・同風閣・同達齋等の墓並立す。林氏は羅山以來世々大學頭となり、江戸幕府の文政を司り。

【櫻切小高園】指定名勝。葛飾區櫻切町にあり。開闢の年代不詳なるも天保に五年前神社に列せらる。同三十五年菅公一千年祭に當り新に神社を擴張し社區愈々隆盛を加ふ。境内藤・梅の名所として知らる。例祭、九月二十五日。

【神田明神】神田區宮本町に鎮座。府社。祭神、大己貴神・少彦名神。相殿、平將門。聖武天皇天智二年の鎮座と傳ふ。初め芝崎村にありて中古遷移せしを、慶長年中駿河臺に移り天和年中現地に遷る。社領三十名。南は京橋、東は大川、北は海島、下谷、西は小川町までの地産土神なりといひ市民の崇敬甚だ厚し。例祭は九月十四・十五の兩日にして神田祭と稱し古來江戸風習の大祭にして、丑・卯・巳・未・酉・亥の隔年に行ふ。

【金刀比羅宮】芝區平町に鎮座。府社。祭神、大物主神・崇徳天皇。讃岐の金刀比羅を勧請せるに創る。もと京橋家の邸内にありて京橋家の私神社たりしが、明治初年一般の参拝を許し公認神社たり。毎月の祭日には衆人參す。例祭に奉ずる大和舞は府下神社中に於て稀に見る所なり。例祭、十月九日。

【芝大神宮】芝區宮本町に鎮座。府社。祭神、天照皇大神・豐受姫命。相殿、源賴朝・徳川家康。一條天皇宣弘二年伊勢大神宮の御分靈を鎮座し奉ると傳ふ。舊稱を飯倉大神宮と稱し、増上寺の鎮守たり。源賴朝社領千三百貫を寄せ當時社運隆盛なりしもその後荒廢し、江戸時代に至りて徳川氏の崇敬を受け舊觀に復す。

り著名となる。栽植の品種は當時花萬浦の愛宕萩松平左金吾の園に出づといひ、よく古來の品種を傳ふ。庭園頗る妙にして、近く花園を觀、遠く郊野を望みて景観佳なり。江戸時代初期の花萬浦園として著聞す。

【松平定信墓】指定史蹟。深川區靈岸町靈岸寺境内にあり。墓石に故白河城主松平公之墓と刻せられ、昭和四年の修築に係る。また夫人松平氏、喜風定綱、同夫人等同一墓域にあり。

【向島百花園】指定名勝。向島區向島町にあり。一に花屋敷と稱す。文化年間佐原菊場の園と云ふ。園内多數の野草を栽植し、殊に秋の七草の美觀は著聞す。舊稱をよく保ち、開闢當時の家屋の存するものあり。いま江戸時代の花園として櫻切の小高園と共に著名なり。

【明治天皇宸筆御小休所】指定史蹟。杉並區荻窪にあり。明治十六年四月十六日及び廿日御行幸の際、また同年同月廿三日小金井行幸の際御小休せらるる。【明治天皇行幸所浦田梅屋敷】指定史蹟。浦田區浦田町にあり。明治元年十月十二日東京行幸の際、本陣梅屋敷梅林久三邸宅御小休、同年十二月八日京都還幸の途次、同二年三月廿七日東京再幸の際、同六年三月六日浦田行幸の際、同十七年三月十九日小向井行幸の際等に御立寄せらる。梅屋敷は光緒の頃近江草津の人長貴この

明治元年御行幸に列せらる。例祭、九月十六日。【松陰神社】世田谷區若林町に鎮座。府社。祭神、吉田軍方(松陰)。明治十五年毛利元徳及び軍方門人等相講して墓畔に一祠を建てたるを以て當時の創建とす。このこと上掲に建するや、同二十二年長くも正四位を追贈せらる。昭和九年神饗幣料供進社に指定せらる。例祭、十月十七日。

【水天宮】日本橋區觸發町に鎮座。無格社。祭神、安徳天皇外二柱。久留米市瀨之下町鎮座の水天宮の分社にして、もと久留米藩主有馬氏邸内に鎮座せしも、明治維新後赤坂に通し次いで明治五年現地に移す。例祭、四月十日。毎月一日・五日・十五日は兼日にしてその盛況言はん方なく、参賽者の多きこと帝都第一と稱せらる。

【築土八幡】牛込區築土八幡町に鎮座。祭神、應神天皇。津久戸神社と並び土地高燥、風望に富む。津久戸神社の祭神は葉巻鳴命なりといふ。往時龜町區田安臺(九段坂上田安御門の邊)にありし頃は田安明神と稱せり。

【東照宮】下谷區上野公園地に鎮座。府社。祭神、徳川家康。元和九年の創建として、同八年に重り宮殿・護摩堂・大塔等成れりといふ。正保二年に宮殿宣下あり、翌三年に至りて社領二百石と定めら

地に和中散を賣る店を開きしに始まり、のち境内に榎樹を植えて梅木堂と稱し梅の名所となる。明治天皇屢々行幸し御小憩の上御觀梅し給ふ。五重平屋建の玉座の建物建る。また本屋敷は徳新の元勳三條・岩倉・木戸・大久保・伊藤・井上等諸國の志士を會して國事を談ぜし所として知らる。

【明治天皇行幸所木戸舊邸】指定史蹟。豊島區駒込町にあり。明治九年四月十四日木戸孝允別邸に行幸。維新以來の功を閉ざされ勅語を賜ふ。

【明治天皇行幸所西郷邸】指定史蹟。日黒區上目黒にあり。明治廿二年五月廿四日西郷從道別邸に行幸。薩摩藩・角瓶・象の技藝を天覽、皇族・大臣・樞密院議員、同顧問官御陪食。

【明治天皇行幸所對崎莊及舊址】指定史蹟。淺草區橋場三丁目にあり。明治六年十二月十九日、三條實美邸(對崎莊)に實美の病氣御慰問に行幸。

【明治天皇行幸所所島邸】指定史蹟。芝區白金臺町にあり。明治十三年六月九日工部省工作分局に行幸の途に臨幸。

【明治天皇行幸所徳川邸】指定史蹟。澁谷區千駄ヶ谷町にあり。明治二十年十月卅一日徳川家總邸に行幸。

【明治天皇行幸所水戸徳川舊邸址】指定史蹟。本所區小梅町にあり。明治八年四月四日徳川昭武邸に行幸。祖先の功を賞し勅語を賜ふ。同十五年十一月二十一日

る。慶安二年徳光親天皇宸筆の勅語を賜ひ、同四年勅諭門の勅語あり。殿宇中、本殿・幣殿・拜殿は國寶にして、その規模は小なりと云へ日光東照宮を模せるものとして著はる。また石の華表の傍にある石燈籠は高さ二丈、笠石の徑一丈にして、京都市南禅寺・尾張縣神田社のそれと共に日本三大石灯の一たり。例祭、四月十七日。

【東照宮】芝區芝公園地に鎮座。無格社。祭神、贈正一位太政大臣源家康。家康慶長六年六十歳の等身像ありしが、元和二年薨去の後、増上寺に遷葬せられ、安國殿に安んぜしが、寛永十八年更に現今の神殿を新築して祭祀せるに起る。本殿・拜殿の外、神饗所・神樂殿等あり。例祭、四月十七日。境内の公孫樹は天然記念物に指定さる。

【豊川稻荷】赤坂區表町二丁目に鎮座。高吉元年、東海瀧島和尚、三河國豊川に妙嚴寺を開創するに及び、別に祠堂を設けて自作の呪術尼龍天像を安んじその鎮守とせりといふ。のち文化十一年大岡越前守忠相江戸一ツ木町の邸内に之が分祠を設けて敬神甚だ篤かりしが、明治九年私邸の神社佛間に家康の参拝を禁ずるの官令に従ひ、之を現地に移して同時に三河國妙嚴寺末とす。参詣者の多きを以て著名なり。

【新田神社】浦田區矢口町に鎮座。府社。祭神、新田義興。義興は義貞の次弟にし

て、父の死後東國にありて朝敵討滅を願ふ。後村上天皇正平十三年鎌倉執権頼山陽を討つて、義興を矢口渡に於て謀殺せしむ。明治四十二年九月従三位を賜ふ。例祭、十月十日。

【根津神社】本郷區根津須賀町に鎮座。府社。祭神、素戔嗚命・大山咋命外三柱。もと駒込千駄木園子坂に鎮座ありしが文明年中大田道灌社殿を再建せりと傳ふ。徳川家宣、境内に己が腹衣塚あるを以て當社を氏神とし、寛永三年千駄木村元根津の地より池の端舊徳川中納言頼豊邸内に移して府内の大社となす。當時朱印地五百石を領し、別當寺二院を有せしも、維新の際廢せらる。明治元年勸祭社に列せらる。本殿・幣殿・拜殿・裏門、及び太刀二口（一は銘長光、一は銘備州長船秀光）はいづれも國寶たり。例祭、九月二十一日。

【乃木神社】赤坂區新坂町に鎮座。府社。祭神、乃木希典。配祀、乃木靜子。大正十二年十一月、乃木夫妻の遺徳を敬仰し有志等相議して創建す。社中、太刀一口（銘備前田住長船大郎左衛門尉勝光、子次郎兵衛尉治光一期一展作之佐々木伊豫守、附毛利元康寄進狀一通）は國寶。例祭、九月十三日。

【八幡神社】牛込區市ヶ谷八幡町に鎮座。市ヶ谷八幡ともいふ。郷社。祭神、應神天皇・神功皇后・比咩大神。文明十一年、大田持資、江戸城留守として相頼

國島八幡宮を勧請せるに始るといふ。享保年中徳川吉宗深く當社を崇敬し、紀州高野山より別當職を徵して東國寺と號す。例祭、九月十五日。

【日枝神社】麹町區永田町に鎮座。官幣大社。祭神、大山咋神、外三柱を相殿に祀る。古來日吉山王權現、江戸山王權現、又は山王社とも稱し、文明年中、大田道灌江戸城内に勧請したるに始るといふ。留來城内の鎮守として野内北の血輪、梅林中に鎮座せられしが、天正十八年徳川家康入城後、紅葉山に遷し、更に社地を牛瀨門外に定めて移し、社殿の遺骨をなしてその規模大いに備はり、三代將軍家光の時より六百石の朱印を寄せられ、府内第一の名社として歴代將軍の尊崇極めて篤く、明暦三年の大火に殿宇鳥有に歸するや、直ちにこれを赤坂留池の現社地に新造す。いまの社殿即ちこれにして、現に國寶に指定せらる。本社は將軍家の庶土神として重きをなし、慶長以來屢々將軍及び世嗣・子女、諸大名の社參絶ゆることなく、毎年正月・六月には必ず使を遣はして例幣を奉る。殊に六月の大祭には神輿城内に渡御あり、將軍吹上に出でて親拜し、大手に於て奉幣の儀を行ふを習とす。世に山王祭禮とも、御用祭とも、天下祭とも稱せられ江戸第一の盛儀とせらる。社中、明治天皇御寄附に保る御太刀一口（備前長光作）を始め、十三口の太刀はいづれも國寶たり。例祭、六月十五日。

【水川神社】赤坂區水川町に鎮座。府社。祭神、素戔嗚命・大己貴命外二柱。天武天皇初めて神祭を行はせ給ひきと傳ふ。或は云ふ、もと一ツ木村（今の一ツ木・丹後・臺・新坂・新・仲之の各町に分かる）にありしを、享保十五年現地に移すと。また他に二説あれど定説なし。徳川氏朱印地二百石を寄せ、明治二年勸祭社に列せらる。例祭九月十五日。

【深川八幡宮】一に富岡八幡宮といふ。深川區富岡町に鎮座。府社。祭神、天照大神・天兒屋根命外三柱。天平寶字年間右大臣藤原成成朝の所にして、源頼政・足利氏黒代・太田持資等の尊崇厚かりき。明治元年勸祭社に列せらる。例祭八月十四・十五・十六日。

【明治神宮】澁谷區代々木に鎮座。官幣大社。祭神、明治天皇・昭憲皇太后。大正四年四月神宮奉建の議置り、同年十月地鎮祭を行ひ、六箇年の歳霜を閲して同九年十一月竣工、同時に鎮座せらる。その資金は一切國庫より支出す。歳費に際し、規模大なりしに拘らず華國養生の熱烈なる奉仕によりて造營の工事の進捗比類なく速かなりし事は特筆すべく、これ尙に全國民衆誠の結晶に外ならず。明治天皇は不世出の大英主にましまして維新の大業を成就し國威を海外に宣揚し給ひき。その聖徳は偉大く、その御治績は限無し。實に明治の大御代は、赫々たる我

【四谷・赤坂の兩區間に跨り、神宮内苑に北參道に依りて建る。總面積約五、〇〇〇アル（十四萬五千餘坪）。大正六年起工し同十五年竣工。その大部分は青山練兵場たりし處にて、明治天皇の御賜所その北部に遺骨せられしが、のち明治神宮代々木に鎮座せらるるにあり、その附近の地を含めてここに外苑造營せらる。苑内に聖徳記念繪畫館・憲法記念館を初め陸上競技場・野球場・相撲場等設けられ、また日本青年館の巨館あり。外苑の經營は實に神徳を慕ひまつる爲の構築にして、林泉を配し、以て聖徳を永に偲び、大業を無窮に記念し奉る。苑の過半は清浄なる芝生によりて明潤廣闊なる風分を漲らせ、これに最新の公園的設備を施しあり、神靈を養きまつり最も神聖なる森嚴莊重の地域たる内苑とは趣を異にすれども、その根本精神に至りては兩者これを同じうするものにして、内苑の森嚴・外苑の雄偉相俟ちて大神域を成す。（聖徳記念繪畫館）明治神宮外苑内にあり。鐵筋コンクリート花崗岩表装、延坪二五アル、近代式の大建築なり。明治天皇・昭憲皇太后の御事蹟を彫せし繪畫を陳列するために建設されしものなり。即ち御事蹟中より畫題八十を選び、日本畫・西洋畫各四十題を現代一流の畫家に描かしめしものにして、繪畫は日本畫を左翼の二室に、西洋畫を右翼の二室に配置す。第一號より第四十號までは日

本畫、第四十一號以下は西洋畫なり。【靖國神社】麹町區富士見町三丁目に鎮座。別格官幣社。祭神、明治維新前後以來の殉國者尊靈。明治二年、明治天皇の宸慮によりて建立せられ、同年六月軍務官知事仁和寺宮嘉彰親王勅を奉じて祭主となり、鳥羽・伏見より前鋒の役に至る戦死者を鎮祭せられしを以て起原とし、幕末の際國事に奔走して歿れし志士も合祀せられ、その後佐賀の役・臺灣の役・西南の役・日清の役・日露の役・日韓の役・支那事變・臺灣露社事變、近くは滿洲事變・上海事變・支那事變等に戦歿せられし將士の靈を次々大ぎに祀り、現在まで（昭和十三年六月）の合祀五十二回、祭神十三萬五千四百柱に及ぶ。初め招魂社と稱せしが明治十二年靖國神社と改稱す。社殿は東に面し五層高樓上古の風を擬し清淨森嚴なり。社域廣闊。社前に天下無比の大鳥表あるは人の知る所なり。中央に大村益次郎の銅像あり。社側に遊就館ありて、古今の武器・戦利品・乃木將軍夫妻の遺品等を陳列す。その他能樂堂・相撲場等の設備あり。例祭（四月三十日・十月二十三日）には勸使の参向あり、次で陸・海軍参拜の儀式あり。繪輿として相撲・能樂等あり。舊設馬場には見世物・露店等連り、前後數日に互りて立錫の餘地なきまで雜沓し繁賑を極む。（遊就館）靖國神社境内にあり。明治十四年創設、現在の建物は鐵筋コンクリート二

月十五日。

【淺草別院】淺草區清浄町にあり。眞宗大谷派。信淨山と號し俗に淺草門跡と稱す。天正十九年東本願寺十二世教如、徳川家康より神田西願寺前の地を寄せられ一字を創せしに始る。明暦三年江戸大火に罹れ、仍て徳川氏より同年六月現地に寺地を受けて堂宇を再建す。明治年間天皇再度御臨幸あり。舊末院三十五寺を數へしが現在二十四寺を存す。大正十二年大震災の厄を蒙り假木堂のままなりしが近時漸く再建せる。

【同向院】芝草區南千住五丁目にあり。淨土宗。寛文二年南無同向院の別寮として建設せられしものにして、小塚原刑場にて刑せられし者及び江戸の大地震にて壓死せし者を供養す。院内に橋本左内・吉田寅次郎・梅田雲漢・佐野竹之助・小田彦三郎・相馬大作等志士、烈士の墓多し。

【海晏寺】品川區南品川五丁目にあり。曹洞宗。補陀落山と號し三田功運寺末。建長三年當地附近の漁網に入りし大鯨の腹中より出でし聖觀音の木造を、北條時頼一字を建てて奉安し建長寺の遺蹟を開山とす。これ當時の草創にして、鯨の死

國史上に更に一段の光輝を放てるものなり。天皇御去り給ひてより、月去り年経る毎に國民の御徳徳運慕の念いや増すばかりにして、その熱情の終にはとばしるところ聖帝の神靈奉祀は國民の輿論となり、大正四年四月神宮奉建の議ここに定れり。これより先、大正三年不幸にして國民は昭憲皇太后の崩御に遭ふ。皇太后は坤徳彌高くましまして日夜萬民を慈しませ、明治聖代を内より助け給ひし御勳は、國民の共に欽仰し尊崇し奉るところなり。社殿は本殿・拜殿・樓門等をその主なるものとす。その様式は古拙なる流造にして、莊嚴質朴を旨とせらる。御敷地は祭神が屢々行幸啓あらせられし御由緒あり、且つ樹林泉池の幽邃、東京市内跡に見る代々木の御料地を鑑定せられしものにして社域の總面積約七千三百五アル（二十一萬九千五百坪）の廣大なる地域を占む。城内に祭神と由緒淺からぬ名草、舊御苑あり。御苑の北に加藤清正の知りしものと傳へらるる清正井あり。南に明治初年全國より各種の優良なる萬葉を集めて培植せられし萬葉園ありて花開の美觀言はん方なし。御苑入口の左側に名木「代々木」あり、代々木の地名はこれに起ると傳ふ。寶物殿は本殿の北方にあり、祭神に最も御關係深き御物を保存し、國民一般に拜觀を許す。例祭、十一月三日。明治天皇祭、七月三十日。昭憲皇太后祭、四月十一日。（明治神宮外

【同向院】本所區南國二丁目にあり。淨土宗。國靈山無礙寺と號し芝増上寺末。明暦三年江戸大火（俗に振袖火事）の際の死者十萬八千人を、幕府、増上寺二十三世蓮譽實尾に命じて一坑に埋葬して供養せしめ、本所牛島新田に方二町の寺地を興へて一寺を建立せしむ、これ當時の草創なり。萬治年間牢死者並に刑死者のため三佛堂を新設。安政二年の大震に死せる二萬五千人の精靈を寺内の供養大佛を除き諸堂悉く鳥有に歸す。此時の殉難者十餘萬の靈骨をも大佛に合葬す。寛政以後境内に勸進角力を行ひ、爾後運轉として續き、今の國技館の隆盛を見るに至る。墓地には加藤千蔭・山東京傳・同京山・風小僧次郎吉の墓あり。

【同向院】芝草區南千住五丁目にあり。淨土宗。寛文二年南無同向院の別寮として建設せられしものにして、小塚原刑場にて刑せられし者及び江戸の大地震にて壓死せし者を供養す。院内に橋本左内・吉田寅次郎・梅田雲漢・佐野竹之助・小田彦三郎・相馬大作等志士、烈士の墓多し。

後海上安堵となりたれば海晏寺と稱すと云ふ。門前に北條時頼の古塔及び佛人春秋庵白蓮の墓、寺後の墓域に松平春嶽・岡茂昭・岩倉具親等の墓あり。

【寛永寺】下谷区上野公園地にあり。天台宗。東叡山圓頓院。寛文年間江戸城鎮護のため天海僧正(慈眼大師)の創建に係り、元禄年間に至りて堂塔伽藍全く備はり、當時上野金山三十三萬三千餘坪(一萬一千百アル餘)を境内とし朱印地一萬二千石、芝増上寺と號稱して江戸兩山といふ。初め天海僧正、川越喜多院に住し徳川家康の信任を受けて其處を東叡山と稱せしが、寛永二年應堂高虎、その別業なる上野一帯の地を獻じて寺地となすや幕府即ち前將軍秀忠の舊廟及び銀五萬兩を下附して着工せしむ。慶安元年使水尾天皇第三皇子守禮法親王を迎へて第二世とし、明暦元年後西院天皇の詔によりて天台座主となり、比較日光・東叡の三山を管領し給ひ輪王寺宮の號を賜る。明治維新前は金山神祠堂合三十二字、支院三十六坊、將軍靈廟七所等を連ね輪奐壯麗を極めしが、明治元年幕府廢除の據る所となりて其兵火に罹り清水堂、東照宮、兩大師・神天堂・將軍靈廟等を除く外悉く焼失。明治八年に至り上樂寺本堂を移して善大慈院(慶喜南屏の處)に本堂を再建す。昔の三十六坊は今三十五院となりて橋本町に在り。上野公園昇風坂上

にある慈眼堂(兩大師)は破風形銅瓦にして慈惠・慈眼(天海)の兩大師を安置す。堂の西側後方には守禮法親王・後西院天皇皇子天眞法親王・東山天皇皇子公直法親王など歴代輪王寺門跡の御墓あり宮内省の管理に屬す。靈廟は博物館の真手にあり、四代將軍家綱の第一靈廟と稱し、元禄十二年の再建、第一靈廟に隣りて第二靈廟あり、五代將軍綱吉を祀る。いま東京博物館のある處は、以前本坊、即ち法親王常住坊合たりし處なり。五重塔は東照宮の前にあり。寛永十六年土井利勝の再建にして三間五層塔婆、屋根第五層銅板葺、他は本瓦葺、外部總丹塗りにて形意よく上野の森に風致を添ふ。

【泉岳寺】芝罘區泉町一丁目にあり。曹洞宗。江戸三箇寺の一。萬年山。文明八年太田道灌、靈巖齋徳を開山として創建す。當時は現在の駒町區平河町にありしが慶長五年徳川家康自ら現地を相して移す。また藤州・長州・土州等の諸侯の菩提寺として寺運隆盛なりき。

二月十四日の討入の日及び二月四日切腹の日には法要行はれて特に賑ふ。また寺後の墓域には幾ヶ嶽七本槍の一人平野長泰の墓あり。

【善願寺】麻布區山元町にあり。親宗本願寺派。麻布山。弘元元年弘法大師紀州に高野山を建立後、東北巡錫の時天長九年高野山を建立し高野山と稱す。第八世了海上人の時、親上人東國に來化して此寺に入り念佛往生の理を論じ、了海は親鸞の弘法に歸依し宗風を親宗に改む。寺はアメリカ公使館舊址として知られ、安政六年六月三日アメリカ公使館の宿舎を命ぜられ、公使ハリス及びヒュウスケン等來宿す。文久三年四月六日夜出火して太子堂・庫裡・大鼓堂、その他焼失し、同年當時の住職、幕府にアメリカより出資し現在の庫裡等を再建して米人に貸與せしが、明治六年六月十二日、米國使節等は本國へ引揚ぐ。尙ほ境内に公孫樹あり、天然記念物に指定さる。※善願寺ノ公孫樹(天然記念物)

【善願寺】麻布區山元町にあり。親宗本願寺派。麻布山。弘元元年弘法大師紀州に高野山を建立後、東北巡錫の時天長九年高野山を建立し高野山と稱す。第八世了海上人の時、親上人東國に來化して此寺に入り念佛往生の理を論じ、了海は親鸞の弘法に歸依し宗風を親宗に改む。寺はアメリカ公使館舊址として知られ、安政六年六月三日アメリカ公使館の宿舎を命ぜられ、公使ハリス及びヒュウスケン等來宿す。文久三年四月六日夜出火して太子堂・庫裡・大鼓堂、その他焼失し、同年當時の住職、幕府にアメリカより出資し現在の庫裡等を再建して米人に貸與せしが、明治六年六月十二日、米國使節等は本國へ引揚ぐ。尙ほ境内に公孫樹あり、天然記念物に指定さる。※善願寺ノ公孫樹(天然記念物)

【善願寺】麻布區山元町にあり。親宗本願寺派。麻布山。弘元元年弘法大師紀州に高野山を建立後、東北巡錫の時天長九年高野山を建立し高野山と稱す。第八世了海上人の時、親上人東國に來化して此寺に入り念佛往生の理を論じ、了海は親鸞の弘法に歸依し宗風を親宗に改む。寺はアメリカ公使館舊址として知られ、安政六年六月三日アメリカ公使館の宿舎を命ぜられ、公使ハリス及びヒュウスケン等來宿す。文久三年四月六日夜出火して太子堂・庫裡・大鼓堂、その他焼失し、同年當時の住職、幕府にアメリカより出資し現在の庫裡等を再建して米人に貸與せしが、明治六年六月十二日、米國使節等は本國へ引揚ぐ。尙ほ境内に公孫樹あり、天然記念物に指定さる。※善願寺ノ公孫樹(天然記念物)

を築り一旦復せしが大正の大震に遭ひて灰燼に歸せり。その後伊東忠大博士の設計に成る印度風の石造大伽藍を復興し昭和十年落成す。本寺は古來寛永・増上二寺及び淺草別院と共に兩山兩寺と呼ばれ幕府の崇教自ら異れり。現に東京教區三百寺・奥羽教區五百寺を管し、その信徒を崇教門末とす。境内に酒井抱一の墓・九條武子の歌碑あり。

【傳通院】小石川區表町にあり。淨土宗。無量山總持寺。應永廿二年了譽聖師の開創に係る。慶長七年徳川家康の母傳通院伏見城に没するや遺骸を江戸に迎へて此處に葬る。同十九年傳通院殿十三間忌に際し寺領三百石を寄せられ、關東十八檀林の一に加へらる。舊寺領六百石を有せり。

【天王寺】下谷區谷中天王寺町にあり。天台宗。深淵山護法院。延暦寺末。日蓮東國往來の時、當地の關長に自像を刻して與ふ。仍て草庵を結び像像を安置せしが本寺の遺構なり。應永年中日蓮の再興。往時は寺中に十二坊ありて盛觀を極む。寛永寺を比叡山に遷すに對し本寺は鞍馬山に遷し、比叡山横川園樂院に安置せる宗廟傳教大師自作の思沙門天を勧請して之を本堂とす。明治元年戊辰の役に兵火に罹り本坊・五重塔の外悉く炭上し、今は住時の盛觀を留めず。

【東海寺】北品川町二丁目にあり。臨濟宗大徳寺派。真然山と號し本宗別格寺たり。寛永十五年の創建にして開基は徳川家光、開山は澤庵宗彭なり。澤庵は初め京都大徳寺にありしが事に坐して出羽國に請せらる。のち故されて江戸に出づるや、家光深くこれに歸依して本寺を建立す。堀田・酒井・細川・小出の諸氏亦各子院を造る。當時寺領五百石、塔頭十七院を有せし、いまは衰微す。然も名刹たるを失はず。境内に澤庵の墓あり、史蹟に指定さる。宗澤庵墓(指定史蹟)。

【東禪寺】芝區高輪にあり。臨濟宗妙心寺派。佛日山と號し本宗別格寺。慶長十五年の創建、開基は日向飯尾藩主伊東祐慶、開山は嶺南和尚なり。その後伊東家廿二代の菩提所となり堂宇壯麗を極む。安政・萬延の頃徳川氏本寺を以て外人の習所となし、又英國公使館を寺内に設置す。文久元年水戸藩浪士十八名、英國公使アルコックを撃たんとして寺内に亂入し堂宇を燒く。今は子院も僅に二院を存するのみにして住時の隆昌を見るに由なし。境内に大徳澤庵の墓あり。

【梅照院(新井薬師)】中野區新井町にあり。新羅眞言宗崇山派。松高山藥師寺と號し中野實仙寺末。天正十四年、梅原將監(法名行春)の開創と傳ふ。中興開山は第六世朝雲にして、此頃より本尊藥師の靈驗四方に喧傳せられ子院遍稱せり。寛永元年徳川秀忠女子育徳院と稱せり。寛永元年初徳川孝忠女子(東福門院)眼病平癒の效驗ありと寺田若千及び松高山梅照院藥師寺の號を與ふ。

【靈雲寺】本郷區湯島新花町にあり。古義眞言宗。寶林山佛日院。高野山金剛峯寺末。元祿四年新安流開祖淨觀、御澤保明の歸依を受け奉命によりて本寺を創建す。幕府本寺を以て關東眞言律宗の本寺として寺領百石を附す。寺寶中、諸尊集會圖一幅(絹本着色)・吉野曼荼羅一幅(絹本着色)・羅漢圖十六幅(絹本着色)・彌勒曼荼羅一幅(絹本着色)・天帝圖一幅(絹本着色)はいづれも國寶。

【靈巖寺】深川區海邊町の所謂靈巖島にあり。淨土宗。道本山東海院。淨土宗關東十八檀林の一にして、檀越社壇松風靈巖の開創に係る。寛永四年、徳川秀忠の請によりて幕府に法文を説き、寺地六町四方を寄せられ、諸堂を増築して景観大に整ふ。中興は大警珂山。爾後數度の火災に遭ひて今は住時の盛觀を失ふ。墓域に本多忠純・松平定信・松平外記等の墓あり、また子院成等院には紀伊國屋文左衛門の墓、正覺院には並木五郎の墓等あり。

【東京驛】我國鐵道幹線の一たる省線東海道本線の重要驛。東京市麹町區丸の内一丁目にあり。大東京の表玄関をなす中央停車場をなすも、明治五年我國に初めて敷設されたる新橋(今の汐留驛)、横濱(今の櫻木町驛)間省線の起點驛新橋驛が大正三年に此地に移され東京驛となり、

と傳ふ。同年、延暦寺の童子梅若丸、好惡の者に欺かれて東下し隅田川の邊にて死す。出羽羽黒の忠國、里人の請ひにより一塚を築きてその菩提を弔ひ梅若寺と名付く。のち梅若の梅字を分ちて木母寺と改む。境内に根本武揚の銅像・龜田鶴齋の碑あり。

【深川不動尊】深川公園内にあり。千葉縣成田山新勝寺の出張所にして下町人の信仰甚だ厚く、毎月二十八日の縁日は勿論、通常にても参詣者頗る多し。堂の創立は明治十四年なれども本尊不動明王は古く、はじめ日本橋本町にありしが、のち三轉して現地に移れるもの。

【寶仙寺】中野區宮前町にあり。新羅眞言宗豐山派。明王山無動院。天平年中眞辨の開創と傳へ、往昔は大刹なりしものち衰替、永享年中高野山の聖水中興す。賢秀住職の頃徳川家康の崇教甚だ厚く、のち將軍御稱所に列せらる。いま末寺三十二箇寺を統ぶ。

【法明寺(鬼子母神)】小石川區練馬ヶ谷町にあり。日蓮宗。弘仁元年靈覺大師の開立、もと眞言宗にして稻荷山威光寺と稱し源家の新羅所たりしが、のち日蓮上人の時に日蓮宗に轉じ威光山法明寺と改む。徳川三代將軍家光以下諸將軍放鷹の際の休息所たり。境内鬼子母神安置の鬼子母神は俗に養子ヶ谷鬼子母神と稱し安産子福一切の新羅成就すとて一般衆庶の信仰甚だ厚し。毎月八日は縁日、一月十六日は少射祭、十月十二日より十八日まで會式を行ふ。十七日の夜は殊に賽者密集し東都名物の一たり。境内の公孫樹は指定天然記念物。鬼子母神ノ公孫樹(指定天然記念物)。

【本門寺】大森區池上本町にあり。日蓮宗。四大本山の二にして長栄山大圓院と號す。文永十一年日蓮に歸依せし幕府の工匠池上宗仲の創建に係り、寺號は日蓮の獨名にかかるといふ。弘安五年十月日蓮病み宗仲の邸に入りて没す。日蓮その遺命によりて當寺と鎌倉妙木寺を傳授し、文保五年堂宇の造修成るや東國有数の巨刹となる。徳川家康は寺領百石を寄せ、秀忠亦歸依して山門及び五重塔を建て、當時一山の富十五萬石と稱せらる。加藤清正の崇信亦厚く四十間四間の祖師堂を造營す。結構壯麗を極め、金剛峯寺・圓樂寺と共に日本三大堂の一に數へらる。寶永七年火災の爲に諸堂宇焼失せしが、徳川吉宗によりて現在の釋迦堂・取願堂等再建せらる。往時は子院三十六坊を有せしが、現今は十八院を理すのみなり。

【妙法寺】杉並區堀之内一丁目にあり。俗に堀之内御祖廟といふ。日蓮宗。日圓山。もと眞言宗なりしを元和年中日蓮の時現宗に改む。元祿十一年、碑文谷の法華寺、天台宗に改めし時日蓮後及び妙符を本寺に移す。此の日蓮像は俗に彫師といひ弘長年中日圓の刻せるものにして靈顯著を稱せられ賽者夥し。

【目黒不動】目黒區目黒三丁目にあり。天台宗。應永廿二年了譽聖師の開創に係る。慶長七年徳川家康の母傳通院伏見城に没するや遺骸を江戸に迎へて此處に葬る。同十九年傳通院殿十三間忌に際し寺領三百石を寄せられ、關東十八檀林の一に加へらる。舊寺領六百石を有せり。

【東海寺】北品川町二丁目にあり。臨濟宗大徳寺派。真然山と號し本宗別格寺たり。寛永十五年の創建にして開基は徳川家光、開山は澤庵宗彭なり。澤庵は初め京都大徳寺にありしが事に坐して出羽國に請せらる。のち故されて江戸に出づるや、家光深くこれに歸依して本寺を建立す。堀田・酒井・細川・小出の諸氏亦各子院を造る。當時寺領五百石、塔頭十七院を有せし、いまは衰微す。然も名刹たるを失はず。境内に澤庵の墓あり、史蹟に指定さる。宗澤庵墓(指定史蹟)。

【東禪寺】芝區高輪にあり。臨濟宗妙心寺派。佛日山と號し本宗別格寺。慶長十五年の創建、開基は日向飯尾藩主伊東祐慶、開山は嶺南和尚なり。その後伊東家廿二代の菩提所となり堂宇壯麗を極む。安政・萬延の頃徳川氏本寺を以て外人の習所となし、又英國公使館を寺内に設置す。文久元年水戸藩浪士十八名、英國公使アルコックを撃たんとして寺内に亂入し堂宇を燒く。今は子院も僅に二院を存するのみにして住時の隆昌を見るに由なし。境内に大徳澤庵の墓あり。

【梅照院(新井薬師)】中野區新井町にあり。新羅眞言宗崇山派。松高山藥師寺と號し中野實仙寺末。天正十四年、梅原將監(法名行春)の開創と傳ふ。中興開山は第六世朝雲にして、此頃より本尊藥師の靈驗四方に喧傳せられ子院遍稱せり。寛永元年徳川秀忠女子育徳院と稱せり。寛永元年初徳川孝忠女子(東福門院)眼病平癒の效驗ありと寺田若千及び松高山梅照院藥師寺の號を與ふ。

【靈雲寺】本郷區湯島新花町にあり。古義眞言宗。寶林山佛日院。高野山金剛峯寺末。元祿四年新安流開祖淨觀、御澤保明の歸依を受け奉命によりて本寺を創建す。幕府本寺を以て關東眞言律宗の本寺として寺領百石を附す。寺寶中、諸尊集會圖一幅(絹本着色)・吉野曼荼羅一幅(絹本着色)・羅漢圖十六幅(絹本着色)・彌勒曼荼羅一幅(絹本着色)・天帝圖一幅(絹本着色)はいづれも國寶。

【靈巖寺】深川區海邊町の所謂靈巖島にあり。淨土宗。道本山東海院。淨土宗關東十八檀林の一にして、檀越社壇松風靈巖の開創に係る。寛永四年、徳川秀忠の請によりて幕府に法文を説き、寺地六町四方を寄せられ、諸堂を増築して景観大に整ふ。中興は大警珂山。爾後數度の火災に遭ひて今は住時の盛觀を失ふ。墓域に本多忠純・松平定信・松平外記等の墓あり、また子院成等院には紀伊國屋文左衛門の墓、正覺院には並木五郎の墓等あり。

Table with columns for time intervals (時間別) and passenger counts (乗車人員降車人員) for various lines (丸の内線, 山手線, etc.).

人)なり。なほ時間別乗降人員を見れば前表の如く、午前七—一〇時及び午後三—六時に特に多く、乗降別に見れば乗車は午後四—五時に一六、六九九人に最も多く、次で同五—六時の一四、〇八七人多し、降車は午前八—九時の一九、一三三人最も多く、同七—八時の九、九四一人、九—一〇時の九、二一一人に次ぐ。

【東京港】 關東平野の南方にある海灣。房總・三浦兩半島に抱かれ、我が日本列島の太平洋岸に於ける最も深き灣人の一にて西方の伊勢海と相對す。灣の範圍は廣義にては浦賀水道も含み、觀音崎・富津灣間を結ぶ線以北とす。狹義の東京灣は南北約五〇軒、東西約二〇軒のものにて、南口は僅に八軒に過ぎず。灣岸は東京府・神奈川縣・千葉縣に亘る。一般に海深頗る淺く、二〇米以下の淺海廣く、五〇米より深き部分は極めて狭し。灣内には多摩川・隅田川・江戸川・荒川・小櫃川及び小川等が注入し、それぞれ大小の三角洲を形成し灣の海岸線を修飾す。注入水はまた灣内の鹽分の濃度を淡くす。淺海と鹽分濃度の低き海水とに影等され内灣式の漁業盛に行はる。最も價値の大なるものは海苔の原料紫菜の養殖にて、之に次ぎ蛤・淺網の養殖も盛なり。漁撈は主に打瀬網による鰯・鰯・鰯等の漁獲なり。沿岸に東京・横濱の大都市あり。我國の中樞地域をなし、灣口は要地地帯となる。古くは中世中期頃至今

の關東地方東南部一帯に亘り島嶼灣に向ひ開口し、房總・三浦を結ぶ陸地に地かれしものと推定せらるる地質時代の海灣を古東京灣と呼稱す。従つて現在の東京灣は當時なかりしものと思はる。此の古東京灣内に堆積せし土砂は現在丘陵となる。即ち東南部にては常盤臺地及び房總臺地、西部の武藏野臺地・多摩丘陵・比企丘陵、西北部の高崎丘陵・北部の那須野原、東部の霞ヶ浦・北浦附近の丘陵等なり。主として東京層・成田層の分布範圍より古東京灣の範圍推定され、古東京灣の名稱は矢部長克博士により初めて提唱せらる。

【東京港】 芝罘芝浦地先あり、港の區域は江戸川右岸より羽根田燈臺の東南東約一・八五軒の點に引く一線と、この點と羽根田燈臺を貫く一線とによりて圍まれし範圍にして、約一・七〇萬平方方米なるも、一般に東京港と稱せられ、主として出入船舶に關係ある部分は、假防波堤と護岸臺地にて圍まれし區域にして、其の面積は約八五九萬平方方米なり。東京港は明治初年からの問題にして、古氏は内務省工部員ドムル氏・デレーケ氏の計畫、これに次いで明治三十三年の古市・中山兩博士の案、明治四十四年の直木博士案、大正九年の田尻市長案等ありしも、何れも成立を見ず。其の實施は之等計畫の緒く一小部分を實現したるに過ぎず。本港は水深極めて深し船舶の航行にも困難の状態なりしを、明治二十年より同二十七年に亘る八箇年艱難事業として隅田川口の浚渫を行ひしも、浚渫の土砂多く間もなくこれを埋没せり。更に一方都市の膨脹に伴ひ、出入貨物は年ごとに激増するに至りしため、明治三十九年より同四十四年の第一期隅田川口改良工事、及びこれに引續き大正六年までに實施せし第二期工事にて、川口の航路幅一二七米乃至一五五米を干潮面下三・六米に浚渫し、僅に五百噸以下の汽船・帆船の出入に資し、且つ芝浦地先と月島とに現在見る如き埋立地を設けしに過ぎず。依然として海苔の栽培場たり。然るに其の後千噸級の船舶が危険を冒し、右の航路を通航し芝浦地先に碇泊するに至り、大正十一年工費六八〇萬圓を以て更に第三期隅田川口改良工事を起し、初めて東京港の根幹を實現するに至る。この計畫にては假防波堤を設け、芝浦地先に六米乃至七米の本棚四九萬平方方米をつくり、沿岸に九二萬平方方米の埋立をなし、その一部に九〇〇米の繫船岸壁を築造する事にせり。然るに同十二年の大震災直後に於ては、此の不備なる芝浦地先海面も陸地に利用せられ二千噸級の救護物資輸送船舶が碇泊するに至り、第三期工事を擴張變更し、防波堤を第三臺場より越中島地先に設け、其の水城八五八萬平方方米のうち、本棚地を一九一萬平方方米とし、臺場外の航路を七三米深の既と

す。然しこの工事も單に港内停泊をなし得る程度に止り、港灣機能發揮すべき水陸連絡設備の如き全く缺くるを以て、別に昭和五年度より三三〇萬圓の工事に着手し目下工事中にして、既に八千噸級の船舶の入港を見るに至る。之と關聯し横濱港と東京港を連絡する京濱運河開鑿事業あり。延長二六〇〇米、幅員七〇〇米の航路を開鑿し、沿岸に二〇七九萬平方方米の工業地帯を造成せんとするものなり。神奈川縣に屬する生麥・鶴見・川崎地先まで既に開鑿せられ臨港工業地帯を形成す。而して東京港と横濱港との對立關係は、即ち横濱港は外國貿易を主とし、東京港に對しては外港たらしめ、東京港は専ら内國貿易を主とする内港たらしめ、兩者相俟ち其の繁榮を計らんとするものなり。東京港は横濱港に於て船舶換荷役をなす内航貨物を、直接東京港内に本棚停泊とし運賃と時間との節約をなさんとするものなり。

【東京横濱電氣】 社線。東京市各區上通二丁目の總管より川崎市を經て横濱市中區榎木町驛に至る二六・三軒。社線目黒浦田電氣とは自由ヶ丘・田圃調布・多摩川園前にて、社線南武鐵道とは新丸子驛にて、社線京濱電氣とは神奈川驛にて、省線横濱線とは菊名驛にて、なほ横濱驛にては東海道本線・社線神中鐵道・京濱電氣に各接続す。軌間一〇六七米、右線と左線並行。

トイゲ 峠

トイゲ 峠 奥羽本線の一驛(明治三十二年設置)。山形縣南陽郡山上村にあり。

トイゲ 手向村 山形縣羽前國東田川郡の東部。鶴岡市の東方約一軒。面積一四方軒餘。月山北方斜面麓川の山谷にて、東境に羽黒山(四一九米)聳え全村落山地をなす。米・蕎麥を産すれどその産額多からず。羽黒山は羽前三山のひととして著はれ、本村は三山詣での表懸け(表口)をなし、参拜者多し。手向の葉落はその鳥居前町として發達せるものにて新坊・旅館・商店等あり。戸數の約半數は直接間接に参拜者を相手として生活す。西方、省線羽前本線鶴岡驛及び北方省線陸羽西線狩川驛へ縣道通じ各バスの便あり。(山形神社)大字羽黒(羽黒山々頂)に鎮座。國幣小社。祭神、伊弉波神。一説、稻倉魂命・玉依姫。式内社。中世に羽黒山権現または羽黒權現ともいひ、月山・湯殿山と共に、三山或は三尊權現と稱せらる。修驗行者の遺跡とせらる。例祭、十月十五日。特殊神事に松竹祭・山立祭・山揚祭・田圃祭等。五重塔臺は純山期の作にして、社寶の銅鏡と共に國寶なり。(黄金堂)大字手向の中央、羽黒山一ノ鳥居北側にあり。堂は源頼朝、奥州藤原氏を討伐せし時に建立せしものと傳へ、構造様式全く唐様にして、細部の手法に鎌倉時代の特徴を存し、現に國寶たり。

トイゲ 豆溪

トイゲ 豆溪 朝鮮忠清南道山原郡豆溪の里名。總督府鐵道南本線の豆溪驛(明治四十四年設置)あり。

トイゲ 東溪面 朝鮮全羅北道淳昌郡の東北部。南原邑の西北約一〇軒。もと赤城面の東部及び南原郡大山西の西北部を包含し、東西八一二軒、南北六一一軒あり。西部に龍骨山(六四八米)無量山等聳え、東方南原郡との境には露脊峰・鳳凰山(五八五米)等連り、餘脈域内に延び丘陵を起伏せしむ。西方山地を龍津江(赤城江)流入地曲して南流し、中部を東北—西南に貫流する支流製樹川を南部に於て合せ、製樹川の流域と、合流點以南の沿岸に低平地あり田畑拓く。産物は米・大豆・棉花・烟草・大麻・苧麻・苧草・蕎麥等の農産を主とし、工業に綿布・麻布等あり。道路は南原・光州間二等道路南原を走りバスを通じ、途中より岐れ製樹川に沿うて製樹に至る道路あり、交通不便ならず。

トイゲ 東原

トイゲ 東原 朝鮮平安南道咸鏡南道郡の中部。郡邑咸鏡の南方約一五軒、豆湯江に沿ふ。西南境に順順峰聳え、西部は箱山地を成せども、漸次東方に緩斜し東中部は沃野を成す。産物は大小豆・粟・蕎麥・人蔘・大麻・砂金等あり、また古乾原炭礦の鐵區の一部に當り煤炭を出す。東部江岸に近く鐵道總局北鮮東部線に通じ新乾驛(昭和五年設置)あり、道路は咸鏡・雄基街道東部を貫貫し、途中より西南折し古乾原を經て會亭に達する路線あり、後者はバス通す。豆湯江には吃水淺き汽船通航し、貨物の運搬便なり。新乾は戸數約二百の江岸の集村なれど、對岸間島との間に渡船の便あり、對岸の要地たり。その西方采行洞に女眞文字碑あり、今は總督府博物館に移され石礎のみを存す。東部の中坪洞遺堂は移民墾基の地にして碑石等を遺存し、また此處と新乾原に城址あり。

トイゲ 東原面 朝鮮咸鏡北道咸鏡郡の中部。郡邑咸鏡の南方約一五軒、豆湯江に沿ふ。西南境に順順峰聳え、西部は箱山地を成せども、漸次東方に緩斜し東中部は沃野を成す。産物は大小豆・粟・蕎麥・人蔘・大麻・砂金等あり、また古乾原炭礦の鐵區の一部に當り煤炭を出す。東部江岸に近く鐵道總局北鮮東部線に通じ新乾驛(昭和五年設置)あり、道路は咸鏡・雄基街道東部を貫貫し、途中より西南折し古乾原を經て會亭に達する路線あり、後者はバス通す。豆湯江には吃水淺き汽船通航し、貨物の運搬便なり。新乾は戸數約二百の江岸の集村なれど、對岸間島との間に渡船の便あり、對岸の要地たり。その西方采行洞に女眞文字碑あり、今は總督府博物館に移され石礎のみを存す。東部の中坪洞遺堂は移民墾基の地にして碑石等を遺存し、また此處と新乾原に城址あり。

トイゲ 桃原

トイゲ 桃原 朝鮮平安北道龍山郡の東南部。郡邑龍山の東南約七〇軒の驛地にあり。遼馬高原の西縁に位置し、北境に寺徳山(一三五一米)、東境に海山等聳立し、南部には板栗山(一一八三米)屹立し餘勢域内に重疊し平地極めて乏しく、ただ忠龍江の支流龍水江の溪谷に僅かに耕地を見るに過ぎず。住民は農業を主業とし傍ら採薪日稼に従事す。産物は大豆・粟・麻・山蔘・蜂蜜等あり。道路は龍山邑より龍川邑に通ずる二等道路及び雲山邑通ずる三等道路等あれども、而境に牛嶺嶺(五三〇米)・鏡城嶺(六五四米)等ありて坂路多く交通便ならず。

トイゲ 桃原面 朝鮮黃海道松都郡の東南部。郡邑松都の東南約二〇軒。碑石山脈に屬する八峰山(四八一米)東境に聳え、中央には遠通山(三三九米)聳え、東半部は山地を成せども西半部は低平なる花崗岩丘陵地をなし、耕地よく發達す。農産物の主なるものは米・大豆・棉花・烟草等にて、工業品に麻布・明輪等あり。また春源・三泉等の金礦ありて金・銀及び銅を出す。道路は何れも等外線にして外部との交通便ならず。栗蔭は主として西部に分布す。

ト一ウ 道後

【道後山】 中国山脈の一峯。鳥取縣日野郡福栄・多里の二村と廣島縣比婆郡小奴可村の境上に跨り、標高一二六九米。山頂よりの眺望可なり。南東に三國山、西に別峯三國山、北西に三國山、野川を源として北東流す。

【道後】 愛媛縣伊豫國は地形上これを東後・中後・西後に分ち、東後には道前、中後を道後、西後を字和と稱す。即ち道後は温泉・伊豫二郡と越智郡の一部に互る。【道後】 愛媛縣温泉郡にありし村。大正十二年湯之町と合併し、道後湯之町をなし、一部は松山市に編入さる。

ト一ウ 東光山

【東光山】 朝鮮全羅南道高陽郡の北端。高陽半島の頭部を扼し、標高四〇〇米。順天邑・東城等と緊密なる位置的關係にあり。北西部は山地を成せども東南部は低平にして海に臨み、地味肥沃、農業よく發達す。東部は汝自灣に臨み、海島・竹島・竹島その他多数の小島散布す。海岸は泥濘にて良泊を缺き、海苔養殖行はる。産物は米・粟・大豆・綿花・大豆・梨等にて、近時養蠶も盛になり良質の繭を産す。水産物は鱈・海草・海苔・魚類等あり。また丸山嶺より金・銀を出す。鐵道慶全西部線は北端近く東西に通じ、近く養蠶(養蠶)ありて之より面の中央を縦貫し、南方高陽に至る道路にバスを通じ交通不便ならず。街道に沿へる油電里は色にして且つ陰曆一・六の日に開く市場あり、海産物・穀類・繭・麻布等の取引行はる。

ト一ウ 東江

【東江】 朝鮮黄海道海州郡の南部。海州と同名の灣を隔てて相對す。牛島を占め、西は地峽郡により海南、松林の兩面に接し、西北は海州灣の支那なる黃古浦に臨む。城内低平にして北に峰臺山、南に徳峴山の丘陵起伏するに過ぎず。南岸は砂濱の厚潤なる海岸を成すも東岸及び北岸は頗る出入に富み陸に黄

ト一ウ 東港

【東港】 臺灣高雄州二市七郡の一。州の東南部、下淡水溪左岸の沃野を占め、東北は坦々たる平野を以て屏東・潮州の兩郡に連り、西は下淡水溪を隔てて鳳山郡に對し、南は海洋に臨み西南海上八裡に琉球嶼の一島を含む。地形は不規則なる梯形をなし下淡水溪左岸に平野展開し僅に小丘陵魚山溪畔にあるのみ。河川は中央山脈に源を發する東港・林邊の二流郡内を貫流す。屏東平野の一部をなす本郡下の産業は農業を主とし、農家は住民の七割を占むるを以て新墾の清長は郡勢に大なる影響を與ふ。農産物は米三百萬圓、甘蔗四十萬圓、芭蕉五十萬圓、甘藷三十萬圓、蔬菜・果實等總計約四百五十萬圓、畜産は養豚を主とし生産額七十萬圓、其他牛・鶏・鴨等約三十萬圓、水産は郡下に好漁場を有し且また七百甲に餘る鹹水養魚池を有するため外洋の鱈・旗魚・鮪・鯛・太刀魚・魚苗等の他、養殖物の虱目魚・蝦・牡蠣等七十萬圓を産し、其他蠶繭・推糖・カラスニ等水産製造物十萬圓あり。本郡は下淡水溪に臨むを以て既に明末鄭氏時代より漢民族の移住開拓行はれ、先住の平埔蕃マカタオ部族を追ひ主として農業を行ひたり。行政上鳳山縣下に屬し海軍中里の大部、上・下里の一部、新園里・港西下里の大部、中里の一部を占む。領臺後鳳山縣・興南縣、阿猴廳に各隸せられしが、大正九年制度

改正と共に東港郡を置かれ、以て今日に至る。【東港街】 臺灣高雄州屏東平野の南端、東港溪河口の左岸にあり。東は林邊庄、北は新園庄に接し、西は東港溪を隔てて新園庄に對し、南は臺灣海峡に面して琉球嶼と相望む。康熙年間、閩の漳泉人により東港溪西岸の地に移住行はれしが、東港溪・下淡水溪の連年の氾濫により常に被害少なからざりしかば遂に同治年間、街を擧げて現在の地點に移り以て今日の市街を形成す。農業中米作は一、二期を合し價格三十八萬圓、其他甘蔗・果實等あり。畜産は水牛・黄牛・豚・鶏・鴨等とし計八萬圓、水産はアチ・太刀魚・蝦・蟹・魚苗等二十二萬圓、其他魚塩を利用して虱目魚・車蝦・蟹・蝦・牡蠣の養殖行はれ生産額二十萬圓、水産製造物には菓子類・蠶繭・推糖・カラスニ、魚油等三萬五千圓あり。(海軍遺蹟) 倉仔頂海水浴場附近にあり。明治三十年五月十八日臺灣沿岸警備並に土圍計代護の任務を有する軍艦海門が東港沖合に碇泊中、糧食補給の爲め海軍大尉松本彦次郎以下八名は怒濤中を東港と連絡を圖らんとして遂に全員殉職せり、現在記念碑を建つ。(外壇) 大字南屏にあり。一種帯狀の沖積砂層により圍まれたる淺海にて一部西港・島嶼・大安等魚塩として利用せる部分以外を二百餘甲の外壇とす。一畝の水直によりて外壇と連り、また延河

ト一ウ 東郷

【東郷村】 千葉縣上總國長生郡の中部。茂原町の東北に接す。九十九里濱の西南端に位す。西部には洗積層の臺地連り地は概ね東に傾き、東部は低き沼澤地帯に續く。東・西部には藪藪樹林地帯は残るも中部は耕地よく開け、水田發達し米

なく川俣山地に發源せる諸水は中央に集りて厚州川となり、東北流して鴨綠江に合す。谷底に於て五〇〇乃至七〇〇米の高度を有し、急流にして灌溉・水運の利に乏しく沿岸耕地極めて少し。山地は老樹喬木鬱蒼として繁茂し朝鮮第一の原生大森林地帯を成し皆林業の所管に屬し、厚州川(南社水)流域に森林鐵道四八・三軒敷設せらる。氣候は寒氣強烈にて七八月の候既に降雪するを例とし、盛夏なほ鴨綠江に氷を見る。道路は郡邑厚昌より鴨綠江岸に沿ひて上流に通ずるものは交通稍便なるも、その他は急峻にて坂路多く往來困難を極む。住民は農業を業とするも耕地少なく、生活程度裕かならず。産物は粟・大豆・蕎麥・蜂蜜・山蔘・藥草・生牛・砂金(上徳嶺山)あり。葉落は厚州川および鴨綠江沿岸に見出すに過ぎず。厚州古邑は厚州川と鴨綠江との合流點に發達せる國邊聚落にして、李朝時代に金使を置かれし所、城址を存す。内地人の居住者多く、金融組合・市場等あり。その他、羅竹洞・松田洞等も江岸の要地をなす。

ト一ウ 東興面

【東興面】 朝鮮平安北道厚昌郡の東部を占むる大面にして、優に南鮮地方の一部の境域を有し、東西二〇軒、南北四〇乃至五〇軒あり。北は鴨綠江を以て滿洲國の長白縣と相對す。玄武岩の臺地岩臺地を占め、土地頗る高峻にして西北境に西石山・東林峰(一六二・三米)・松文峰等連り、東南境には街天山(一四六・三米)・榮芝嶺・田地山・南社山(一七八・七米)・黃野峰・蜂葉峰(二一八・五米)等聳立し、城内山岳重疊し殆ど平地

ト一ウ 東郷

【東郷村】 千葉縣上總國長生郡の中部。茂原町の東北に接す。九十九里濱の西南端に位す。西部には洗積層の臺地連り地は概ね東に傾き、東部は低き沼澤地帯に續く。東・西部には藪藪樹林地帯は残るも中部は耕地よく開け、水田發達し米

【東郷村】 千葉縣上總國長生郡の中部。茂原町の東北に接す。九十九里濱の西南端に位す。西部には洗積層の臺地連り地は概ね東に傾き、東部は低き沼澤地帯に續く。東・西部には藪藪樹林地帯は残るも中部は耕地よく開け、水田發達し米

るべし。大字標由は福井・教習間の街道に當り堅固あり。此地は延元二年積山城主瓜生列官保、その弟義隆と共に金ヶ崎城を授けんとて雪を犯して過少遂に敗死せし處なり。明治十一年明治天皇北陸東海御巡幸の御、御小休遊ばされし地に、いま明治天皇御小休所として共購水及び明治天皇御小休所として共に指定史蹟たり。〔新保温泉〕本ノ芽崎の南麓。泉質は炭酸泉にて加熱す。北部に當り鉢伏山に登れば、教習・若狭一帯より日本海を望み眺望佳なり。〔新保光寺〕大字井川にあり。時宗。風嵐山と號し弘仁三年弘法大師の草創。信州善光寺如來の分身を安置せりといふ。巖崎天皇の勅願所とせられ勸願を賜ふ。正安三年現宗に歸し、領主朝倉氏の降伏を受け寺領三百石並に山林を寄せらる。

【東郷村】愛知縣三河國東郷郡の南部。豊川の右岸に沿ひて、東は北は西は八名郡との間に長橋村を隔て、西は西は新城町に接し、東は豊川を境に八名郡新井村に對す。三河山地の東部麓に當り、北は高度六百米を越すも南に傾斜し、東は西に急傾斜し、豊川に合す。平地は西南部に開けて豊川・田代谷、南・東郷・米の産多し、麥・粟等も乏少からず。社線豊川鐵道東郷南郷を横断し、東郷南郷(大正三年開業)・茶臼山(大正十五年開業)・川路(長橋村)共に明治三十三年開業)を設け、長橋村は社線風

來寺鐵道に連絡し、その鳥居標大正十二年開業)あり。縣道また豊川鐵道に並行し、同伊那街道は豊川に沿ひ北上す。この地は和名抄、豊樂郡東郷の地なるべし。明治三十九年平井村・石座村・信樂村を設け本村を置く。本村は天正三年長橋合戦の古戰場にして、大字川路は長橋古戰場に近きを以て武田方の戦死せる將士の墓あり。大字竹原は長橋合戦の時三河山地は豊川信樂の陣せし所。大字矢部の御堂山は豊川信樂の陣せし所。大字大海の清井田は武田勝頼が徳川勢に當りし地。大字有海も有海原と稱し長橋役の古戰場たり。大字大宮石座には石座神社あり。〔石座神社〕大字大宮に鎮座。祭神、天御中主神・天羅彦命。文徳天皇仁壽元年延五位下に叙し、のち正三位に累進。式内社。古來近郷十四箇村の氏神たり。例祭、九月十五日。【東郷村】愛知縣尾張國東郷郡の東部。鳴海町の東隣にて東は西加茂郡(三河國)に界しその東郷町と三好村を接す。面積一七方軒餘。愛知(尾張)丘陵東部の地にて北部と西部には高さ一〇〇米内外の丘陵あり、中部より東部は平坦にして、東部は緩傾斜し平地多し。米・麥を主とし、粟・麥・粟等も産あり。名古屋より來る飯田街道は中部を、新街道は西部を貫き共にバスの便あり。此地は和名抄、山田郡兩村の内のなるべし。

【東郷村】大阪府攝津國豐前郡の北部。池田町の北約一二軒、東は京都府南丹波郡西別院村に、西は兵庫縣川邊郡東谷村に接し、面積一五方軒餘。丹波高地の南麓に當り、南境に標高六六二米の龍勢の妙見山あり。中央より西部に狭き低地開けて龍勢川西流し農産最盛も多し、工業これに次ぎ外に林産・畜産・礦産あり。縣道中部を貫き南方池田町に、東北は京都府南丹波郡龜岡町に通じバスの便あり。式内野間神社あり、古くより拓けし地なるを知るべし。文化年中に野間神社より發見の古文書によれば、安徳天皇は西海の波に隠れさせ給はず藤原経房供奉して此山中に隠れし給ひ、今大字野間野にて廟宇と云ふ。龍勢山の山中に妙見堂あり、世に著聞す。〔野間神社〕大字地内に鎮座。祭神、龍德日命・宇賀御魂神・菅原道真。推古天皇十三年大和國石上より遷祀せるに創るといふ。式内社。俗に布留宮・布留大明神ともいふ。例祭、十二月十五日。〔龍勢妙見堂〕大字野間中にあり。日蓮宗。長元年中多田通仲三代の龍勢龍左馬頭龍國の開創

町村をなし役場を松崎村に置く。〔東郷温泉〕東郷郡内にあり。管合は湯の一部を埋めし上に建て、湯中に湧出する温泉を竹管にて導き湯場を設く。泉質無色透明の単純泉。〔大傳寺〕大字引地にあり。曹洞宗。九品山と號し萬壽元年の開創。當時日本三所九品蓮臺の一に位し大伽藍たり。その古址廣大にして古墳累累たる中に七兵衛堂の塔あり。應安四年領主南條伯耆守貞宗の再興なり。【東郷池】鳥取縣東伯耆郡の北部にある淡水に近き汽水湖。同郡東郷村にあり。面積は近年縮少して四平方軒以下なり。注入河としては天神川が主にて、橋津川にて日本海とを連絡す。深さ約二米なるが橋津川附近は潮流のため漲られて四米程になり、また中央に温泉の湧出せる所あり、その孔中には七米に達するエビモが岸に露茂せるも、中央にはなく、底は暗褐色の泥土にて被はる。底棲動物として Chironomus plumosus が主にて、イカガヒが棲息し、鱒その他を産す。透明度は甚だ少し。湖畔の埋立地には温泉多く、南岸には東郷温泉、その東の松崎温泉、西岸津津には新東郷温泉あり。【東郷村】鳥取縣隱岐國(島)周吉郡の東海岸。島後の東部を占め西郷町の北東に隣り、北は布庭村、西は中津村に界す。面積二四方軒餘。南に西郷池を抱き、東は日本海に面す。西境に大湯寺山(六〇八米)聳え山地多く、西郷海岸と、東岸

中部に小貨地あるのみ。米・木炭・繭・桑・蠶等の産あり。古くは和名抄、川吉郡新野郷に屬せるもの如し。宇宮田は島の豪族隈田氏(佐々木義清の裔)が京極氏の守護代となりて築きし所にて、永祿の頃、尼子勝久の據りし城址あり。大字津井には男池・女池の二湯あり。附近海岸には馬跡石(黒曜石)を産す。【東郷町】福岡縣筑前國宗像郡の中央部。西は津屋崎町に接し、東は赤間町との間に南郷村を隔つ。面積一一方軒餘。南半部には低き丘陵起伏するもの間處々に平地あり、東北部は東北境を西北流する釣川左岸の平地にて、田畑よく拓げ米・麥を主産す。鹿兒島街道及び省線鹿兒島本線並行して東部を斜に通過し、大字田舎に後者の東郷橋(大正二年設置)ありて交通不便ならず。この地古くは宗像社の社領たり。舊郡役所の所在地にして大正十四年町制を布く。【東郷】福岡縣金草郡の東北部にありし村。昭和四年町制に編入せらる。【東郷村】熊本縣鹿兒島郡の東部。高瀬町と山鹿町(鹿本郡)との中間に位置し、前者の東北約七軒。全村丘陵起伏に起伏し南境にて約一六〇餘米の高さを示す。菊池川東北流を環流し西隣川津村に出づ。丘陵の間と河岸の小貨地に田畑拓けて米・麥・甘藷を産す。山鹿町・高瀬町を結ぶ道路南郷を走りバスを通す。古くは東郷庄と稱す。明治十年西南の役

【東郷村】宮崎縣日向國東日軒郡の南端。延岡市の西南約一二軒、富島町の西に隣り、南は兒島郡都農町・木城村に接す。面積二一八・七方軒にて本郡第一の大村。八百乃至千米に及ぶ山地に圍繞され、南境に尾鈴山(一四〇五米)・畑倉山(八四九米)・乙羽山、北境に加子山(八六七米)・珍神山(八三三米)等聳立し、耳川は東部を東南に流れ、西部の加子山・尾鈴山を連ぬる小分水嶺より發し中部を東流する坪谷川を合し、また西部には小丸川が東南流し来る渡川を合れて南流す。山嶽重疊として低地に乏し僅に坪谷川・耳川沿岸に低地ありて田畑開け、米・麥を産し薪炭も出す。街道は中部坪谷川沿ひに走るも交通便ならず。昭和十年の人口は八三三四人なるも山地多きため一方軒の密度は三八人にして、全国平均密度の一八一人に比し蓋かに少くなし。然れども低地にては稠密となる。〔山陰神社〕大字山陰に鎮座。祭神、大己貴命・伊弉諾命。創建年次詳ならず。古來當村の産土神として村民の崇敬厚し。往時判官大明神と稱せしを、明治四年山陰村字小野田の若宮神社、同村字船戸の若宮神社を合祀して現稱に改む。例祭、十一月十八日。【東郷村】宮崎縣日向國南那珂郡の東部。東は日向灘に臨む。飯野町の東南に隣り、南は津津町との間に吾田村を隔つ。東北

にはその戰場となる。【東郷村】宮崎縣日向國東日軒郡の南端。延岡市の西南約一二軒、富島町の西に隣り、南は兒島郡都農町・木城村に接す。面積二一八・七方軒にて本郡第一の大村。八百乃至千米に及ぶ山地に圍繞され、南境に尾鈴山(一四〇五米)・畑倉山(八四九米)・乙羽山、北境に加子山(八六七米)・珍神山(八三三米)等聳立し、耳川は東部を東南に流れ、西部の加子山・尾鈴山を連ぬる小分水嶺より發し中部を東流する坪谷川を合し、また西部には小丸川が東南流し来る渡川を合れて南流す。山嶽重疊として低地に乏し僅に坪谷川・耳川沿岸に低地ありて田畑開け、米・麥を産し薪炭も出す。街道は中部坪谷川沿ひに走るも交通便ならず。昭和十年の人口は八三三四人なるも山地多きため一方軒の密度は三八人にして、全国平均密度の一八一人に比し蓋かに少くなし。然れども低地にては稠密となる。〔山陰神社〕大字山陰に鎮座。祭神、大己貴命・伊弉諾命。創建年次詳ならず。古來當村の産土神として村民の崇敬厚し。往時判官大明神と稱せしを、明治四年山陰村字小野田の若宮神社、同村字船戸の若宮神社を合祀して現稱に改む。例祭、十一月十八日。【東郷村】宮崎縣日向國南那珂郡の東部。東は日向灘に臨む。飯野町の東南に隣り、南は津津町との間に吾田村を隔つ。東北

には米・大豆を主とし大豆・棉花等あり
又果樹の栽培盛にして麻州梨の産額は高
し。道路は幹線の域内を通過するものな
り。多量に多待・柴山浦方面にバスを過す
のみならず、木浦港及び上流の柴山浦と
の間には自動車船往復し貨物運送は便な
り。西南部に夢澤津の河港あり。

トイコー 道高面 朝鮮全羅南
道牙山郡の西南端。温陽の西方約一〇軒。
車嶺山脈に属する道高山(四七七米)西南
端に聳立し山脈南北に延び、東部にも一
五〇二〇〇米の丘陵連なり、中部に錦
州川支流の遼瀋する狭き平地ありて、こ
れと西北部の無阻川流域とに耕地拓く。
住民は専ら農業に従事し、副業として畜
産・製菓業盛なり。産物は米・大豆・大
豆・粟・棉花・梨等の農産物の外、金・
砂金の産産あり。社稷京南線忠南線は
面の西部を縦貫し仙掌驛(大正十一年開
業)あり、天安・禮山間二等街道は略中
央を東西に横断し交通頗る便なり。

トイコー 銅郷面 朝鮮全羅北
道靈安郡の東端。郡色鎮安の東方一〇軒
餘。小白山脈に属する鼓山(八七六米)を
始め、周縁山地を以て圍繞せる小盆地に
て錦江の支流九良川中央を流れ、唯一の
出口峽谷を成し城外に流出す。住民は主
として農に従事す。産物には米を始め大
豆・小麦・粟・麻・布等あり。また
南部の山地より雲母を出す。西邑大良里
は略中央に位置し道路は此處を中心とし

射状に通ずるも、境界周縁山地に各峙あ
りて車を通ず、交通運便ならず。南
方大野には陰曆三・八の日に開く市場あ
り。新炭・家畜・穀類・雜貨等の取引活況
を呈す。

トイコー 東谷面 朝鮮全羅南
道光州平野の西南端。光州府の西方約二〇
軒。光州平野の一部を成し土地低平にし
て地味肥沃、柴山江は東部を南流し、そ
の支流黄龍江は北部を流れ灌溉頗る便に
して農業經營上好條件あり。産物には
米を第一とし、大豆・小麦・棉花・麻
等あり。鐵道湖南本線は面の西部を縦貫
し、北境に近き松汀里驛(松汀邑)より
三等道路を通じ、路面平坦にして交通便
なり。

トイコー 東國 朝鮮
東國 古へ近畿地方の帝都の地より見
て東方の諸國を指しての汎稱。書紀崇神
紀の四十八年に「以三城命、命治東國、
云々」とあり。併し東國は北陸を除きて
の稱なるは、景行紀二十五年に、「東武
内宿禰、命察北陸及東方諸國之地形、
且百姓之消息云々」とあるによりて知ら
る。東國または東方諸國はこれを海邊・
山道に大別す。これ後の東海道・東山道
なり。東海道・東山道
東國 江戸時代、深川邊里の異稱。江
戸城より東南に當る故に云ひたり。
トイコー 道谷面 朝鮮全羅南
道和順郡の西部。南嶺に南隣す。北に

鎮山(三七五米)、南に海安山(三五六
米)聳えて稍高地を成せども中央砥石川
の流域は土地拓げ農業よく行はる。産物
は米・大豆・小麦・棉花・蜂蜜・竹器等
とす。其他金・銀の産産あり。道路は綾
州・南平間の三等道路中部を横断せる外
は等外線にして北部は交通便ならず。栗
落は砥石川の氾濫地域を避け、山麓線に
沿ひ分布す。

トイコー 東古川面 朝鮮
咸鏡南道新興郡の東南端。咸興府を距る
北方四〇餘軒。東境に高峯(一六四米)
北境に麟蹄山(一三五米)、南境に禮峯
(八八九米)等ありて西方に傾斜す。か
る山地の配列中に東部に南北に走る梯造
谷ありて山間に狭長なる平地横はり、西
部また麓積が發育する平地横はり、西
地に發育せる東古川は面の略中央を西流
して城川江と合し、此沿岸また一連の小
平地を成し山間に日字型低地を形成す。
而して東部低地は其位置高く夏季冷涼、
冬季積雪にして作物には大豆・馬鈴薯・
蕎麥・粟・麻等が主にして其他、蕎麥・
蜂蜜等を産し、西部低地は面積も廣く且
つ前者に比し夏季温度著しく高く、作物
には米の外大豆・小麦・蕎麥・黍・麻等
あり、收穫率も高く他に移出するの狀態
にあり。東古川平地の耕作量は、上流は
前者に下流は後者に近似す。北部に新興
鎮山あり。また麻布の製産地なり。延福

殿として合祀せらる。兩社の合併合せて
四座あるを以て俗に四社明神の號あり。
寶永五年に無善主久松氏は式内社を合殿
に奉祀するを不可とし、一時、當社側に
小祠を建立して出雲同神を奉祀せしむ。
明治四年再び當社に合祀せらる。例祭、
十月六日。(石手寺)石手にあり。新義
萬善宗豊山派。熊野山と號し四國八十八
所第五十一番札所。寺傳に聖武天皇神龜
五年、伊豫國司德智王御勅を奉じて創建
せしと云ふ。傳へ、初め安樂寺と稱し法
相宗たりしが弘仁四年萬善宗に改む。の
ち寛平三年熊野十二社を勧請し之に六十
六坊を附す。其後、白河天皇、堀河天皇、
鳥羽天皇等の御信厚く、勅額を賜ひ、
且つ勸願寺となし給ふ。慶長六年加藤嘉
明寺領二百石を寄す。隆慶寺中本堂・塔
婆・樓門・鐘樓及び寺寶中銅鐘一口は現
に國寶たり。御詠歌、西方をよそと見え
まじ安樂の寺へ参りて受くる十樂。(寶
壽寺)時宗。豊國山と號す。舊奥谷派の
本山たり。齊明天皇の勸願により、天智
天皇四年國司德智守興の草創と傳ふ。心
阿の當寺に入りて一派をなし奥谷派と稱
してより、當寺は時宗十二派中の本山た
りしが、近世は別に派名は擧げざるに至
る。一題立佛(木造)一軀は室町中期の育
像彫刻中の傑作として、いま國寶に指定
せらる。國寶。

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

朝鮮咸鏡南道は南方の咸興より來りて、城
川江の對岸を走りて咸鏡南道(西古川
面)あり。ここに社稷新興鐵道松興線
に連絡して社稷新興鐵道松興線
川江の左岸に位置する繁華地にして、人口
二八二七(うち、内地人一五五、昭和十年
末)。新興郡廳・金融組合・警察署および
陰曆一・六の日に開く市場あり。(新興
鎮山)面の北部にあり。鐵道の一部は北
隣せる大高・上元川の二河にも跨る。鐵
道は金・銀・銅・鉛・亞鉛。朝鮮鐵業開
發株式會社の所有にして、その産額は昭
和十年に金銀鐵八八七四萬(八四萬一千
圓)、使用人員同年六月末現在七三一。

トイコー 道後湯之町 愛
媛縣伊豫國温泉郡の略中央部。松山市の
東北に隣り、南に桑原村、東に湯山村あ
り。面積六・三七方町。北半には低き山
地連なり、南半は松山平野の北東部に
つゞき平坦にして耕地拓け、米・麥その他
の農産あり。中央部山麓に有名な道後
温泉湧出し、附近に道後公園。一題上人
誕生地・櫻寺(常信寺)伊佐津神社。石
手寺等の名勝をはじめ、町内に縣立保健
病院・農事試験所等設けらる。保養地・遊
樂地として著はれ、松山市より電車・
バスの便あり。この地は和名抄温泉郡并
上郷の地にして、古來、温泉湯として著
はる。本町は大正十二年四月、湯之町と
道後村の大字石手・祝谷及び道後の一部
とを合併して設けらる。道後村の地の

トイコー 道沙面 朝鮮全羅南道
天郡の南部。順天港(汝日灣)の西に
る順天平野の一部を成し、低平にして地味
肥美中部を伊沙川、東部を東川流貫し都
内にて最も重要な農産地帯を成す。住民
は農業を主とし臨海部落にては半農半漁
なり。余南沿海に於ける主要なる米産地
にて、大豆・粟・棉花・粟等を産し、
また麻・食鹽等を産す。鐵道慶全西線は
北方順天より來り中央を縦貫して西方元
倉・寶城に至り、二等道路これと略々並
走し、バスを通じ交通頗る便なり。

トイコー 遠阪村 兵庫縣丹波
國水上郡の北西端。東南は佐治町に接し
西は朝津郡に界し、北は京都府天田郡に
隣る。地東西に長く、面積二一方町餘。
殆ど山地にて西端・南境にては五〇〇米
程度の高きを有し、中部を西北より東南
に狭き谷が隔け佐治町の佐治川河谷に通
ず。低地は田畑よく拓げ米・粟・小麦・
小麥・蔬菜・果實等を産し、其他製茶・
蠶糸・蕎麥・蕎麥等、畜製品を出す。佐
治町と西北方和田山方面とを結ぶ縣道河
谷を走り、東南部には東北方知知山市へ
至る道路分れ各バスを通ず。古くは和名
抄、水上郡佐治郷に屬せるもの如し。

トイコー 長崎村 長崎縣肥前
國南高來郡の東部中部。西は有家町、北
東は布津村に接し、東南部は島原灣に臨
む。面積八方町に満たざる小村にては三
角形の地を占む。雲仙岳の東南斜面の

大宇は松山市に編入す。(道後温泉)泉
質、アルカリ性熱泉水。四國に於ける唯
一の温泉水。道後には神代に於いて大己貴
命・少彦名命の遺事傳へ、少彦名命の
足跡ありといふ玉の石は今に温泉の側に
あり。上代に於ては熊襲の叛亂や三韓と
の交渉事變のため景行天皇・仲哀天皇・
神功皇后・聖德太子・舒明天皇・齊明天
皇・中大兄皇子(天智)・大海人皇子(天
武)など筑紫への途次ここに御入湯あら
せられしことあり、日本の温泉中最も早
く世に知らる。今は海岸より八軒餘離れ
居るも、當時は瀬戸内海がこのあたりに
まで寄せ入りしもの如く、齊明天皇の
御製にも「熱田津に船乗せんと月待ては
潮かなひぬ今は清きてな」と詠せらる。
熱田津はいまの道後附近のことにて日本
書紀に「泊伊豫熱田津石湯行宮」と記
せり。聖德太子行啓の折は湯の靈驗を詠
じて伊佐津神社に碑を立てられしが、の
ち震災の爲にその所在を失ふ。釋日本紀
はその碑文見ゆ。附近に本温泉に因み深
き大己貴命・少彦名命を祀りし冠山の湯
神社、應神天皇を祀りし伊佐津神社、
一題上人誕生の舊蹟たる奥谷の寶壽寺、
道後十六谷中第一の稱ある湯湯根等見
るべき勝地多し。(湯湯根)湯湯根城また
は道後城ともいふ。建武の頃河野通盛の
築く所、子孫世々これに居る。のち小早
川隆景を領して島原正則の城に入りしが
間もなく國府城に移りて城廢す。(道後

公園)伊豫の豪族河野氏の根據地湯湯根
の地にて、天正十三年河野氏滅亡の後は
小早川隆景・島原正則等の居城となりし
事あり。明治十九年拓きて縣營の公園と
なせしもの。二重の濠及び石燈の一部残
存す。山頂展望はけ國内に樹樹多し。
(伊佐津神社)縣社。主祭神、比賣大
神・譽田別命外二神。下降に東照大神を
祀る。古く湯月八幡宮と稱し延喜の制式
内小社に列す。のち数度の炎上に舊記・
古記録を失ひその創建・由緒を明かにせ
ず。もと伊佐津神社に遷座せしが河野氏
築城の際に現地に遷座し、道後城の鎮守
神となし累代の崇敬社とす。延久五年に
河野親統社殿を造營、のち再建の事あり
し。慶長七年加藤嘉明松山城に主たる
や社領寄進。のち久松氏入城。其四代の
主定長は寛文七年に社殿(現社殿)を修め
且つ家寶を獻す。社殿は山城男山八幡を
模して善美を飾り、下降の東照大神は元
和四年に加藤嘉明の勸請に係ると云ふ。
例祭、十月六日。(湯神社)縣社。主祭
神、大己貴命・少彦名命。相殿神末彦鳴
命・稻田飯命(出雲國神社)。創建年代を
景行天皇御宇とし舒明天皇御宇とも云ひ
決し難し。延喜の制式内小社に列す。愛
媛面影に據れば、もと温泉の東二町許り
の山際にありしが、のち出雲同神(創建
年代不詳、式内小社)の坐す冠山に遷し、
その舊地にいま小祠ありて、土人二神と
稱すと云ふ。出雲同神社は後に當社の相

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

トイコー 湯湯根如島 朝鮮
蓬萊面(朝鮮全羅南道)

一部にて緩く東南方に傾斜し、中部以南にては耕地拓けて米・麥・甘藷等を出し...

ト一サト 遠里

【東山道】 我國八道の一。畿内の東に始まり東海・北陸二道の間山地を縦て東...

ト一サト 東山

【東山道】 朝鮮平安北道咸鏡道の東北部。咸鏡道に東隣す。北境に天津山(八四三...

ト一シ 答志

【答志(郡)】 志摩國(三重縣)の古郡名。萬葉集には手前伊勢國に隸す。和名抄...

ト一シ 三重縣志摩郡の東北

【答志村】 三重縣志摩郡の東北。鳥羽町の東北海上にて、南に菅島、東に神島...

ト一シ 堂島

【堂島村】 福島縣岩代國耶麻郡の略中部の南端。鹽川町の西に隣り、南は略日橋...

ト一シ ト一シ

大小豆・玉蜀黍・蕎麥・大麻等あり。また徳根・井興等の礦山の鐵礦に富り金銀...

ト一サト 冬山庄

【東山道】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。地質府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一サト 陶山面

【東山】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。地質府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一シ 道志村

【道志村】 山梨縣甲斐國南都留郡の東南部。相模川の支流道志川上流の溪谷を含む。土地西南より東北に長...

ト一シ 堂島

【堂島村】 福島縣岩代國耶麻郡の略中部の南端。鹽川町の西に隣り、南は略日橋...

ト一シ ト一シ

【堂島】 大正市北區の地名。もと中ノ島と號べる大川の一島にして、南は堂島川によつて中ノ島に對し、北は曾根崎川に...

る段丘の發達を見、耕地並に聚落はこの蛇曲帯に主として發達す。住民は農業を主とし、傍ら養蠶・機織に従ふ。産物は...

ト一サト 冬山庄

【東山道】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。地質府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一サト 陶山面

【東山】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。地質府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一シ 道志村

【道志村】 山梨縣甲斐國南都留郡の東南部。相模川の支流道志川上流の溪谷を含む。土地西南より東北に長...

ト一シ 堂島

【堂島村】 福島縣岩代國耶麻郡の略中部の南端。鹽川町の西に隣り、南は略日橋...

ト一シ ト一シ

【堂島】 大正市北區の地名。もと中ノ島と號べる大川の一島にして、南は堂島川によつて中ノ島に對し、北は曾根崎川に...

至る軌道(手押車)あり。管内はもと紅水溝・清水溝・浮洲・羅東・利澤間の五堡に分屬し、山脚に接する地方はもと平埔帯...

ト一サト 冬山庄

【東山道】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。地質府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一サト 陶山面

【東山】 朝鮮全羅北道完州郡助村面の里名。地質府鐵道全羅線の東山驛(大正三年設置)あり。

ト一シ 道志村

【道志村】 山梨縣甲斐國南都留郡の東南部。相模川の支流道志川上流の溪谷を含む。土地西南より東北に長...

ト一シ 堂島

【堂島村】 福島縣岩代國耶麻郡の略中部の南端。鹽川町の西に隣り、南は略日橋...

ト一シ ト一シ

【堂島】 大正市北區の地名。もと中ノ島と號べる大川の一島にして、南は堂島川によつて中ノ島に對し、北は曾根崎川に...

を賦存し層厚平均四米。合金量は坪當り二・五ト三瓦にて、品位は八二%を帯び...

トーン

に産出。本誌等あり。また平原・水原・平原七成分の各嶺山より金・銀を産し、先龍山金銀より金・銀・鉛等を出す。鐵道...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

トーン

【東松面】朝鮮平安南道平原郡の東北端。龍川面に北隣す。北端に龍峰(三四〇米)...

百の軍兵を引連れて遊撃す。この時、門弟鏡忍房日健、後越工藤左近吉隆の兩人は奮闘力戦に殉じ、日蓮も眉間に三寸の疵を蒙る。世にこれを小松原法難と稱す。(鏡忍寺) 大字廣場小松原にあり。日蓮宗。日蓮宗四十四箇本山の一にして宗祖日蓮西度法難の遺蹟。日蓮、吉隆の子日隆をして本寺を造營せしむといふ。開山を鏡忍とす。のち里見・徳川兩氏より寺領若干を附せらる。(掛松寺) 大字廣場にあり。日蓮宗。聖徳山と號し弘安九年日隆上人の創建に係る。文永元年宗祖日蓮、東條氏に遷葬されてこゝに負傷するや、天津町濱藪の北浦忠吾・同忠内の二人に扶けられ、血染の袈裟を此地の松樹に懸けて逃れ去る。のち日隆これを瑞祥の地なりとして一字を創す。

【東條村】 大阪府河内國南河内郡の中部。富田林町の南方約一五軒。東は赤阪村。千早村に隣り、面積九萬餘畝。葛城山脈の北方斜面の東端部に當り土地緩かに北方に傾斜し、西部は山林、中部には田畑拓く。米を産して農産額最も多く、次で綿織物その他の工業額あり。赤坂・千早と共に楠氏の根據地にして、大字徳泉の上方に城址あり、楠氏の一旗本和田氏の根據地たり。正平二年八月、楠木正行こゝにありて攝津・河内の北軍を破り、同三年正月四條頼朝に歿す。同七年閏二月、後村上天皇は八幡を遷きて此地に遷幸し、同年五月、賀名生に復御あり。正

平十四年冬、足利義隆・畠山國清等は兵を河内に出す。楠木正儀・和田正武こゝに營を構へ、大和・河内の兵一千餘人を以て守備す。然れども賊兵の來らざるを以て、糧兵を設けて退く。翌年夏、城陷る。城址の下に眞言宗徳泉寺あり、後村上天皇の御駐蹕となりし處なり。楠木正成の夫人久子が正行戦歿後、草庵を結んで隱棲せる場所と云ひ、いま遺址と傳ふる處に石玉垣を繞らし、附近に近年新たに建てられし堂あり。夫人は正平十九年七月、六十一歳を以て示寂し、庵の附近にその五塔の墓を存す。また楠公夫人の歸徳を讃ふる楠母會の若楠寮あり、夫人の顯彰と日本婦徳修養の道場とす。(龍泉寺) 大字龍泉にあり。古義眞言宗。牛頭山醫王院と號す。高野末。寺傳に、推古天皇二年に蘇我馬子勳を奉じて創建すといふ。弘仁十四年僧空海再興し、天長の初め眞如法親王本寺に兩を新りて驗あり、依りて同五年勅命を奉じて龍原各講堂を再營す。

【道場村】 兵庫縣攝津國有馬郡の東南部。武庫川に跨り三田町の東南に接し、東は川邊郡西谷村に界す。山地廣く東北境に大岩嶽(三八四米)、北部には鶴山(三二七米)、東南境には秀ヶ辻山(四〇三米)あり。武庫川は中央を東南方に流れ、南より有馬川・船坂川を、北より羽東川を穿れ東隣鹽瀬村に出づ。河川の沿岸には幅狭き低地ありて農業行はれて、米・蕎麥・蔬菜・果實・鶏卵・切花等を産し、また細木製品・木製品・織製品・漆製品・墨表・セメン・瓦・瓦物等の外石材及び土石を出す。西部には三田・有馬間の縣道通じパスの便あり。また省線福知山線は武庫川を俾ひ道場驛(明治三十二年設置)を置き、西部には省線有馬線ありて鹽田・新道場二驛(共に大正四年設置)を設く。大字道場川原に天神祠・愛宕祠あり。天神祠は菅公を祀り古は社社なりしが今は荒廢す。愛宕祠は山城愛宕神を祀る。同地に松原城址あり、松原貞元は此處に據り荒木村重に抗す。大字生野に勢峯谷と呼ぶ勢谷あり、俗に鎌倉谷といひ、最明寺入道時頼通の事を得。【道成寺】 紀勢道場驛の事を得。【道成寺】 紀勢道場驛の事を得。【道成寺】 紀勢道場驛の事を得。

トーン——トーン

【東津川】 朝鮮全羅北道扶安郡の北部。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し灌溉用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にて、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繁留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉・苧草・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、鰻・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者はバスを通じ交通便なり。

て、全國平均の一八一人より遙かに大なり。【道場村】 兵庫縣攝津國有馬郡の東南部。武庫川に跨り三田町の東南に接し、東は川邊郡西谷村に界す。山地廣く東北境に大岩嶽(三八四米)、北部には鶴山(三二七米)、東南境には秀ヶ辻山(四〇三米)あり。武庫川は中央を東南方に流れ、南より有馬川・船坂川を、北より羽東川を穿れ東隣鹽瀬村に出づ。河川の沿岸には幅狭き低地ありて農業行はれて、米・蕎麥・蔬菜・果實・鶏卵・切花等を産し、また細木製品・木製品・織製品・漆製品・墨表・セメン・瓦・瓦物等の外石材及び土石を出す。西部には三田・有馬間の縣道通じパスの便あり。また省線福知山線は武庫川を俾ひ道場驛(明治三十二年設置)を置き、西部には省線有馬線ありて鹽田・新道場二驛(共に大正四年設置)を設く。大字道場川原に天神祠・愛宕祠あり。天神祠は菅公を祀り古は社社なりしが今は荒廢す。愛宕祠は山城愛宕神を祀る。同地に松原城址あり、松原貞元は此處に據り荒木村重に抗す。大字生野に勢峯谷と呼ぶ勢谷あり、俗に鎌倉谷といひ、最明寺入道時頼通の事を得。【道成寺】 紀勢道場驛の事を得。【道成寺】 紀勢道場驛の事を得。【道成寺】 紀勢道場驛の事を得。

【東津川】 朝鮮全羅北道扶安郡の北部。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し灌溉用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にて、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繁留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉・苧草・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、鰻・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者はバスを通じ交通便なり。

【東津川】 朝鮮全羅北道扶安郡の北部。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し灌溉用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にて、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繁留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉・苧草・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、鰻・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者はバスを通じ交通便なり。

【東津川】 朝鮮全羅北道扶安郡の北部。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し灌溉用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にて、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繁留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉・苧草・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、鰻・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者はバスを通じ交通便なり。

【東津川】 朝鮮全羅北道扶安郡の北部。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し灌溉用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にて、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繁留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉・苧草・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、鰻・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者はバスを通じ交通便なり。

【東津川】 朝鮮全羅北道扶安郡の北部。郡邑扶安の北に接し、北は海に、東北は喇叭狀をなせる東津江の河口に臨む。扶安平野の一部を成し土地頗る低平にして地味肥え、郡内主要の農産地を成し灌溉用溜池の多きは一特色をなす。海岸は大部分砂濱海岸を成し、潮汐干満の差極めて大にて、干潮時には一〇軒の沖合まで砂堆を現出し、爲に船舶の出入繁留不便なり。近年に至り海面の一部を開拓し水田化せり。農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉・苧草・煙草等にして、水産物は石首魚を第一とし、鰻・貝類等あり。道路は扶安より東北方金堤及び東南奉仁に通ずる三等道路あり、後者はバスを通じ交通便なり。

街道を岐中中央を横断し何れもバスの便あり。西邑合井浦里に隣接四・九の日に開く市場あれども取引活潑ならず。

ト一セ 頭人埔

大庄區頭人埔にあり。臺灣花運港の一路(大正十三年設置)。臺灣花運港大庄區頭人埔にあり。

ト一セ 東尋坊

唐入里(朝鮮京畿道京城府の西部、漢江右岸にあり。いま唐人町と稱す。總督府鐵道龜山線の終點驛なる唐人里驛(昭和四年開業)設置あり。附近に京城電氣會社の唐人里發電所あり。

ト一セ 答世

大隅國(鹿児島縣)の古地名。和名抄に番原郡答世郷見ゆ。其地いま赤松ならず。いま始良郡に結佐村あり。昔は答世と相近し、或はその遺名の訛ならんかと。後考を待つ。

ト一セ 塔世

三重縣安濃郡にありし村。明治四十二年津市に編入す。

ト一セ 遠妹

下野國(栃木縣)の古地名。和名抄に芳賀郡遠妹郷あり。訓を缺くもトキセと訓むべし。いま芳賀郡内に地名遺存せず。或は那須郡荒川村、下江川村がその地ならんか。荒川村の大宇高瀬は遠妹と昔は相似たり。或はその轉訛ならんかといふも如何にや。

ト一セ 東勢

臺灣臺中州二市十一郡中の一。州の東北端に位置し、中央尖山に發源す

及び軌道(手押臺車)の通するありて交通網は整備し、理奉上及び山地開發上利便尠からず。

ト一セ 臺灣臺中州東勢郡の北東部

大安・大甲二溪の間に介在し、東は善地に續き、西は豐原郡内埔庄に連る。廣大なる面積を擁するも管内は澁れ山に於て平地は西南大甲溪及び中央部を灌溉する同溪支流の流域に僅かに展開するのみ。されば總面積の割合に農耕地乏しく、田一四四〇甲、畑八三〇甲に過ぎざるも、良質の米の他、芭蕉・鳳梨・甘蔗・蔬菜類・柑橘類を産出す。工業は見るべきものなきも、農家副業としての家内工業たる竹編工の製造盛に行はれ、産物尠からず。市街は大甲溪の右岸に臨み、現行制度以前は東勢角といひ、善地の入口として知られ、八仙山伐採開始後活氣を呈し最近にては善地の明治温泉の開發と共に之に到る道路として重きを爲し、風光明媚、氣候溫和なる小都市なり。上水道・下水道の設備完成し、郡役所・法院出張所・專賣局監督所・芭蕉検査所等の官衙あり。西方豊原との間には指定道路ありて乗合自動車の便を有し、また對岸の土手(石岡庄)より豊原驛に至る私設線あり。其他、北隣卓蘭庄(大湖郡)の卓蘭との間にも乗合自動車を通じ、且つ最近東方善地の明治温泉に至る自動車道路開發せられ、交通の便益々倍ふるに至る。管内はもと總て東勢上段に屬し、大甲溪上

の大甲溪最上流域に沿ひ、東西に細長き狭長帯を爲す。北は大部分大湖郡(新竹州)東邊の一部大湖郡(新竹州)及び羅東郡(臺北州)に、東は花蓮港に、南は鹿港・大屯二郡に、西は豐原・大屯二郡に各境を接す。地勢甚だ峻峻にして到る處高峯峻岳重疊として相連互し、北境には次高山を中心とし東西に桃山・大雪山・小雪山等の諸山より成る謂はゆる次高山系あり、東境には南側大山・中央尖山・畢祿山等の中央山系、南境にはアツク(白狗、白姑)大山・八仙山・パイパイ山・次郎山・黑田山等の諸山あるのみならず、内部には平岸山・積來山・高崎山・橫嶺山・東卯山・ローア山・觀音山等の連嶺起伏す。大甲溪は中央部を大體に於て西流し、西端の行政區域に入り、新庄の東南に至り北轉して東勢街及び新庄の境界を流れ、のち更に西轉して豊原郡に入る。他に大安溪ありて北境の西邊を流る。總面積約二二〇〇方呎にて行政區域は西端の一部僅か二〇〇方呎に過ぎず他は總て街庄を包むる善地なり。行政區域は分ちて東勢の一街及び新庄・石岡の二庄とし、郡役所を東勢街に置く。人口四萬四千餘人、族の内、番人三千八百餘、總てアマヤル族に屬し、昭和二年十二月アラマオ蕃の歸順を最後とし、同六年十一月佳陽社の不肖蕃丁六名、突然ヒスタン駐在所を襲撃して警備員及び家畜六名を斃したる事件ありしも、其後幾

ト一セ 唐井面

朝鮮平安南道中和郡の北西部。平壤府の南方約一五里。城内小丘陵起伏すれども略ど低平なり。殊に北部の昂陽江沿岸一帯は砂質壤土にて地味肥え、農業盛に行はる。住民の大部分は農業に従事し民俗淳朴にて勤勉、民富は平均す。産物は米・小麦・大豆・小豆・粟等にして、機械を副業とし綿布・織物の産あり。牧畜も盛なり。鐵道京義線は面の東方近く南北に通じ中和・力浦の二驛あり、中和・石陽里間の道路にバスの便あり。地形の關係上墾務よく發達し、人口密度大なり。

ト一セ 湯井面

朝鮮忠清南道牙山郡の東部。天安邑の西方約一〇里にあり。東嶺山脈に屬する水溝城山(二六四米)西北隅に聳ゆる他は若しきものなく、南部は曲橋川流れて天安平野の一帯をなし、地味肥沃、灌溉の便に富み、郡中の重要農業地帯をなす。住民は専ら農業に従事し、副業として畜産・製鹽業頗る盛なり。産物は米・小麦・大豆・粟・棉花・果實(梨)・蠶・生牛・金(奉順金鑛)等あり。京南鐵道忠清南線は天安より來り面の南部を東西に通じ、南境近く毛山驛(掃芳面)・西南端には溫陽温泉(溫陽面)ありて比較的交通便利なり。

ト一セ 東石

臺灣臺南州二市十郡の一。州の西部中央に位置し、北回歸線は郡の略北端部に接し、東は太保・鹿草の二庄に隣り嘉義市及び嘉義郡と界し、南は八掌溪を挟み新宮・北門の二郡に對し、西は遠く澎湖列島を望む。地勢は僅に海岸地帯に季節風の形成せる砂丘の點在を見るのみ、一望坦々たる大平原なり。概して海岸地帯の鹽分地を除けば土地肥沃にて農耕に適す。郡下に於ける河川は北港・朴子・八掌の三溪にして、北港溪は嘉義郡小梅庄より發し北港郡との境界を西流し、朴子溪は嘉義郡竹崎庄方面より西流し來りて東石港に注ぎ、八掌溪は嘉義郡中埔庄方面より西流し新宮郡の界に沿ひ

ト一セ 湯井面

は三七五四甲に過ぎず、前者の經營は營林所又は州これに當り、森林産業計劃に基き造林し、八仙山の伐採事業有名にして樟材・梅材等を多く産出す。民行造林は相思樹・油桐・廣葉杉等を主とし、近時菓の増殖を奨励しつゝありて近年造林面積増加の趨勢にあり、年産額十萬圓内外に達す。畜産の首位は養豚にして、仔豚の生産地として知られ、年に一千餘頭を産出す。之に反し肉豚は管内の需要を充たさず、年に六百頭を輸入す。若牛は總額數二千九百餘、主として水牛および黄牛にして農耕及び運搬に使役せられ、馬・騾・驢等の家畜類十萬餘羽あり、豚と共に一般農家に於て著く飼育せられ、農家經濟の有力なる一支柱をなす。水産は地勢上池沼の少きため見るべきものなきも本郡の特産たる次高糖(サラムア糖)は特集するに値し、水河時代の遺物として學界に著名なり。工業にては落花生油と瓦の製造が精注目され、また家内工業たる竹編工製造は原料豊富なるため、農家の副業として盛に行はる。なほ善産品の主なるものは黃糖・魚露・蔴油等の林産物及び特産物にて、工藝品及び農産品には未だ見るべきものなく、また專賣局經營に係る製鹽事業盛なり。主要道路は東勢・豊原間の指定道路にして之に沿ひ、臺中輕鐵會社の經營に係る私設鐵道あり。また保甲道路の擴張及び東勢・明治温泉間道路の開發工事成り、内外に乗合自動車

ト一セ 湯井面

て市街沿に注ぐ。三溪ともに河底深くして舟楫を曳むべからず。海岸は遠征にして船泊すべし良港なく僅に東石・布袋の二港を有するのみ。されど何れも現在にては僅に或克貿易港として名を存するのみなり。本郡下に於ける農耕地は總面積の六割五分を占め、住民の大半は農業に従事す。主たる産物は、米・甘蔗・甘蔗・大豆及び其他、豆類・落花生・胡麻・黃麻・蔬菜等にして、若干の果實類を出す。畜産は若牛・養豚行はれ、飼養若牛の大部分は勞役に於て、水牛その首位を占め、黄牛これに次ぐ。近年は印度牛の種增加の傾向を有す。養豚は農家に於ける副業中最も重要な地歩を占むる事業にして、年々何變頭數増加しまた郡外輸出向豚は近年著しく増加す。家の如きは優良種を以て其改良に着手する者増加せり。東石・布袋の兩庄の地は海に面するを以て水産業盛なり。即ち漁業・養蠶・製鹽業等を合すれば年約百數十萬圓の産額を有す。養蠶は水産物の首位を占め、主として虱目魚・牡蠣等を出す。其他、水産製造物としての鱈鱈・カラスミ等は生産古き歴史を有し、内地・對岸に輸出せらる。工業の主なるものは製糖業にして、年約五百萬圓の砂糖生産あり。本郡下には官設鐵道なく製糖會社經營に係る私設鐵道にてこれを利用する者多く、また道路に於ては道路期成會等

岩窟ありて中に高塔あり。新羅景徳王四年、羅夫、高建なる者ここに悟道參禪し、後に高僧となれりと傳ふ。窟内に觀音と稱する珍禽無數棲息す。

【東村】朝鮮慶尙北道遂城郡解州の南部、芳村洞・立石洞・檢沙洞等を含む一帯の汎稱。總督府鐵道東海中部線の東村驛(大正六年設置)及び大邱飛行場あり。

トリーチ

道村面 朝鮮黃海道

延白郡の中東部。郡邑延安の東方約七軒。馬息嶺山脈に屬する兎尾山(二六〇米)東境に聳ゆるも其他は極めて低平にして謂ゆる延平野の一部を成し、地味肥沃、黃海水利組合の灌漑地に當り、本部は勿論、本道有数の米産地を成す。住民は勤勉にして向上心に富み、故郷に於ては農産物の主なるものは米・大豆・大豆・棉花にして近時愛重次第に盛になり良質の繭を産す。社線黃海線東部を通じ紅毛・無休の二驛(昭和七年開業)あり、開城・海州間二等道路南部を横斷し、また北方白川に通ずる道路あり、交通便なり。紅毛は東北隅の柳谷面に接し、定期に開く市場あり。

トリーチ

塔院 下總國(茨城縣)の

古地名。和名抄に我鳥塔院あり、その地未だ善からざるも、いま我鳥郡七重村の大字に富田あり、富田、塔院は昔相近し、或は塔院は七重村及び附近の地を稱せしものか。

トリーチ

遠田郡 宮城縣二市十

六郡の一。陸前國に屬し、縣の略中部に位し、東北は登米郡、東南は桃生郡、西南は志田郡、西北は栗原郡に隣接す。面積二二二方軒餘。仙臺平野の略中央部に位し、西北部より東部にかけて又兵衛境(二二四米)・笠岳山(二二二米)の丘陵横はり、その東北は東南流する北上川の支流の道川に沿ふ低地帯に屬し、燕栗沼・鹿沼等の沼澤あり。西南部は北上川に合する江合川、石巻灣に入る鳴瀬川のつくる低地帯にして中部丘陵に接して下部多く拓けて米産に富み、また蕎麥・大豆等を産す。牧馬も多少行はる。石巻別街道は西境に近き陸羽街道の古川町(志田郡)より駛れて西南低地帯を横きり小牛田・涌谷を経て石巻方面に向ひ、野蒜街道の松山(志田郡)よりの一道路北上して小牛田を通じて高清水(栗原郡)に至り、また佐沼街道は東部を縱走し涌谷を経て佐沼(登米郡)に達し、何れも自動車の便あり。省線東北本線は略中部を北に貫き小牛田・田尻二驛を設け、小牛田より東に石巻線、西に陸羽東線を分設す。該日本紀天太と註し清津水郷及び餘戸一を置く。中世、郡境大いに混亂し、奈良時代に黄金を獻せし小田郡も本部の中に入る。いま涌谷・田尻・小牛田の三町の外九箇村を含む。

トリーチ

塔院 福島縣河沼郡

にありし村。大正二年本村は四村を以て八幡村を置く。村内に省線會津線の塔院驛(昭和三年設置)あり。

トリーチ

東郡 江戸時代文學隆盛

の頃、江戸を稱して東郡と稱す。【東郡】臺灣の稱稱。明末鄭成功の軍、當時據臺せし和蘭人を驅逐して本島に居を占むるや、擧ぐ呼びしに始まる。

トリーチ

東頭面 朝鮮平安南

道中和郡の中東部。中和面に東隣す。東部及び南部は丘陵地帯を成し、東境に靈芝山(三四七米)、西境に舞臺山(二四〇米)等聳え、餘勢域内に及び、漸次西北に傾斜し、東風河(戊辰川の沿岸に稍廣き低地帯を成す。産物は米・小麦・大豆・粟・棉等にて、また東部より蕎麥・平地栗等を産す。また高嶺土を産す。西方の鐵道東嶺線中和驛より東方群原に通ずる三等道路の中央を横斷し乗合自動車の便あり。栗原は北境の戊辰場が最も著はれ金融組合・市場等あり、また地方的交通の中心をなす。その東方約三軒の眞城里に東明王殿あり、高句麗始祖の陵にて、いま毎年官祭を行ふ。

トリーチ

塔院 天摩西(朝鮮

平安北道) 道洞 平安北道) 【道洞】 朝鮮慶尙北道豐陵島) 【道洞】 朝鮮慶尙南道晉州郡の略中央。

トリーチ

藤田村 山梨縣甲斐國中五摩郡の東南部。甲府市の西南約七軒にて、釜無川の西岸に沿ふ。甲府盆地の西南部、釜無川扇状地の末梢部にあり、土地はやや東に傾くも低平、水田よく開け米を主とし、副業に養蠶も行はれ、蔬菜も栽培す。甲府市に至る駿州街道は釜無川上を架橋をなして走り、バスを通ず。この地は勤王學者にして太宰春臺の高弟たる五味貞藏(釜無川)の生地にして、山縣大蔵は釜無川の門人なり。大正十三年從五位を贈らる。大字藤原は清和源氏、武田泰吉氏の族源原氏の居りし所。(八幡神社) 字村東に鎮座。神社。祭神、譽田別命。治承三年新羅三郎義光四代の高加賀見遠光再建すといふ。江戸時代末印領三石三斗餘を有す。

トリーチ

東灘面 朝鮮京畿道

水原郡の東南隅。水原邑の東南約二〇軒。西北境に東鶴山(二四四米)の聳ゆる他は全城丘陵地帯を成し、西部を漢流南流し、其沿岸に小低地帯を成し、西部を漢流南流し、米・大豆・小麦・蕎麥等にして家畜の生産も少からず。鐵道京釜本線西境近く走り南に島山(城洞面)、北に餅店(養章面)の兩驛ありて城内に連絡路を通じ、また水原への直通路もあり交通比較的便なり。栗原は釜無川低地に帯狀に分布す。

トリーチ

十市 大和國(奈良縣)の古郡名。

【十市(郡)】 大和國(奈良縣)の古郡名。もと十市縣なりしを大化改新の際郡となせるもの。和名抄に止布知と註し飯賣・川邊・池上・神戸の四郷を管す。明治三十年式上・式下二郡と合し磯城郡を立つるに及び郡名を失ひ、僅に耳成村の大字にその名を留む。

トリーチ

高知縣土佐國長岡郡の南海岸。

後免町の西南方に位し、南は土佐灣に面し、西は三里村を隔てて浦戸灣あり。面積五・五八方軒の小村なるも高知平野の南部に屬し、北・東境及び所々に小丘陵起伏すれども大部分は平坦にして、耕地よく拓け海岸線は極めて平滑なり。氣候高温にして米・蕎麥・蔬菜・果實等の食用農産・園藝農産に富み、また鹽・蠶・鮎・鱒等の水産あり。古くは和名抄、長岡郡登利郷の地名なり。中世は池郷と稱せらる。栗山城址あり。守護代細川氏の重臣細川氏代々の居城とす。備後守國陸に至り長官我部國親に降る。また池城には細川氏の一族細川豊前守居せしが國親の女を娶りて歸降す。文祿二年に至り事ありて第四郎と共に元親(國親の子)より死を賜はる。字楠上の無格社楠上神社境内に樟あり。地上一・三米の周圍七・六米、樹高二七米、推定樹齡一千年なり。

トリーチ

新宮神社 大字十市に鎮座。祭神、天照大神。創建年次詳ならず。『文祿二年壬戌十一月十五日再興新宮三所據現社、大且郡原重隆、大工新野宮三を始め他数枚の棟札文を讀す。往古より當村の總鎮守として村民の崇敬厚し。例

例の時には是科直義は功を以てこの國の守護に任せられしも、間もなく兄弟氏と共に叛く。延元年間、國人井伊直政は宗良親王を奥山城に奉じ、のち親王は井伊谷城にありて恢復を求めしも成らず。宗氏はその將今川範國をこの國の守護とし、子孫世襲す。足利義滿の時に源義重を守護代とせしも、今川氏ははなはその東部を維持す。永正年間、今川氏親全州を併せ、子義元に至り駿河・遠江・三河の三國を併せしも、西上の途に於て織田信長の手に入る。子氏真、後嗣ぎしも不肖なり。永祿の末頃、甲斐の武田晴信に攻められて出奔す。のち當國は徳川家康の有に歸し、家康は三河より移りて濱松に居る。家康濱松にあること十四年にして駿府に移る。豊臣秀吉天下を平定するに及び、本州を分ちて堀尾吉晴を濱松に、山内一豊を掛川に、有馬豊氏を横須賀に封す。關ヶ原役後、徳川氏は前記三氏を他に移して譜代の諸侯を封せしも、後駿府を徳川親宣に與へてこの國をも領せしむるに及び三藩と移封す。元和五年親宣紀州に轉ぜし後はまた諸侯を配置し後相良にも藩を置く。爾後諸侯の移封ありて幕末には濱松(井上氏)・掛川(太田氏)・相良(田沼氏)・横須賀(西尾氏)の四藩あり。明治元年、徳川家達を廢置二國に對するに及び、濱松・掛川・相良の三藩を上總に移し、横須賀藩を安房に移す。この時、堀江藩を新たに置きしも明治四年

トリーチ

遠江 東海十五箇國の一。一に遠

州とも稱す。國名は京畿に近き淡水湖のある近淡海國即ち近江國に對し、瀆名湖の遠淡海國の意なるも、のち國名を二字に定めし際遠江と書す。日本書紀・古事記共に遠江に作り、和名抄も亦遠江に作りて止保太阿不三と訓じ瀆名・數智・明佐・龜玉・長上・長下・磐田・山香・周智・山名・佐野・城角・榎原の十三郡を置く。當國には早く國郡が配され、成務天皇朝、健甕日命の裔伊岐命がこれに任命せらる。國郡制定の時には國府は磐田郡(今の見付の地)に置く。鎌倉幕府の初め安田義定が守護となり、建武中

トリーチ

遠江 東海十五箇國の一。一に遠

州とも稱す。國名は京畿に近き淡水湖のある近淡海國即ち近江國に對し、瀆名湖の遠淡海國の意なるも、のち國名を二字に定めし際遠江と書す。日本書紀・古事記共に遠江に作り、和名抄も亦遠江に作りて止保太阿不三と訓じ瀆名・數智・明佐・龜玉・長上・長下・磐田・山香・周智・山名・佐野・城角・榎原の十三郡を置く。當國には早く國郡が配され、成務天皇朝、健甕日命の裔伊岐命がこれに任命せらる。國郡制定の時には國府は磐田郡(今の見付の地)に置く。鎌倉幕府の初め安田義定が守護となり、建武中

トリーチ

遠江 東海十五箇國の一。一に遠

州とも稱す。國名は京畿に近き淡水湖のある近淡海國即ち近江國に對し、瀆名湖の遠淡海國の意なるも、のち國名を二字に定めし際遠江と書す。日本書紀・古事記共に遠江に作り、和名抄も亦遠江に作りて止保太阿不三と訓じ瀆名・數智・明佐・龜玉・長上・長下・磐田・山香・周智・山名・佐野・城角・榎原の十三郡を置く。當國には早く國郡が配され、成務天皇朝、健甕日命の裔伊岐命がこれに任命せらる。國郡制定の時には國府は磐田郡(今の見付の地)に置く。鎌倉幕府の初め安田義定が守護となり、建武中

これを瀬江縣とし、間もなくこれを廢して濱松縣を濱松に置き、遠江一國を管す。明治九年に至り、濱松縣を廢して靜岡縣に合して今日に至る。而して明治二十九年郡の大併合を行ひ、佐野・城東二郡を合して小笠郡とし、磐田・山名二郡と磐田郡の大部と長上郡の一部とを以て磐田郡とし、濱名郡と長上・豊田・敷知三郡の一部とを合せて濱名郡とし、引佐・龜玉二郡と敷知郡の一部とを以て引佐郡とす。明治四十四年濱松市濱名郡より獨立し一市六郡を以て今日に至る。

【遠江藩】 遠州藩ともいふ。靜岡・愛知兩縣の南部にある海。廣義には志摩半島の大王崎より伊豆半島の石室(鷹)崎に至る一帯の海をいひ、狹義には遠美半島の伊良湖より駿河灣西端御前崎までをいふ。天龍川河口附近に於て特に深海が隆に接近し、古來航海の要所として有名な。御前崎の附近には駿河灣西部の淺地の連綿があり、漁場となる。海岸は天龍川口を頂點とする二つの圓弧に分れ、東に菊川・原野・谷川等が流入し、西には濱名湖が泉調を破るのみにて、西方遠美半島は滑かな砂濱海岸をなす。また天龍川口には流下せし土砂が海風により生ぜし砂丘崎として走り、沿岸に於ける特殊の景觀を呈す。

【遠江櫻木】 二俣東線の一驛(昭和十年設置)。靜岡縣小笠郡櫻木村にあり。【遠江春】 二俣東線の一驛(昭和十年設置)。

置。靜岡縣周智郡森町にあり。トートンボリ 道頓堀(さか) ↓大坂市

トーナイ 東内面(とうない) 朝鮮江原道春川郡の中南部。春川邑の東南に隣る。東城には大龍山(八九九米)聳立し東半部は山地を成せども、西半部は春川平野の一部を成し地味肥沃にして、北漢江に注ぐ幾多の小流これを灌漑し郡中重要な農業地を成す。物産は米を第一とし、其他、大豆・蠶桑・棉花・野菜等あり。又明輪・綿布を産す。道路は春川より東南方洪川邑に通ずる二等道路西部を貫きパスの便あり、交通頗る便なり。

トーナイ 島内(とうない) 朝鮮總督府鐵道白茂線の一驛(昭和九年設置)。成鏡北道茂山郡三社洞延洞の南部にあり。トーナナ 東南(とうな) 朝鮮平安北道博川郡の東南端。博川面に南隣す。北境に鳳巒山(二二七米)聳え山麓西南に連りて丘陵起伏するも、北部の大寧江沿岸と南部の清川江沿岸には廣き平地ひらけ、地味肥沃にして農業に富む。産物には米・稗・粟・大豆・蠶桑等あり。また黒鉛を出す。總督府鐵道京義本線は中部西寄り南北に通じ、孟中里驛(大正三年開業)あり、同驛より北方に博川線を出し、三・七軒にて博川邑に達す。尙ほ孟中里より博川・大稜洞・寧邊・熙川の各地へ何れもパスを通じ交通至便なり。聚落は主として聚

身延山久遠寺を創めし因縁ありしを以て波木井山と號し、本尊は一塔兩尊にしてその脇に日圓上人(實長)の像を安置す。本像は代々南家に安置しけるが、三十四代行義これを地方信徒に寄へ、鍋倉城址址に三反歩の土地を寄へて一字を建立す。(常福寺) 新町にあり。時宗、金圓山と號す。正平二十二年南朝信光の前建なり。初め甲州神の將にありしを、明德四年南朝氏甲斐より八月に移る時、本寺また從ひて現地に移る。(瑞應院) 鏡町にあり。臨濟宗妙心寺派。風徳山と號し、承應二年南朝和尙の開山に傳り、南朝直榮その愛女善拂の爲に建立せしものにして、本堂の構造堅固、欄間の彫刻美等部内の珍たり。(善明寺) 大工町にあり。淨土宗。金光山と號す。初め善明和尙隆興八月に創建せしが、寛永四年南朝尙隆興八月に現地に移り。(大慈寺) 曹洞宗。福壽山。後小松天皇應永十八年左近衛將監長經の開基、龍傳惠金を開山とす。往時は大伽藍にして奥羽二州玉葱の産地たり。舊時領七十五石、南朝家菩提所として同家の崇敬厚かりき。

トノオ 當尾(とうお) 京都府山城國相樂郡の南部。北と西に加茂町に圍まれ東と南は奈良縣活上郡に接す。笠置高原の西北部に當り高度二〇〇米内外を有し山地廣し、中央には北流して木津川に入る小流ありて、その兩岸に小耕地拓く。加茂町に出づれば有観西本報加茂詳あるも村内の交通はなほ便ならず。(石塔堂) 國寶。大字社小字三田にあり。菱石の銘文中「永仁六年戊辰八月十日」の年號あり。其建立年代明瞭なると同時に製作頗る精巧、且つ各部完全に保存され、鎌倉時代石造十三重塔として代表的名作の一なり。(淨瑠璃寺(九輪寺)) 大字西小森にあり。眞言律宗。小田原山法雲院。天平年間、行基は聖武天皇の勅を奉じて創建、天元年中多用淨瑠璃の寶珠を新りて再興し現寺號に改む。のち永承二年中興の護明三度堂宇を修め四十九院を増建し、定朝作の圓院九輪を奉安せしが、二條・高倉二天皇の御時依仰共に額等を附し給ふ。また源實朝の歸依にて千石千貫の寺領を寄せらる。境内廣潤にして幽邃の趣深き中に若古の堂舎點在す。本堂・三重塔・古碑天立像一軀(傳聖武天皇御作木造着色)・四天王立像四軀(傳源慶作木造)・地藏菩薩立像一軀(木造)・阿彌陀如來坐像一軀(木造)外五點は國寶たり。(岩船寺) 大字岩船にあり。眞言律宗。淨瑠璃寺末。天平年間、行基の開創といふ。三重塔・阿彌陀如來坐像(木造)一軀は國寶。

トノオ 當尾(とうお) 京都府山城國相樂郡の南部。西北宇土郡不知火・花園二村に界す。東境に高さ一〇〇米蓋の丘陵起伏する外は熊本・八代兩平野の接續部をなす平坦地にして田畑よく拓け米・粟・粟等の農産少からず。鹿兒島街道は西南部を掠め、

トノオ 當尾(とうお) 京都府山城國相樂郡の南部。西北宇土郡不知火・花園二村に界す。東境に高さ一〇〇米蓋の丘陵起伏する外は熊本・八代兩平野の接續部をなす平坦地にして田畑よく拓け米・粟・粟等の農産少からず。鹿兒島街道は西南部を掠め、

トノオ 當尾(とうお) 京都府山城國相樂郡の南部。西北宇土郡不知火・花園二村に界す。東境に高さ一〇〇米蓋の丘陵起伏する外は熊本・八代兩平野の接續部をなす平坦地にして田畑よく拓け米・粟・粟等の農産少からず。鹿兒島街道は西南部を掠め、

地の邊縁に分布し散村形態をなす。北部の鳳巒山中(孟中里驛より約八軒)に深淵寺あり、本殿たる普光殿は約千三百年前新羅時代の名僧玄奘の開創、城内の風光絶佳なり。

トーナナ 東南(とうな) 朝鮮平安北道博川郡の東南端。博川面に南隣す。北境に鳳巒山(二二七米)聳え山麓西南に連りて丘陵起伏するも、北部の大寧江沿岸と南部の清川江沿岸には廣き平地ひらけ、地味肥沃にして農業に富む。産物には米・稗・粟・大豆・蠶桑等あり。また黒鉛を出す。總督府鐵道京義本線は中部西寄り南北に通じ、孟中里驛(大正三年開業)あり、同驛より北方に博川線を出し、三・七軒にて博川邑に達す。尙ほ孟中里より博川・大稜洞・寧邊・熙川の各地へ何れもパスを通じ交通至便なり。聚落は主として聚

トニ 東二面(とうに) 朝鮮忠清北道沃川郡の時中央。沃川面に東隣す。錦江の橋式的橋入蛇曲帯の左岸を占め、城内は花崗山地の割割による老年期の高度二一三百米を有する臺地連り低地極めて

トニ 東二面(とうに) 朝鮮忠清北道沃川郡の時中央。沃川面に東隣す。錦江の橋式的橋入蛇曲帯の左岸を占め、城内は花崗山地の割割による老年期の高度二一三百米を有する臺地連り低地極めて

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

トニ 唐丹村(とうたん) 岩手縣陸前國氣仙郡の東北隅。北は釜石市と上閉伊郡甲子村に接し、東は太平洋に面し、東岸中部に唐丹灣を擁す。面積八一方軒餘。西北境上に五葉山(一三四一米)あり、その東麓は北境上に延びて鳩ノ峯・鶴倉山・松倉山・鶴倉山等となり東岸の早坂峠にて海に盡く。また釜金山(七五一米)・鐵臺山・物見山等の山嶺山に走り死骨峠となりて海に没す。唐丹灣は三陸リヤス式灣入の一にして、灣岸出入に富み至る所海崖をなす、ただ西岸に注ぐ片岸川口に小白濱・片岸の聚落ありて鐵道をなす。村内山地多く片岸川とその南を東流する熊野川の谷に狭狭き低地あり、粟・稗・馬鈴薯・米・大豆の農産物もあるも産額多からず。近海は我國有数の好漁場たる三陸魚場にして、寒水性の鱈・鮭、暖水性の烏賊・鱈・鱈等の漁獲少からず。

にて土地低平地味肥沃、灌漑の便よく農産物なり。産物は米を第一とし小麦・大豆・粟これに次ぎ蔬菜・果樹の栽培盛にして梨・白栗は良質を以て知らる。鐵産に金あり。陸路は京城より二等街道を通じ中部を横断して江陵邑に達し、乗合自動車あり。水路は漢江による舟楫の便ありて京城方面との物資集散を助くること大なり。

【東部面】朝鮮慶尙南道統營郡、巨濟島の南部に突出する半島部を占む。中央に老子山・加羅山・王助山等聳え山脚四方に延びて海に注ぐ。従つて殆んど平地なく、海岸は岩石海岸にして多大湖・猪伏里湖・栗浦湖等の出入に富み、泊津に乏しからず。各湖頭に弓状の砂嘴を有する特性を持ち、各湖頭に産物分布す。朝鮮の陸地部とは稍異なる風習を有し、概して質朴頑固にして自尊心強く、牛馬牛池にして、婦人の進んで勤勞に服する美風あり。農産物は粟・大麦・大豆・棉を主とし、粟・甘藷・苧麻・除蟲菊等あり。東部は巨濟嶺山の嶺區の一部に富り金・銀・銅を産出す。水産物には鱈・鱈・鯛・石首魚・和布等あり、和布は内地にも移出す。陸路は北方巨濟邑より來る三等道路は北部を横断して東方一區面に通じ乗合自動車の便ある他、海岸に環狀道路ありて各湖頭産物を運送す。南部の芝車里に於て朝鮮海峡に突出せる岬は絶壁にて巨濟海金剛の稱あり。因みに本

面は大部分寒帯地帯に編入せらる。西岸の加骨洞々頭にある加骨里は、古く鳥見浦と稱し、初めて右水營統制使を設けし所、萬曆三十一年(三百三十四年前)その本營は今の統營の地に移され統制營と改められたり。

【東部面】朝鮮慶尙南道統營郡、巨濟島の南部に突出する半島部を占む。中央に老子山・加羅山・王助山等聳え山脚四方に延びて海に注ぐ。従つて殆んど平地なく、海岸は岩石海岸にして多大湖・猪伏里湖・栗浦湖等の出入に富み、泊津に乏しからず。各湖頭に弓状の砂嘴を有する特性を持ち、各湖頭に産物分布す。朝鮮の陸地部とは稍異なる風習を有し、概して質朴頑固にして自尊心強く、牛馬牛池にして、婦人の進んで勤勞に服する美風あり。農産物は粟・大麦・大豆・棉を主とし、粟・甘藷・苧麻・除蟲菊等あり。東部は巨濟嶺山の嶺區の一部に富り金・銀・銅を産出す。水産物には鱈・鱈・鯛・石首魚・和布等あり、和布は内地にも移出す。陸路は北方巨濟邑より來る三等道路は北部を横断して東方一區面に通じ乗合自動車の便ある他、海岸に環狀道路ありて各湖頭産物を運送す。南部の芝車里に於て朝鮮海峡に突出せる岬は絶壁にて巨濟海金剛の稱あり。因みに本

拓げ、米・麥・粟の産少からず。舊ノ舟町・松代町を結ぶ縣道に當りバスの便あり。省線信越本線藤ノ井驛、社線長野電鐵松代驛へ近く交通便なり。この地は和名抄、更級郡斗女郷の内なるべし。武田信玄の謀將として有名なる山本勘助は此地の産なり。

拓げ、米・麥・粟の産少からず。舊ノ舟町・松代町を結ぶ縣道に當りバスの便あり。省線信越本線藤ノ井驛、社線長野電鐵松代驛へ近く交通便なり。この地は和名抄、更級郡斗女郷の内なるべし。武田信玄の謀將として有名なる山本勘助は此地の産なり。

六・四米。日高川・一級川・二級川等の小河川これに注入し、西南部にて海に達る。湖より伊谷草・杜鵑・蝦等の産あり、殊に伊谷草は本湖特有のものにて石花菜に似て全く品種を異にせる海草、寒天材料として採取さる。湖の南岸砂嘴上には遠瀨の産物あり、殷盛な鮭漁場となる。

六・四米。日高川・一級川・二級川等の小河川これに注入し、西南部にて海に達る。湖より伊谷草・杜鵑・蝦等の産あり、殊に伊谷草は本湖特有のものにて石花菜に似て全く品種を異にせる海草、寒天材料として採取さる。湖の南岸砂嘴上には遠瀨の産物あり、殷盛な鮭漁場となる。

トーフ

【東部面】朝鮮慶尙南道統營郡、巨濟島の南部に突出する半島部を占む。中央に老子山・加羅山・王助山等聳え山脚四方に延びて海に注ぐ。従つて殆んど平地なく、海岸は岩石海岸にして多大湖・猪伏里湖・栗浦湖等の出入に富み、泊津に乏しからず。各湖頭に弓状の砂嘴を有する特性を持ち、各湖頭に産物分布す。朝鮮の陸地部とは稍異なる風習を有し、概して質朴頑固にして自尊心強く、牛馬牛池にして、婦人の進んで勤勞に服する美風あり。農産物は粟・大麦・大豆・棉を主とし、粟・甘藷・苧麻・除蟲菊等あり。東部は巨濟嶺山の嶺區の一部に富り金・銀・銅を産出す。水産物には鱈・鱈・鯛・石首魚・和布等あり、和布は内地にも移出す。陸路は北方巨濟邑より來る三等道路は北部を横断して東方一區面に通じ乗合自動車の便ある他、海岸に環狀道路ありて各湖頭産物を運送す。南部の芝車里に於て朝鮮海峡に突出せる岬は絶壁にて巨濟海金剛の稱あり。因みに本

トーフ

拓げ、米・麥・粟の産少からず。舊ノ舟町・松代町を結ぶ縣道に當りバスの便あり。省線信越本線藤ノ井驛、社線長野電鐵松代驛へ近く交通便なり。この地は和名抄、更級郡斗女郷の内なるべし。武田信玄の謀將として有名なる山本勘助は此地の産なり。

トーフ

六・四米。日高川・一級川・二級川等の小河川これに注入し、西南部にて海に達る。湖より伊谷草・杜鵑・蝦等の産あり、殊に伊谷草は本湖特有のものにて石花菜に似て全く品種を異にせる海草、寒天材料として採取さる。湖の南岸砂嘴上には遠瀨の産物あり、殷盛な鮭漁場となる。

トーフ

六・四米。日高川・一級川・二級川等の小河川これに注入し、西南部にて海に達る。湖より伊谷草・杜鵑・蝦等の産あり、殊に伊谷草は本湖特有のものにて石花菜に似て全く品種を異にせる海草、寒天材料として採取さる。湖の南岸砂嘴上には遠瀨の産物あり、殷盛な鮭漁場となる。

れ金・銀・銅・鉛・亜鉛を採掘す。道路は中部を南北に通じ、南方省線室蘭本線

【洞窟湖】 北海道釧路支庁釧路市・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

は和名抄、墳墓郡山方郷の内なるべし。元弘八年の大徳寺文書に下徳園山方御

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【遠山】 釧路支庁の洞窟湖・有珠二郡の間にあり。湖岸は有珠島の伊達町・

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

【東陽村】 千歳郡下徳園支庁の西部。東北の八日市場町との間に須賀村を距て

トリアーアハ

を以て開墾するも、何れも高岳ならず低平にて水質江の灌漑する肥沃の水田連なり農業盛なり。住民は農を主とし傍ら養蚕を行ひ、商工業に従事する者また少なからず。産物は米・大豆・粟・小麦・大豆・煙草・綿・果實(梨・葡萄)等の農産及び生牛・油・絹布・麻布・清酒等の工業品あり、鐵道東海線は色の中央を走り、東葉驛(昭和九年開業)あり、西部の東葉温泉へ釜山より電車を通じ、また道路網よく發達して釜山・海雲臺(南浦)・機張・梁山・蔚山の各地にバス通す。東葉は往時に兵馬使を置かれし所にして朝鮮征伐の時、小西行長の軍勢、城將宋象賢をここに破る。市街は東葉川畔に發達し、郡廳・郵便局・地方法院出張所・穀物検査出張所その他に金融組合・中學校等あり。また定期の開市にかゝる東葉市場あり。一昨年取引高四萬圓以上(昭和十一年)にて最盛なること郡中第一なり。市街の北方なる東葉温泉場は朝鮮無類の温泉ありとして聞え、弱體頗るにて無異途、釜山より僅か三分にて達す。設備完備の共同大浴場をはじめ大小旅館・料理店等あり。温泉の東方に釜山公園あり、風光絶佳にして、南朝鮮金剛の稱あり、そのうち約四九ヘクターは東葉邑の經營に係る。

トリアン 荳蘭

遼東線の一驛(明治四十四年設置)。遼河花蓮港懸平野にあり。

トリアクマ 通熊 遼江國(帶岡縣)の古地名。和名抄に長下郡通熊郷あり。止保利久萬と註す。中世には遼河莊といふ。いま磐田郡津浦村の地名に同堂あり、ドウリと訓するは地名の遺稱の轉訛と見るべく、從つて磐城は前記津浦村の外に上流村・東渡村・西渡村の諸村に互る地を稱するか。

トリアーアハ 軒に高麗本朝の築造なる結城の址あり。トリアーアハ 塔路炭礦 一惠須取町(樺太) 塘路 北海道釧路國川上郡樺太村の大字。釧路線の塘路驛(昭和二年設置)あり。驛の近くなる釧路湖は湖岸線の長さ一八・五軒、面積六・三二平方軒、水面高度八米、最深所七米。トリアーアハ 東老灘會 釧路國川上郡東老灘子高民政務管區の東部。釧路の東方に位置し之と興心子會を隔て、南は海に面す。北境に近く東西に低き丘陵起伏するも其他は土地平坦、南半には鹽田廣く東西に連りて天日製鹽盛に行はる。金福鐵道の興心子驛・城子驛にも遠からず、道路また四通し交通不便ならず。トリアーアハ 社 遼河高嶺州屏東郡の舊社。カウ社溪上流左岸の地に海抜約六六五米の山地。高砂族の部落にしてアイワン族中ラパルの系統に屬す。人口五九五。

トリアーアハ 遼河高嶺州屏東郡の舊社。カウ社溪上流左岸の地に海抜約六六五米の山地。高砂族の部落にしてアイワン族中ラパルの系統に屬す。人口五九五。

トイ

トイ 土肥町 静岡県伊豆國田方郡の西南海岸。北は戸田村に、西南は西豆村に接し、南境東半は貫茂郡宇久須村に界す。西北部は連勝火山の西南麓、東南は嶺越火山の西北斜面にて全村殆ど山地をなす。西部駿河湾岸の中部に小低地あり。土肥嶺山ありて金・銀を産し、他に水産・林産あり。東北修善寺町方面より鐵道通じバスの便あり、沼津・宇久須へも船便あり。古くは和名抄那賀郡井田郷の内とす。土肥神社の舊記に伊豆國那賀郡、稻田庄土肥郷と見ゆ、稻田は井田の訛なるべし。北條俊高帳には西土肥と見ゆ、即ち伊豆國の西浦なればなり。村名は一に土肥神社の祭神豐御玉姫命の豊より起れるならんといふ。古米、金山と温泉とを以て温く著聞す。昭和十三年町制を施行す。(土肥温泉)無色透明の食鹽泉。伊豆西海岸唯一の温泉場にして、建勝山・嶺越岳を負ひ、前に駿河灣を控へ、遙に清見湯一帯の製塩を窺む。(土肥嶺山)町の海岸近くにある金銀嶺山。我國重要嶺山の一。嶺床に海岸より僅に五、六百米遙より嶺ががり嶺區六三・五、二〇坪に互る。附近は主として變質安山岩にて、その岩石中に石英體として夾有存在す。富山の同體は古く天正五年にて寛永に至るまで約五十年間採掘せられたが、最盛時は慶長十年の頃といふ。其

トイ 戸井村 北海道渡島國函館郡の東南部。渡島支庁管下。津輕海峡の北岸に位置し函館の東方約二〇軒、東は尻岸内村、西は磯部村に隣り、面積五三三方軒。北境に嶺越山・氣無山等ありて山勢險峻。北境に海に迫り、海岸中部に汐首岬、東部に日浦岬等を作る。全村山地多し、小低地を作る。漁業盛にて鮭・鱈・昆布・柔魚等の産多く、陸上に馬鈴薯・

トイ 都井 宮崎縣日向國市那珂郡の最南端。東と南は太平洋に臨む。面積約三九方軒。北境に高畑山(五一三米)ありてその山嶺は東及び西南に延びて東は海に没し、中部の山嶺は都井岬の半島となりて東南に突出すること約四軒、その南端を黄金嶺といふ。この半島頂部の東西海岸その他沿岸處々に小低地あり。米・黍・甘藷等の農産あり。山嶺北境を隔るため交通不便なり。中世は權開院の内に屬す。(都井岬)南端の一角に位置する御崎神社(都井岬の南端の一角に位置する御崎神社)境内及び附近原野にあり。數百數十本に及び散して小形なるも周囲九〇軒に達するものも存し、高さは一米半乃至一米八に過ぎず。岬一帯の丘阜の半復以上には放牧場ありて幾百頭の馬群を畜し、昔時藩主が馬追の時、鹿を下りし鹿立の遺跡は眺望よく、附近に彌生土器の包含地

トイ 土居 岡山縣赤松郡美田郡の東南部。北西は江見町に、東は兵衛佐用郡西庄村に隣接す。面積二・三・八三方軒。東西兩境に高度三百米蓋の山地ありて森林地廣く、吉野川の支流は西南隅山麓より來りて中央部西北部へと向流し、之に沿ふ中央部には平地ありて耕地多し拓く。出雲街道と省線新線は北境を斜に通じ街道にはバス往來し、省線に美作土居驛(昭和十一年設置)ありて交通不便ならず。物産に米・黍・麥・酒類・木炭・柿等あり。近世幕府の陣地のありし處。また京都禁門の變に關したる勤王家安東鐵馬(勤正五位)はこの地の人なり。トイ 土居村 愛媛縣伊豫國宇摩郡の西部。三島町の西南約一軒。北は燕崎村を隔てて鐵道に近く、南は別子山村に界す。面積三・二・五方軒。南境には石鏡山脈の支脈に屬する赤星山(一四五四米)、二ツ岳(一六四八米)等東西に聳え、その山脚東西に北に延びて峠と山地をなす。ただ北部山麓には小富士村・燕崎村等に達する海岸平野の一部ありて、關川その北を流れ、耕地拓けて米・黍・粟等を産す。生業は農を主とし全戸數六六二の約半数これに從ふ。なほ銅硫化鐵礦を出す伊豫嶺山の嶺區の一部をなす。遊駁街道

トイ 土居 岡山縣赤松郡美田郡の東南部。北西は江見町に、東は兵衛佐用郡西庄村に隣接す。面積二・三・八三方軒。東西兩境に高度三百米蓋の山地ありて森林地廣く、吉野川の支流は西南隅山麓より來りて中央部西北部へと向流し、之に沿ふ中央部には平地ありて耕地多し拓く。出雲街道と省線新線は北境を斜に通じ街道にはバス往來し、省線に美作土居驛(昭和十一年設置)ありて交通不便ならず。物産に米・黍・麥・酒類・木炭・柿等あり。近世幕府の陣地のありし處。また京都禁門の變に關したる勤王家安東鐵馬(勤正五位)はこの地の人なり。トイ 土居村 愛媛縣伊豫國宇摩郡の西部。三島町の西南約一軒。北は燕崎村を隔てて鐵道に近く、南は別子山村に界す。面積三・二・五方軒。南境には石鏡山脈の支脈に屬する赤星山(一四五四米)、二ツ岳(一六四八米)等東西に聳え、その山脚東西に北に延びて峠と山地をなす。ただ北部山麓には小富士村・燕崎村等に達する海岸平野の一部ありて、關川その北を流れ、耕地拓けて米・黍・粟等を産す。生業は農を主とし全戸數六六二の約半数これに從ふ。なほ銅硫化鐵礦を出す伊豫嶺山の嶺區の一部をなす。遊駁街道

質集塊岩より形成せらる。ヤヤ西南方なる西岳(二〇三五米)とその北東方なる戸...

中央部に位する戸陸中社まで約十六軒、自動車を通ず。更に七軒にして建頂す。...

トカチ

トカチ 十勝 北海道の一國。トカチはトカチにて阿留の義。昔時十勝アイヌの兎...

トカチ

トカチ 十勝 北海道の一國。トカチはトカチにて阿留の義。昔時十勝アイヌの兎...

松前島嶼に於て、とちの地名見ゆ。専ら漁利に注意せし江戸時代に於ては、十勝沿岸に會所・番屋の設けは他に比して...

役所廢止されて支廳の生るるや、十勝一國を以て河西支廳が形成され、昭和七年十勝支廳と改稱されて現在に及ぶ。...

トカチ — トカチ

トカチ 十勝 北海道の一國。トカチはトカチにて阿留の義。昔時十勝アイヌの兎...

トカチ 十勝 北海道の一國。トカチはトカチにて阿留の義。昔時十勝アイヌの兎...

トカチ——トカミ

ヶ・忠別岳を経て大雪山に至る連嶺を眺め、北東方は十勝川上源地を距てて石狩山麓と對峙し、北海道中央部に於ける高岳巨峯を一眸に收め得らる。十勝岳附近は北海道に於ける代表的スキー地にして、冬季は北海道帝國大學山岳部員等のスキー合宿練習者にて賑ふ。十二月初旬より翌年三月まで二―三米の積雪あり、雪質は好適なる粉雪なり。硫黄岳の南西方に當る吹上温泉を中心として十勝岳第一外輪山・三段山(一七二〇米)・上ホロメツト山・富良野岳・美瑛岳等へ一日行程にて興味あるスキー登山をなし得らる。硫黄岳の南にはスキー練習場、西にはスキー小屋白銀荘・勝岳荘あり。数年前世界的スキー家シムナイゲル氏も此地を訪れたり。登路は富良野線上富良野驛下車、吹上温泉まで約一八軒、自動車を通ず。吹上温泉は飛騨温泉または濃ノ湯とも云ひ、針葉樹林中の静寂なる山の温泉にして、西方に富良野平野を望見す。温泉より山頂まで約六軒、登高比較的容易なり。針葉混生林を過ぐれば山頂部の熔岩地帯に出づ、ここには榎松その他の高山植物を多く見る。東側、十勝川を廻りして登攀し得らるるも困難なり。またトムラウツ山・大雪山方面への縦走も將來興味深きものとならん。

【十勝鐵道】社線。北海道十勝國にあり。帯廣市の省線根室本線帶廣驛より河西郡川西村の郡驛を経て同村南太平洋驛に至る

トカラ 土鳴嶺 【土鳴嶺】 ↓實七島 【土鳴嶺島】 ↓實島

トカリ 戸菊 【戸菊】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡戸菊郷あり、止加利と註す。刊本は戸菊に作るも高山寺本によりて戸菊とす。其地いま何れの邊なるか不詳。【戸菊遺】 書紀、推古天皇の十五年に河内國(大阪府)に掘られたる池の一。河内本には戸菊池は古市郡藏内村にありと見ゆ。藏内はいま南河内郡西蒲村の大字藏之内なるべく、其地いま明らかならず。

トカリ 利刈 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に群馬郡利刈郷あり、止加利と註す。延喜式左馬寮式に上野の九牧を挙げ利刈を筆頭に置く。其の地審かならざるもいま金島村・長尾村の邊ならんか。

トカリ 登利 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に長岡郡登利郷見ゆ。鳥加里と訓ずれども、高山寺本には安賀利と註す。姑くトカリに從ふ。その地域詳かならざるも或はいま十市村・三里村の邊ならんか。

トカワ 砥川村 佐賀縣肥前國小城郡の南部。六角川支流牛津川の左岸に位し、東は牛津町に隣り、西は南は杵島郡江北村と界し、佐賀市を距る西方約一〇軒。面積八・三八方軒。西北部に低山地あるを除けば土地低平にして田畑よく拓げ、米・麥・粟種等を産し副業には養

二六・九軒、帯廣市の新帶廣驛より帶廣大通驛に至る〇・五軒、蕨驛より河西郡芽室村の上美生驛に至る二〇・七軒、芽室村の常盤驛より川西村の八千代驛に至る二二・一軒、南太平洋驛より同村の戸島驛に至る三・一軒の諸驛より成る。軌間は一・〇六七米と〇・七六二米を併用し、省線と連帯運轉。

【十勝清水】 根室本線の二驛(明治四十年設置)にして河西鐵道の起點。北海道十勝國上川郡清水村にあり。

トガノ 斗賀野村 高知縣土佐國高岡郡の東北部。北は佐川町に接し、南は須崎町との間に吾桑・多ノ郷二村を隔つ。面積二五・五九方軒。四州山地を繞らし、東南端には虚空藏山(六七五米)、西南端には蟠蛇峯(七六九米)等聳つ。中央北部と東北部には小平地ありて耕地をなす。瓦・葺の製造行はれ、また生絲を産し、農・林産に米・麥・粟・木村等あり。省線土讃線中部を南北に貫きて斗賀野驛(大正十三年設置)を置き、縣道は之に沿ひ須崎・佐川兩町へバスを通ず。佐伯文書曆三年の條に度賀野又太郎入道あり。本村の人なるべし。大字水野の郷社飯屋神社境内に飯堂あり。神社の附近一帶は石灰岩にして、神社の背後に巨巖あり。其上部には既に自然の窟ありて、下部は疊々たる岩石が自然の窟の形をなせるを以て飯堂と稱せらる。其下の窟を成せる所は長さ數間の空洞となりてこれ

トガノ 都賀野・寛飯野 【都賀野・寛飯野】 また刀我野・斗賀野にも作り、ツガノともいふ。之に就きては二箇所推定さる。一は仁徳天皇が八咫皇后と共に鳴く鹿の聲を聞かせたまひし所、即ち今の大阪市天満の附近。一は應仁天皇の庶兄龜坂・押熊の二王が九州より還啓の神功皇后を襲はんとて、新野をなして狩に出でし所。攝津風土記によれば今の神戸市の夢野の邊といふ。これは何れか一箇處ならんとの説もあれど、今假に定め難し。

【都賀野】 兵庫縣武庫郡にありし村。明治二十八年西灘村と改稱し、次いで昭和四年神戸市に編入す。

トガノオ 梅尾 京都市右京區の山中、梅畑高尾町にある落西紅葉の名所の一。高尾(高尾)・梅尾と共に觀風三尾の脚と稱せらる。地は保津川に注ぐ清瀧川の清流の右岸に位し、明恵上人中興の高山寺あり。附近に飛騨球干の白雲橋や、僧茶西が支那より傳來せる茶を植ふ

トガノ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トカミ 土甘・砥上 【土甘・砥上】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に高座郡土甘郷あり。源平盛衰記に佐佐木高綱が名馬池月を源頼朝より賜はり鎌倉を辭して西に向ふ條に片瀬川砥上原を經たりとある。砥上も此の地を稱せしもの。當時、砥上原は多く阿蘇にあり。西行物語「榮松のくすの茂みに妻こめてとかみか原にをしか鳴くなり」。歌枕名寄「浦近きとかみか原に駒とめて片瀬川の沙干を待つ 鴨長明」その地いま片瀬川(いま境川)の西岸藤澤町の邊をいふ。

【砥上原】 ↓土甘・砥上 【砥上】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三毛郡砥上郷あり。その地審かならざるも、いま三池郡銀水村・開村の邊ならんか。

BIKK

たりといふ茶畑あり。

トガハマ 都賀濱 兵庫縣武庫郡にありし村。大正三年西灘町と改稱し、昭和四年には神戸市に編入す。

トカミ 十神山 安来町(鳥根縣)にある山。

トカミ 土甘・砥上 【土甘・砥上】 相模國(神奈川県)の古地名。和名抄に高座郡土甘郷あり。源平盛衰記に佐佐木高綱が名馬池月を源頼朝より賜はり鎌倉を辭して西に向ふ條に片瀬川砥上原を經たりとある。砥上も此の地を稱せしもの。當時、砥上原は多く阿蘇にあり。西行物語「榮松のくすの茂みに妻こめてとかみか原にをしか鳴くなり」。歌枕名寄「浦近きとかみか原に駒とめて片瀬川の沙干を待つ 鴨長明」その地いま片瀬川(いま境川)の西岸藤澤町の邊をいふ。

【砥上原】 ↓土甘・砥上 【砥上】 筑後國(福岡縣)の古地名。和名抄に三毛郡砥上郷あり。その地審かならざるも、いま三池郡銀水村・開村の邊ならんか。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トカラ——トキ

トカラ 土鳴嶺 【土鳴嶺】 ↓實七島 【土鳴嶺島】 ↓實島

トカリ 戸菊 【戸菊】 越前國(福井縣)の古地名。和名抄に足羽郡戸菊郷あり、止加利と註す。刊本は戸菊に作るも高山寺本によりて戸菊とす。其地いま何れの邊なるか不詳。【戸菊遺】 書紀、推古天皇の十五年に河内國(大阪府)に掘られたる池の一。河内本には戸菊池は古市郡藏内村にありと見ゆ。藏内はいま南河内郡西蒲村の大字藏之内なるべく、其地いま明らかならず。

トカリ 利刈 上野國(群馬縣)の古地名。和名抄に群馬郡利刈郷あり、止加利と註す。延喜式左馬寮式に上野の九牧を挙げ利刈を筆頭に置く。其の地審かならざるもいま金島村・長尾村の邊ならんか。

トカリ 登利 土佐國(高知縣)の古地名。和名抄に長岡郡登利郷見ゆ。鳥加里と訓ずれども、高山寺本には安賀利と註す。姑くトカリに從ふ。その地域詳かならざるも或はいま十市村・三里村の邊ならんか。

トカワ 砥川村 佐賀縣肥前國小城郡の南部。六角川支流牛津川の左岸に位し、東は牛津町に隣り、西は南は杵島郡江北村と界し、佐賀市を距る西方約一〇軒。面積八・三八方軒。西北部に低山地あるを除けば土地低平にして田畑よく拓げ、米・麥・粟種等を産し副業には養

二六・九軒、帯廣市の新帶廣驛より帶廣大通驛に至る〇・五軒、蕨驛より河西郡芽室村の上美生驛に至る二〇・七軒、芽室村の常盤驛より川西村の八千代驛に至る二二・一軒、南太平洋驛より同村の戸島驛に至る三・一軒の諸驛より成る。軌間は一・〇六七米と〇・七六二米を併用し、省線と連帯運轉。

【十勝清水】 根室本線の二驛(明治四十年設置)にして河西鐵道の起點。北海道十勝國上川郡清水村にあり。

トガノ 斗賀野村 高知縣土佐國高岡郡の東北部。北は佐川町に接し、南は須崎町との間に吾桑・多ノ郷二村を隔つ。面積二五・五九方軒。四州山地を繞らし、東南端には虚空藏山(六七五米)、西南端には蟠蛇峯(七六九米)等聳つ。中央北部と東北部には小平地ありて耕地をなす。瓦・葺の製造行はれ、また生絲を産し、農・林産に米・麥・粟・木村等あり。省線土讃線中部を南北に貫きて斗賀野驛(大正十三年設置)を置き、縣道は之に沿ひ須崎・佐川兩町へバスを通ず。佐伯文書曆三年の條に度賀野又太郎入道あり。本村の人なるべし。大字水野の郷社飯屋神社境内に飯堂あり。神社の附近一帶は石灰岩にして、神社の背後に巨巖あり。其上部には既に自然の窟ありて、下部は疊々たる岩石が自然の窟の形をなせるを以て飯堂と稱せらる。其下の窟を成せる所は長さ數間の空洞となりてこれ

トガノ 都賀野・寛飯野 【都賀野・寛飯野】 また刀我野・斗賀野にも作り、ツガノともいふ。之に就きては二箇所推定さる。一は仁徳天皇が八咫皇后と共に鳴く鹿の聲を聞かせたまひし所、即ち今の大阪市天満の附近。一は應仁天皇の庶兄龜坂・押熊の二王が九州より還啓の神功皇后を襲はんとて、新野をなして狩に出でし所。攝津風土記によれば今の神戸市の夢野の邊といふ。これは何れか一箇處ならんとの説もあれど、今假に定め難し。

【都賀野】 兵庫縣武庫郡にありし村。明治二十八年西灘村と改稱し、次いで昭和四年神戸市に編入す。

トガノオ 梅尾 京都市右京區の山中、梅畑高尾町にある落西紅葉の名所の一。高尾(高尾)・梅尾と共に觀風三尾の脚と稱せらる。地は保津川に注ぐ清瀧川の清流の右岸に位し、明恵上人中興の高山寺あり。附近に飛騨球干の白雲橋や、僧茶西が支那より傳來せる茶を植ふ

トガノ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。

トガミ 渡神山・渡神岳 阿蘇火山脈に屬する一峯。大分縣日田郡津江・前津江の兩村境上に位す。標高一一五〇米にして、輝石安山岩より成る。豊後國志に「渡神山峭峻蒼翠可掬」とあり。西北段は椿ヶ鼻を経て釋迦ヶ岳・權現岳に連る。